

圖164 第1号盛土遺構 IVa段階出土剥片石器(3)

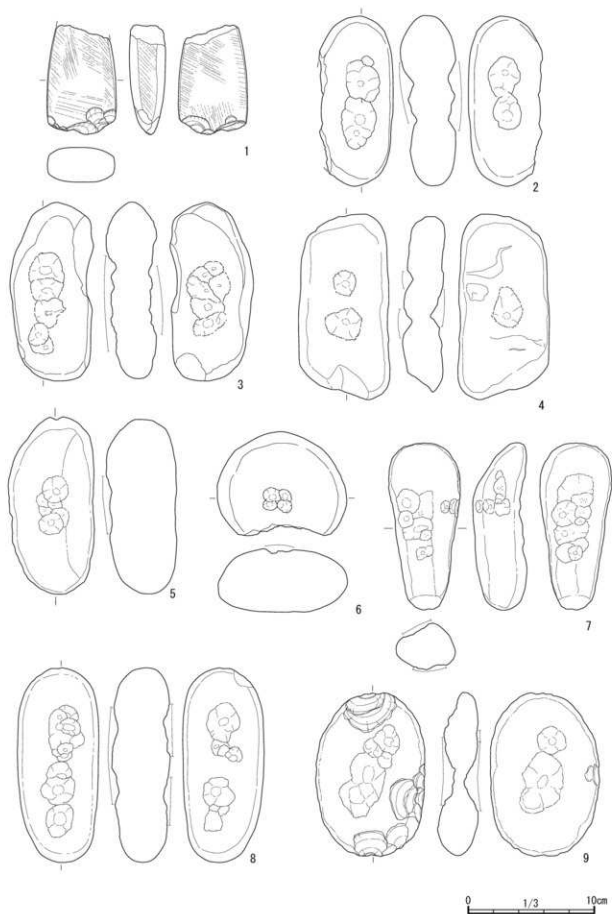
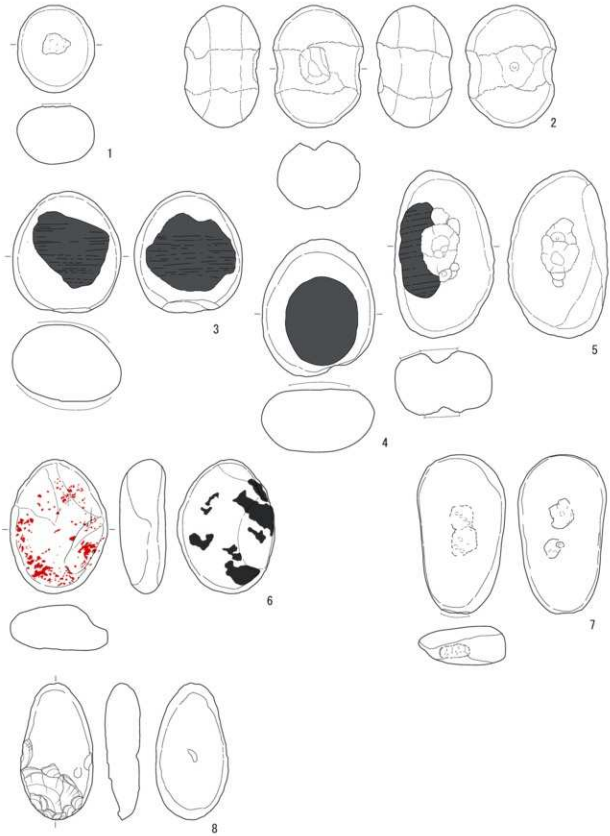


圖165 第1号盛土遺構 IVa段階出土礫石器(1)



0 1/3 10cm

圖166 第1号盛土遺構 IVa段階出土礫石器(2)

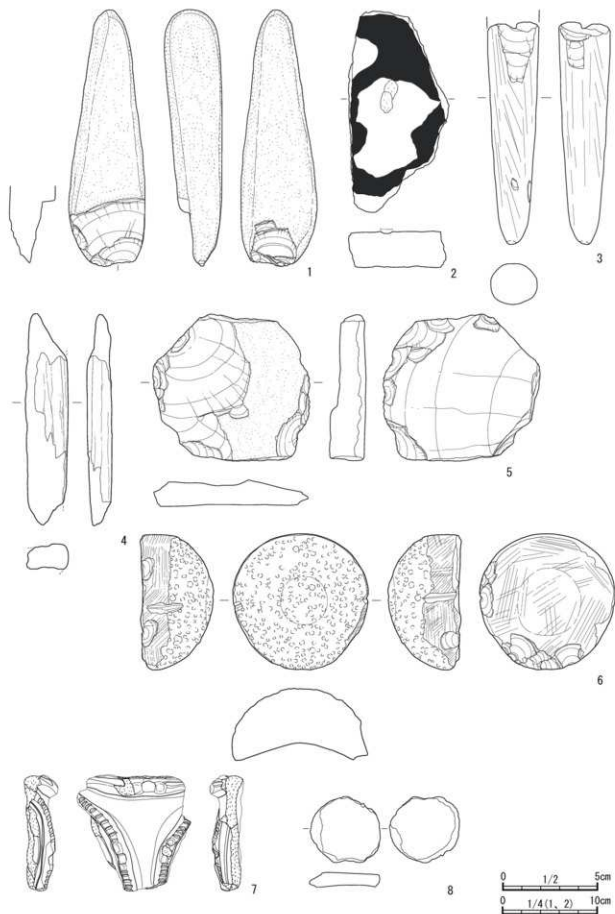


圖167 第1号盛土遺構 IVa段階出土礫石器(3)・土製品

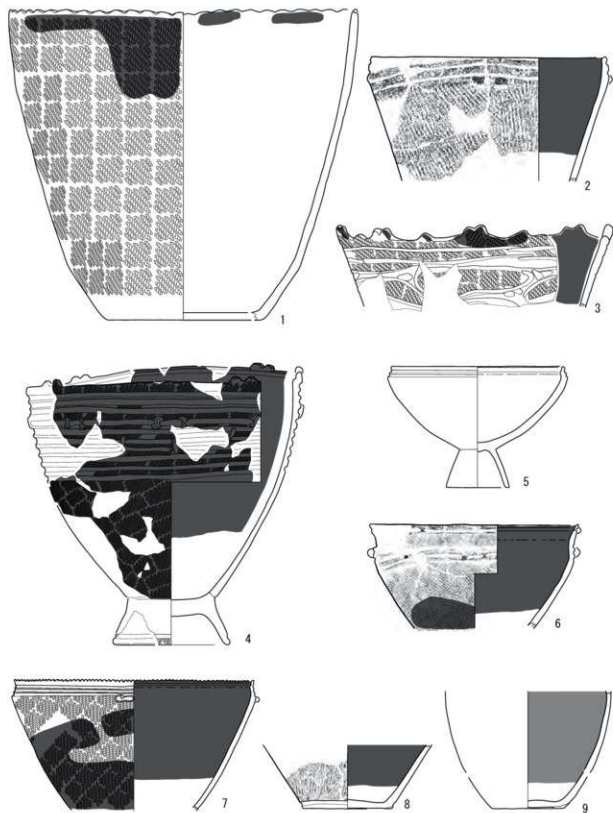


図168 第1号盛土遺構 IVb段階出土土器(1)

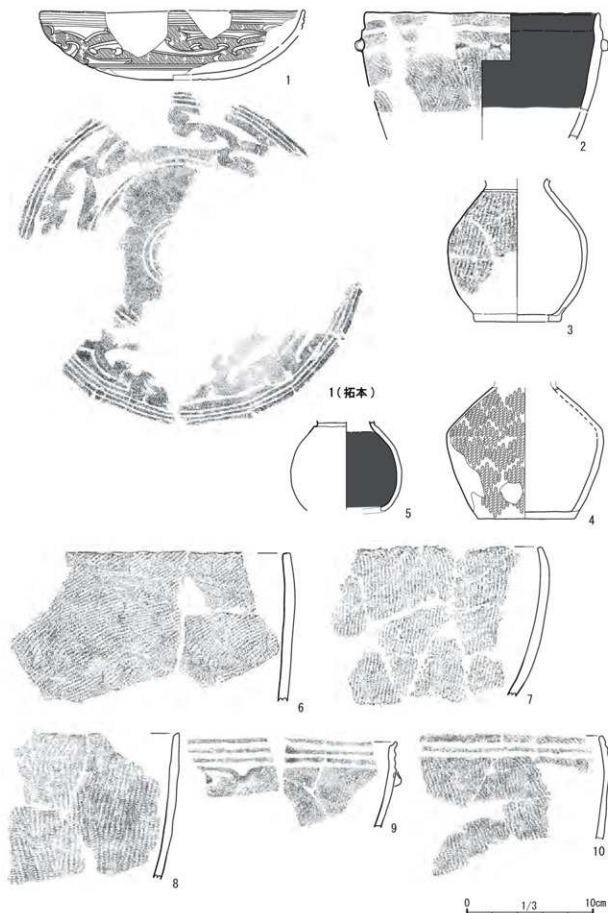


図169 第1号盛土遺構 IVb段階出土土器(2)

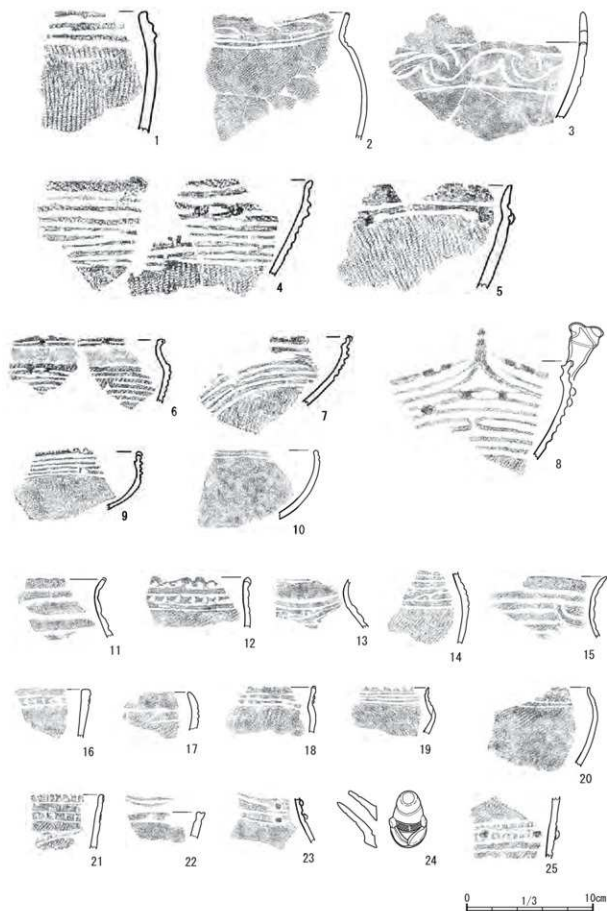


图170 第1号盛土遺構 IVb段階出土土器(3)

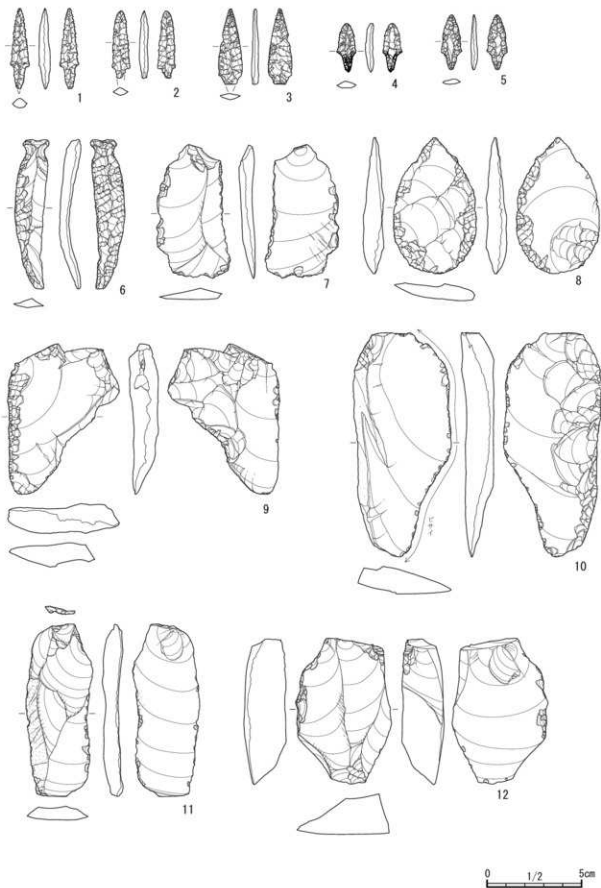


图171 第1号盛土遺構 IVb段階出土土利片石器(1)



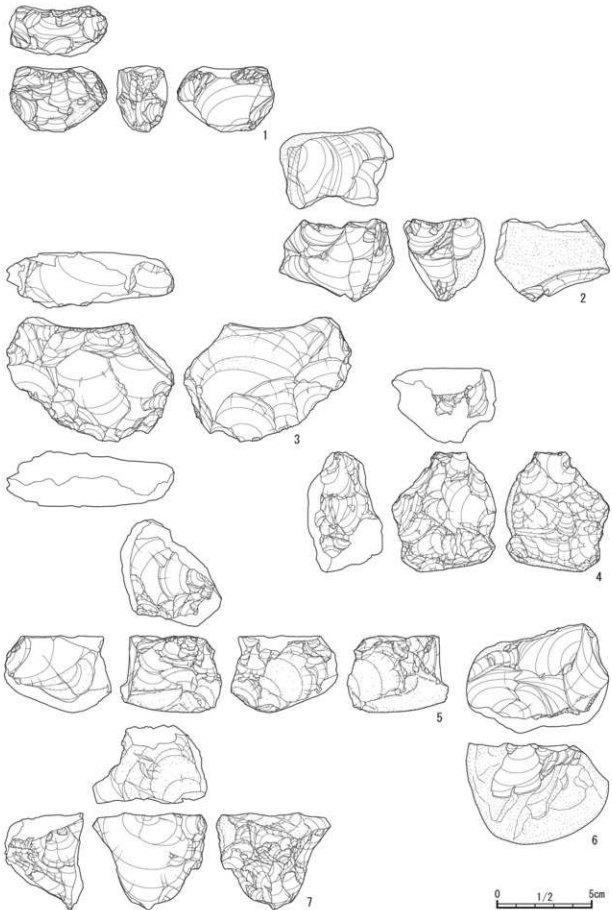


図172 第1号盛土遺構 IVb段階出土剥片石器(2)

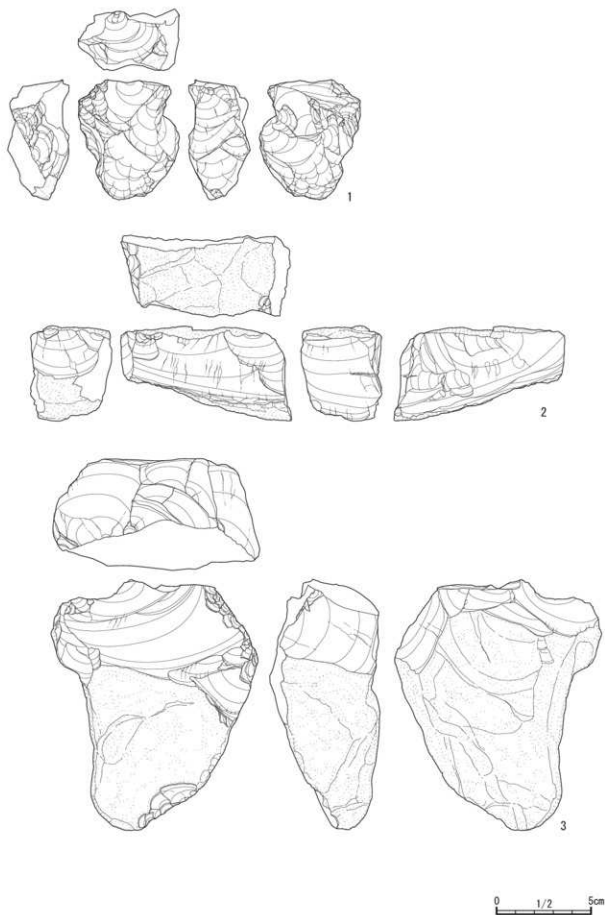


図173 第1号盛土遺構 IVb段階出土剥片石器(3)

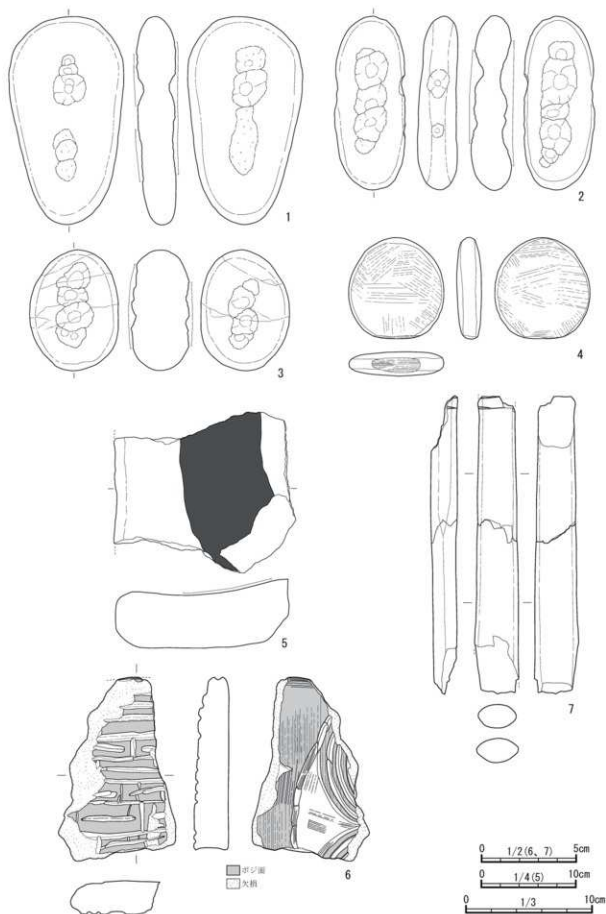


图174 第1号盛土遺構 IVb段階出土礫石器・石製品

## (5) V段階 盛土遺構第I層出土遺物

第1号盛土遺構の上面を覆う第I層出土資料を掲載している。遺構外の第I層とは連続的であるので、表10に出土した土器をグリッド別に掲載した。

表10 V段階・第I層出土土器のグリッド別重量(g)

グリッド	25	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	総計
V0	424.5											424.5
VN	869.1	13.9	173.3									1,056.3
VM	9.2	238.1	772.3	788.0	27.7	1,011.3	68.8					2,915.4
VL		7.4	74.7	662.0	1,779.9	748.2	1,818.2	1,836.2				6,926.6
VK				759.3	1,664.5	2,008.4	804.8	972.5	1,301.7			7,511.2
VJ					330.1	11.5	2,985.5	2,698.8	12,960.8	6,497.1	4,423.0	29,906.8
VI						2,914.1	1,315.0	6,898.2	20,373.9	6,899.7	4,475.5	42,876.4
VH							1,606.5	7,200.1	8,357.7	2,687.2	287.0	20,138.5
VG						309.0	2,058.0	3,064.1	7,510.2	2,718.0	66.7	15,726.0
VF							123.6	1,825.9	2,537.2	128.2	59.6	4,674.5
総計	1,302.8	259.4	1,020.3	2,209.3	3,802.2	7,002.5	10,780.4	24,495.8	53,041.5	18,930.2	9,311.8	132,156.2

複数のグリッドにまたがるものも有る。

## 【土器】

深鉢形土器、台付鉢形土器などが出土している。

図175-1は深鉢形土器であり、口縁が欠損している。IR縄文の横走縄文が施文されている。内外面に炭化物が付着している。高台を持つ形態である。図175-2は深鉢形土器の底部であり、内面に炭化物が付着している。図175-3は深鉢形土器の断片で、縦方向の条痕文が施文されている。図175-4は台付浅鉢形土器である。口唇部に刺突列、口縁部にも刺突列と、B突起が貼り付けてある。台部は欠損している。図175-5は台付鉢形土器である。入組文を簡略化したような沈線文が施文され、沈線文の屈曲点に斜めに刺突文を入れている。図175-6は台部である。透かし窓を持ち、沈線文と突起が見られる。図175-7は3条沈線を持ち、8は工字文、9は羊歯状文を持つ鉢形土器である。

## 【石器】

この層から石鏃、石錐、石筥、石匙、削器、異形石器、石核、剥片、礫石器、石皿などが出土している。

図176-1から10は石鏃である。大半は有茎鏃である。図176-11から13は石錐である。図176-14は石筥であり、基部が欠損している。図176-15から21は石匙であり、すべて横形である。刃部は両面加工が多い。図176-22は削器、23は微細剥片である。

図177は石核である。

図178-1は磨製石斧である。刃部が欠損している。石材は頁岩製である。図178-2から4は凹石である。図178-2は正面に沈線状の痕跡が認められる。図178-5は敲石であり、球形に近い素材の下側に敲痕が見られる。図178-6は凹石と磨石の複合であり、裏面に磨面が見られる。素材縦長軸に直交する方向に擦痕が見られる。

## 【石製品】

石棒が2点出土している(図178-7・8)。

**(6) 時期不明 第1号盛土遺構出土遺物**

ⅡからⅤ段階のどの段階かを特定できない資料である。

**【土器】**

深鉢形土器、台付鉢形土器などが出土している。

図179-1は深鉢形土器であり、口縁部に対し底部が小さい形状である。底部は欠損している。図179-2は深鉢形土器であり、口唇部に刻み、口縁部に3条沈線が巡る。RL縦走縄文が施文されている。図180-1は深鉢形土器であり、B突起と口縁部に3条沈線が巡る。口縁部外面と内面に炭化物が付着している。図180-2は鉢形土器である。山形突起と二又突起を持ち、二又突起間に刻みを持つ。山形突起の形状に沿って沈線が一条口唇部に見られる。底部付近にも1条沈線が巡る。LR縄文が施文されている。図180-3は深鉢形土器であり、底部が欠損している。RL縦走縄文が施文されている。口縁部の内外面に炭化物が付着している。図180-4は聖山Ⅰ式の鉢形土器であり、口縁部に2種類のB突起が見られる。胴部には連繫入組文がみられ、RL縄文が施文されている。図180-5は壺形土器の底部断片と推定され、底部外面中央が円形にくぼんでいる。内外面にミガキを施している。土器片(図180-6~10)は深鉢形土器、羊歯状文や入組文を持つ鉢形土器の口縁部、無文の浅鉢形土器の口縁部などがある。

図181-1は大形の皿形土器である。晩期4期と思われ、入組状の区画文と、充填文が見られる。磨消縄文であり、LR縄文が見られる。この土器はグリッドVI-34・35、VJ-35の第Ⅰ・16・18・22・28層にまたがって出土している。

**【石器】**

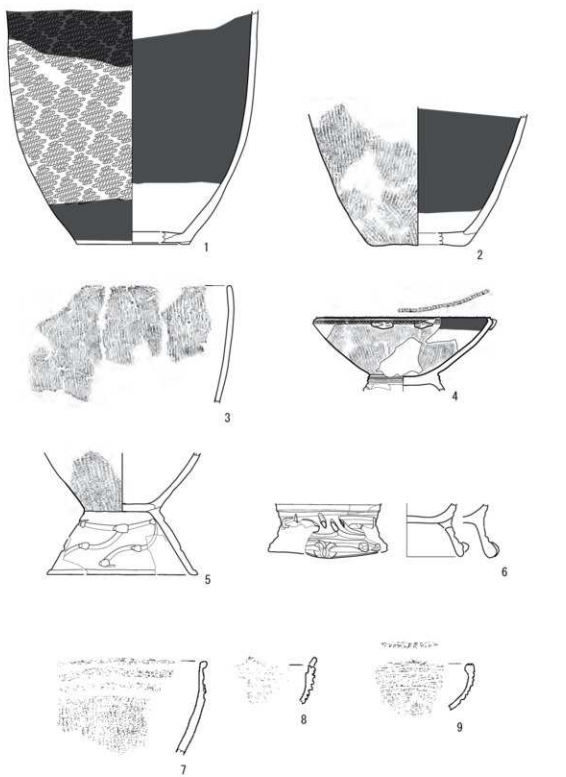
この層から石鏃、石錐、石篋、石匙、削器、石核、剥片、磨製石斧、礫石器などが出土している。

有茎鏃(図182-1~7・10)が主体的である。図182-8と9は黒曜石製で基部が欠損している。この2点の黒曜石は原産地分析を行っており、その成果は平成28年度刊行の報告書で掲載する予定である。石錐は小形・大形がある(図182-11・12)。石匙は横形が大半であり(図182-13~15)、縦形は摘み部のみ加工で、器体には加工はみられない(図182-17・18)。他に削器(図182-16・19・20)や鉾石(図182-21)がある。磨製石斧は砂岩製で、刃部断片資料である(図182-23)。

**【石製品】**

大形の石製円盤には表面にアスファルトと思われる黒色付着物が見られる(図182-22)。

(高橋)



0 1/3 10cm

図175 第1号盛土遺構 V段階出土土器

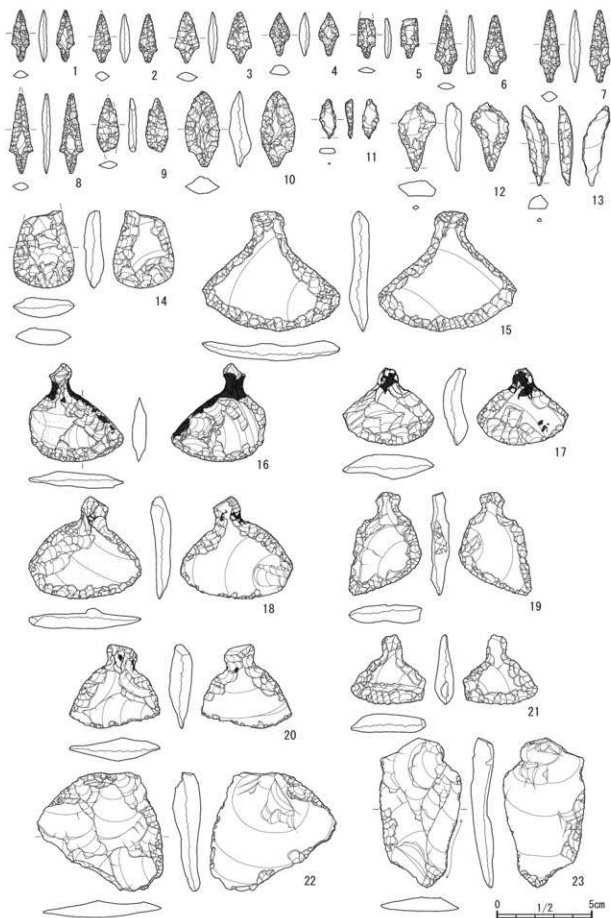


图176 第1号盛土遺構 V段階出土剥片石器(1)

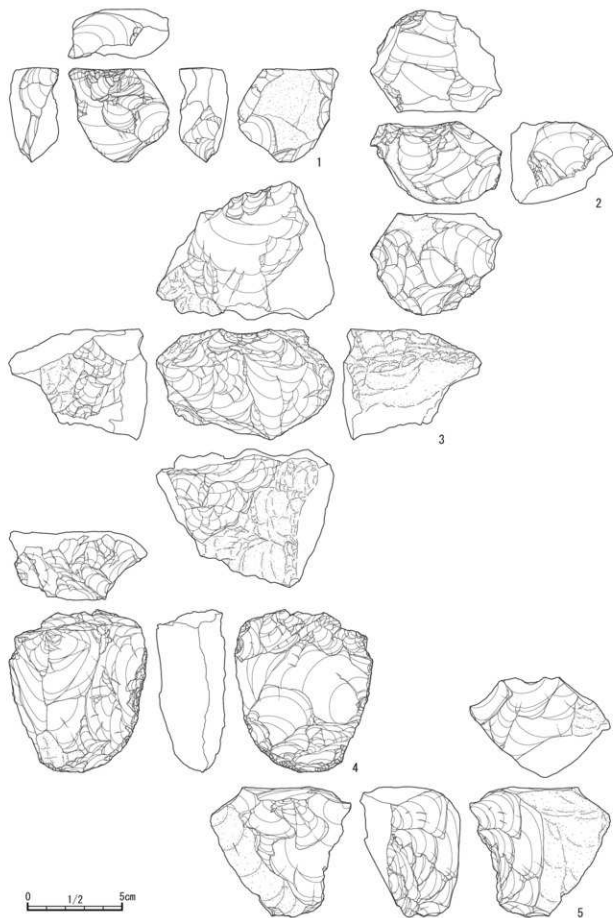


図177 第1号盛土遺構 V段階出土剥片石器(2)



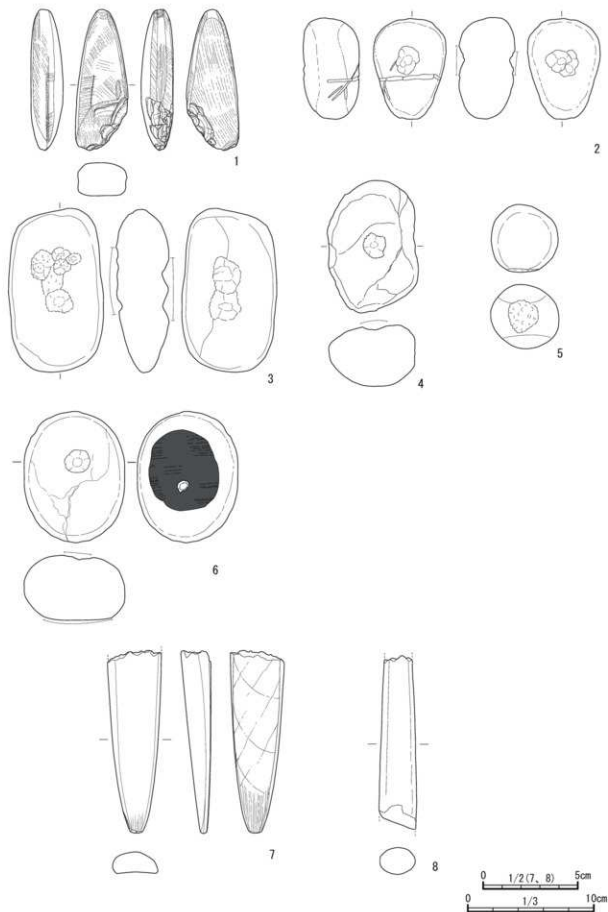


図178 第1号盛土遺構 V段階出土礫石器・石製品

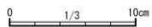
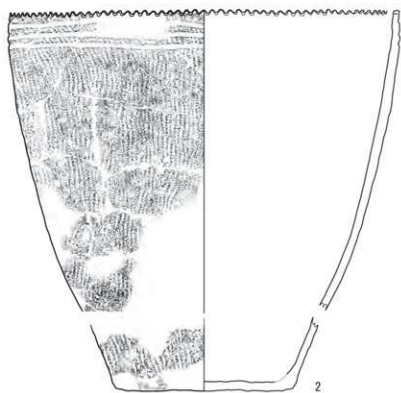
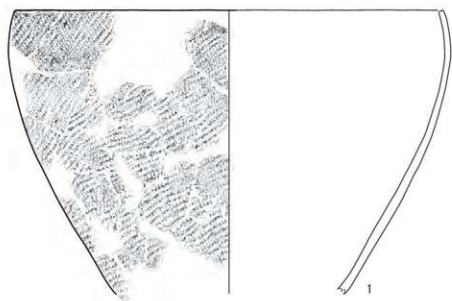


圖179 第1号盛土遺構 時期不明土器(1)

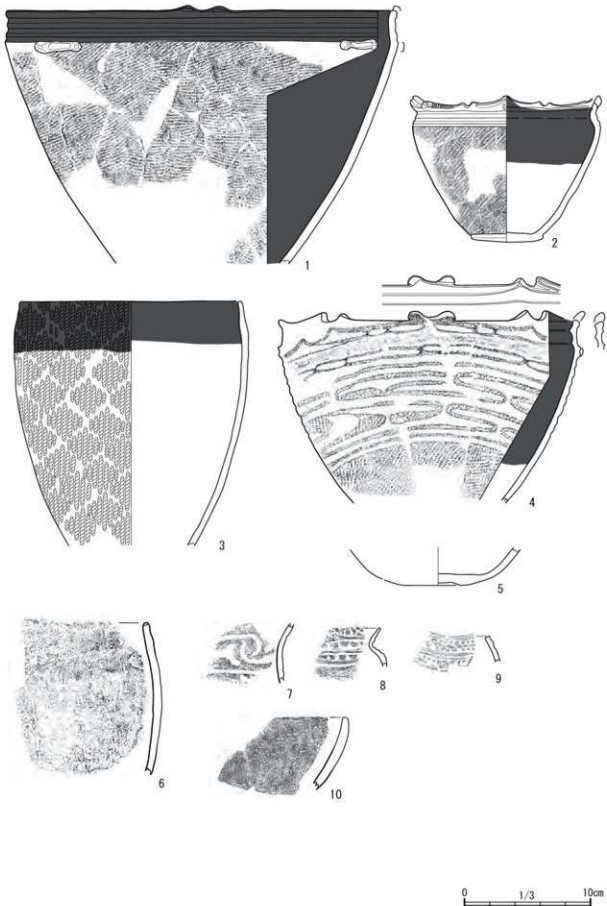


图180 第1号盛土遺構 時期不明土器(2)

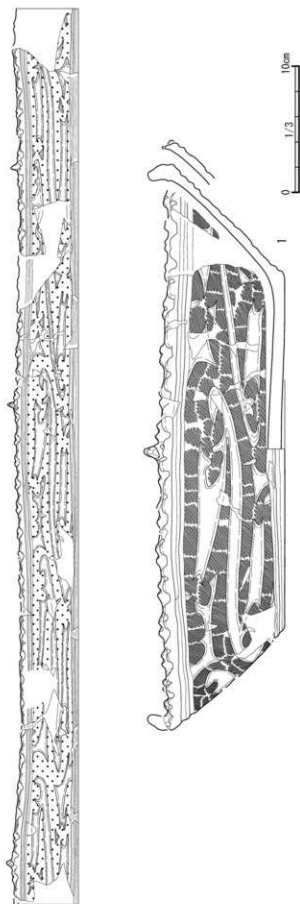


図181 第1号盛土遺構 時期不明土器(3)

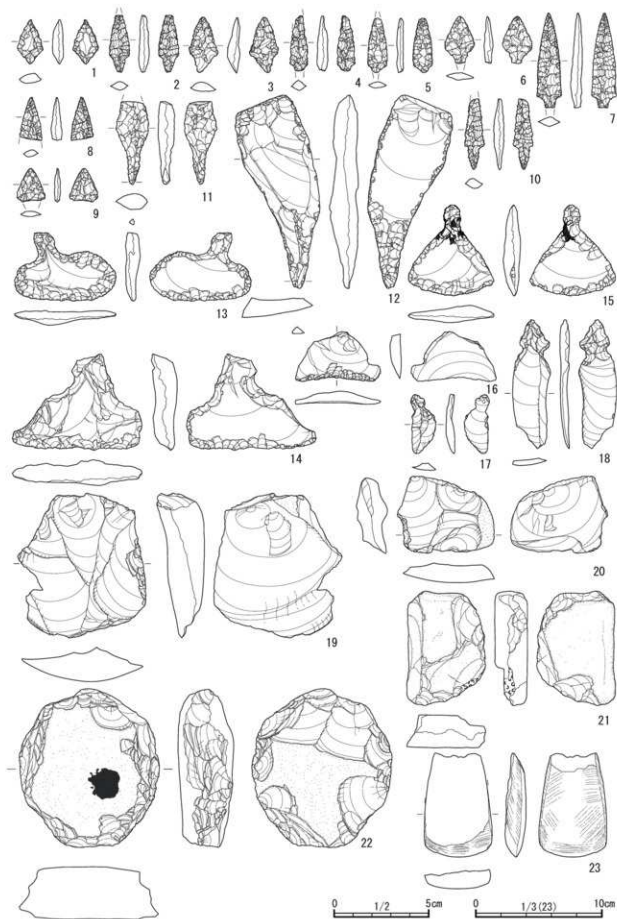


圖182 時期不明石器・石製品

### 第3節 遺構外出土遺物

第1号盛土遺構の範囲外から出土した遺物である。

#### 1 第I層

##### 【土器】

土器は個体に復元できるような資料はなかった。各時期の土器が混在している。

##### 【土製品】

図183-1は刺突文土偶の下半身部である。沈線でパンツ状の部分を表現し、刺突文が見られる。股間部には短い沈線が縦に1条見られる。特徴から晩期後半期の土偶である。

第1号盛土遺構第1層出土の土器も復元できた個体の多くは晩期後半期に属するものが多い。晩期前半期は破片資料が多いので、おおむね晩期後半期の時期に形成された堆積層と推定される。

図183-2は無孔の土製円盤である。図183-12は棒状であり。先端に刺突がある。

##### 【石器】

この層から石鏃、石錐、石筥、石匙、削器、石核、剥片、礫石器などが出土している。

図183-3・4は有茎鏃である。図183-5は大形石錐である。図183-6から9は縦形・横形石匙である。図183-10は削器である。11は大形の二次加工剥片であり、打面側から両辺にかけて加工が見られる。図184-1・2は石核である。

図184-3・5は凹石である。図184-4は磨石であり、表裏・両側面に磨面が形成されている。図184-6は表裏の扁平面に凹み、下端には刮離と敲打による潰れが見られる。

##### 【石製品】

図184-7・8は石製円盤である。

#### 2 第Ⅲ層

##### 【土器】

晩期前半期の資料が多く、おそらく第1号盛土遺構下部のⅡa段階に相当する層と推定される。

図185-1は入組文をもつ装飾深鉢形土器であり、図88-8(第2層)と同一個体である。図185-2は入組文を持つ鉢形土器である。図185-3・4は羊歯状文を持つ鉢形土器である。図185-5は、羊歯状文を持つ壺形土器である。図185-6・9・10は雲形文を持つ浅鉢形土器である。図185-7は条痕文をもつ胴部片である。図185-8は高台を持つ鉢形土器の底部資料である。

##### 【石器】

この層から石鏃、石錐、石筥、石匙、削器、石核、剥片、礫石器などが出土している。

図186-1から3は有茎鏃である。図186-4は凹基鏃である。図186-5・6・8は縦形・横形石匙である。図186-9は石錐、図186-10から12は削器である。図186-7は珪質頁岩製の敲石である。

図186-13・16は凹石である。13は側面に敲痕を持つ。図186-15は磨石である。図186-14は敲石であり、下端に敲痕が見られる。図186-17の石皿は扁平礫に平滑な磨面が見られる。図187-2の大形石皿は、2つの破片が接合した。右側の破片は、調査区の北東隅の地点で、第Ⅲ層の落ち込み状の部分に横倒しの状態で出土している。接合したもう片方(左側)は、西捨て場から出土した。

【石製品】

図187-1は大形礫の扁平な面の上端に凹みが見られる。敲打整形と思われる。図187-3から7は石製円盤である。図187-9・10は有文・無文の石棒である。図187-8は玉材と思われる。

(高橋)

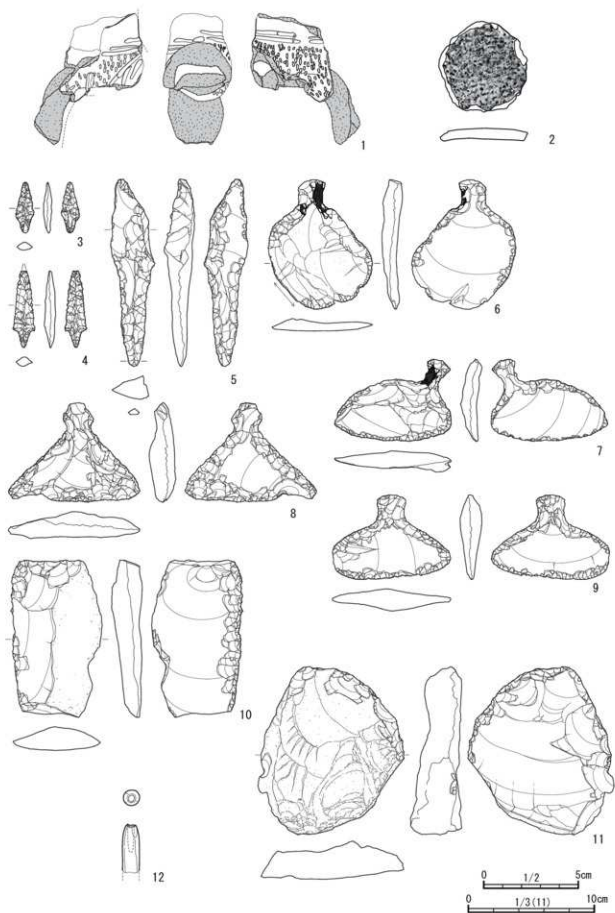


圖183 第I層出土土製品・剝片石器





図184 第1層出土石器

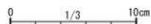
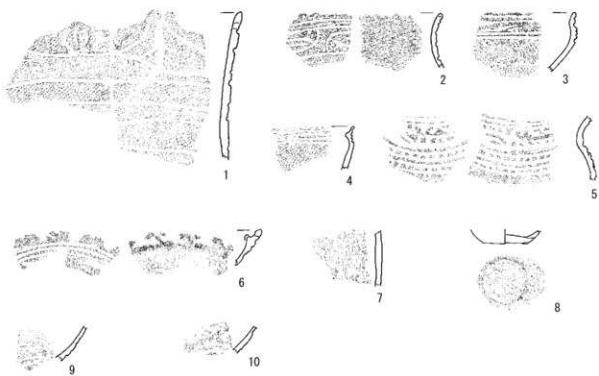


図185 第三層出土土器

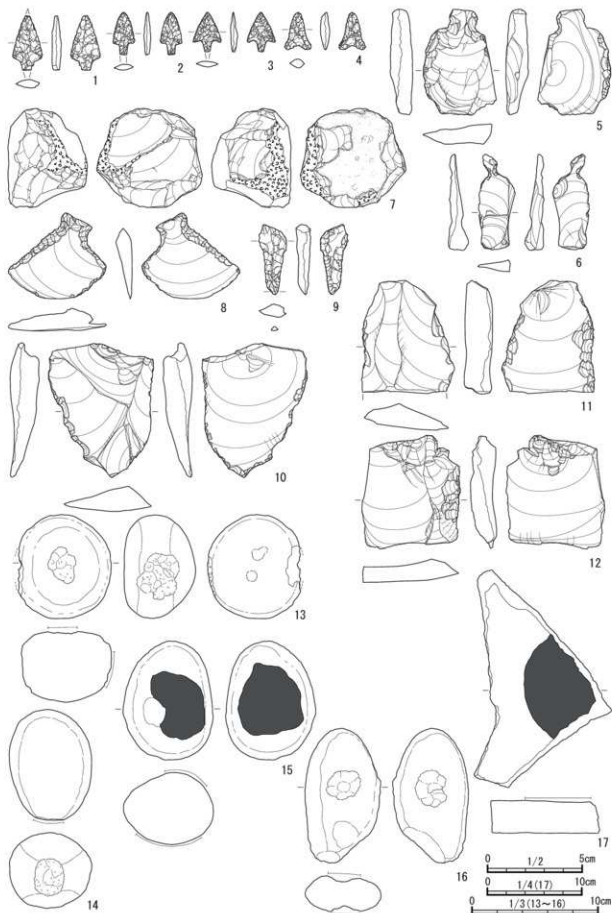


圖186 第三層出土剝片石器

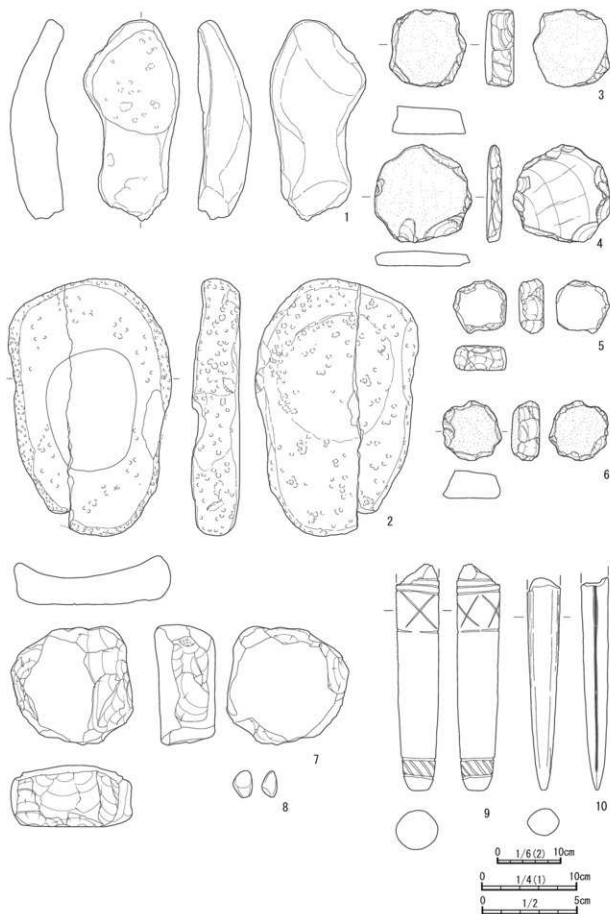


図187 第Ⅲ層出土礫石器・石製品

## 第5章 総括

### 第1節 遺構の変遷

川原平(1)遺跡の本報告範囲において、多数の遺構を検出した。これら遺構について、第4章第2節(5)で設定したⅠからⅤ段階に分けてその内容を記載する(図188)。なお、この「段階」は、第1号盛土遺構の変遷を順序立てて説明するためのものであり、遺跡全体の変遷を示すものではないことをあらかじめお断りする。

#### Ⅰ 各段階における遺構について

##### (1) Ⅰ段階(縄文時代中期後半)

Ⅰ段階の中期遺構は、建物跡(竪穴住居跡)5棟、土坑20基が検出された。

立地は北西隅の岬状の先端部にあり、南北は急な斜面で囲まれている。中期遺構の東限・南限は第13号建物跡である。

川原平(1)遺跡の地山層は礫層の地点が広い範囲で認められるが、中期遺構はこうした礫層をさけて、シルト質の地山に構築されている。第13号建物跡のある地点よりも南側の地山は礫層であり、晩期の柱穴群が分布している。そのため晩期の建物跡とは異なる立地を意図的に選んでいたものと思われる。

竪穴住居跡や土坑の上面には晩期の遺物を包含する黒色の覆土で覆われており、晩期にはこれらの遺構は埋まりきっておらず、窪地であったと思われる。

##### (2) Ⅱ段階(縄文時代後期後葉から晩期前半)

この段階では、シルト質の地山部分に配石遺構、土器埋設遺構、土坑、焼土遺構、ピットなどが検出された(Ⅱa段階)。出土遺物から後期後葉から晩期前半にかけて形成されたと考えられる。配石遺構については後で詳述することとし、それ以外の遺構について述べる。

晩期遺構の内、土器埋設遺構について、土器はおおむね正位の状態で見られる。器種は深鉢形土器が大半であり、一部壺形土器が含まれる。数点横倒し状態の埋設土器があり、この場合鉢形土器が埋設されている。

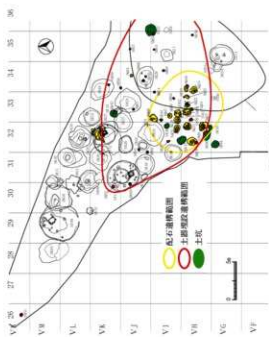
ピットも多数確認されたが、地山礫層地区で確認できた柱穴と比較し小形である。確認できた掘り込み面と出土遺物から、大半はこの段階に構築された遺構と考えられるが、組み合わせなど明確には捉えることはできず、その性格は不明である。

土坑の中で、第22号土坑は、比較的大形の晩期土坑である。土器・石器の出土量もかなりある。秋田県向様田D遺跡において、特殊な土坑との記載があるが、この土坑も類似した性格の可能性がある。

配石遺構の所で改めて詳述するが、Ⅱ段階におけるこの地区は、配石遺構・土坑・土器埋設遺構が集中して検出されているので、後期後葉から晩期前半の墓域として機能していたと考えられる。

##### (3) Ⅲ段階(縄文時代晩期後半)

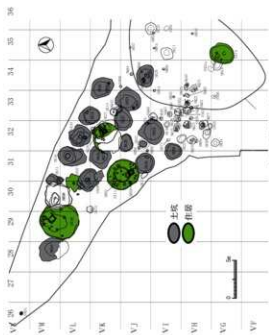
この段階で、第1号盛土遺構が形成され始める。出土土器から遅くとも晩期4期には構築が始まっ



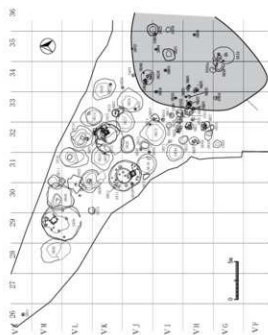
第1号塚土遺構の範囲  
II 段帯(縄文時代晩期前半)



第1号塚土遺構の範囲  
IV 段帯(縄文時代晩期後半)



第1号塚土遺構の範囲  
I 段帯(縄文時代中期後半)



第1号塚土遺構の範囲  
III 段帯(縄文時代晩期後半)

図188 遺構の変遷

たと考えられる。これ以外の遺構は見られなくなるので、この段階で、この地点は墓域としての機能を失い、集落内における場の使い方の一部が変化すると考えられる。また、Ⅲa段階では完形に近い個体の土器が出土しており、堆積層は第1号盛土遺構の中央部、東から西側にむけて形成されている。

#### (4) Ⅳ段階（縄文時代晩期後半）

この段階では、Ⅲ段階と異なり、堆積層の形成は第1号盛土遺構の南側である。堆積層も第1号盛土遺構の中央部から南西方向に向かって形成されている。包含する土器が後期後葉から晩期前半の土器を含んでおり、Ⅲ段階とは堆積層の形成や出土土器などが明らかに異なる。

北捨て場への廃棄も行われている（Ⅳb段階）。

第21号土坑なども確認されており、何らかの活動が行われていたと思われる。

堆積層の形成方向や出土遺物などから、第1号盛土遺構を形成するⅢ段階とⅣ段階の間に断絶があったと思われる。

#### (5) Ⅴ段階（縄文時代晩期後半）

第1層が形成する段階である。近現代の遺物も含まれているが、かなりの縄文時代晩期の遺物が含まれている。晩期5期の遺物が大半である。晩期6期に相当する資料は出土していない。

以上を要約すると、中期遺構はシルト質の地山に形成され、礎基盤の地山には形成されていない。一方で礎基盤の地山には多量の柱穴が確認されている（次年度報告書で詳述）。このシルト質地山地点であるこの地点では、Ⅱ段階で配石遺構や土器埋設遺構、土坑が形成されており、川原平（1）遺跡の平場の北西隅は晩期前半期の墓域として機能していたことが窺える。晩期後半期のⅢ段階・Ⅳ段階には北捨て場を含め、盛土遺構などの土砂の廃棄場としての場所になり、墓域の機能は消失し、墓域は別の地点に移動したものと考えられる。Ⅴ段階以降の人間活動は認められず、晩期後半以降はこの地点での人間活動は終了したと思われる。

（高橋）

## 2 各遺構について

### (1) 中期遺構について

#### 1) 遺構群の配置

本報告書の掲載対象範囲である遺跡北西部は、北側が岩木川、西側は大沢川に面し、台地が半島状に突出した部分とその基部である。縄文時代中期では中葉の円筒上層e式期の堅穴住居跡が1棟、中期後葉から末葉の堅穴住居跡が3棟出土した。他に中期後葉以降の可能性のある住居跡が1棟ある。出土遺物や遺構確認面などから中期後半と考えられる土坑群は台地が半島状に突出した部分に分布する。土坑は群をなし長軸が約2～4m、深さは約数十cm以上（深いものでは1.5m以上）の大型のものが多く、断面形は逆台形のものが多い。やや小形のフラスコ状の土坑を1基含んでいる。時期がわかるものでは、円筒上層e式期と榎林式期のものがある。しかし時期の詳細が不明な土坑が多い。

遺構配置図を見ると東側の晩期の第1号盛土遺構の下には第13号建物跡と第28号土坑が位置するが、東に向かって遺構が減少していく状況がみとれる。平成27年度の調査では、第1号盛土遺構の

さらに東を調査したが、中期遺構は確認できなかつた。なお、晩期遺構の集中する遺跡中央部分では、遺構構築等により欠失したものがある可能性も残る。しかし現場段階の所見では、晩期に土の廃棄が確認できる北捨て場や北東捨て場でも中期遺物の出土量は少なかつた。また、表土直下が礫層となり、深さのある土坑が構築しづらい場所である。そのため遺跡全体でも、遺跡北西部に集中的に中期遺構が構築されたと思われる。

以上から、本調査区で中期遺構についての全体像を考察できるため、変遷、周辺遺跡の状況を含めて総括したい。

## 2) 遺構変遷

まず、時期毎の遺構分布を述べる。

円筒上層e式期の堅穴住居跡である第13号建物跡が、東南端に位置する。同時期に第45号土坑があり、約20m離れている。

第7号建物跡は中期後半の土器埋設炉を持つ住居跡であるが、保存状況が悪く詳細時期が不明である。遺構の重複関係や炉型式から、榎林式期以降の可能性がある。

榎林式期の土坑では第18・20・29号土坑がある。この時期の堅穴住居跡として第9号建物跡がある。

中期末の大木10式併行期では堅穴住居跡が2棟出土した。第11号建物跡、第12号建物跡は、中期の土坑が真下に位置する。埋まりきらない土坑を平面的に広げ、住居として活用したものと考えられる。第9号建物跡では同様の可能性は低いものの、①貼床が掘削必要範囲である炉跡周辺よりも南側まで広がること②西に隣接する第30号土坑は、台地先端部のためか深さが50cmと浅いものであったことから、浅い土坑を再利用した可能性は僅かに残る。

また、第9号建物跡と第12号建物跡は複式炉の流れを組む石囲炉で、炉のそばに入口施設と考えられる石が配置されている。第11号建物跡は同様の入口施設を持つが、石囲炉に隣接して住居中央側に地床炉がある。第9号建物跡と第11号建物跡は炉内出土炭化物の炭素年代測定を実施しており、結果は来年度に報告予定である。3棟の住居跡のうち、第9・11号建物跡は黒色土が厚く自然堆積し、第1号盛土遺構に近い第11号建物跡は堆積土の上部から中部にかけて多数の晩期土器が出土した。縄文時代中期末の土坑の有無は不明確である。

## 3) 土坑群の堆積状況と形状

土坑は人為堆積のものが多く、多くは地山に由来する黄～灰褐色土が堆積する。廃絶後の、時期の新しい土坑の掘削土の流れ込みや、堅穴住居跡の掘削時の土の投げ込みがあった可能性がある。最上層に第III層由来の黒褐色土が残るものがある。また、第9号土坑のように、堆積土中に大きな礫を含み、別な層位ではほとんどの複数の礫が出土するものがある。第18号土坑は土器破片を含む層や炭化物層が堆積土の中間に見られる。

土坑底面は円形のものが多いが、第14・16号土坑のように上部に張り出し部分を持つものがあり、形状の変化をもたらしている。張り出し部分は土坑に深さがあるために、掘削時の排土搬出や土坑使用時の出入口としての役割が想定される。

付属施設としては第10号土坑の新段階では2対の柱穴を持ち、上屋があったと考えられる。第9・



14・16号土坑では底面にビットを伴う。

土坑群には、断面がフラスコ状の第42号土坑が含まれている。確認層位と堆積土からも中期後半と考えられる。

これらの土坑は、第24と27号土坑の上部が重複する例を除いて重複がない事も特徴的であり、構築・使用の時間差はあっても、中期後葉までは、埋没中であっても目視できた可能性がある。さらにいえば、土を掘り出して再利用が可能だったものと思われる。中期末になると、前述のとおり第11号建物跡、第12号建物跡は、真下にある埋まりきらない土坑を平面的に広げたと考えられる。第12号建物跡では、下にある第27号土坑は深さがあることから、住居の構築にともなって遺構を拡幅した際の土で埋めた可能性がある。

#### 4) 西目屋村の遺跡群での類似土坑の分布

川原平(1)遺跡に隣接する川原平(4)遺跡では台地縁辺に中期後半の竪穴住居跡と土坑群が分布する。直径2m、深さ1mを超える大形の土坑群は、岩木川に面し谷状に内湾する範囲内に分布している。川原平(1)遺跡の土坑群から約250m東にまとまっている。

これまで刊行された周辺遺跡の報告書からも関係する遺構が中期後半を中心に抽出できる。

砂子瀬遺跡E区の第0908号土坑は長軸2.40mの不整形円で、深さは65cm、底面に長径約1mの楕円形のビットが伴う(青森県482集)。確認面から縄文時代後期の土器が出土しているが、当初に作成した土層断面図と完掘の図面・写真からは土坑の壁と底面の確認が難しかったことが見て取れる。川原平(1)遺跡の第9号土坑の調査経過と類似している。

鬼川辺(3)遺跡では中期中葉から後葉の住居跡とともに、長径2m、深さ1mを超える断面形状がフラスコ状・逆台形のものが調査されている。住居跡よりも、より沢に近い部分に分布している(青森県541集)。

大川添(3)遺跡でも縄文時代中期から後期の住居跡のほか、土坑がまとまりを持って検出されている。ここでは第150号土坑の上に第107号竪穴住居跡が構築されている例についてふれる。第150号土坑は確認面から98cmの深さを持ち壁の断面形状がほぼ垂直に立ち上がる。その上に縄文時代中期の石囲炉のある第107号竪穴住居跡がある(青森県544集)。川原平(1)遺跡で土坑と重複する第11号建物跡、第12号建物跡の例を思わせる。炉の形状は川原平(1)遺跡の中期末のものに類似しており、時間的に近い可能性がある。

芦沢(2)遺跡では縄文時代中期中～後葉の第50号土坑の真上に後期後葉の第6号竪穴住居跡が構築されており、埋まりきらない土坑の落ち込みを利用した「遺構の再利用」と推察されている。第50号土坑は3.08×2.22m、深さ1.15mであり、底面に2基のビットを伴う(青森県540集)。

以上から、類似した形状の土坑は周辺遺跡でも出土しており、本遺跡例は特殊なものではない。また、埋まりきらない土坑を利用して、その上に竪穴住居を構築する例も特殊例ではないといえる。

#### 5) 県内外での類例

貯蔵穴については長い研究史があり、弥生時代研究で大形土坑を屋外貯蔵の施設と推察した例(石野1967)など各地、各時代で論じられている。

青森県内の同時期の遺跡例として青森市三内丸山遺跡を、1980年代という比較的早い時期に報告された例として、岩手県二戸市(旧浄法寺町)五庵Ⅰ遺跡及び五庵Ⅱ遺跡をあげる(岩手県94・97集)。

三内丸山遺跡では「南の谷」に面した台地緩斜面の南地区(第10・11次調査区)では円筒上層e式期を中心とした縄文時代中期後半の堅穴遺構が群をなして分布している。第14号堅穴遺構は、2.70×2.60mで深さが1.90m、底面の南端と北端に各1個の柱穴を持つ。この遺構は多くの書籍で貯蔵穴として紹介されている(青森県教育委員会編2008他)。また、南地区の堅穴遺構の中には平安時代のものもある。

五庵Ⅰ遺跡及び五庵Ⅱ遺跡では断面が「ピーカー状」の縄文・平安時代の土坑が報告されている。五庵Ⅰ遺跡の平安時代の2.74×2.28mのⅧH19土坑では、底面に直径が約50cmのビットが確認されている。貯蔵穴として記載され、ビットは開口部を覆う蓋に関する役目を果たす施設として推定されている。五庵Ⅱ遺跡の土坑群は「尾根の突端部」に立地しており、川原平(1)遺跡の立地に類似している。

両遺跡には平安時代に土坑を再利用した例も含まれている可能性があるが、縄文時代のものと平安時代のものが時代を問わず同じ区域に現われている。この点からも、立地が重要な役割を果たしているものと考えられる。

## 6) 推定される機能

川原平(1)遺跡の土坑群については、前述のように①断面がプラスチック状のものだけではなく、底部にビットを持つものも貯蔵穴としての機能が推定されてきたこと②それらの土坑は他の大形土坑と重複せず、空間的に群をなすように見えること③縄文時代の定住集落では、墓域や居住域といったように機能を同じくするものが同じ地区に集まる傾向があること④近隣の集落遺跡でも類似した土坑が散見され、特殊例ではなく普遍性のある機能が推定されることを指摘できる。このことから、他の大形土坑も貯蔵穴としての役割を果たしたものが多くと考えられる。

土坑群の立地をみると、川原平(1)遺跡は台地縁辺の半島状の部分に分布しており、その延長上は岩木川と大沢川の合流点に近い。また、南側は内湾し、晩期には西捨場の有機質遺物層が形成される。斜面崩壊等による滑落崖があり、地元作業員によると近年まで湧水があったといわれている。水と近接し、半島状の台地は尾根筋と同様に道が自然にできる場所にあるといえる。川原平(4)遺跡の台地縁辺の内湾する部分についても水が集まる部分であるうえ、段丘上の台地と下位の部分との人の行き来がしやすい場所である。

以上から、水と近接し、段丘の上下の移動の結節点となり、道の存在が想定されるという立地が関連することが想定できる。しかし、同様の場所は他にもある。また、川原平(4)遺跡及び同時期の拠点的な集落である水上(2)遺跡の発掘調査報告書の刊行前であることから、問題提起にとどめておきたい。

(齋藤)

## (2) 配石遺構について

### 1) 構造

配石遺構は、立石を持つ配石遺構（日時計状組石遺構）と、一定の配置を持たない配石の2種類が確認されている。

2基の立石を持つ配石遺構はVH-32グリッドにおいて、並んで確認できた。共に立石は扁平な礎の平らな面を南北側に向けている。立石の周囲には、放射状に置石を、さらに外周に縁石を置くことで配石遺構を構成している。配石下部には土坑が掘られ、坑底から、緑色凝灰岩の玉や石匙が出土している。そしてこれを取り囲むように、他の配石遺構や土坑などが分布している。一定の区域に配石遺構が構築されていたことが窺える。

## 2) 配石遺構の類例－特に立石を持つ配石遺構について（図189）

**中期後葉** 東北北部では縄文時代中期後葉ごろに配石遺構が本格的に現れる。岩手県北上市樺山遺跡では立石を持つ配石遺構が出現する。個々の配石遺構が群をなして形成されているが、その群は環状配置の様相を呈していない。青森県青森市三内丸山遺跡第14次調査において縄文時代中期末に、立石を持つ配石遺構である第20号配石が確認され、放射状に配置した置石は存在しなく、中心の立石と縁石で構成されている。下部には土坑は存在しない。

**後期十腰内I式期** 後期の十腰内I期には、北海道小樽市西山崎ストーンサークル、森町鷲ノ木遺跡、秋田県北秋田市伊勢堂岱A遺跡、漆下遺跡、鹿角市大湯環状列石、岩手県滝沢市湯舟沢遺跡、青森県青森市小牧野遺跡、西目屋村砂子瀬遺跡、平川市太師森遺跡、黒石市一ノ渡遺跡など、大規模な環状列石・配石遺構群が出現し、場合には構築に伴う造成作業も行われている。

平川市太師森遺跡（平賀町2005）は、個々の配石遺構が集まって、全体にC字状に配石遺構が配置されている。遺構が構築しやすいように、本来の丘陵斜面地に大掛かりな人為的削平・造成工事を実施し、人工的空間を創出している。個々の配石遺構については、第1号組石遺構のように中心の立石の存在はないが、縁石と置石が見られ、置石は内外2重に密に並べられている。下部構造の調査は行われていないので、土坑が存在するかは不明である。これ以外の並べかたもあり、数種類に分類されている。

西目屋地域では、砂子瀬遺跡にて配石遺構が確認されている（青森県2009）。

鹿角市大湯環状列石では立石を持つ配石遺構が確認され、近隣の一本木後口配石遺構群では積み重ねた配石遺構が確認されている。北秋田市漆下遺跡では、各種形状の配石遺構が検出され、その中で、SKQ283は中心の立石と縁石はないが、置石が2から3重に放射状に配置されており、配石下部に土坑が確認されている。

小樽市西山崎ストーンサークルも立石を中心に周囲の置石は放射状に2から3重に配置され、縁石は不明瞭である。

**後期後葉から晩期** 後期後葉から晩期の資料として、西目屋村大川添（3）遺跡で第102号や第104号配石遺構などが確認され、放射状に配置された置石とその周囲を取り囲む縁石が確認されている。この遺跡では他の形状の配石遺構も確認されている。時期的に川原平（1）遺跡の配石遺構よりも古い段階に形成されており、かつ、配石遺構下部には土坑が存在しないなど、川原平（1）遺跡と異なる点も見受けられる。

晩期には青森県弘前市大森勝山遺跡、三戸町泉山遺跡、秋田県鹿角市玉内遺跡などで大規模な環状

列石・配石遺構群が確認されている。

鹿角市玉内遺跡は、阿部義平(1968)により立石を持つ配石遺構が報告されている。また秋田県教育委員会(1988)による調査においても配石遺構群が確認され、出土土器と掘り込み面の時期から、後期後葉から晩期前半期に相当する。時期的に川原平(1)遺跡の資料と近いので、以下内容を検討してみる。

配石遺構は玉内遺跡A地区で確認されている。立石を持つ配石遺構は、黒色土に作られ、中心に高さ20cmの立石、そのまわりを放射状に石を並べ、その外側に直径2mの円形に組んだ緑石を置く。そして放射状の置石は周辺の緑石には達しない。下に土坑が存在するかは不明である。遺物は周辺から大洞BC式が出土している。この配石遺構の規模は川原平(1)遺跡のものより大きい、その他の点で類似している部分が多い。

それ以外の配石遺構は、配石下部に土坑が掘り込まれ、土坑の壁に沿って、もしくは坑底に礎が敷き詰められている。この土坑内の礎という点では、川原平(1)遺跡と玉内遺跡は、配石遺構の構造が異なる。

玉内遺跡の配石遺構は、川原平(1)遺跡の遺構と類似点もあるが、下部の土坑の構造に差が見られる。

立石を持つ配石遺構を含む各種配石遺構は、中期末に出現し、後期十腰内I式期に発達し、晩期前半までは配石の伝統が継続し、晩期に縮小する(鈴木2007)。後期の立石を持つ配石遺構は、置石が放射状に密に敷き並べられている。さらに、置石は内側と外側の2重構造、場合には3重構造になっている場合もあり、緑石は不明確な場合が見受けられる。それに対し、川原平(1)遺跡の立石を持つ配石遺構は置石の配置が1重である。また、置石を隙間無く並べていないため、石の配置が雑な感じがあることは否めない。立石を持つ配石遺構も、時期によって構造の点で差異があることが窺える。

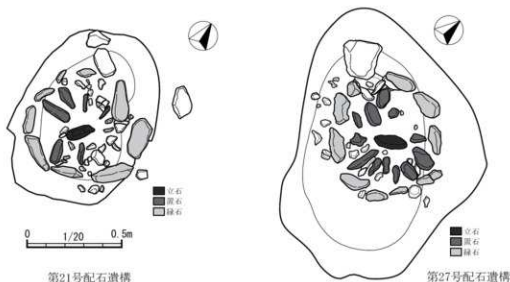
### 3) 配石遺構の性格

配石遺構に対して、祭祀説、墓域説、墓地・祭祀による霊域、集落共同体の変化と関連、集落構成と厳密に対応するという説が立てられている(齋藤1985、江坂1985、塚原1987など)。

川原平(1)遺跡の配石遺構について、他の遺構との関係を含めてその性格を検討してみる。

- ① 配石遺構はVII-I-32・33あたりに分布し、旧地形がゆるやかに傾斜する地点の堆積層に集中している。一定の区域に配石遺構がまとまって検出されている。
- ② VIグリッドより以北、配石遺構の北側に土器埋設遺構が分布している。配石遺構と分布が異なっている。
- ③ 住居遺構と思われる柱穴群は、地山が礎層の地点に構築されているのに対し、配石遺構、土器埋設遺構などはシルト質の地山に遺構を築いており、場の用途における選定が異なる。
- ④ 配石遺構下部に土坑が確認できた状況を受け、埋設土器を含め、遺構2基に対しリン・カルシウム分析を行った結果を参考にすれば、遺体を埋葬した可能性が高く、墓として機能していたことが推定される。
- ⑤ 出土土器の大半が後期後葉から晩期前半であるので、当該期に築かれた遺構と考えられる。

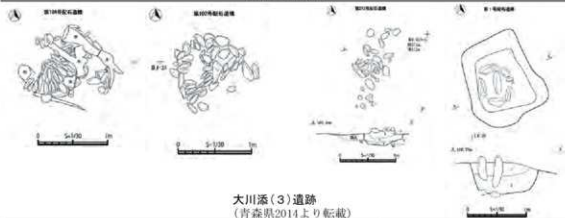
以上のことを考慮にいれば、川原平(1)遺跡の北西隅は、後期後葉から晩期前半の墓域として



第21号配石遺構

第27号配石遺構

川原平(1)遺跡



大川添(3)遺跡  
(青森県2014より転載)



三内丸山遺跡 XIV  
(青森県2000より転載)

第3号配石遺構



太師森遺跡

(平賀町教育委員会2005より転載)

第2号配石遺構



第1号配石遺構



第6号配石遺構

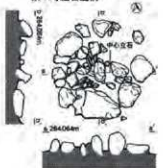


図189 配石遺構

利用されていた可能性が非常に高い。

津軽地域ではつがる市亀ヶ岡遺跡、五所川原市五月女苑遺跡、青森市平野遺跡、弘前市葉師遺跡などで墓域が確認されている。石棺墓が検出できた平野遺跡を除き、配石遺構を伴うものは確認されていない。一方で、亀ヶ岡遺跡などでは、黄色ロームを墓上面に覆うことが報告されており（青森県立郷土館1984）、土饅頭の様な様相になっていたと推定される。このように晩期の墓は上部構造として墓標のような構築物があった可能性が高く、川原平（1）遺跡の場合、礎などを置くことで一種の墓標のような効果をもたらしていたと考えられる。

立石を持つ配石遺構は、晩期の段階では青森県では津軽地方南部で確認されており、青森市内、三八上北地域にまでは広がらない。立石を持つ配石遺構を構築する文化が秋田県などの地域と連動しているのかなど今後の検討課題であろう。一方で、配石遺構下部の土坑について、秋田県側の事例と差異が見受けられる。その原因は各遺構・遺物の比較検討が不可欠であるが、ここでは埋葬に伴う風習などの差として捉えたい。

（高橋）

### （3）第1号盛土遺構について

#### 1) 第1号盛土遺構の形成について

第1号盛土遺構の構成する母材は、炭化物、礫を多く含む層とシルト主体の層の互層によって形成されている。堆積層の中には焼土（第51号焼土遺構）が確認されているが、焼け面がないので焼土を廃棄したものと思われる。第1号盛土遺構は塚状に盛り上げたものではなく、特定方向から土を廃棄、もしくは盛った結果形成された可能性が高い。堆積時期や傾斜角度、母材となる土質の違いなどから堆積層を段階に分けられた。

以下、段階ごとに盛土遺構の変遷を見ていく。なお、Ⅰ段階は中期遺構なので、ここでは割愛する。

【Ⅱ段階】Ⅱ段階（図188、190）において、後期後葉から晩期前半期の遺構が検出され、当該期の生活面・墓域であったと考えられる。

Ⅱ段階を構成する堆積層は、図190の点線部を境に、地山の平坦面と傾斜面に分かれる。

地山落ち込みを埋めるように形成する部分（第20・24・25・26層など）には、配石遺構が集中して分布する。後期後半から晩期前半の土器が出土している。平坦面部分には平場を覆うように堆積層（第7・8・9・16・19層）が確認されている。晩期後半期の土器も少なからず確認されている。特に第16層は晩期後半期の土器を多く含み、堆積層も第19層の上に波打つように乗っていることなどから（図77）、Ⅲ段階に帰属する可能性もある。また、第2層も地山平坦面にあり、現場所見では分層できなかったが、堆積層の一部はⅡ段階から分離する可能性もある。

【Ⅲ段階】この段階で第1号盛土遺構が形成される。

堆積層は基本的に第1号盛土遺構の中央部から始まり、東側から西側へ、緩斜面に向かって形成されている。そして、Ⅲ段階の出土土器は、晩期4期から5期が大半である。若干の後期後葉から晩期前半の土器が出土するが、この時期の資料は破片資料であり、形を復元できるようなものはないので、混入と思われる。よってⅢ段階は、基本晩期後半期の晩期4期から5期にかけて構築さ

れたと考えられる。

Ⅲ段階はまず、第51号焼土遺構が形成される。この遺構から、把手を持つ台付鉢形土器(図68-1・2)が出土している。文様は横位連続工字文が施文され、いわゆる聖山Ⅱ式に相当する。次に、Ⅲc段階という礫を多く含む層が形成される。

Ⅲa段階(第15層)は炭化物が多量に含まれた層である。この堆積層から晩期4期・聖山Ⅰ式・晩期5期に相当する土器がまとまって出土している。土器の出土状況も他の層と異なり、その場で潰れたような状態や完形土器が確認されており、意図的にその場に廃棄もしくは遺棄したような状態である。次のⅢb段階(第18層)でも晩期4期・聖山Ⅰ式・晩期5期の土器が出土する。工字文を持つ台付浅鉢形土器など、晩期5期に相当する土器がⅢa段階よりも幾分多く含まれている。土器は水平堆積であるが、Ⅲa段階のような出土状態ではなく、土器片が敷き詰められたような状態なので、廃棄のあり方がⅢa段階と少し異なる。

その後もⅢd・e段階が形成され、晩期後半期の土器が出土している。

【Ⅳ段階】Ⅳ段階になると、廃棄行為が変化する。Ⅲ段階が東側から西側に向かって形成されているのに対し、Ⅳ段階は第1号盛土遺構の中央部を起点に北東から南東にかけて、盛土の南側を中心に形成されている。このⅣ段階の層は礫が多く含まれているので、礫を多く含む堆積層を削平し、第1号盛土遺構に廃棄した結果と思われる。

出土土器は、時期が後期後葉から晩期後半と幅広い。

以上のように、Ⅲ段階とⅣ段階では廃棄する土砂の供給源などが異なることが予想される。Ⅳ段階は、礫を多く含む層で形成されているので、礫層を削平することで生じた土砂を廃棄したと推定される。さらに、Ⅲ段階とⅣ段階の境には、第21号土坑が確認されており、何かしらの人間活動が行われていたと思われる。

このような状況が読み取れるので、Ⅲ段階とⅣ段階の廃棄の間に、断絶があった可能性がある。

【Ⅴ段階】遺跡全体を覆う表土である。晩期後半の土器などが多量に含まれているので、引き続き何かしらの廃棄活動が行われた結果と思われるが、Ⅲ・Ⅳ段階のような明確な廃棄方向などは確認できなかった。

## 2) 類例について

**薬師遺跡** 青森県弘前市(旧岩木町)薬師遺跡において、晩期後半の盛土遺構が調査されている。岩木山の火山麓扇状地の端部、標高160mほどに位置する。盛土遺構はロームと土層、炭化物層によって互層をなしている。構築は塚状に盛り上げたのではなく、特定方向から土を廃棄もしくは盛った結果形成された可能性がある。さらに、盛土遺構を構成する堆積層は、層の堆積方向、傾斜具合からさらに細分されており、特定の廃棄単位にまとめられる。盛土遺構は晩期4期から5期ごろに構築されている。

また、盛土遺構形成以前は焼土遺構、建物跡、土器埋設遺構、土坑、黒褐色の晩期前半の包含層が確認されている。盛土遺構の上面を掘り込んだ遺構が確認されているため、盛土形成以降の人間活動も窺える。

盛土遺構途中、あるいは以後には貯水池状遺構、建物跡、埋設土器などが確認されている。晩期5

期以降、砂沢式・五所式・井沢式期が確認され、弥生時代にまで人間活動が継続されている。

**大橋遺跡** 岩手県北上市大橋遺跡は、和賀川左岸に位置し、盛土遺構が2基確認されている。盛土遺構以外に、掘立柱建物跡、焼土遺構、土坑、炉跡などが検出されている。盛土遺構の内、南盛土遺構は大洞BC式からC2式にかけて構築されている。北盛土遺構は、24×12m、高さ1mほどである。大洞C1式からA式にかけて構築されている。2つの盛土遺構の間には浅い谷があり、堆積層の連続は認められない。堆積層は炭層、褐色の砂質シルト、暗褐色シルト層が互層をなしている。

関東地方で検出されている盛土遺構との比較から、褐色土と黒褐色土の互層、床面を伴う炉跡、住居面の痕跡が最下面と最上層に多く、中間層に見られないなどといった共通点を挙げている。異なる点として、関東地方の盛土遺構のような中央が窪地にならない、構築時期が晩期中葉に限定されるなどを挙げている。盛土遺構下部や上部から焼土遺構が確認され、居住域と遺物の廃棄の累積の結果であり、晩期中葉の集落の一形態として評価し、盛土遺構は居住域と考えている。

**向様田D遺跡** 秋田県北秋田市(旧森吉町)向様田D遺跡において盛土遺構(SM60)が確認されている。小又川右岸の標高134から138mに立地する遺跡である。規模としては、基底面積が190㎡、高さ最大高0.8m、体積は100㎡前後と推定されている。旧地形は、北側に緩斜面があり、南側は微高地である。向様田D遺跡では盛土遺構下部から遺構が確認されている。SK25土坑墓は、相対的に大規模な土坑であり、上面に土盛りをしている。大洞B2式からBC式頃に構築された遺構である。旧地形の窪地にはSQ127環状配石遺構が構築されている。また、盛土遺構構築直前の地表面に円礫が300点以上分布する。円礫が盛土遺構のより上位の堆積層からは出土しない。盛土遺構が形成される以前に、この地点では土坑墓、焼土遺構、円礫群などが構築され、土坑墓造営やこれに伴う儀礼が行われた。盛土直下層は、大洞BC式、C1式を主体とする。また、盛土遺構自体、中下層と上層に区分した際に、上層は層厚などの点で、中下層と異なる点が認められるなど、川原平(1)遺跡の第1号盛土遺構のⅢ段階とⅣ段階のような差異と同一と思われ、盛土遺構が単純な土の盛り上げではないことが推定される。盛土中下位層や上位層は大洞C2式が主体となっている。盛土遺構自体の形成は大洞BC式からであり、本格化する大洞C1式から遺物の廃棄と土の積み上げが集中して行われ、大洞C2式まで継続する。盛土遺構形成時期の居住域などは未確認のため、場の性格が大きく変容している。遅くとも大洞A式には盛土遺構形成は終了し、同時に遺跡自体も断絶する。

盛土遺構出土遺物の過半を占めるのは深鉢形土器、鉢形土器、浅鉢形土器などであり、祭祀具として特化したと認めえるような遺物は少ない。大洞C1式、C2式は浅鉢形土器が優勢であり、小形の鉢形土器もしくは台付鉢形土器も多い。向様田D遺跡とその周辺では居住域を伴わないので、当該地域は小集団が分散居住しており、これらの捨て場は複数の集団が集結する集合祭祀の所産とした。

**その他** 盛土遺構と積極的に判断できないが、今津遺跡、宇鉄遺跡では、晩期4期、5期の遺物包含層が確認されている。今津遺跡は居住遺構の検出はないが、大規模な捨て場が確認されており、晩期4期の土器が出土している。土器の接合率・完形率は非常に高い。宇鉄遺跡は斜行堆積の遺物包含層が検出され、その下部には遺構が検出されている。晩期4期から5期の遺物包含層である。

### 3) 盛土遺構の性格

以上類例として4遺跡の盛土遺構を取り上げてその内容を検討してみる。



これらの盛土遺構に見られる共通点として、①最下層に前段階の遺構面が残されている。②異なる母材によって互層に堆積層が形成されている、③斜行堆積である。

一方相違点として、上部に遺構が構築されているかなどである。

こうした盛土遺構の特徴に対し、八木勝枝（2004・2010）は岩手県を中心に、晩期集落構造の解明の一環で盛土遺構に注目する。盛土遺構は人為堆積を含む遺物包含層が塚状に堆積した結果である。晩期の集落事例は少ないので、包含層には居住空間が潜んでいる可能性を指摘し、岩手県盛岡市手代森遺跡や花巻市安塔屋敷遺跡などを検討し、包含層範囲内の住居などについて言及している。

向様田D遺跡の報告では、墓域として機能していた地点に、遺物の大量廃棄を伴う葬送や祖先祭祀などに関わる儀礼的な行為が行われた場と解釈し、また、出土土器組成の検討から、饗宴などに伴う遺物の廃棄などを想定している。

葉師遺跡では、昭和33年と35年の報告では盛土遺構の構築の一つの理由に平坦地の拡張といった人為的な造成工事が行われたように感じられると報告されている（田村1968）。また、この盛土上面に何かしらの遺構が構築されており、後代には別の土地利用があったことが窺える。

近年の盛土遺構の研究は、単なる遺物の廃棄場としてのみでなく、集落変遷の中に位置づける研究が増えてきている。長沼孝（1993）は、盛土遺構は住居削平時の排土や一定の区域を削平した際の排土などを意図的にマウンド状にしたものとし、焼土や多数の遺物を伴う場合が多い。盛土遺構はいずれも同時期の住居跡に隣接し、土や焼土の排土場所、土器・石器などの廃棄場所、そして作業や儀式の空間という複合した性格を持っているとした。福井淳一（2014）は、盛土遺構は「捨て場」「送り場」「排土処理」「儀礼場」そして遺跡構成要素として考えた場合、住居・墓などと関連しながら変遷していくとし、集落構造の中で考える必要を説いている。

川原平（1）遺跡の第1号盛土遺構の場合、Ⅲ段階とⅣ段階の堆積層の形成が異なる。Ⅲ段階は晩期4から5期の資料にほぼ限定されており、比較的復元個体になる資料が多かった。それに対し、Ⅳ段階は後期後葉から晩期全般の資料がみられ、土器の復元率はⅢ段階と比較して非常に悪い。Ⅲ段階の場合、何かしらの儀礼などを伴った廃棄であったのに対し、Ⅳ段階は土砂の廃棄に伴い、土器が巻き込まれた可能性がある。

#### 4) 盛土遺構のまとめ

川原平（1）遺跡の集落の変遷を捉えることが、最終的な大きな目的の一つであるが、この盛土遺構から集落構成の理解に大きな知見を得ることができた。つまり、後期後葉から継続した集落が、晩期中葉あたりを境に集落の景観が大きく変化することである。

具体的には墓域として機能していた地点が、盛土遺構の構築に伴う遺物の大量に廃棄・遺棄する地点に変わり、標識を持つ配石遺構などが盛土遺構の下に埋もれてしまったことである。さらにこの廃棄活動は、2つの段階の廃棄が行われ、その母材や土器の内容が異なる。その間、この一帯ではわずかな遺構が構築されているにすぎず、墓域としても居住域としても機能していないこととなり、まったく別の機能を持った場として活用されていたこととなる。

晩期後半期に集落の景観を大きく変える土木作業的な削平の痕跡は葉師遺跡でも確認されており、川原平（1）遺跡では少なくとも、晩期の集落を形成する過程で、多量の土砂を移動したものと考

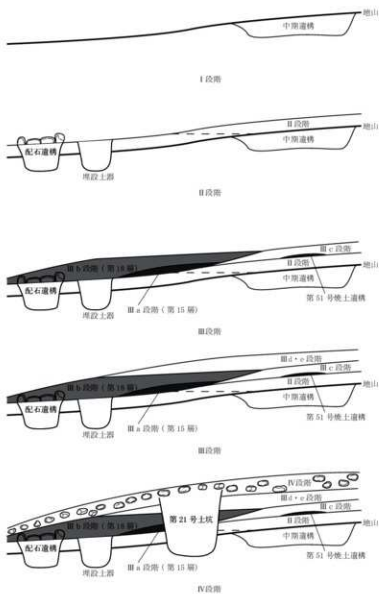


図190 第1号盛土遺構形成模式図

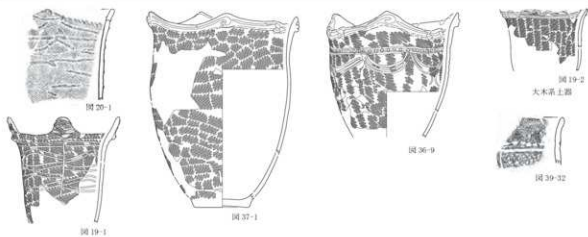


図191 中期後半の土器

られる。晩期の土木工事を垣間見ることにつながる重要な知見が得られた。

墓域という宗教的・社会的な空間が廃棄場所になるということは、盛土遺構の構築そのものが儀礼の場としての機能以外に、まったく異なる性格であった可能性も視野にいれなければならない。そのため、川原平(1)遺跡の盛土遺構の性格については、他の3つの盛土遺構の存在と住居遺構、捨て場との関連も含め、十分に考慮しなければならない。より詳細な性格については、来年度刊行の最終報告書に譲る。

(高橋)

## 第2節 出土遺物

### 1 土器

#### (1) 縄文時代中期の土器について(図191)

中期の土器は、遺跡北西端部に位置する中期の遺構群から主に出土し、ほかに第1号盛土遺構の第25・26層などからも出土した。最も古いものは第13号建物跡出土の図20-1や第1号盛土遺構の第25・26層出土の図91-6で、円筒上層d式に比定される。出土量は比較的少ない。円筒上層e式には第13号建物跡でまとまった量が出土し、出土量としてはやや増加の傾向が見受けられる。同建物跡からは、大木8a～8b式の影響を強く受けた深鉢形土器(図19-2)も併せて出土しており、円筒上層式と大木式の併行関係を窺うことができる。榎林式では建物跡からの出土例はないものの、第9号土坑や第20号土坑、第18号土坑などから残存状況の良好な試料が出土した。最花式～大木10式併行では、第11号建物跡や第12号建物跡からの出土が認められる。いずれの時期も出土量は多くはないものの、時間的には断続することなく遺物の出土が認められる。

#### ※ 漆液容器(第17図2)について

第12号建物跡から、内面に漆膜が厚く付着した小形の鉢形土器が出土した。土器は底部からやや垂直に立ち上がり、体部で膨らみ口縁部はやや内湾する。上端から1cm程度の範囲は無文であり、その下から底部際までは縄文が横位に施文される。口縁部には対向する位置に貫通孔が1対認められる。そのうちの1か所は口縁部の破損に伴い2/3程度が欠失しており、もう1か所は良好な状態で残存している。時期は器形と出土位置および共伴資料から、縄文時代中期大木10式併行と考えられる。

漆膜は内面のほぼ全面に3mm程度の厚さで付着し、外面には波だれ状に薄く付着する。漆膜は赤みを帯び、部分的に赤色顔料と思われる粉状の赤い付着物も確認できる。貫通孔部分にも漆膜が確認でき、本来7mm程度の孔が、漆膜により現状では3mm程度と狭まっている。現状の孔は本来の孔には接しておらず周囲を漆膜に囲まれており、土器内面の貫通孔部分には漆膜の盛り上がり認められることから、漆液容器として一定程度機能したのちに、外側から孔が開け直されたものと推定される。

本例は漆膜が赤みを帯び、赤色顔料の付着が認められることから、漆液の精製後、顔料を混ぜ合わせる工程で用いられた容器と考えられる。貫通孔の用途は定かではないが、孔の開け直しが行われていることから、何らかの必要性が窺われる。本遺跡では中期後葉の遺物に赤漆が塗布されている例は確認されていないため、実際に本遺跡で使用されたものか、外部から持ち込まれたものかは判然としない。

(岩井)

## (2) 第1号盛土遺構出土土器について (図192)

【Ⅱ段階】Ⅱ段階は後期後葉から晩期前半期の遺物が中心であり、土器組成として、深鉢形土器、鉢形土器、浅鉢形土器、皿形土器、壺形土器、注口形土器などで構成されている。深鉢形土器は大形の粗製土器が土器埋設遺構を含め確認され、口縁部が内傾し、B突起が口唇部に貼り付けられている。装飾深鉢形土器も出土しており、これら2種類の深鉢形土器で土器組成を構成している。底部に高台が付されている資料も少なからず確認されている。

浅鉢形土器、皿形土器などには雲形文、羊歯状文、入組文などが施文されている資料が特に配石遺構周辺で多く確認されている。壺形土器には入組文が展開する赤彩の大形品が出土している。

Ⅱ段階でも第1号盛土遺構下部の地山が平坦部では晩期後半の土器が確認されている。この一帯は第50号土器埋設遺構が1基見られる程度で、比較的遺構の分布が薄い地点である。工字文を持つ台付の大形鉢形土器や台付浅鉢形土器、矢羽状沈線文を持つ皿形土器などが出土している。

このようにⅡ段階の土器は地点に応じて時期が少し異なる。

【Ⅲ段階】第1号盛土遺構を形成するのはⅢ段階からである。

Ⅲa段階は、土器組成としては深鉢形土器、鉢形土器、浅鉢形土器、壺形土器で構成されている。深鉢形土器は無文の粗製深鉢形土器の他に、口縁部に平行沈線が3条程度巡る深鉢形土器が確認されている。鉢形土器は出土数が多く、深鉢形土器同様に、粗製、口縁に沈線が巡るものなどがある。浅鉢形土器・皿形土器には、口縁部が無文で、口縁と胴部境に眼鏡状隆帯が巡るもの、胴部に連繫入組文が展開するものがある。壺形土器には肩部に連繫入組文、工字文、晩期4期に相当する壺形土器などが出土している。また、粗製壺形土器が比較的まとまって出土している。これらの土器の特徴から、晩期4期・5期を中心とした資料であり、これに聖山式に相当する資料が共存する。

Ⅲb段階はⅢa段階同様に、土器組成としては深鉢形土器、鉢形土器、浅鉢形土器、壺形土器で構成されている。出土土器の内容は、Ⅲa段階と大差はないが、晩期4期を含みながら、工字文を持つ台付浅鉢形土器が増加しているなど若干晩期5期に相当する資料が増加する。また、図130-16のような晩期4期から5期への過渡的様相を持つ土器が出土している。

Ⅲa・Ⅲb段階よりも古い段階に形成された第51号焼土遺構では、把手を持つ台付鉢形土器が出土し、横位連続工字文が施文されている。聖山Ⅱ式に帰属する資料である。

Ⅲ段階全体では、土器組成としては深鉢形土器、鉢形土器、浅鉢形土器、壺形土器で構成されている。工字文を持つ土器、矢羽状沈線文が展開する皿形土器、連繫入組文や晩期4期と思われる壺形土器などが出土しており、晩期4期から5期頃に相当する資料が出土している。平行線化した横長の楕円文を配して工字文風の様態を構成する鉢形土器(図147-3)が出土している。同様なモチーフを持つ土器は宮城県栗原市山王園遺跡で出土している。

このようにⅢ段階は、全般的に晩期4期から5期頃に形成されたと思われる。

【Ⅳ段階】上層のⅣ段階は、出土土器の時期が後期後葉から晩期後半と幅広い。Ⅳ段階は礫が多く含まれている層から、他の礫を多く含まれる地点を削平した結果と思われる。第1号盛土遺構でも触れたように、Ⅳ段階は意図的な廃棄というよりも、地形改変などによって生じた土砂とともに、土器などの遺物が巻き込まれて廃棄されたと考えられる。

Ⅳb段階には、口縁部が内傾し、平行沈線が巡り、全体が無文の台付浅鉢形土器(図168-5)が出

土している。形状から晩期5期でも新しい段階に属すると思われる。

【V段階】V段階は近現代の遺物含まれているが、おおむね晩期後半の資料が出土している。

### (3) 聖山式について

第1号盛土遺構の时期的な問題について検討するため、いわゆる聖山式土器を検討する。

学史的には山内清男が大洞土器型式を設定したが、若干の地方型式の存在は示唆している。また、大別と細別に陸奥に亀ヶ岡式を当てているので(山内1937)、東北部は別型式の存在を考えていたと思われる。

芹沢長介(1960)は、晩期4期の説明の中で、北海道南部では地文に縄文をつけた後、指先あるいは太いヘラで平行沈線を重ね、いわゆる工字文に近い文様を描き出したらしい。これは次に第IV段階(晩期5期)に発展する要素であって、その萌芽は本州よりもむしろ北海道にあったらしいと述べている。

吉崎昌一(1965)が東北の晩期5期が在地のやや粗雑な胎土で作られた工字文を特徴とする土着土器とともに出土し、工字文の地文として縄文が付されるという特徴が指摘されている。「日ノ浜式」を設定している。晩期5期に併存する渡島半島の地域的な土器型式あるいは先行型式と晩期5期の過渡的な様相と捉えられた。

林謙作(1965)は、晩期4期の中で、大洞C1式の文様が簡略化されるが、その過程でも各地域は異なった地域色を発揮する。もっとも顕著な地方色が見られるのは東北北端から北海道西南部にわたる地域である。この地域では他の地域にさきかけて指描きの太い沈線による入組工字文が出現し、日ノ浜式に該当する。

このように東北地方の晩期中葉の資料が増加していくとともに、大洞C2土器の地方型式の存在が確認されつつあった。

【聖山遺跡出土土器について】上記のような研究の流れの中、聖山遺跡の調査が行われた。調査によって第1から第7ブロックが確認され、晩期中葉の遺物が出土している。

そこから出土した土器は、聖山I式と聖山II式に大別された。その指標となったのが、土器に施文された文様のあり方である。文様は、多重沈線手法を特徴とし、連繫入組文を持つもの(聖山I式)と、横位連続工字文(聖山II式)である。

連繫入組文は、単位文様の入組文と三ツ又文が規則性を持って配置されることに特徴がある。入組文が区画的な働きをし、三ツ又文が充填文として入組文間の空間を埋めている。

横位連続工字文は、三ツ又文のうち、工字形の凹部を横位に連続してがいに配置する特徴である。横位連続工字文は、縄文施文を残している。反転部が垂直ではなく、斜めに調整される傾向を持つ。左右対称にカーブする整った反転部を持つ工字文は少ない。これは三ツ又文という文様の形状も大きく関与している。

横位連続工字文は鉢形土器、壺形土器に施文され、連繫入組文は鉢形土器、皿形土器、壺形土器に施文されている。また大洞C2式に特徴的な把手は、横位連続工字文を施文された鉢形土器に頻繁に見受けられる。横位連続工字文は基本1段であるが、壺形土器の肩部には上下2段の工字文が施文されている。

聖山遺跡の報告書では、聖山式は、大洞C2式からA式の範囲内に位置づけている。そして、これらの土器の特徴と、数カ所の遺物集中地点ブロックにおける聖山Ⅰ式と聖山Ⅱ式が量的な関係で変異を用いながら、報告書においては時期を違えながらブロックが形成されたと考えられている。さらに、この型式の編年について、飯島義雄(1981)は、連繋入組文から横位連続工字文への時間的推移を想定した。吉岡・岡村(1981)もこの2型式を検討し、その出土頻度の差からブロック形成の先後関係を捉えた。

須藤隆(2014)は、聖山遺跡の第2ブロックを検討し、連繋入組文と横位連続工字文との密接な関係があり、空間分布とともに緊密な共伴関係を指摘している。両裝飾意匠が併存し、共伴するあり方が聖山遺跡出土土器の主体的な土器型式の特徴としている。

また、弘前大学の調査においても、聖山式土器と他器種の関係を考慮し、晩期4期から5期の中間型式に位置づけている。

#### 【類例】

**二枚橋(2)遺跡** 下北半島に位置する遺跡である。縄文晩期の遺物は晩期4期から6期にかけて確認され、特に晩期4期から5期の中間型式(聖山式)が多い。聖山Ⅰ・Ⅱ式が出土しており、特に連繋入組文を持つ壺形土器が多数出土している。

**宇鉄遺跡** 津軽半島の先端部に位置する遺跡である。Ⅱi層とした遺物包含層には連繋入組文を持つ壺形土器が多数出土している。また聖山Ⅱ式はⅡe・g層中心に出土している。器種としては鉢形土器、台付鉢形土器などが多い。共伴土器では晩期5期の台付浅鉢形土器などである。中でも、晩期4期と共伴して聖山式土器が出土している。聖山Ⅰ式を晩期4期に、聖山Ⅱ式を晩期5期と時期差と捉えている。

**今津遺跡** 津軽半島に位置する遺跡である。晩期4期の遺物包含層が確認されている。土器の接合率・完形率は非常に高い。晩期4期の土器とともに、沈線多重手法による横位連続工字文を施文された鉢形土器・壺形土器や、連繋入組文の壺形土器が見られる。高伏三足土器の胴部文様も入組文をモチーフとした構成を持っており、聖山式の影響を受けていると思われる。

**観音林遺跡** 五所川原市観音林遺跡では晩期3期から5期が多い。晩期4期から5期に属する資料が多く、その中に聖山式がまとまって出土している。連繋入組文は、壺形土器、鉢形土器、把手付鉢形土器、台付鉢形土器や無文地の皿形土器に見られる。横位連続工字文は台付浅鉢形土器などに見られる。

**亀ヶ岡遺跡** 壺形土器や鉢形土器に連繋入組文が見られる。

**葉師遺跡** 葉師遺跡の盛土遺構からも、数は少ないが、晩期4期・5期とともに聖山式土器と思われる連繋入組文や横位連続工字文を持つ土器が出土している。

**その他** 南部地域の東北町千曳遺跡や八戸市是川中居遺跡に、連繋入組文を持つ土器が少数確認されている。他に十和田市明戸遺跡、階上町滝端遺跡、三沢市野口貝塚には聖山式的な土器は見られない。

#### 【川原平(1)遺跡の聖山式の文様構成、特に連繋入組文について】

連繋入組文については、文様部完形に近い資料を用いて、文様展開図を示した(図193)。

区画文としての入組文の内、両端が回り、「S」の字になるのを赤色で、片方のみが回り、「し」の字になるのを青色で示した。そして2つの入組文の間にS字もしくはZ字文が展開する。これを緑色

で示した。空間を埋める充填文様として、工字文風の文様が展開している。これを濃淡2色ある灰色で示した。文様帯の上限・下限は黒色で示した。

壺形土器(図152-1)はS字の入組文に「し」の字の入組文が4つ組み合わせり、その隙間を工字状の充填文が埋めている。入組文の間にはZ字の文様が入り込む。図114-5と図115-2も基本的に同種の文様展開である。壺形土器(図116-1)はS字の入組文同士が入り組み、「し」の字同士が組み合わせる。そしてS字と釣り針型の組み合わせる中間にZ字文が組み合わせる構図となっている。展開図の4点は入組文の組み合わせに差が見られるが、充填文などに共通性も見受けられ、多くの変異があるというわけではない。第18層の図128-4、図128-1の壺形土器の胴部にも連繋入組文が見られる。

これらの文様の多くは、地文がミガキ整形であり、縄文が施文されていない。

文様は鉢形土器、皿形土器、壺形土器に見られる。聖山遺跡では、皿形土器や壺形土器の他に、鉢形土器などの体部文様にも展開している。川原平(1)遺跡では鉢形土器にはもっぱら横位連続工字文が展開しており、連繋入組文は1点確認されている。壺形土器や皿形土器・浅鉢形土器には連繋入組文のみられ、器形に応じて、横位連続工字文と連繋入組文が描き分けられている。川原平(1)遺跡には壺形土器に横位連続工字文が施文されている例はないが、聖山遺跡には胴の長い壺形土器の肩部に横位連続工字文が上下2段に施文されている。また聖山遺跡の土器は縄文施文が多いが、川原平(1)遺跡では壺形土器の1点に縄文施文の連繋入組文が見られる以外は、無文資料が多い。

#### 【川原平(1)遺跡の聖山式の編年の位置】

以上から、川原平(1)遺跡の第1号盛土遺構の最下部は、聖山Ⅱ式が出土し、上層で聖山Ⅰ式が出土しているなど、推定されている型式的な前後関係は逆転している。また、大洞C2式の壺形土器なども上層から出土しており、最下部は晩期4期ごろに形成されたと考えられ、少しずつ晩期5期などの新しい段階の資料が廃棄されたと考えられる。そのため、川原平(1)遺跡の資料からは、聖山式と亀ヶ岡式土器の関係は、晩期4期から晩期5期にかけての併行関係としか言えない。

聖山式の分布と他の遺物の状況を踏まえ、津軽海峡を挟んだ亀ヶ岡文化圏の中には小さな土器文化圏が構成されている(藤沼他2004)。また、聖山式がまとまって出土する南限は青森県北部であり、岩木川下・中流域は聖山系と分類されている(福田2000)。津軽半島の分布では、北に行くほど聖山式の様相が強い土器が見受けられ、岩木山麓の遺跡の場合、聖山式は少数である。そのため、川原平(1)遺跡はその文化圏から見れば、周辺地帯に位置していると言える。

(高橋)

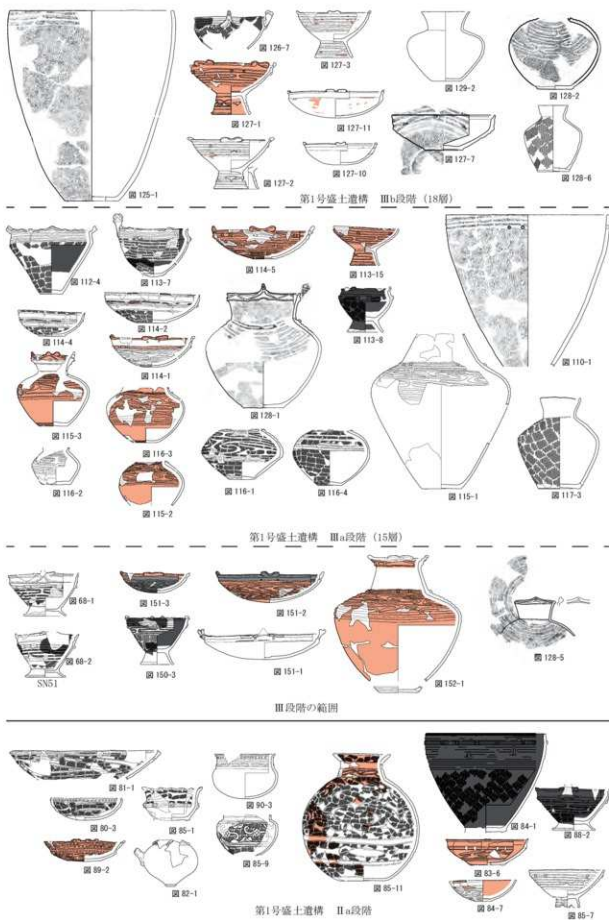


図192 第1号盛土遺構の各層から出土した土器



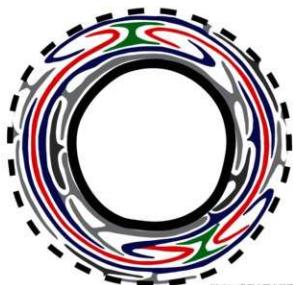


図112-1 壺形土器文様模式図

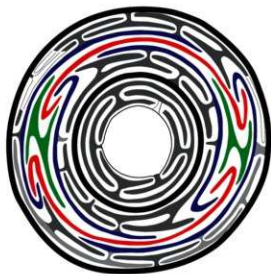


図114-5 壺形土器文様模式図

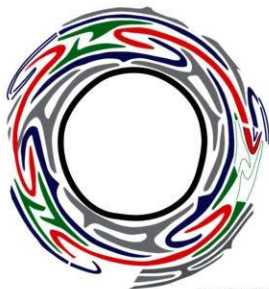


図115-2 壺形土器文様模式図

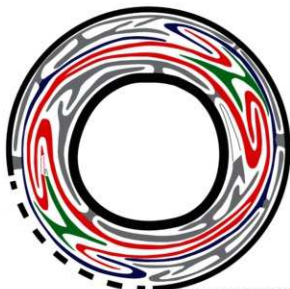


図116-1 壺形土器文様模式図

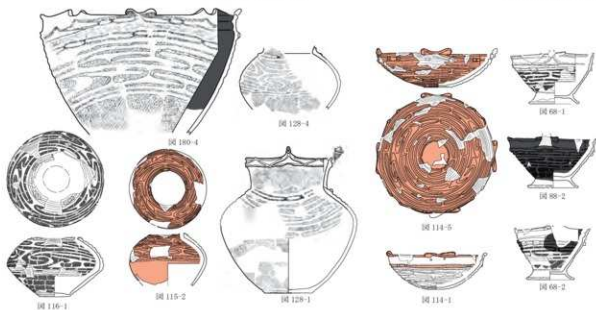


図193 聖山式土器と文様展開図

## 2 石器・石製品

## (1) 石器組成と各器種について

表11 石器組成表

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	N	O	Q	T	V	W	X	Z	総計	
遺構	20		2	1		3	10		19	2	8	34			10	12		2	8	51	182	
Ⅱ段階	35		1	1	9	14	26	1	100	38	171			1	51	11	1	3	17	26	506	
Ⅲa段階	18		1		1	5	8	1	16		17	33			4	1		1	1	2	109	
Ⅲb段階	37		1	1	2	16	19	1	19		27	78	1	1	14				1	1	219	
Ⅲc段階	3		1			3	4		7		2	29			3	2		2	1		57	
Ⅲd段階	3		2			2	2		12		3	14			13					4	55	
Ⅲe段階	8		1		2	1	3		8		2	18			1						44	
Ⅲf段階	19		1	1	1	8	15	3	25	1	22	62			6	3			4	2	173	
Ⅳa段階	5	1	2			3	6	1	27		21	85		1	22	1		1	7	4	187	
Ⅳb段階	5				2	1	5		20		8	45			5	2			3	2	98	
V段階	30		8	1	13	16	30	3	165		70	277		1	26	3		2	18	15	678	
時期不明	19		3		1	10	13		30		25	67		1	20	2				12	3	206
総計	202	1	23	5	31	82	141	10	448	3	243	913	1	5	175	37	1	11	76	106	2514	

A：石鏃、B：石槍、C：石錐、D：石筥、E：両面調整石器、F：石匙、G：掘器・削器、H：両極石器

I：二次加工剥片・石器断片、J：異形石器、K：微細剥片、L：石核

N：打製石斧、O：磨製石斧、Q：凹石・磨石・蔽石、T：石皿、V：軽石製品、W：加工磯、X：自然磯、Z：石製品

※ 剥片・製片は省略

※ 記号は薬師遺跡(青森県2014)に従った)

石器は石鏃、石錐、石槍、石筥、両面調整石器、石匙、削器、挿器、二次加工剥片、異形石器、微細剥片、剥片、石核などの剥片石器、打製石斧、磨製石斧、蔽石、凹石、磨石、石皿などが出土している(表11)。薬師遺跡では、盛土遺構出土の石器は、晩期前半と後半で石器組成に違いが見られたが、第1号盛土遺構において段階ごとに石器組成を比較してみても、特定の段階にある器種が偏って出土しているようではなく、明確な石器組成の差は認められなかった。

次に個別の器種について、特記事項を記す。

【石鏃】石鏃の大半は尖基・平基有茎鏃である。アスファルトが基部に付着している事例は多い。凹基鏃は中期に属すると思われる地点で出土している傾向が強い。

【石匙】石匙は横形が多く、刃部加工は両面加工が幾分多い。

【石核・原石】石核は各段階から一定量出土している。多くは自然面もしくは平坦打面を持ち、打面転位を行った資料が多い。数は少ないが、球状に剥離する円盤状に近い形態もある。また、自然面を残し、1回の剥片剥離で廃棄されたような石核も見られる。

原石は数点確認されている。直角縁の珪質頁岩が多く、第44号配石遺構からは接合磯が出土している。石核や原石の存在から、遺跡内に珪質頁岩の磯を持ち込み、剥片剥離作業が行われていたと思われる。

【打製石斧】めずらしい形状として第18層から出土した分銅形打製石斧がある。珪質頁岩製であり、分厚い剥片を素材とし、素材中央部を加工で切り、形状を整えている。Ⅲb段階の出土であり、晩期4から5期に帰属する遺物と思われる。刃部には使用したような痕跡は認められない。

分銅形打製石斧は、関東・中部で縄文時代後期頃から増加する(鈴木1981)。東北地方では、類例は少ないが、縄文時代晩期では、秋田県平鹿遺跡のSQ14、岩手県手代森遺跡、川目A遺跡などで出土している。東北地方で出土している晩期の打製石斧はバチ形が多く、側面を叩き潰して着柄に適するように整形している場合が多い。

打製石斧の用途については、北陸地域、東北中部で岩手県北上市大橋遺跡や秋田県横手市堀ノ内遺

跡、青森県五所川原市千荷（1）遺跡などで、土擦れを持つ打製石斧が出土するので、土掘り具としての用途が考えられている。しかし、本資料は土擦痕が確認できないことから、土掘り具としての用途ではなかった可能性が高い。

【磨製石斧】磨製石斧は5点出土している。多くは断面形状から、側面が丸みを帯びた形状であり、川原平（1）遺跡（青森県2006）で出土したような定角式磨製石斧に近い形状はない。敲打や研磨で整形されている。

【礫石器】礫石器は出土石器の量に比べて非常に少ない。多くは凹石である。珍しい形状の凹石では、石錘類似の資料が出土している。礫に敲打でへこんだ帯状に加工し、その中央に凹みがみられる。

## （2）石材について

剥片石器の素材となる石材は、総重量で、425,719.1g 出土している。その内、珪質頁岩は423,908.4g であり、他の石材は1,810.7g である。剥片石器の石材の大半は珪質頁岩である。珪質頁岩以外は、黒曜石や玉髄などである。黒曜石の原産地分析は来年度刊行報告書に掲載する。

礫石器は、安山岩・凝灰岩などを用いている（表12）。この石材は配石遺構の石材と類似しており、おそらく遺跡近辺で採取できる礫を素材として用いたと思われる。

表12 礫石器の石材

	磨製石斧	敲打石器類	石皿	加工礫	総計
安山岩	1	12	7		20
角礫凝灰岩		1			1
礫岩		6	1		7
グイサイト		3	2		5
閃緑岩		2	3		5
粗粒玄武岩	1	8			9
緑色凝灰岩	1	1	1		3
泥岩			1		1
流紋岩				1	1
砂岩	1	17	15	2	35
頁岩	1	11		1	13
凝灰岩		39	2	2	43
総計	5	100	32	6	143

## （3）石器製作について

石器製作は、①原石の獲得から、②剥片剥離工程と、③素材剥片から石器を製作する石器製作工程の3工程を踏む。

珪質頁岩の原石・接合礫・礫端片、礫面剥片が出土しており、遺跡内に原石を持ち込み、剥片剥離が行われたと推定される。

剥片剥離工程では、第1号盛土遺構周辺から、多量の石核、剥片、原石、礫端片、礫面剥片が出土している。中には接合礫が出土し、中の芯になるような部分が抜けているので、良質の部分を得るために、表皮を除去した可能性がある。そのため、これらの状況から剥片剥離工程が遺跡内で行われた可能性が非常に高いと言える。他にも、接合作業は行わなかったが、多量の同一母岩と思われる剥片類が出土している。得られた剥片は、多様な形態を持つので、素材形状に応じて剥片石器が製作されたと考えられる。

石核は打面転位の資料が多く、試し割りのような石核もある。石核の中には、最終的にハンマーに

転用されたと思われる、珪質頁岩製の敲石も出土している。

石器製作工程については、図73-9、図94-24、25のような石織未製品が出土している。また、二次加工剥片のような石器製作途上のものもあることから、石器製作が行われたと思われる。

このように、珪質頁岩に関しては、遺跡内で剥片剥離から石器製作工程にいたる作業が行われていたと推定される。

珪質頁岩以外では、玉髄の大形原石が出土し、黒曜石も若干出土しているが、積極的に剥片剥離が行われたという痕跡は認められない。

磨製石斧を製作しているような、素材剥片なども確認できなかった。

(高橋)

#### (4) 石製品について

石製品は表13にある製品が出土している。礫石器同様に石製品もこの地点ではそれほど多くは出土していない。段階毎に検討すると、石製品はⅢ段階に少なく、Ⅱ段階や、晩期前半期の遺物が入り込むⅣ段階に多く出土している。

石製円盤 石製円盤は小(5cm未満)・中(5~7cm)・大(7cm以上)がみられ、素材は緑色凝灰岩・凝灰岩・玄武岩・安山岩・斑岩などがある。小形の場合は側面が研磨されているものもある。中・大形は側面に敲打痕が見られる。

表13 石製品組成表

	玉材	玉類	石製円盤	石棒	岩版	石製品	総計
遺構		36	14	1			51
Ⅱ段階	1		21	3		1	26
Ⅲa段階			1			1	2
Ⅲb段階						1	1
Ⅲf段階		1	1				2
Ⅳa段階			1	2		1	4
Ⅳb段階				1	1		2
Ⅴ段階			13	2			15
時期不明			3				3
総計	1	37	53	10	1	4	106

また、来年度刊行の報告書で詳述される予定であるが、各捨て場から、石製円盤が多量に出土しているのに対し、この盛土遺構一帯は非常に少ない。段階ごとに見てみると、大半はⅡ段階とⅣ段階から出土している。葉師遺跡においても、円盤製品は晩期前半期に多い傾向が報告されており、川原平(1)遺跡の第1号盛土遺構一帯で少ないのも、時期的な原因の可能性はある。石製円盤は、捨て場などで多量に出土していることもあり、こうした石製品の組成差は、最終報告書で言及される予定である。

緑色凝灰岩の玉 第21号配石遺構の底面から出土している。玉が墓から出土した例は、津軽地域だけでも、青森市(旧浪岡町)平野遺跡、源常平遺跡、弘前市葉師遺跡などがある。また、十腰内(1)遺跡(青森県2001)では壺形土器の中に緑色凝灰岩の玉材が納められている。川原平(1)遺跡の資料は立石を持つ配石遺構という特異な形状の遺構から出土しており、貴重な事例と言える。

小形の石錐が出土しているが、この遺跡で玉生産を行っていたかは不明である。

(中澤・高橋)

### 3 その他の遺物

#### (1) 土製品

##### 【土偶】

土偶は刺突文土偶の腰部・右肩、中実土偶、大形遮光器土偶が出土している。刺突文土偶は、葉節遺跡において晩期4期から5期の土偶が多数出土しているが、川原平(1)遺跡の北西地区からは出土数が少ない。

類例が少ないが、数少ない30cmを超える大形遮光器土偶は、板柳町土井I遺跡、つがる市亀ヶ岡遺跡、平川市程森遺跡などで出土している。

##### 【中空動物形土製品】

中空動物形土製品は、第1号盛土遺構の第14層(IV段階)で出土している。亀形土製品とも呼ばれる。この土製品は、楕円形の平面形態で、内部が中空になっている。一端に突起がつき、両側面に鱗状の張り出しが付くのが特徴である。特定の動物に結びつけて報告されているが、想像上の動物も含まれていると思われる(藤沼1997)。

川原平(1)遺跡の中空動物形土製品は、文様は2本一組の沈線文とその間に刺突・刻目列が展開する。正面は土製品の形状に沿って、裏面側は入組文風に組み合わせりながら文様が展開する。

類例としては、埼玉県さいたま市東北原遺跡や千葉県佐倉市江原台遺跡など関東方面でも出土している(小杉1986・1996)。

東北地方では秋田県三種町高石野遺跡、秋田県鹿角市玉内遺跡では、A地区の遺構外から出土している。この地区からは晩期前半の土器が出土している。長楕円形の平面形態を呈する。表裏の粘土を重ね合わせて作られている。三叉文、入組文を文様として持ち、赤彩である。山形県村山市作野遺跡の例は報告書では土笛と分類されている。楕円形の平面であり、突起を持つ。三叉状の文様が施文され、中空である。手を表現したような突起が2つついている。岩手県では岩手町黒内XIII遺跡、MIII堅穴住居跡1号(晩期4期、甲虫状土製品として記載)の北寄りの床面から出土している。久慈市大芦I遺跡の例は楕円形の平面形態であり、中空2本1組の沈線とその間に施文された縄文で入組文文様が展開する。人面が表現されており、晩期前半期と思われる。盛岡市手代森遺跡の例は鱗状把手のため、鳥が羽を広げたような形状であり、中空である。一戸町山井遺跡では7点出土し、内2点に正中線、C字の入組文、入組三叉文などで文様が表現されている。

青森県内ではつがる市亀ヶ岡遺跡、平川市石郷遺跡、青森市細越遺跡、野辺地町視ノ木遺跡、八戸市是川遺跡、松館遺跡、田子町野面平遺跡、南部町虚空蔵遺跡、平遺跡、寺下遺跡、三戸町中遺跡、十和田市明戸遺跡などでも出土している(青森県史2013、鈴木1982)。亀ヶ岡遺跡の例は大洞BC式の文様を施文されている。平遺跡の例は正面の両側側に2本沈線とその間に刺突文が施され、川原平(1)遺跡の文様構成に類似している。報告では晩期となっている。また沖中遺跡(三戸町2000)の例は、報告書では土偶とされているが、特徴から中空動物形土製品と思われる。裏面に入組文は、2本の平行する沈線を入り組ませて表現しており、刻目がない点を除けば、川原平(1)遺跡の中空動物形土製品のモチーフと類似している。この土製品の時期は、出土土器から後期末様から大洞BC式である。

大半は大洞B式からBC式の時期に帰属する。これらの製品はそれぞれの帰属する時期の土器文様を

モチーフとしているので、各時期の土器製作などに大きく影響を受けていると考えられる。

川原平(1)遺跡の中空動物形土製品も同時期の土器製作に大きく影響を受けていたと考えられる。第14層は後期後葉から晩期の土器が混在するため、層位的な観点から時期を特定することは困難である。しかし、2本1組の沈線と刺突列を基準とした文様構成は、後期後葉の土器に見られる刻目文様と類似するものである。また、入組部分も入組文を簡略化したような状態である。

このような視点から鑑みると、川原平(1)遺跡の中空動物形土製品は後期後葉に帰属する資料である可能性が非常に高いと考えられる。

#### 4 接合関係とその分布

ここでは本報告書範囲と範囲外との間で接合した資料について記述する(図194)。

【石皿】石皿(図187-2)は第Ⅲ層(旧SK07)から出土し、その片割れが西捨て場のグリッドVG-27第Ⅲ層中から出土している。盛土地区の突端部、その両脇は急斜面であるため、上から西捨て場の方へ、転げ落ちた可能性もある。

【大形遮光器土偶】大形遮光器土偶(図92・93)は第28号土坑覆土上層を中心に出土している。パーツがばらばらに出土している。点取り番号P-5011は左肩部分であり、グリッドVJ-34である。王冠部分の一部は第18層から出土している。

また、同一個体と思われる部品が北捨て場から出土している。接合した股間部は北捨て場のグリッドVL-36の明掲層(第Ⅰ層の下)から出土している。接合しなかったが、右腰・右脚部がVJ-37の捨M層(第Ⅰ層の下)、VL-38の捨P3層(最下層に近い)で出土している。北捨て場は2m近くの厚みがある堆積層であり、遮光器土偶の部品が捨M層という上層、捨P3層という最下層に近い層から出土している。北捨て場の各層については次年度報告書に詳細に説明する。

【石剣】石剣(図174-7)は、第1号盛土遺構の北側、SN-BのVJ-36の22-1層から出土した。その接合資料が、北捨て場のVL-40の捨G層から出土したものと土が接合している。捨G層は北捨て場の中で比較的上層である。

地点間の接合は、川原平(1)遺跡Ⅱ報告書(第564集)では土製玉がIVQ45、IVV33と50m近く離れた地点同士が接合するなどの事例が散見される。これらも川原平(1)遺跡の活動、集落構造に大きく関わる内容である。まだ未報告の接合事例もあるので、詳細は最終報告書に記載したい。

(高橋)

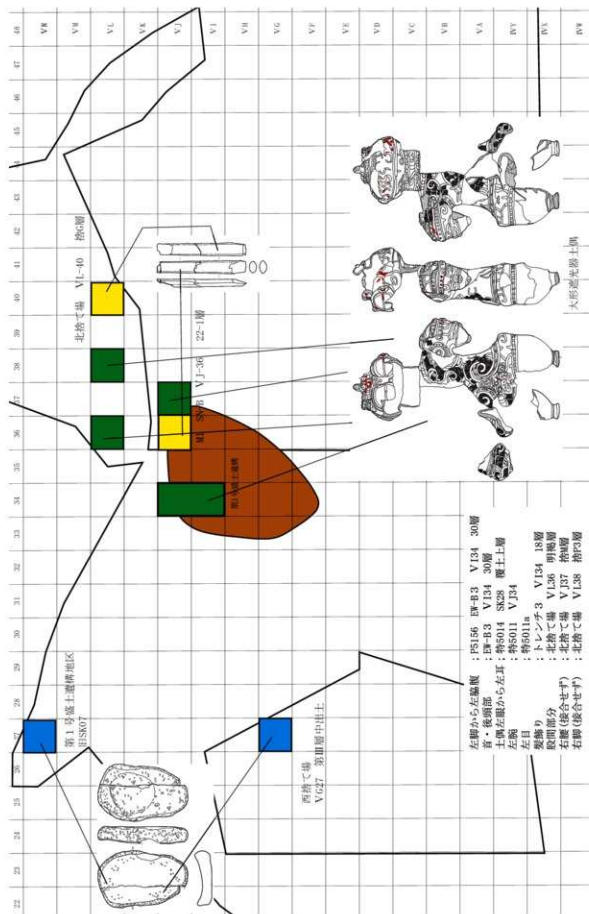


図194 遺物接合分布図

### 第3節 まとめ

調査の結果、縄文時代中期の堅穴住居跡や土坑、晩期の盛土遺構や配石遺構などが発見され、当地域での文化様相を捉える多くの知見を得ることができた。ここでは本書に記載した内容を踏まえ、当センターの発掘調査で明らかになったことと、来年度刊行の報告書に向けての課題などを示す。

川原平(1)遺跡の本報告範囲は、川原平(1)遺跡のある台地の北西隅、大沢川が岩木川に合流する地点を見下ろす位置にある。川原平(1)遺跡の地山は礫層とシルト質層に分かれるが、本報告範囲はシルト質の地山を持つ範囲である。

【縄文時代中期後半】中期後半の堅穴住居跡と土坑などの遺構が検出できた。出土土器から円筒上層d式から大木10式期にかけて小規模な集落が形成されている。特徴は、地山がシルト質部分に中期遺構が築かれていることである。川原平(1)遺跡の地山は、礫層の部分と、シルト質の部分に大きく分かれ、その内、地山が礫層の部分には中期遺構が見られないため、意図的にシルト質の地山部分を選んで遺構を構築していたと思われる。また、中期の大形土坑については、美山湖一帯の各遺跡で確認されており、その性格は貯蔵穴と考えられる。

【縄文時代後期後葉から晩期前半】当該期の遺構は、配石遺構、土器埋設遺構、土坑、ピットなどが確認されている。これらの遺構群は、シルト質地山を掘り込んでいる。来年度刊行する地山礫層一帯は、柱穴群が存在することから、地山礫層地点には晩期の住居群の存在が示唆される。居住域と墓域の地山が異なっており、意図的な選地が推定される。

配石遺構群は比較的多く検出され、その北側に、土器埋設遺構が広がっている。土坑は配石遺構の周辺に分布している。配石遺構と土器埋設遺構から1基づつ、リン・カルシウム分析を行ったところ、遺構の底面近くから高い値のリン・カルシウムが検出されたので、墓の可能性が高い。また、一定地域内に、異なる性質の遺構が意図的に場所を違えて構築されている。これらの遺構が選択された地点にまとめて配置されていることや、自然科学分析の結果から、これら遺構群で墓域を構成していると考えられる。

また、配石遺構に中で、立石を持つ配石遺構(日時状組石遺構)が2基確認されている。この形態の配石遺構は、縄文時代中期末に出現し、後期前半で発展する。川原平(1)遺跡の配石遺構によって、少なくとも立石を持つ配石遺構は、晩期前半まで継続することが明らかになった。さらに1基の立石を持つ配石遺構の下部に構築された土坑の底面から、緑色凝灰岩製の玉がまとめて検出された。当該期の墓と玉製品の関係は各遺跡で確認されているが、立石を持つ配石遺構から玉が出土した例は、県内では初めてである。当該期の葬送を捉える上で、重要な資料と言えよう。

【縄文時代晩期後半】晩期後半期の遺構として、第1号盛土遺構が挙げられる。盛土遺構は、後期後葉から晩期前半の墓域を覆うように形成されている。盛土の特徴から、大きく2段階に分けて構築されており、遺物の出土状況から、Ⅲ段階には意図的な遺物の廃棄が見られ、時期も晩期4期から5期にかけてである。一方Ⅳ段階には、土砂の廃棄に伴い、遺物も包含され、時期も後期後葉から晩期全般と幅広い時期の遺物が出土している。

盛土遺構は秋田県・岩手県・北海道で確認されている。その性格は諸説あるが、当遺跡の盛土遺構は、意図的な遺物の廃棄と、多量の土砂の廃棄という2種類の廃棄パターンが確認されている。縄文時代晩期における儀礼、土木作業などに関わる性格を垣間見ることができた。



【遺物】遺物としては後期後葉から晩期5期の土器が出土している。その中で数は少ないが、晩期4期から5期の土器と共伴して聖山式が確認されている。聖山式は、渡島半島と青森県北部の地域に多く見られる型式であり、川原平(1)遺跡はこれら地域の亀ヶ岡文化との関連が窺える。盛土遺構の形成に合わせて出土しており、盛土遺構構築とどのように関わっていたかは課題と言えよう。他に各種石器・石製品、土偶・動物形中空土製品、漆製品などが出土している。

本報告によって同一地点における墓域から盛土遺構への変遷が見られ、晩期後半段階における集落構造の変化が確認できた。それは、川原平(1)遺跡全体の集落構造とも密接に関わると思われる。次年度では、3つの盛土遺構の他に、堅穴住居・掘立柱建物などの居住域、大規模な捨て場などの報告が予定され、集落の全体像がより詳細に報告される。これらの成果を踏まえ、来年度に刊行される最終報告書において、川原平(1)遺跡の集落構造が検討されるであろう。

なお、本報告で行われた自然科学分析の成果は、来年度刊行報告書に掲載される。

(担当者一同)

引用・参考文献

※ 以下は本文引用で次のように省略する。

- 青森県教育委員会→青森県、秋田県教育委員会→秋田県、岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター→岩手県  
 青森県教育委員会 1978 『源常平遺跡発掘調査報告書』青森県埋蔵文化財調査報告書第39集  
 青森県教育委員会 1979 『細越遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第49集  
 青森県教育委員会 1984 『一ノ渡遺跡発掘調査報告書』青森県埋蔵文化財調査報告書第79集  
 青森県教育委員会 1986 『今津遺跡・間沢遺跡発掘調査報告書』青森県埋蔵文化財調査報告書第95集  
 青森県教育委員会 1995 『千苺(1)遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第174集  
 青森県教育委員会 1999 『十櫻内(1)遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第261集  
 青森県教育委員会 2000 『三内丸山遺跡XIV』青森県埋蔵文化財調査報告書第282集  
 青森県教育委員会 2001 『十櫻内(1)遺跡Ⅱ』青森県埋蔵文化財調査報告書第304集  
 青森県教育委員会 2005 『三内丸山遺跡26』青森県埋蔵文化財調査報告書第404集  
 青森県教育委員会 2006 『川原平(1)・(4)・大川添(2)遺跡・水上遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第409集  
 青森県教育委員会 2009 『砂子瀬遺跡Ⅱ・大川添(2)遺跡Ⅱ』青森県埋蔵文化財調査報告書第482集  
 青森県教育委員会 2010 『砂子瀬遺跡・水上(3)遺跡・水上(4)遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第466集  
 青森県教育委員会 2014 『芦沢(2)遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第540集  
 青森県教育委員会 2014 『鬼川辺(1)遺跡・鬼川辺(2)遺跡・鬼川辺(3)遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第541集  
 青森県教育委員会 2014 『大川添(3)遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第544集  
 青森県教育委員会 2014 『上新岡館・薬師遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第545集  
 青森県教育委員会編 2008 『あおり縄文展～JOMONを世界へ、三内丸山からの発信へ～』  
 青森県史編さん考古部会編 2013 『青森県史 資料編 考古2 縄文後期・晩期』青森県史編さん考古部会  
 青森県立郷土館 1984 『亀ヶ岡石器時代遺跡』青森県立郷土館調査報告書第17集  
 秋田県教育委員会 1988 『玉内遺跡発掘調査報告書』秋田県文化財調査報告書第171集  
 秋田県教育委員会 2005 『向塚D遺跡』秋田県文化財調査報告書第392集  
 秋田県教育委員会 2008 『堀ノ内遺跡』秋田県文化財調査報告書第432集  
 秋田県教育委員会 2010 『向塚D遺跡(第2次)』秋田県文化財調査報告書第452集  
 阿部義平 1968 「配石墓の成立」『考古学雑誌』第54巻第1号 77-96頁  
 飯島義雄 1981 「仮称「連繫入組文」と「横位連続工字文」について—縄文時代晩期北海道亀田郡七飯町山遺跡出土の土器に施文された体部文様を中心として—」『考古風土記』第6号 1-17頁  
 石野博信 1967 「弥生時代の貯蔵施設」関西大学考古学研究室年報1  
 一戸町教育委員会 1995 『山井遺跡』一戸町文化財調査報告書第36集  
 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター1986『五鹿Ⅱ遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第94集  
 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター1986『五鹿Ⅰ遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第97集  
 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター2002『清水遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第382集  
 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター2006『大橋遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第481集  
 江坂輝弥 1960 『土俵』校倉書房  
 江坂輝也 1985 「配石遺構とは」『考古学ジャーナル』254 7-10頁  
 小杉康 1986 「千葉県江原古遺跡及び岩手県雨滝遺跡出土の亀形土製品—所謂亀形土製品、土版、岩版の型式学的研究と用途問題—素描—」『明治大学考古学博物館報』No. 2 51-71頁  
 小杉康 1996 「土製品—動物形中空土製品を例にして—」『考古学雑誌』第82巻第2号 37-49頁

- 小林圭一 2010 『亀ヶ岡式土器成立期の研究－東北地方における状文時代晩期前葉の土器型式－』早稲田大学 総合研究機構 先史考古学研究所
- 齋藤忠 1985 「配石遺構一特に環状列石について」『考古学ジャーナル』254 2-6頁
- 三戸町教育委員会 2000 『沖中遺跡・沖中(2)遺跡』三戸町埋蔵文化財調査報告書第1集
- 品川欣也 2003 「器種と文様、そして機能の相関関係にみる大洞A式土器の変遷過程」『駿古史学』第119号 97-134頁
- 鈴木克彦 1982 「風韻堂コレクション:岩俣、亀型土製品、土器片利用の円盤」『青森県立郷土館調査研究年報』第7号 47-64頁
- 鈴木克彦 2007 「北日本のストーン・サークル」『季刊考古学』第101号 17-20頁
- 鈴木道之助 1981 『図録石器の基礎知識III 縄文』柏書房
- 須藤隆 2007 『東日本縄文・弥生時代集落の発展と地域性』東北大学大学院文学部研究科
- 須藤隆 2014 「峠下聖山遺跡の調査とロノ浜式土器の追求」『斬新考古』第2号 2-4頁
- 関根達人・上條信彦 2012 『下北半島における亀ヶ岡文化の研究 青森県むつ市不備無遺跡発掘調査報告書』弘前大学人文学部日本考古学研究室研究報告8
- 芥沢長介 1960 『石器時代の日本』築地書館
- 芥沢長介編 1979 『聖山』東北大学文学部考古学研究会考古学資料集別冊2
- 田村誠一 1968 「第3部 薬師II号遺跡」『岩木山』岩木山刊行会 89-116頁
- 塚原正典 1987 『配石遺構』考古学ライブラリー49
- 長沼孝 1993 「縄文集落の変遷－北海道」『季刊考古学』第44号 42-51頁
- 七飯町教育委員会 1979 『聖山 北海道亀田郡七飯町における縄文時代遺跡の調査』
- 十和田市教育委員会 1983 『明戸遺跡発掘調査概報』十和田市埋蔵文化財発掘調査報告書第2集
- 野村崇 1985 「東北北部と北海道の配石遺構－近年の発掘調査を中心として－」『考古学ジャーナル』254 11-14頁
- 八戸市教育委員会 2012 『史跡は川石器時代遺跡発掘調査報告書』八戸市埋蔵文化財調査報告書第135集
- 林謙作 1965 「2 東北」『日本の考古学II 縄文時代』河出書房 64-96頁
- 林謙作 1995 「縄文時代史24 縄文時代の集落(4)」『季刊考古学』第50号 109-116頁
- 弘前市教育委員会 2010 『大森勝山遺跡発掘調査報告書』弘前市教育委員会
- 平賀町教育委員会 2005 『太師森遺跡一発掘調査報告書一』平賀町埋蔵文化財報告書第36集
- 福井淳一 2014 「北海道の『盛土遺構』とは何か」『盛土遺構を巡る 予稿集』1-14頁
- 福田正空 2000 「北部亀ヶ岡式土器としての聖山式土器」『古代』第108号 129-158頁
- 藤沼邦彦 1997 『歴史発掘③ 縄文の土偶』講談社
- 藤沼邦彦・関根立人 2008 「亀ヶ岡式土器(亀ヶ岡式系土器群)」『総覧縄文土器』UM Promotion 682-693頁
- 藤沼邦彦他 2004 『亀ヶ岡文化遺物実測図集』弘前大学人文学部日本考古学研究室研究報告1
- 藤沼邦彦他 2005 『青森県東津軽郡平館村今津遺跡発掘調査報告書－津軽半島東沿岸における亀ヶ岡文化の遺跡－』弘前大学人文学部日本考古学研究室研究報告2
- 藤沼邦彦・小川忠博 2006 『ミニ特別展「亀ヶ岡文化の世界」の図録』弘前大学人文学部日本考古学研究室研究報告3
- 藤沼邦彦・横山寛剛・秋山真吾 2006 『亀ヶ岡文化遺物実測図集(2)』弘前大学人文学部日本考古学研究室研究報告4
- 藤沼邦彦・秋山真吾 2007 『亀ヶ岡文化遺物実測図集(3)』弘前大学人文学部日本考古学研究室研究報告5
- 三槻村教育委員会 1996 『宇鉄遺跡発掘調査報告書』
- 八木勝枝 2004 「北上川中・下流域の盛土遺構－縄文時代晩期包含層分析からの一視点－」『岩手考古学』第16号 45-64頁
- 八木勝枝 2010 「東北地方縄文後晩期の盛土遺構」『三内丸山遺跡などの盛土遺構の研究－予稿集－』46-55頁
- 山内清男 1937 「縄文土器型式の細別と大別」『先史考古学』1-1 『山内清男・先史考古学論文集』(一) 示人社 1997年収録

表14 遺構計測表(1)

遺構名	図番号	時期	グリッド D南北	グリッド A東西	開口部	底部	深さ	遺物	備考
SI07	図7	不明	VL	30・31	上端、下端無し	上端、下端無し			床面のみ検出。土器656.5g。 中期後葉か?
SI08	欠番	—	—	—	—	—	—	—	
SI09	図9・10	中期末	VL・M	29・30	5.24×4.81m	5.09×4.64m	0.51m		土器908.6g、剥片石器類 176.9g
SI10	欠番	—	—	—	—	—	—	—	→SQ→移動
SI11	図12・13	中期末	VJ・K	30・31	4.4×3.83m	4.14×3.63m	0.6m		土器2093.7g、剥片石器類 716.7g
SI12	図16	中期末	VK	32	3.72m(長軸のみ)	3.63m(長軸のみ)	0.36m		土器2024g、剥片石器類 529.6g
SI13	図18	中期中葉	VG	34・35	3.27×2.66m	2.83×2.22m	0.41m		大木系土器 (図19・2)が 出土している。
SK07	欠番	—	—	—	—	—	—	—	
SK08	図21	不明	VL・M	30	3.65×3.68m	0.37×0.22m	0.25m		焼土検出
SK09	図22	中期後半	VL	30・31	3.07×2.65m	1.8×1.52m	2.28m		土器341.6g、剥片石器類 379.2g
SK10	図23	中期後葉	VL	32	2.97×2.96m	1.37×0.61m	1.26m		土器754.3g、剥片石器類 270.8g
SK11	図23	中期後半	VL・M	30・31	2.4×1.93m	1.49×1.26m	1.1m		土器20.6g、剥片石器類66.6g
SK12	欠番	—	—	—	—	—	—	—	
SK13	図24	不明	VK・L	29・30	0.94×0.95m	0.88×0.73m	0.3m		
SK14	図24	中期後半	VK・L	32・33	2.90×2.45m	1.91×1.82m	1.35m		土器223g、剥片石器類77.7g
SK15	図24	不明	VK	33	1.74×1.12m	0.96×0.93m	0.31m		土器99.5g、剥片石器類 72.1g
SK16	図25	中期後半	VL・M	31・32	3.86×2.50m	0.88×0.49m	2.21m		
SK17	図25	不明	VJ	31	1.01×0.62m	0.9×0.52m	0.17m		
SK18	図26	中期後葉	VI・J	31	2.82×2.48m	2.13×2.08m	1.63m		土器7518.6g、剥片石器類 829.1g
SK19	欠番	—	—	—	—	—	—	—	→SQ→移動
SK20	図26	中期後葉	VK	31・32	2.91×3.28m	2.48×2.07m	1.98m		土器1453.1g、剥片石器類 5.5g
SK21	図27	晩期後半	VI	35	1.84×1.59m	0.79×0.71m	0.97m		遺物は大河式 からそれ以前 を含む。
SK22	図28	晩期前葉	VI・J	35・36	1.55×1.44m	1.18×1.16m	0.53m		SB67に切られている。土器 3887.3g、剥片石器類562.6g
SK23	図28	中期後半	VI・J	32	3.45×3.37m	2.29×2.4m	1.53m		土器821.6g、剥片石器類 450.8g
SK24	図29	中期後半	VJ・K	33	3.43×3.25m	2.28×1.86m	1.47m		覆土上層から 赤砂の土玉 (図41-4)出土
SK25	図29	中期後半	VJ・K	30・31	2.16×1.98m	1.87×1.79m	0.29m		SI11と重複している。
SK26	図30	中期後半	VJ・K	32	2.35×1.86m	1.98×1.42m	0.90m		土器121.6g、剥片石器類49.1g
SK27	図30	中期後半	VK	32	4.06×2.88m	2.14×2.13m	1.31m		土器7.1g
SK28	図31	中期後半	VI・J	34	2.98×2.54m	1.93×1.7m	1.77m		土坑覆土上層 並びに周辺から 遮光器土偶 (図92・93)が 出土している。
SK29	図32	中期後葉	VJ・K	32・33	3.17×2.47m	2.06×1.9m	0.89m		土器350.4g、剥片石器類 125.3g
SK30	図32	中期後半	VL・M	28・29	4.04×2.81m	2.02×1.89m	0.66m		
SK31	欠番	—	—	—	—	—	—	—	
SK34	図18	中期中葉	VG	34	1.07×1.06m	0.81×0.65m	0.32m		SI13より古い。土器76.8g、 剥片石器類158.9g
SK35	欠番	—	—	—	—	—	—	—	浅い印み。土器521.8g、剥片 石器類19.8g
SK36	図33	晩期前半	VH	32	1.39×1.1m	0.35×0.25m	0.58m		図41-15 土器292.3g、剥片石器類 56.3g
SK37	図33	晩期前半	VH・I	32	1.29×0.99m	1.07×0.6	0.57m		土器223.6g、剥片石器類 105.5g
SK38	図34	晩期前半	VI	32	0.77×0.64m	0.44×0.33m	0.3m		
SK39	図34	中期後半	VI	31・32	2.35×2.26m	1.86×1.79m	0.94m		土器531.7g、剥片石器類 1433.7g
SK40	図34	晩期中葉	VI	33	0.47×0.41m	0.24×0.14m	0.42m		土器161.1g、台付き鉢出土

表14 遺構計測表(2)

遺構名	図番号	時期	グリッド D南北	グリッド D東西	開口部	底部	深さ	遺物	備考
SK41	欠番	—	—	—	—	—	—		
SK42	図34	中期後半	VJ	32	1.09×0.91m	1.01×0.69m	0.86m		
SK43	欠番	—	—	—	—	—	—		
SK44	図35	晩期前半	VG	32	1.10×0.90m		0.30m		土器16.9g、剥片石器類 29.4g
SK45	図35	中期後半	VK	33・34	3.44×2.61m	2.13×1.82m	1.51m		土器375.1g、剥片石器類 1738.1g
SK46	欠番	—	—	—	—	—	—		
SK47	図53	晩期前半	VH	34	0.65×0.51m	0.32×0.27m	0.22m		
SK48	欠番	—	—	—	—	—	—		
SK49	欠番	—	—	—	—	—	—		
SK50	欠番	—	—	—	—	—	—		
SK51	欠番	—	—	—	—	—	—		→SQへ移動
SK52	欠番	—	—	—	—	—	—		
SK53	欠番	—	—	—	—	—	—		
SK54	欠番	—	—	—	—	—	—		
SK55	図35	晩期前半	VG・H	32	1.03×0.71m	0.87×0.56m	0.39m		土器44.6g、剥片石器類 55.8g
SQ20	図45	晩期前半	VK	32	2.22×2.16m	—	—		他の配石遺構と異なり配石 下の土埃は検出されていない。 土器244.7g、剥片石器類 0.2g
SQ21	図47・48	晩期前半	VH	32	0.92×0.75m	0.7×0.46m	0.60m	底面から緑色 凝灰岩製玉 (図54-7~27) 出土	立石を持つ形状。土器646.8 g、剥片石器類78.4g
SQ22	図49	晩期前半	VH	33	1.07×0.74m	0.69×0.46m	0.45m		土器5366.6g、剥片石器 238.6g
SQ23	図49	晩期前半	VJ	32	1.04×0.85m	0.62×0.56m	0.24m		
SQ25	図49	晩期前半	VH	33・34	1.03×1.02m	0.78×0.49m	0.40m		土器431.5g、剥片石器
SQ26	図50	晩期前半	VH	32	1.34m×1.11m	1.20×1.02m	0.42m	石製円盤(図 56-6)出土	S869に切られている。土器 547.3g、剥片石器類15g
SQ27	図51	晩期前半	VH	32	1.43×1.12m	1.07×0.65m	0.3m	底面から石匙 (図56-8)出土	立石を持つ形状。土器 197.9g剥片石器類196.2g。 リン・カルシウム分析
SQ28	図50	晩期前半	VJ	32・33	0.96×0.83m	0.57×0.55m	0.35m		土器125.4g
SQ29	図52	晩期前半	VH	33	1.16×0.99m	0.70×0.58m	0.39m		土器1146.3g、剥片石器 87.4g
SQ30	図52	晩期前半	VJ	33	1.04×0.95m	0.90×0.81m	0.22m		
SQ31	図52	晩期前半	VH	33	0.47×0.37m	0.17×0.14m	0.24m		土器27g、剥片石器9.1g
SQ32	図52	晩期前半	VH	33	0.64×0.44m	0.52×0.34m	0.32m		土器181.4g、剥片石器 54.8g
SQ42	図53	晩期前半	VK	33	上端、下端無 し	上端、下端無 し	—		HS110。土器15.6g、剥片 石器類59g
SQ44	図52	晩期前半	VJ	34	0.44×0.38m	0.21×0.18m	0.25m	接合線出土 (図57-1)	HS189。剥片石器類693.8g
SQ45	図53	晩期前半	VH	34	0.77×0.54m	0.71×0.4m	0.35m		HS47。土器121g、剥片石 器類30g
SQ46	図53	晩期前半	VJ	33	1.22×0.97m	1.12×0.72m	0.17m		HSK51。土器36.1g
SQ47	図53	晩期前半	VJ	33	0.69×0.61m	0.54×0.4m	0.38m		田P11365
SR50	図58	晩期前半	VH	35	0.36×0.38m	—	0.23m		正位。剥片石器類69.3g
SR51	図58	晩期前半	VN	26	0.51×0.44m	0.18×0.13m	0.34m		正位。
SR52	図58	晩期前半	VK	30	0.46×0.39m	—	0.34m		正位。
SR53	図58	晩期前半	VJ	32	0.37×0.3m	—	0.35m		横位。
SR54	図59	晩期前半	VJ	33・34	0.37×0.35m	—	0.19m		正位。
SR55	図59	晩期前半	VJ	30	0.46×0.41m	—	0.18m		正位。
SR56	図59	晩期前半	VJ	32	0.43×0.32m	0.2m(長軸の み)	0.18m		正位。
SR57	図59	晩期前半	VJ	35	0.34×0.3m	—	0.11m		東方確認できない。埋設土 器遺構でない可能性高い。
SR58	図60	晩期前半	VJ・k	34	0.40×0.36m	0.24×0.2m	0.25m		正位。剥片石器類0.5g
SR59	図60	晩期前半	VK	34	0.38×0.31m	0.23×0.17m	0.18m		正位。
SR60	図60	晩期前半	VJ	34	0.40×0.34m	—	0.14m		正位。
SR61	図60	晩期前半	VJ	33	0.36×0.34m	0.17×0.16m	0.24m	土器内部から 石製円盤出土 (図65-3)	正位。
SR62	図61	晩期前半	VJ	34	0.38×0.36m	0.22×0.21m	0.35m		正位。

表14 遺構計測表(3)

遺構名前	図番号	時期	グリッド D南北	グリッド D東西	開口部	底部	深さ	遺物	備考
SR63	図61	晩期前半	VJ	31・32	0.41×0.39m	0.19m(長軸のみ)	0.42m		正位。
SR64	図61	晩期前半	VI	35	0.29×0.27m	—	0.24m		正位。
SR65	図62	晩期前半	VJ	34	0.33×0.32m	0.15(長軸のみ)	0.26m		正位。リン・カルシウム分析
SR66	—	晩期前半	VI	35	—	—	—		横例しの深鉢形土器である。剥片石器類51.9g
SR67	図28	晩期前半	VI	35	0.30×0.29m	—	0.35m		逆位。
SR68	図62	晩期前半	VJ	34	—	—	0.19m		方位確認できない。埋設土器遺構でない可能性がある。
SR69	図50	晩期前半	VH	32	0.51(長軸のみ)	—	0.1m		正位。剥片石器類11.9g
SR70	図62	晩期前半	VH	33	0.26×0.25m	0.13×0.11m	0.15m		正位に置かれた条痕文の深鉢形土器。
SR71	図63	晩期前半	VI	32	0.49×0.37m	—	0.43m		正位。剥片石器類3.3g
SR72	欠番	—	—	—	—	—	—	—	→P11に移動。土器139.3g
SR73	図63	晩期前半	VK	31	0.28×0.25m	0.21×0.16m	0.16m		正位。剥片石器類43.8g
SR74	図63	晩期前半	VJ	32	0.37×0.33m	0.19×0.14m	0.34m		横位。
SR76	図63	晩期前半	VH	33	0.49×0.4m	0.38×0.32m	0.3m		田Pit1529。横位。
SNS1	図44	晩期後半	VG・H	34	—	—	0.17m	図68	M1にて確認。土器1026.5g、剥片石器類1008.9g
SNS2	図44	晩期前半	VH・I	33	0.46×0.53m	—	0.13m	図69	土器109.2g、剥片石器類61.4g
SNS3	欠番	—	—	—	—	—	—	—	—
SNS4	図44	晩期前半	VH	35・36	0.67×0.57m	—	0.14m	図69	土器179.9g 剥片石器類56.9g
SNS5	欠番	—	—	—	—	—	—	—	—
SNS6	図44・71	晩期前半	VG	33	0.31×0.23m	—	0.08m		Pit1376上面にて検出。埋設土器内に焼土
SNS7	欠番	—	—	—	—	—	—	—	—

表15 ピット計測表(1)

遺構名前	図番号	時期	グリッド D南北	グリッド D東西	開口部	底部	深さ	遺物	備考
524		後期から晩期	VI	33	0.35×0.3m	0.23×0.16m	0.26m		
721		後期から晩期	VI	31	0.37×0.33m	0.2×0.14m	0.17m		
1101		後期から晩期	VI	31	0.46×0.43m	0.33×0.26m	0.61m		
1102		後期から晩期	VI	30	0.3×0.27m	0.23×0.16m	0.27m		
1103		後期から晩期	VI	30	0.24(長軸のみ)	0.2×0.11m	0.4m		
1104		後期から晩期	VI	30	0.23×0.22m	0.17×0.13m	0.34m		
1105		後期から晩期	VK	32・33	0.39×0.4m	0.24×0.16m	0.34m		
1189		後期から晩期	VK	33	0.31×0.3m	0.19×0.16m	0.37m		
1190		後期から晩期	VI	31	0.3×0.25m	0.12×0.1m	0.23m		
1191		晩期前半	VJ	31	0.37×0.37m	0.22×0.16m	0.44m	半膚状文の鉢形土器(図72-1)	土器21.1g
1192		後期から晩期	VK	31	0.31×0.26m	0.15×0.13m	0.35m		
1193		後期から晩期	VK・I	31	0.3×0.24m	0.14×0.1m	0.22m		
1194		後期から晩期	VK	33	0.25×0.22m	0.14×0.14m	0.32m		
1195		後期から晩期	VI	31	0.26×0.22m	0.18×0.13m	0.27m		
1196		後期から晩期	VK	33	0.32(長軸のみ)	0.29×0.13m	0.34m		
1197		後期から晩期	VJ	31	0.25×0.21m	0.21×0.13m	0.19m		
1198		後期から晩期	VJ	32	0.35×0.37m	0.3×0.23m	0.22m		
1199		後期から晩期	VK	31	0.47(長軸のみ)	0.41(長軸のみ)	0.32m		
1200		後期から晩期	VI	32	0.52×0.44m	0.32×0.24m	0.57m		
1208		後期から晩期	VJ	32	0.33×0.31m	0.08×0.04m	0.38m		
1209		後期から晩期	VJ	31	0.51×0.46m	0.17×0.14m	0.45m		
1210		後期から晩期	VK	33	0.26×0.22m	0.11×0.05m	1.34m		
1211		後期から晩期	VJ	31	0.22×0.21m	0.13×0.12m	0.29m		
1212		後期から晩期	VI	31	0.32×0.32m	0.23×0.2m	0.34m		
1285		後期から晩期	VJ	32	0.29(長軸のみ)	0.15×0.1m	0.35m		
1286		後期から晩期	VJ	32	0.36×0.3m	0.19(長軸のみ)	0.25m		
1287		後期から晩期	VJ	33	0.34×0.26m	0.24×0.19m	0.46m		
1321		後期から晩期	VJ	35	0.52×0.43m	0.14×0.09m	0.43m	有蓋(図72-2)	剥片石器類0.7g
1322		後期から晩期	VJ	35	0.48×0.42m	0.24×0.14m	0.27m		
1323		後期から晩期	VI	35	0.3×0.26m	0.11×0.1m	0.2m		
1324		後期から晩期	VJ	35	0.46×0.36m	0.22×0.21m	0.37m	剥片石器類35.6g	
1325		後期から晩期	VJ	35	0.29×0.28m	0.18×0.15m	0.16m	剥片石器類5.2g	
1326		後期から晩期	VI	35	0.36×0.28m	0.16×0.1m	0.24m		
1327		後期から晩期	VI	35	0.36×0.33m	0.19×0.11m	0.22m	剥片石器類32.1g	
1328	図70	後期から晩期	VI	35	0.26×0.25m	0.18×0.17m	0.32m		
1329		後期から晩期	VI	35	0.37×0.34m	0.11×0.07m	0.27m	有蓋(図72-3)	剥片石器類16.3g
1330		後期から晩期	VI	35	0.21×0.21m	0.1×0.08m	0.11m		
1331	図70	後期から晩期	VJ	35	0.22×0.22m	0.24×0.23m	0.28m		
1333	図70	後期から晩期	VJ	35	0.22×0.22m	0.2×0.19m	0.26m		
1339		後期から晩期	VI	32	0.28×0.21m	0.14×0.08m	0.28m		
1348		後期から晩期	VI	35	0.53×0.5m	0.45×0.44m	0.23m	剥片石器類13.5g	
1350		後期から晩期	VF	33・34	0.39×0.33m	0.29×0.21m	0.15m		
1352		後期から晩期	VI	35	0.25×0.25m	0.16×0.13m	0.15m	剥片石器類6.3g	
1353	図70	後期から晩期	VI・J	34・35	0.58×0.35m	0.23×0.17m・ 0.17×0.13m	0.33m		
1354		後期から晩期	VI	35	0.31×0.29m	0.22×0.18m	0.19m		
1355		後期から晩期	VI	35	0.25×0.22m	0.16×0.13m	0.29m	剥片石器類7.6g	
1356		後期から晩期	VI	35	0.46×0.42m	0.12×0.12m	0.26m	剥片石器類9.7g	
1357		後期から晩期	VJ	35	0.65×0.49m	0.51×0.25m	0.29m	剥片石器類5.2g	
1358		後期から晩期	VJ	35	0.31×0.31m	0.19×0.12m	0.24m	剥片石器類6.4g	
1360		後期から晩期	VH	35	0.29×0.23m	0.21×0.19m	0.23m		
1361		後期から晩期	VI	35	0.66×0.52m	0.18×0.15m	0.47m		
1362		後期から晩期	VI	35	0.32×0.28m	0.21×0.17m	0.31m	剥片石器類3.6g	
1363		後期から晩期	VI	34	0.75×0.7m	0.25×0.22m	0.27m	剥片石器類23.7g	
1364		後期から晩期	VI	36	0.41×0.33m	0.25×0.25m	0.18m	土器断片資料のため、図示していない	土器12.7g
1365	欠番	—	—	—	—	—	—	→SQへ移動	
1366		後期から晩期	VI	34	0.56×0.51m	0.16×0.12m	0.52m	剥片石器類8.4g	
1367		後期から晩期	VI	34	0.62×0.4m	0.36×0.23m	0.42m	剥片石器類10.9g	
1368		後期から晩期	VI	36	0.32×0.3m	0.14×0.09m	0.31m		
1369	図70	後期から晩期	VH	34・35	0.61×0.4m	0.3×0.24m	0.45m	深鉢形土器底部出土。剥片石器類15.8g	
1370		後期から晩期	VI	35	0.25×0.24m	0.16×0.13m	0.24m		
1371		後期から晩期	VI	35	0.36×0.33m	0.17×0.13m	0.31m	辻貫貫製石線や剥片などが319.4g出土。石核(図72-4)	剥片石器類319.4g

表15 ピット計測表(2)

遺構名前	図番号	時期	グリッド D南北	グリッド D東西	開口部	底部	深さ	遺物	備考
1372		後期から晩期	VJ	34・35	0.53×0.28m	0.25×0.23m	0.36m		
1373		後期から晩期	VH	34	0.36×0.34m	0.25×0.25m	0.28m	土器断片資料のため、図示していない	土器21.2g
1374		後期から晩期	VH	34	0.30×0.26m	0.23×0.17m	0.17m		剥片石器類23.6g
1375		後期から晩期	VH	33・34	0.28×0.21m	0.21×0.14m	0.16m		
1376	図71	晩期前半	VG	33	0.79×0.69m	0.32×0.18m	0.5m	底部に高台を持つ晩期の深鉢形土器(図72-5・6)	上面に第56号埴土遺構、土器813.7g
1377		後期から晩期	VH	33	0.21×0.23m	0.15×0.19m	0.14m	土器断片資料のため、図示していない	土器6.1g
1378		後期から晩期	VH	33	0.42×0.35m	0.33×0.3m	0.22m	土器断片資料のため、図示していない	土器27.7g
1379	図71	晩期前半	VG	33	0.63×0.5m	0.52×0.43m	0.45m	人組文を持つ深鉢形土器の胴部片(図72-7)	土器83g
1380		後期から晩期	VH	33	0.64×0.5m	0.33×0.26、 0.15×0.13m	0.39m	土器断片資料のため、図示していない	底部(下層1、下層2)土器45.2g
1381		後期から晩期	VH	35	0.28×0.23m	0.22×0.19m	0.12m		
1382		後期から晩期	VH	35	0.26×0.25m	0.23×0.12m	0.2m		
1383		後期から晩期	VF	32	0.34×0.24m	0.2×0.13m	0.35m	土器断片資料のため、図示していない	土器12.1g、剥片石器類12.4g
1384		後期から晩期	VG	34	0.34×0.31m	0.08×0.06m	0.28m	晩期の口縁部断片資料	土器28.7g、剥片石器類12.7g
1385		後期から晩期	VJ	36	0.28×0.27m	0.13×0.14m	0.15m	土器断片資料のため、図示していない	土器111g
1386		後期から晩期	VJ	36	0.27×0.25m	0.12×0.1m	0.17m	土器断片資料のため、図示していない	土器26.1g
1387		後期から晩期	VJ	35	0.35×0.29m	0.17×0.12m	0.23m		
1388		後期から晩期	VJ	35	0.62×0.47m	0.2×0.16m	0.44m	土器断片資料のため、図示していない	土器126.2g、剥片石器類8.7g
1389		後期から晩期	VH	33	0.35×0.3m	0.31×0.29m	0.27m	土器断片資料のため、図示していない	土器32.9g
1390		後期から晩期	VH	32	0.41×0.37m	0.23×0.14m	0.39m	土器断片資料のため、図示していない	土器12.8g
1391		後期から晩期	VH	34	0.38×0.35m、 0.68×0.61m	0.18×0.15m、 0.23×0.2m	0.58m、 0.39m		13・14年度調査
1392		後期から晩期	VI	34	0.54×0.41m	0.38×0.16m	0.16m	土器断片資料のため、図示していない	土器1.5g、剥片石器類3.7g
1393		後期から晩期	VI	34	0.77×0.41m	0.38×0.14m	0.32m		剥片石器類4.4g
1395	図70	晩期前半	VI	34	0.69×0.59m	0.34×0.29m	0.63m	C字文を持つ差形土器(図72-8)	土器253.3g、剥片石器類7.2g
1396		晩期前半	VI	34	0.46×0.43m	0.16×0.15m	0.3m	人組三叉文をもつ差形土器の胴部片(図72-9)	土器48.2g
1397		晩期前半	VI	34	0.67×0.57m、 0.83×0.57m	0.44×0.38m、 0.18×0.16m	0.39m	人組文を持つ鉢形土器(図74-16)	開口部(上層1、上層1+上層2)・底部(下層1、下層2)、土器120.1g、剥片石器類19.8g
1398		後期から晩期	VI	33・34	0.58×0.46m、 0.82×0.42m	0.31×0.17m、 0.19×0.18m、 0.27×0.27m	0.45m	晩期の口縁部断片	開口部(上層1、上層1+上層2)・底部(下層1、下層2、下層3)、土器222.6g、剥片石器類7.0g
1399		後期から晩期	VI	33	0.97×0.86m	0.3×0.07m	0.6m	土器断片資料のため、図示していない	土器123g
1400	図71	晩期前半	VI	34	0.79×0.56m	0.42×0.24m	0.5m	香炉形土器(図73-1)	土器91g、剥片石器類6.1g
1401		晩期前半	VI	34	0.58×0.42m	0.24×0.16m	0.5m	羊歯状文を持つ注口形土器(図73-2)	土器290.1g、剥片石器類22.3g



表15 ピット計測表(3)

遺構名前	図番号	時期	グリッド D南北	グリッド D東西	開口部	底部	深さ	遺物	備考
1402		晩期前半	VI	34・35	0.86×0.71m	0.45×0.21m	0.26m	入組文を持つ深鉢形土器(図73-3)	土器270.9g、剥片石器類24.9g
1403		後期から晩期	VH	34	0.72×0.62m	0.51×0.32m	0.31m	土器断片資料のため、図示していない。	土器5.4g
1404		後期から晩期	VH	34	0.26×0.24m	0.16×0.13m	0.27m	土器断片資料のため、図示していない。石鏝(図73-4)	土器96.3g、剥片石器類87.8g
1405		後期後半	VJ	34	1.49×1.28m	0.32×0.23m	0.46m	壺付き土器片(図73-5)、石核(図73-6)	土器18.1g、剥片石器類70.4g
1406		後期から晩期	VJ	32	0.26×0.22m	0.2×0.12m	0.16m		
1407		後期から晩期	VJ	33	0.37×0.29m	0.19×0.14m	0.27m	土器断片資料のため、図示していない。	土器15.2g
1408		後期から晩期	VJ	32	0.24×0.2m	0.14×0.13m	0.19m		
1409		後期から晩期	VJ	32	0.36×0.25m	0.19×0.16m	0.37m		
1410		後期から晩期	VI	32	0.51×0.46m	0.13×0.11m	0.39m	土器断片資料のため、図示していない。剥片類が496.4g出土。二次加工剥片(図73-7)	土器48.4g、剥片石器類595.9g
1420		後期から晩期	VI	34	0.63×0.54m	0.47×0.38m	0.22m	土器断片資料のため、図示していない。	土器54.5g
1421		後期から晩期	VI	34	0.45(長軸のみ)	0.32×0.27m	0.29m	石鏝未製品(図73-9)	土器76.1g、剥片石器類42.1g
1422		後期から晩期	VI	34	0.48(長軸のみ)	0.29×0.28m	0.37m		
1423		後期から晩期	VJ	34	0.49(長軸のみ)	0.21×0.19m	0.29m	土器断片資料のため、図示していない。	土器4.9g
1424		後期から晩期	VJ	34	0.44(長軸のみ)	0.25×0.23m	0.37m	土器断片資料のため、図示していない。石鏝(図73-8)	土器106.5g、剥片石器類89.1g
1425		後期から晩期	VJ	34・35	0.5(長軸のみ)	0.25×0.22m	0.46m	土器断片資料のため、図示していない。	土器96.3g
1426		後期から晩期	VJ	34	1405と同一	0.34×0.18m	0.31m	凹石(図73-11)	剥片石器類77g
1427		後期から晩期	VJ	32	0.26(長軸のみ)	0.18×0.15m	0.18m		
1428		後期から晩期	VH	34・35	0.43×0.36m	0.23×0.14m	0.38m		
1429		後期から晩期	VH・I	34	0.47×0.35m	0.14×0.14m	0.24m	土器断片資料のため、図示していない。	土器1.9g
1431		後期から晩期	VH	34	0.51×0.41m	0.28×0.23m	0.33m		
1432		後期から晩期	VJ	32	0.64×0.58m	0.25×0.21m	0.55m		
1433		後期から晩期	VJ	32	0.3×0.23m	0.18×0.11m	0.37m		
1434	図71	後期から晩期	VH	33	1.39×0.81m	1.23×0.62m	0.35m	土器断片資料のため、図示していない。	土器142g
1436		後期から晩期	VH	33	0.37(長軸のみ)	0.28(長軸のみ)	0.4m		
1437	図71	後期から晩期	VG・H	33	0.63×0.52m	0.25×0.2m	0.61m	土器断片資料のため、図示していない。	土器38.9g、剥片石器類31.8g
1438		後期から晩期	VG	32・33	0.74×0.56m	0.31×0.26m	0.45m		剥片石器類66.6g
1439		晩期前半	VI	33	0.33×0.27m	0.26×0.18m	0.34m	入組三又文をもつ深鉢形土器(図73-10)	土器120.4g、剥片石器類48.3g
1440		後期から晩期	VH・I	33	0.36×0.28m	0.33×0.21m	0.27m	沈鏝と新契文を持つ晩期土器(図74-1)	土器61g
1441		後期から晩期	VJ	32	0.25×0.25m	0.25×0.19m	0.35m		
1442		後期から晩期	VJ	32	0.28×0.26m	0.25×0.15m	0.28m		
1444		後期から晩期	VJ	34	0.39×0.36m	0.29×0.24m	0.28m		
1445		晩期前半	VJ	34	0.38×0.3m	0.22×0.21m	0.37m	入組文を持つ深鉢形土器(図74-4)、石核(図74-5)	土器116.1g、剥片石器類61.2g

表15 ピット計測表(4)

遺構名前	図番号	時期	グリッド D南北	グリッド D東西	開口部	底部	深さ	遺物	備考
1446		晩期前半	VJ	34	0.73(長軸のみ)	0.52(長軸のみ)	0.52m	深鉢形土器(図74-2) 雲形文を持つ注口形土器(図74-3)	土器115.9g、剥片石器類22.9g
1447		後期から晩期	VJ	34	0.47×0.44m	0.16×0.11m	0.25m		
1448		後期から晩期	VJ	34	0.28×0.24m	0.06×0.03m	0.32m	土器断片資料のため、図示していない。	土器21.6g
1449		後期から晩期	VJ・K	34	0.48×0.42m	0.41×0.32m	0.35m	土器断片資料のため、図示していない。	土器37g
1450		後期から晩期	VI	33	0.45×0.38m	—	0.33m	土器断片資料のため、図示していない。	柱状土塊、下端あり。土器115.3g、剥片石器類10.6g
1452			VI	32	0.46×0.35m	—			
1460		後期から晩期	VH	34	0.26×0.24m	0.11×0.05m	0.21m		14年度調査
1461		後期から晩期	VG	32	0.25×0.18m	0.14×0.13m	0.13m		14年度調査
1462		後期から晩期	VH	35	0.27×0.21m	0.14×0.13m	0.18m		14年度調査
1463		後期から晩期	VH	35	0.42×0.34m	0.2×0.13m	0.43m		14年度調査
1464		後期から晩期	VH	35	0.34×0.3m	0.26×0.22m	0.34m		14年度調査
1465		後期から晩期	VH	34	0.37×0.34m	0.27×0.25m	0.26m		14年度調査
1501		後期から晩期	VJ	34	0.24×0.21m	0.13×0.09m	0.42m		
1502		後期から晩期	VI	34	0.48×0.47m	—	0.43m	土器断片資料のため、図示していない。石匙(図74-6)	柱状土塊、下端あり。土器144.3g、剥片石器類5.0g
1503		後期から晩期	VI	33・34	0.44×0.42m	0.33×0.2m	0.25m	土器断片資料のため、図示していない。	土器164.7、剥片石器類11.5g
1504		後期から晩期	VI	34	0.41×0.35m	0.24×0.22m	0.37m	土器断片資料のため、図示していない。	土器69.3g、剥片石器類38.4g
1505		後期から晩期	VI	34	0.61×0.56m	0.41×0.31m	0.31m	土器断片資料のため、図示していない。	土器90.8g
1506		後期から晩期	VH	34	0.43×0.34m	0.29×0.23m	0.3m	土器断片資料のため、図示していない。	土器65g
1507		後期から晩期	VG	34	0.56×0.37m	0.19×0.18m	0.3m	土器断片資料のため、図示していない。	土器30.5g
1508		後期から晩期	VH	34	0.33m(長軸のみ)	0.15×0.13m	0.26m	土器断片資料のため、図示していない。	土器7.2g
1509		後期から晩期	VG	33	0.47×0.38	0.36×0.32m	0.23m		
1510		後期から晩期	VG	33	0.34×0.32m	0.3×0.26m	0.27m		
1511		晩期前半	VG	34	0.35×0.32m	0.28×0.26m	0.27m	人組文を持つ深鉢形土器(図74-7)	土器85.6g
1512		後期から晩期	VG	33	0.44×0.37m(上端)	0.31×0.19m	0.31m	断片資料	土器18.3g
1513		後期から晩期	VJ	32	0.27×0.22m	0.2×0.12m、0.06×0.03m	0.48m		底部(下端、柱状下端)
1514		後期から晩期	VJ	32	0.44×0.37m、0.3×0.28m	0.17×0.16m	0.43m	土器断片資料のため、図示していない。	開口部(上端、柱状上端)。土器3.3g
1515		後期から晩期	VJ	32	0.31×0.3m	0.17×0.14m	0.46m	土器断片資料のため、図示していない。	土器14.4g
1516		晩期前半	VH	33	0.59×0.56m	0.38×0.38m	0.3m	日架屋を持つ深鉢形土器(図74-8)	土器256.7g
1517		後期から晩期	VJ	34	0.39×0.38m	0.3×0.18m	0.28m		
1518		後期から晩期	VI	33	0.49×0.42m	0.31×0.28m	0.28m	土器断片資料のため、図示していない。	土器48.7g、剥片石器類0.9g
1519		後期から晩期	VI	32	0.47m(長軸のみ)	0.13×0.09m	0.3m		
1520		後期から晩期	VI	32	0.23m(長軸のみ)	0.16m(長軸のみ)	0.22m		
1522		後期から晩期	VJ	34	0.48×0.37m	0.25×0.21m	0.36m	凹石・磨石(図74-13)	土器14.5g
1523		後期から晩期	VI	33	0.44×0.37m	0.13×0.09m	0.41m	土器断片資料のため、図示していない。	土器112.3g
1524	欠番	—	—	—	—	—	—		

表15 ピット計測表(5)

遺構名前	図番号	時期	グリッド D南北	グリッド D東西	開口部	底部	深さ	遺物	備考
1525		後期から晩期	VI	33	0.42×0.33m	—	0.25m		剥片石器類106.6g
1527		後期から晩期	VF	33	0.54×0.48m	0.22×0.17m	0.29m		
1528		後期から晩期	VF・G	33	0.34×0.29m	0.09×0.06m	0.31m		
1529	欠番	—	—	—	—	—	—		→SEへ移動
1531		晩期前半	VH	33	0.49m(長軸のみ)	—	0.11m	入組三又文を持つ鉢形土器(図74-9)	周辺のピットに切られている。土器155.5g
1532		後期から晩期	VH	33	0.37×0.33m	0.24×0.16m	0.24m	土器断片資料のため、図示していない。	土器12g
1533		後期から晩期	VH	33	0.34m(長軸のみ)	0.16m(長軸のみ)	0.24m	土器断片資料のため、図示していない。	土器89.6g
1534		後期から晩期	VH	33	0.43×0.36m	0.25×0.21m	0.32m	土器断片資料のため、図示していない。	土器9.2g
1535		後期から晩期	VG	32	0.46×0.4m	0.23×0.18m	0.39m		
1536		後期から晩期	VG	32	0.53×0.43m	0.25×0.21m	0.48m		剥片石器類10.8g
1537		後期から晩期	VH・I	34	0.36×0.32m	0.35×0.23m	0.12m		
1538		後期から晩期	VJ	34	0.37×0.16m	0.12×0.06m	0.34m	土器断片資料のため、図示していない。	土器106.7g、剥片石器類37.5g
1539		後期から晩期	VJ	32	0.56×0.5m	0.33×0.18m	0.44m		
1540		後期から晩期	VJ	34	0.53m(長軸のみ)	0.36m(長軸のみ)	0.31m	土器断片資料のため、図示していない。	土器6.8g
1541		後期から晩期	VH	33	0.35×0.33m	0.2×0.15m	0.32m	土器断片資料のため、図示していない。	土器5.6g
1542		後期から晩期	VH	33	0.27×0.19m	平面無し	0.05m	土器断片資料のため、図示していない。	土器36.2g
1543		晩期前半	VI	33	0.52m(長軸のみ)	0.27m(長軸のみ)	0.41m	有付き鉢形土器(図74-10)、入組三又文を持つ土器(図74-11)、土器(図74-12)	土器230.4g、剥片石器類24.9g
1544		後期から晩期	VJ	34	0.46×0.29m	0.37×0.19m	0.34m		
1545		後期から晩期	VJ	34	0.68×0.48m	0.47×0.36m	0.33m	土器断片資料のため、図示していない。	土器6.5g
1546		後期から晩期	VJ	35	0.29×0.24m	0.22×0.17m	0.16m		
1547		後期から晩期	VJ	35	0.42×0.4m	0.3×0.24m	0.2m	土器断片資料のため、図示していない。	土器2.6g
1548		後期から晩期	VJ	35・36	0.41×0.36m	0.29×0.27m	0.18m		剥片石器類11.4g
1549		後期から晩期	VI	35	0.29×0.24m	0.21×0.18m	0.19m		
1550		後期から晩期	VI	33	0.54×0.43m	0.41×0.3m	0.34m	土器断片資料のため、図示していない。	土器9.9g
1551		後期から晩期	VI	36	0.35×0.32m	平面無し	0.19m	土器断片資料のため、図示していない。	土器5.4g
1552		後期から晩期	VI	35	0.34×0.26m	0.25×0.17m	0.09m		
1553		後期から晩期	VJ	35	0.3×0.26m	0.25×0.15m	0.18m		
1554		後期から晩期	VJ・I	35	0.44m(長軸のみ)	0.36×0.27m	0.22m		
1555		後期から晩期	VI	34	0.39×0.29m	0.27×0.13m	0.18m	土器断片資料のため、図示していない。	土器36.5g
1556		後期から晩期	VI	34	0.61×0.43m	0.24×0.19m	0.54m	土器断片資料のため、図示していない。	土器24.4g、剥片石器類6.1g
1557		後期から晩期	VI	34	0.3×0.27m	0.15×0.13m	0.15m	土器断片資料のため、図示していない。	土器14g
1558		後期から晩期	VI	34	0.38×0.25m	0.24×0.2m	0.09m	土器断片資料のため、図示していない。	土器3.4g
1559		晩期後半	VI	33	0.46×0.35m	0.26×0.16m	0.23m	鉢形土器(図74-14)、口縁部片(図74-15)	土器130.7g
1560		後期から晩期	VJ	34	0.31×0.18m	0.15×0.13m	0.08m		
1561		後期から晩期	VH	34	0.73×0.58m	0.63×0.42m	0.24m		
1562		後期から晩期	VH・I	34	0.41m(長軸のみ)	0.17×0.08m	0.33m		

表15 ピット計測表(6)

遺構名前	図番号	時期	グリッド D南北	グリッド D東西	開口部	底部	深さ	遺物	備考
1563		後期から晩期	VI	34	0.45×0.42m	0.39×0.39m, 0.1×0.07m	0.29m		底部(下層1、下層2)
1564		後期から晩期	VI	33	1.05m(長軸のみ)	0.8m(長軸のみ)	0.3m		
1565		後期から晩期	VI	33	0.43×0.43m	0.3×0.31m	0.2m	土器断片資料のため、図示していない	土器29g
1566		後期から晩期	VG	33	0.32×0.25m	0.2×0.17m	0.46m		
1569		後期から晩期	VG	33・34	0.31×0.29m	0.15×0.11m	0.23m		
1570		後期から晩期	VG	34	0.36×0.3m	0.17×0.16m	0.13m		
1571		後期から晩期	VG	34	0.33×0.33m	0.23×0.16m	0.19m	土器断片資料のため、図示していない	土器61.4g
1572		後期から晩期	VG	34	0.47×0.41m	0.23×0.2m	0.29m	土器断片資料のため、図示していない	土器24.9g
1573		後期から晩期	VG	34	0.25×0.17m	0.16×0.13m	0.16m		
1574		後期から晩期	VG	33	0.26×0.22m	0.11×0.07m	0.19m		
1575		後期から晩期	VI	33	0.4×0.33m	0.24×0.19m	0.35m		
1576		後期から晩期	VI	34	0.47×0.4m	0.26×0.19m	0.39m		
1577		後期から晩期	VI	34	0.58×0.48m	0.41×0.31m	0.33m		
1578		後期から晩期	VJ	33	0.56×0.47m	0.46×0.3m	0.23m		
1579		後期から晩期	VG	33	0.42×0.39m	0.19×0.18m	0.68m		
1580		後期から晩期	VG	33	0.3×0.24m	0.16×0.14m	0.34m		剥片石器類2.1g
1581		後期から晩期	VG	32	0.38×0.33m	0.2×0.17m	0.42m		
1582		後期から晩期	VG	32	0.77×0.63m	0.27×0.26m	0.72m		
1583		後期から晩期	VG	32	0.39×0.34m	0.32×0.24m	0.24m		
1585		後期から晩期	VI	32	0.34×0.26m	0.17×0.12m	0.27m	土器断片資料のため、図示していない	土器19.3g
1587		後期から晩期	VI	33	0.44×0.41m	0.26×0.19m	0.27m		
1588		後期から晩期	VI	33	0.6m(長軸のみ)	0.43m×0.18m	0.24m	土器断片資料のため、図示していない	土器45.5g、剥片石器類7.3g
1589		後期から晩期	VG・H	33	0.58×0.47m	0.32×0.24m	0.37m		
1590		後期から晩期	VG	34	0.47m(長軸のみ)	0.37m(長軸のみ)	0.14m	土器断片資料のため、図示していない	土器11.8g、剥片石器類128.8g
1591		後期から晩期	VJ	33	0.51×0.6m	0.47×0.36m	0.43m		
1592		後期から晩期	VH	33	0.3×0.39m	0.1×0.11m	0.32m	土器断片資料のため、図示していない	土器88.4g
1594		後期から晩期	VH	33	0.35×0.29m	0.21×0.19m	0.26m		
1595		後期から晩期	VH	33	0.22×0.24m	0.15×0.14m	0.15m	土器断片資料のため、図示していない	土器3.5g
1596		後期から晩期	VI	33	0.36×0.24m	0.17×0.09m	0.21m		
1597		後期から晩期	VH	33	0.4m(長軸のみ)	0.2×0.14m	0.21m		
1601		後期から晩期	VH	33	0.31×0.25m	0.14×0.11m	0.33m		剥片石器類3.5g
5208		後期から晩期	VH	33	0.34m(長軸のみ)	0.18m(長軸のみ)	0.24m		
5213		後期から晩期	VH	32	0.7×0.52m	0.16×0.13m	0.39m		
SR72		後期から晩期	VH	33	0.3×0.35m	0.21×0.14m	0.42m		Pitとして扱う

表16 土器観察表 (1)

図版番号	図版 位置	図高 (cm)	口徑 (cm)	底径 (cm)	通構	トレンチ・ グリップ・ ペイント	グリップ 番号	段階	部位	型式	器種	部位	口縁形態・裝飾	文様	地文	内面	付着物	底形 ・口縁形	加土・備考	順序 番号
8-1	947	13.0	—	10.2	S107 卍	—	VI- 30	1	口縁~ 底径	不明	深鉢	口縁~ 底径	欠損	?	彫文	ナガ	外・スス 内・コシ	高台	P-1	1
11-1	947	16.0	24	—	S109	—	VI- 29・30	1	口縁~ 底径	中間後葉	深鉢	口縁~ 底径	平鉢	なし	口縁部は横位、底部 は縦位彫文	ナガ	外・スス 内・コシ	高台		50
11-2	—	—	—	—	S109	—	VI- 29・30	1	口縁	中間後葉	深鉢	口縁	平鉢	横位彫文	ミガキ	なし		欠損	彫文、台番号	5
14-1	947	17.0	24.1	—	S111	—	VI- 30・31	1	口縁	磨光~土 器上層部 水引付行	深鉢	口縁	平鉢	口縁部彫文	ミガキ	なし		欠損	P-2	12
14-2	947	16.0	11	—	S111	—	VI- 30・31	1	口縁	晩葉	深鉢	口縁	平鉢	口縁部彫文、内面横位彫文1条	ミガキ	外・スス		欠損	P-1	52
14-3	—	—	—	—	S111	—	VI- 30・31	1	口縁	晩葉	深鉢	口縁	平鉢	なし	紅	ナガ	外・スス	高台		8
14-4	—	(4.4)	—	4.4	S111	—	VI- 30・31	1	口縁	晩葉後葉 ~晩葉前	深鉢	口縁	欠損	?	彫文	ナガ	内・コシ	高台		11
17-1	948	—	—	—	S112	—	VK-32	1	口縁	大木9件	深鉢	口縁	欠損	波縞	口縁部彫文	ナガ	外・スス	高台		252
17-2	948	7.1	8.3	4	S112	—	VK-32	1	口縁	大木9件 行	深鉢	口縁	平鉢	口縁部彫文	不明	器内外面	平底	P-1、器孔2、底位 彫文、器口縁部彫文	9009	
17-3	948	—	—	—	S112	—	VK-32	1	口縁	晩葉	深鉢	口縁	欠損	波縞	口縁部彫文	ミガキ	なし	高台		15
17-4	—	—	—	—	S112	—	VK-32	1	口縁	晩葉	深鉢	口縁	平鉢	波縞、磨光する部分、器口に二 条の波縞	口縁部彫文	ミガキ	器内外 面	高台		14
17-5	948	—	—	—	S112	—	VK-32	1	口縁	晩葉中葉	深鉢	口縁	平鉢(器口)	横位彫文、器口に二 条の波縞	口縁部彫文	ミガキ	なし	高台		13
19-1	948	20.0	22.2	—	S113	—	VG-35	1	口縁~ 底径	器口上層部、 式	深鉢	口縁~ 底径	台形突起4単位	口縁部彫文、 底径に波縞	口縁部彫文	キ、ナ	なし	高台	P-5007	565
19-2	948	12.2	—	—	S113	—	VG-35	1	口縁	大木9件 ~式	深鉢	口縁	欠損	波縞、L字状	口縁部彫文	ミガキ	外・スス 内・コシ	高台		563
19-3	948	8.0	16.2	—	S113	—	VG-35	1	口縁	器口上層部、 式	深鉢	口縁	平鉢、山形突起 4単位	口縁部彫文、 底径に波縞	口縁部彫文	キ、ナ	なし	高台		564
19-4	948	14.0	17.6	—	S113	—	VG-35	1	口縁	器口上層部、 式	深鉢	口縁	波状口縁4単位	口縁部彫文	口縁部彫文	ミガキ	なし	高台		562
19-5	948	—	—	—	S113	—	VG-35	1	口縁	器口上層部、 式	深鉢	口縁	山形突起	口縁部彫文	口縁部彫文	キ、ナ	外・スス	高台		564
19-6	—	—	—	—	S113	—	VG-35	1	口縁~ 底径	器口上層部、 式	深鉢	口縁~ 底径	平鉢	口縁部彫文、 底径に波縞	口縁部彫文	ミガキ	なし	高台	小皿、磨砂	455
19-7	948	11	25	—	S113	—	VG-35	1	口縁~ 底径	器口上層部、 式	深鉢	口縁~ 底径	平鉢、山形突起	口縁部彫文、 底径に波縞	口縁部彫文	キ、ナ	外・スス	高台	磨砂	463
19-8	948	—	—	—	S113	—	VG-35	1	口縁	器口上層部、 式	深鉢	口縁	波状口縁	口縁部彫文	口縁部彫文	キ、ナ	外・スス	高台		464
20-1	948	—	—	—	S113	—	VG-35	1	口縁	器口上層部、 式	深鉢	口縁	波状口縁	口縁部彫文、 底径に波縞	口縁部彫文	キ、ナ	外・スス	高台		23
20-2	—	—	—	—	S113	—	VG-35	1	口縁	器口上層部、 式	深鉢	口縁	平鉢	口縁部彫文、 底径に波縞	口縁部彫文	ナガ	外・スス	高台		22

表16 土器観察表(2)

原器 番号	図例	口径 (cm)	底径 (cm)	通高 (cm)	遺構	トレンチ・ ベント	グリップ	段間	部位	型式	器種	部位	口縁形態・裝飾	文様	地文	内面	付着物	底径 ・通高	出土・備考
20-3	—	—	—	—	S13	—	Vc-35	I	口部 底面	復元式 胎土	口部	口部	口部	口部	なし	ナガ	なし	次皿	加土・備考
20-4	—	(1.2)	4.8	—	S13	—	Vc-35	I	口部 底面	復元式 胎土	口部	口部	口部	口部	なし	ナガ	なし	平皿	
20-5	—	(1.2)	11	—	S13	—	Vc-35	I	口部 底面	復元式 胎土	口部	口部	口部	口部	なし	ナガ	内コマ	次皿	
20-6	948	(18.9)	—	—	S13	—	Vc-35	I	口部 底面	復元式 胎土	口部	口部	口部	口部	なし	ナガ	外スス	次皿	伊体土器
30-1	949	—	—	—	S09	—	V1-30・ J1	I	口部 底面	復元式 胎土	口部	口部	口部	口部	なし	ナガ	なし	次皿	F-1
30-2	—	—	—	—	S10	—	V1-32	I	口部 底面	復元式 胎土	口部	口部	口部	口部	なし	ナガ	外スス	次皿	
30-3	—	—	—	—	S10	—	V1-32	I	口部 底面	復元式 胎土	口部	口部	口部	口部	なし	ナガ	外スス	次皿	
30-4	949	—	—	—	S10	—	V1-32	I	口部 底面	復元式 胎土	口部	口部	口部	口部	なし	ナガ	外スス	次皿	小皿
30-5	949	—	—	—	S10	—	V1-32	I	口部 底面	復元式 胎土	口部	口部	口部	口部	なし	ナガ	外スス	次皿	遺跡時の粘土の段 取状態
30-6	949	—	—	—	S10	—	V1-32	I	口部 底面	復元式 胎土	口部	口部	口部	口部	なし	ナガ	なし	次皿	小皿
30-7	—	(5.0)	—	9.7	S10	—	V1-32	I	口部 底面	復元式 胎土	口部	口部	口部	口部	なし	ナガ	なし	平皿	小皿
30-9	950	(25.0)	26.0	—	S20	—	Vc-31	I	口部 底面	復元式 胎土	口部	口部	口部	口部	なし	ナガ	外スス	次皿	F-1
37-1	950	38.7	28.6	11.0	S18	—	V1・ J-32	I	口部 底面	復元式 胎土	口部	口部	口部	口部	なし	ナガ	外スス	次皿	小皿、遺跡、37-4 との同一部位
37-2	950	—	—	—	S18	—	V1・ J-32	I	口部 底面	復元式 胎土	口部	口部	口部	口部	なし	ナガ	外スス	次皿	
37-3	—	—	—	—	S18	—	V1・ J-32	I	口部 底面	復元式 胎土	口部	口部	口部	口部	なし	ナガ	外スス	次皿	
37-4	950	—	—	—	S18	—	V1・ J-32	I	口部 底面	復元式 胎土	口部	口部	口部	口部	なし	ナガ	外スス	次皿	小皿、遺跡、37-3 との同一部位
37-5	950	—	—	—	S18	—	V1・ J-32	I	口部 底面	復元式 胎土	口部	口部	口部	口部	なし	ナガ	外スス	次皿	
37-6	950	—	—	—	S18	—	V1・ J-32	I	口部 底面	復元式 胎土	口部	口部	口部	口部	なし	ナガ	なし	次皿	
37-7	950	—	—	—	S18	—	V1・ J-32	I	口部 底面	復元式 胎土	口部	口部	口部	口部	なし	ナガ	外スス	次皿	
37-8	950	—	—	—	S18	—	V1・ J-32	I	口部 底面	復元式 胎土	口部	口部	口部	口部	なし	ナガ	外スス	次皿	
37-9	950	—	—	—	S18	—	V1・ J-32	I	口部 底面	復元式 胎土	口部	口部	口部	口部	なし	ナガ	外スス	次皿	小皿、遺跡
37-10	—	—	—	—	S18	—	V1・ J-32	I	口部 底面	復元式 胎土	口部	口部	口部	口部	なし	ナガ	なし	次皿	小皿、遺跡

表16 土器観察表 (3)

器名 器種	高径 mm	口径 mm	底径 mm	構造	トレンチ・ ベント	グワッド J-32	段階	部位	型式	器種	部位	口縁形態・裝飾	文様	地文	内面	付着物	底径 mm・器種	器身 番号	
37-11	950	-	-	S816	-	V1・ J-32	I	覆土層 底縁	復林式	深鉢	口縁~ 体部	口縁直縁・直縁	文様	地文	内面	付着物	底径 mm・器種	器身 番号	
37-12	-	-	-	S818	-	V1・ J-32	I	覆土層	絞蓋	蓋	口縁	波状口縁	口縁内側直縁・底縁部直縁・直縁	灰化により黒文不明 (赤文黒文)	ナゲ	なし	灰皿	小磯・直縁	200
38-1	-	(1.7)	-	S816	-	V1・ J-32	I	覆土層	中期後葉	深鉢	底部	平縁	口縁外側直縁・横位直縁	ナゲ	ナゲ	なし	直縁	小磯	257
38-3	940	(8.2)	14.1	S822	-	V1・ J-35・36	II	覆土層	晩期1b	注口	口縁	山口段突(口縁部)	入組直文・直縁	直	ミガキ	なし	灰皿	P-5100	556
38-4	940	(6.0)	14	S822	-	V1・ J-35・36	II	覆土層	晩期1b	注口	口縁	山口段突(口縁部)	直縁	直	ミガキ	なし	灰皿	P-5108	555
38-5	-	-	-	S822	-	V1・ J-35・36	II	覆土層	絞蓋	深鉢	口縁	平縁・口縁直縁	なし	直	ナゲ	なし	灰皿		200
38-6	940	-	-	S822	-	V1・ J-35・36	II	覆土層	晩期1a	鉢	口縁	平縁・口縁直縁	なし	直	ミガキ	なし	灰皿	小磯	206
38-7	-	-	-	S822	-	V1・ J-35・36	II	覆土層	晩期7-4	深鉢	体部	体部	直縁間に連続する同目縁・直縁	乱(直縁内)	不明	赤スス	灰皿		193
38-8	940	-	-	S822	-	V1・ J-35・36	II	覆土層	晩期前半	鉢	体部	体部	直縁間に連続する短直縁	文様帯地文なし・体 部直	ナゲ	なし	灰皿		199
38-9	-	(8.0)	-	S822	-	V1・ J-35・36	II	覆土層	晩期後半	深鉢	底部	直縁	直	直	ナゲ	外スス・ 内コガ	高台		537
39-1	950	-	-	S821	-	V1-35	IV	覆土層	晩期6	鉢	口縁~ 体部	山口段突	口縁直縁・体部直縁・直縁 赤文(直縁なし)	直	ミガキ	なし	灰皿		447
39-2	950	-	-	M1	トレンチ3	V1-34	IV	28	-	-	-	-	-	-	-	-	-	ICD9-1と同・類似	2066
39-3	950	-	-	M1	トレンチ3	V1-34	IV	18	-	-	-	-	-	-	-	-	-	ICD9-1と同・類似	2069
39-4	950	-	-	S821	-	V1-35	IV	覆土層	晩期6	深鉢	体部	直縁	横位直縁・工字文	ナゲ	ナゲ	なし	灰皿		300
39-5	950	-	-	S821	-	V1-35	IV	覆土層	晩期後半	鉢	口縁	平縁・口唇直縁	横帯・横位直縁	文様帯地文なし・体 部直	不明	内コガ	灰皿		302
39-6	950	-	-	S821	-	V1-35	IV	覆土層	晩期後半	鉢	口縁	平縁・口唇直縁	横文部・直縁・横位直縁	直	ミガキ	内コガ	灰皿		301
39-7	951	-	-	S821	-	V1-35	IV	覆土層	晩期後半	鉢	口縁	平縁・口唇直縁	横位直縁	文様帯地文なし・体 部直	不明	内コガ	灰皿		344
39-8	-	-	-	S821	-	V1-35	IV	覆土層	晩期6	鉢	口縁	平縁・口唇直縁	横位直縁・工字文	横文不明	ナゲ	なし	灰皿		345
39-9	-	-	-	S821	-	V1-35	IV	覆土層	晩期後半	鉢	口縁	平縁・口唇直縁	横帯・横位直縁(横文部なし)	直	ミガキ	なし	灰皿		371
39-10	-	-	-	S821	-	V1-35	IV	覆土層	晩期後半	鉢	口縁	平縁	直帯・横位直縁	横文	ナゲ	なし	灰皿		371
39-11	951	-	-	S821	-	V1-35	IV	覆土層	晩期後半	鉢	口縁~ 体部	平縁・口唇直縁	横帯・横位直縁(横文部なし)	直	ミガキ	なし	灰皿		371
39-12	951	-	-	S821	-	V1-35	IV	覆土層	晩期後半	蓋	底面	直縁	直帯・平直縁・工字文	横文	ナゲ	なし	灰皿		206
39-13	-	-	-	S821	-	V1-35	IV	覆土層	晩期後半	深鉢	底面	直縁	直帯・平直縁・工字文	横文	ナゲ	なし	灰皿		206
39-14	951	-	-	S821	-	V1-35	IV	覆土層	晩期後半	鉢	口縁	平縁	口唇直縁・体部直縁・直縁	直	不明	内コガ	灰皿		209
39-15	-	-	-	S821	-	V1-35	IV	覆土層	晩期後半	鉢	口縁	絞足	口唇直縁・体部直縁・直縁	直	不明	内コガ	灰皿		331
39-16	951	-	-	S821	-	V1-35	IV	覆土層	晩期後半	深鉢	口縁	平縁・口唇直縁	横位直縁	文様帯地文なし(直 帯のみ)・横文不明	不明	内コガ	灰皿		327

表16 土器観察表(4)

図版番号	写真 図版	高さ (cm)	口徑 (cm)	底径 (cm)	遺構	トレンチ・ レベル	グリップ マーク	段階	層位	型式	器種	部位	口縁部形状・裝飾 平縁、口唇内側 突起の直取	文様	地文	外面	付着物	底面形・ 断面	出土・備考	
39-17	951	-	-	-	SZ1	-	V1-35	IV	覆土上層	晩期後半	深鉢	口縁	平縁、口唇内側突起の直取	縄文地に横位に波線	縦線状	ナデ	外スス、内コソ	欠損		
39-18	951	-	-	-	SZ1	-	V1-35	IV	覆土下層	晩期後半	深鉢	口縁	平縁、口唇内側突起の直取	縄文地に横位に波線	縦	ナデ	なし	欠損		
39-19	-	-	-	-	SZ1	-	V1-35	IV	覆土上層	晩期	鉢	口縁	平縁、射付内側に 刻みにより内面を打たれた横波線 下に射状、横位に波線、波線部 に直目目線、文様部下端横位波 線に波線	縦 部は横位波文、 下部は縦波文なし、 射状は横位波文	ミガキ	外コソ	欠損			
39-20	-	-	-	-	SZ1	-	V1-35	IV	覆土中層	後期-4	小形深鉢	口縁	平縁	縦波線部、射状に波	ナデ	ナデ	なし	小破		
39-21	-	-	-	-	SZ1	-	V1-35	IV	覆土下層	晩期-晩期上	鉢	口縁	平縁、突起、口唇内側突起の直取	縦波線による人頭文、波線による人頭文	縦波線	ミガキ	外スス	欠損		
39-22	-	-	-	-	SZ1	-	V1-35	IV	覆土下層	晩期上	鉢	口縁	小突起口縁	縦波線による人頭文(右下がりの横位に波線)、垂波線に波文	縦波線	ミガキ	外コソ	欠損		
39-23	-	-	-	-	SZ1	-	V1-35	IV	覆土中層	晩期-晩期上	鉢	口縁	平縁、口唇内側突起の直取	波線	縦波線	ミガキ	なし	欠損		
39-24	-	-	-	-	SZ1	-	V1-35	IV	覆土上層	後期-4	深鉢	口縁	平縁、口唇内側突起の直取	波線による人頭文、波線部に横位に波線	縦波線	ミガキ	外コソ	欠損		
39-25	951	-	-	-	SZ1	-	V1-35	IV	覆土中層	晩期上	鉢	口縁	平縁、口唇内側突起の直取	突起部に波線なし、横位に波線	縦	ミガキ	外スス			
39-26	951	-	-	-	SZ1	-	V1-35	IV	覆土下層	後期-4	深鉢	口縁	平縁、口唇部分突起の直取	波線部に横位に波線、波線による人頭文	縦波線	ナデ	外スス、内コソ	欠損	小破、内側の底面時の粘土の浸み直取部	
39-27	-	-	-	-	SZ1	-	V1-35	IV	覆土下層	晩期	深鉢	口縁	平縁	なし	縦	ナデ	ナデ	なし	欠損	
39-28	951	-	-	-	SZ1	-	V1-35	IV	覆土中層	晩期	深鉢	口縁	平縁、口唇内側突起の直取	なし	縦	ナデ	外スス、内コソ	欠損		
39-29	-	-	-	-	SZ1	-	V1-35	IV	覆土上層	晩期	鉢	口縁	平縁、口唇内側突起の直取	なし	口縁部ナデ、体部に口縁部ナデ	不明	外スス、内コソ	欠損	外側の底面時の粘土の浸み直取部	
39-30	-	-	-	-	SZ1	-	V1-35	IV	覆土上層	晩期	鉢	口縁	平縁	なし	口縁部ナデ、体部に口縁部ナデ	ミガキ	なし	欠損		
39-31	951	-	-	-	SZ1	-	V1-35	IV	覆土下層	晩期前半	鉢	口縁	平縁、口唇部分突起の直取	横位に波線	縦波線	ミガキ	外スス、内コソ	欠損	内側の底面時の粘土の浸み直取部	
39-32	951	-	-	-	SZ1	-	V1-35	IV	覆土	最古式	深鉢	口縁	平縁、口唇部分突起の直取	横位に波線、縦位の波線	無文	ミガキ	外スス	欠損		
41-1	-	-	-	-	SZ3	-	V1-J-32	I	覆土	後期-4	深鉢	口縁	平縁	波線部に横位に波線、波線による人頭文	無文	不明	外スス	欠損		
41-5	-	-	-	-	SZ8	-	V1-34	I	覆土上層	中期後半	深鉢	口縁	波状口縁	口唇外側突起	縦波線	ミガキ	外スス	欠損		
41-6	-	-	-	-	SZ8	-	V1-34	I	覆土上層	後期-晩期上	深鉢	口縁	平縁、口唇部分突起の直取	突起部に横位に波線	縦波線	ナデ	なし	欠損		
41-7	-	-	-	-	SZ8	-	V1-34	I	覆土上層	晩期上	深鉢	口縁	平縁	縦波線、横位に波線	無文	ナデ	外スス	欠損		
41-8	-	-	-	-	SZ8	-	V1-34	I	覆土上層	晩期	深鉢	口縁	平縁	縦波線、横位に波線	無文	ナデ	外スス	欠損		
41-9	-	(L.9)	-	-	SZ8	-	V1-34	I	覆土上層	後期後半	深鉢	口縁	平縁	縦波線、横位に波線	無文	ミガキ	外スス、内コソ	欠損	小破、貫通孔	
41-10	-	(S.0)	-	-	SZ8	-	V1-34	I	覆土	晩期前半	不明	口縁	平縁	縦波線、横位に波線	無文	ナデ	外スス	欠損	小破	



表16 土器観察表 (5)

図版 番号	図版 位置	口徑 (cm)	底径 (cm)	遺構	トレンチ・ レベル	グリップ E-32・33	段階	層位	型式	器種	部位	口縁形態・裝飾	文様	地文	内面	付着物	底形 ・裝飾	器 番号
41-12	949	-	-	S829	-	V1・ E-32・33	I	覆土	椀形式	深鉢	口縁	波状口縁	口縁外縁部平、肥前産土模印文 口縁上縁土模印文	山模印	ナゲ	なし	欠損	280
41-13	-	-	-	S829	-	V1・ E-32・33	I	覆土	椀形式	深鉢	体部	欠損	縄文地に模印文、花模 印文	花印により縄文不明	ナゲ	なし	欠損	280
41-15	950	-	-	S830	トレンチ1	V1-32	II	覆土・34	椀形式	深鉢	下半部	欠損	C字文、単位文様	ナゲ	なし	平底	231	
41-16	950	-	-	S837	-	V1・ 1-32	II	覆土	椀形式	深鉢	体部	欠損	非帯状文、文様	ナゲ	なし	欠損	234	
42-1	950	-	-	S839	-	V1-31・ 32	I	覆土	椀形式	深鉢	口縁	平縁、口唇直縁	2層目直縁の縁の上に模印文(上) 直縁、突起状口唇直縁	無文	ナゲ	なし	欠損	235
43-1	951	(5.1)	12.9	S844	-	V2-32	I	覆土	椀形式	深鉢	口縁	平縁、口唇直縁	半帯状文、模印文(上)具 文様	無文	ナゲ	なし	欠損	248
43-2	951	-	-	S844	-	V2-32	II	覆土	椀形式	深鉢	体部	欠損	半帯状文、突起直縁	不明	内コガ	欠損	244	
43-3	951	-	-	S844	-	V2-32	II	覆土	椀形式	深鉢	体部	欠損	波状口縁、口唇直縁、 口唇に突起状口唇直縁	不明	内コガ	欠損	244	
43-3	951	-	-	S844	-	V2-32	II	覆土	椀形式	深鉢	体部	欠損	波状口縁、口唇直縁、 口唇に突起状口唇直縁	不明	内コガ	欠損	243	
43-4	-	-	-	S844	-	V2-32	II	覆土	椀形式	深鉢	口縁	平縁、口唇直縁	口唇に突起状口唇直縁	不明	内コガ	欠損	240	
43-6	951	-	-	S845	-	V1-33・ 34	II	覆土	椀形式	深鉢	口縁	平縁、突起状口唇直縁、 口唇直縁	突起直縁、口唇直縁、 口唇に突起状口唇直縁	不明	内コガ	欠損	292	
46-1	952	-	-	S850	-	V1-32	II	覆土	椀形式	深鉢	口縁	平縁、突起状口唇直縁、 口唇直縁	突起直縁、口唇直縁、 口唇に突起状口唇直縁	不明	内コガ	欠損	26	
54-1	952	41.8	34	9	821	トレンチ1	II	19	椀形式	深鉢	口縁	平縁	なし	波	ナゲ	内コガ	遺跡時の粘土の設置 未確認	6290
54-2	952	-	-	S821	-	V1-32	II	覆土下層	椀形式	深鉢	口縁	波状口縁	口縁部直縁部平縁、波直縁下 突起	波	ナゲ	内コガ	遺跡時の粘土の設置 未確認	6290
54-3	-	-	-	S821	-	V1-32	II	覆土下層	椀形式	深鉢	体部	欠損	口縁部直縁部平縁、波直縁下 突起	不明	内コガ	内コガ	遺跡時の粘土の設置 未確認	6290
54-4	-	-	-	S821	-	V1-32	II	覆土下層	椀形式	深鉢	体部	欠損	口縁部直縁部平縁、波直縁下 突起	不明	内コガ	内コガ	遺跡時の粘土の設置 未確認	6290
54-4	-	-	-	S821	-	V1-32	II	覆土下層	椀形式	深鉢	体部	欠損	口縁部直縁部平縁、波直縁下 突起	不明	内コガ	内コガ	遺跡時の粘土の設置 未確認	6290
54-5	952	-	-	S821	-	V1-32	II	覆土下層	椀形式	深鉢	口縁	波状口縁	なし	不明	ナゲ	なし	遺跡時の粘土の設置 未確認	6290
54-6	952	(7.6)	16.4	4.2	821	トレンチ1	II	19	椀形式	深鉢	口縁	平縁、口唇直縁	波状口縁、突起状口唇直縁、 模印文	不明	ナゲ	なし	遺跡時の粘土の設置 未確認	6279
55-1	952	-	-	S825a	-	V1-33	II	覆土下層	椀形式	深鉢	口縁	平縁	なし	波	ナゲ	なし	遺跡時の粘土の設置 未確認	65
55-2	952	-	-	S822	-	V1-33	II	覆土下層	椀形式	深鉢	口縁	平縁	なし	波	ナゲ	なし	遺跡時の粘土の設置 未確認	86
55-3	-	-	-	S822	-	V1-33	II	覆土下層	椀形式	深鉢	口縁	平縁、口唇直縁	なし	不明	ナゲ	なし	遺跡時の粘土の設置 未確認	86
55-4	952	-	-	S822	-	V1-33	II	覆土下層	椀形式	深鉢	口縁	平縁、口唇直縁	なし	不明	ナゲ	なし	遺跡時の粘土の設置 未確認	92
55-5	952	-	-	S822	-	V1-33	II	覆土下層	椀形式	深鉢	口縁	平縁、口唇直縁	なし	不明	ナゲ	なし	遺跡時の粘土の設置 未確認	92
55-6	-	-	-	S822	-	V1-33	II	覆土	椀形式	深鉢	口縁	平縁、口唇直縁	なし	不明	ナゲ	なし	遺跡時の粘土の設置 未確認	96
55-7	952	-	-	S822	-	V1-33	II	覆土下層	椀形式	深鉢	口縁	平縁、口唇直縁	なし	不明	ナゲ	なし	遺跡時の粘土の設置 未確認	97

表16 土器観察表 (6)

図号	原高 (cm)	口径 (cm)	底径 (cm)	遺構	トレンチ・ベント	グッド	段階	部位	型式	器種	部位	口縁形態・裝飾	文様	地文	内面	付着物	原形・器類	出土・備考	図号番号
55-8	952	-	-	S822	-	VP-33	Ⅱ	口縁 胴部	晩期前半 b	鉢	口縁 胴部	平縁	縦文 横文 点文	なし	ミガキ ナガキ	外スス 内コガ	灰 文	650-578, 図 90-10同-1標本	27
55-9	952	-	-	S822	-	VP-33	Ⅱ	口縁 胴部	晩期前半 b	鉢	口縁 胴部	平縁	なし	ナガ	ナガ	なし	灰 文	P-5210	72
55-10	-	-	-	S822	-	VP-33	Ⅱ	口縁 胴部	晩期後半 a 中期後半	鉢	口縁 胴部	小突起口縁, 突起口縁	なし	ミガキ, ナガ	ミガキ	外スス	灰 文	P-5210	76
55-11	-	-	-	S822	-	VP-33	Ⅱ	口縁 胴部	晩期後半 a 中期後半	鉢	口縁 胴部	欠損	縦文	なし	ナガ	なし	灰 文	P-5210	60
55-12	-	-	-	S822a	-	VP-33	Ⅱ	口縁 胴部	晩期後半 a 中期後半	鉢	口縁 胴部	欠損	縦文	なし	ナガ	内コガ	灰 文	P-5210	74
55-13	952	-	-	S822	-	VP-33	Ⅱ	口縁 胴部	晩期後半 a 中期後半	鉢	口縁 胴部	欠損	縦文	なし	ミガキ	なし	灰 文	650-13+14+15同 -1標本	81
55-14	-	-	-	S822	-	VP-33	Ⅱ	口縁 胴部	晩期後半 a 中期後半	鉢	口縁 胴部	平縁, 口唇面取	縦文	なし	ミガキ	なし	灰 文	650-13+14+15同 -1標本	82
55-15	952	-	-	S822	-	VP-33	Ⅱ	口縁 胴部	晩期後半 a 中期後半	鉢	口縁 胴部	平縁, 突起, 口唇面取	縦文	なし	ミガキ	なし	灰 文	650-13+14+15同 -1標本	83
55-16	-	-	-	S822	-	VP-33	Ⅱ	口縁 胴部	晩期前半	鉢	口縁 胴部	欠損	縦文	ナガ	ナガ	なし	灰 文	P-5210	75
55-17	-	-	-	S822	-	VP-33	Ⅱ	口縁 胴部	晩期後半	鉢	口縁 胴部	欠損	縦文	ナガ	ナガ	なし	灰 文	種子状	56
55-18	-	-	-	S822	-	VP-33	Ⅱ	口縁 胴部	晩期後半	鉢	口縁 胴部	欠損	縦文	ナガ	ナガ	なし	灰 文	種子状	59
55-19	-	(1.3)	-	S822	-	VP-33	Ⅱ	口縁 胴部	晩期後半	鉢	口縁 胴部	欠損	縦文	ナガ	ナガ	なし	灰 文	種子状	84
55-20	-	(3.2)	-	S822	-	VP-33	Ⅱ	口縁 胴部	晩期後半	鉢	口縁 胴部	欠損	縦文	ナガ	ナガ	なし	灰 文	種子状	77
55-21	952	-	-	S822	-	VP-33	Ⅱ	口縁 胴部	復元式	鉢	口縁 胴部	平縁	縦文	なし	ミガキ ナガ	外スス	P-5212	84	
55-22	952	31	-	S822, S825	-	VP-33, 34	Ⅱ	口縁 胴部	晩期前半	深鉢	口縁 胴部	平縁	なし	条脈文(横)	ミガキ ナガ	内コガ	灰 文	P-5212	83
55-23	952	(6.0)	6.1	S822	-	VP-33	Ⅱ	口縁 胴部	晩期前半	鉢	口縁 胴部	平縁	なし	ナガ, ナガ	ミガキ ナガ	内コガ	灰 文	P-5212	27
56-1	953	-	-	S825	-	VP-33, 34	Ⅱ	口縁 胴部	晩期後半	深鉢	口縁 胴部	欠損	横文	ナガ, ナガ	ミガキ	なし	灰 文	P-5212	104
56-2	-	-	-	S825	-	VP-33, 34	Ⅱ	口縁 胴部	晩期後半	深鉢	口縁 胴部	平縁	縦文	なし	ミガキ	なし	灰 文	P-5212	97
56-3	953	-	-	S825	-	VP-33, 34	Ⅱ	口縁 胴部	晩期前半	深鉢	口縁 胴部	平縁	縦文	なし	ミガキ	なし	灰 文	P-5212	96
56-4	-	-	-	S826	-	VP-32	Ⅱ	口縁 胴部	晩期後半	深鉢	口縁 胴部	平縁	縦文	なし	ミガキ	なし	灰 文	P-5212	108
56-7	-	2.8	8	S827	-	VP-32	Ⅱ	口縁 胴部	不明	不明	不明	なし	ナガ	ナガ	なし	灰 文	高台	1032	
56-9	-	-	-	S829	-	VP-33	Ⅱ	口縁 胴部	中期後半	深鉢	口縁 胴部	平縁	縦文	なし	ミガキ	なし	灰 文	高台	119
56-13	953	(12.1)	22	S832	-	VP-34	Ⅱ	口縁 胴部	晩期後半	深鉢	口縁 胴部	平縁, 口唇面取	なし	なし	ナガ	外スス	復元式 灰文	650-13+14+15同 -1標本	126
56-14	-	-	-	S845	-	VP-34	Ⅱ	口縁 胴部	晩期後半	深鉢	口縁 胴部	欠損	縦文	なし	ナガ	外スス	復元式 灰文	650-13+14+15同 -1標本	250
57-3	953	-	-	S846	-	VP-33	Ⅱ	口縁 胴部	晩期後半	深鉢	口縁 胴部	欠損	縦文	なし	ナガ	外スス	復元式 灰文	650-13+14+15同 -1標本	7
64-1	953	30.1	24.3	S880	-	VP-33	Ⅱ	口縁 胴部	晩期後半	深鉢	口縁 胴部	平縁	なし	なし	ナガ	外スス	復元式 灰文	650-13+14+15同 -1標本	8009

表16 土器観察表(7)

器類 番号	器高 (cm)	口径 (cm)	底径 (cm)	口径・ 底径の 差	トレンチ・ ベント	形状	部位	器種	器形	器種	部位	口縁形態・裝飾	文様	地文	外面	付着物	底径 形態・ 裝飾	器類 番号
64-2	953	(29.3)	26.8	8.8	SR2	—	V1-20	II	碗	深鉢	胎元形	平縁	なし	粗面走	ナゲ	外スス 内コナ	平底	6811
64-3	953	(23.3)	—	7.8	SR3	—	V1-33	II	19	碗	差	欠隅	横位波線1条	丸	ナゲ	なし	平底	6812
64-4	—	(17.4)	—	7.5	SR8	—	VK-34	II	23	碗	深鉢	胎元形 胎元形 胎元形	なし	粗面走	ナゲ	外スス 内コナ	平底	6817
64-5	954	(11.4)	—	6.5	SR7	—	VJ-35	II	23	碗	差	欠隅	?	丸	ナゲ	なし	高台	6816
64-6	954	(28.0)	—	6	SR9	—	VK-34	II	23	碗	深鉢	胎元形	?	丸	ナゲ	内コナ	平底	6818
64-7	—	(2.4)	—	7.8	SR5	—	VJ-31	II	1	碗	深鉢	胎元形	なし	丸	ナゲ	なし	平底	6814
64-8	—	(2.4)	—	6	SR1	—	VK-26	II	3	碗	深鉢	胎元形	?	丸	ナゲ	なし	平底	6810
64-9	954	—	—	—	SR6	—	VJ-32	II	—	碗	深鉢	胎元形	なし	丸	ナゲ	なし	平底	6815
64-10	954	—	—	—	SR4	—	VJ-33	II	30	碗	深鉢	胎元形	なし	丸	ナゲ	なし	欠隅	6813
65-1	954	—	—	—	SR60	—	V1-34	II	19	碗	深鉢	口縁 口縁 口縁	なし	丸	ナゲ	外スス 内コナ	欠隅	6819
65-2	954	(16.3)	27.8 (最大 口径)	—	SR1	—	VJ-33	II	23(30)	碗	深鉢	胎元形	なし	丸	ナゲ	外スス 内コナ	欠隅	6820
65-4	954	(52.0)	32.4	7.6	SR3	—	VJ-31	II	—	碗	深鉢	口縁 胎元形	なし	丸	ナゲ	なし	凹底	6822
65-5	954	21.5	19.1	6.3	SR4	—	V1-35	II	30	碗	深鉢	胎元形	なし	丸	ナゲ	外スス 内コナ	平底	6823
65-6	954	32.8	36.2	8.8	SR2	—	VJ-34	II	30	碗	深鉢	胎元形	なし	丸	ナゲ	なし	凹底	6821
66-1	954	33.4	27.9	8.5	SR5	—	VJ-34	II	—	碗	深鉢	胎元形	なし	丸	ナゲ	外スス 内コナ	平底	6824
66-2	954	35.7	24.8	8.4	SR6	FR-83	V F-31640	II	23(30)	碗	深鉢	胎元形	なし	丸	ナゲ	外スス 内コナ	高台	6825
66-3	955	(11.2)	—	10	SR8	—	VJ-33	II	—	碗	深鉢	胎元形	?	丸	ナゲ	外スス 平底	6827	
66-4	955	(25.3)	9.5	—	SR7	FR-83	V1-35	II	—	碗	差	平縁	なし	丸	ナゲ	なし	欠隅	6826
66-5	955	34.0	27.6	8.3	SR70	—	VH・V 1-35	II	19	碗	深鉢	胎元形	なし	丸	ナゲ	なし	高台	6829
66-6	955	(20.1)	—	9.4	SR9	—	VH-32	II	24	碗	深鉢	胎元形	?	丸	ナゲ	外スス 内コナ	凹底	6828
67-1	955	(27.1)	—	9	SR71	—	VK-31	II	—	碗	深鉢	胎元形	なし	丸	ナゲ	外スス 内コナ	凹底	6830
67-2	—	(7.2)	—	8	SR73	—	VK-33	II	—	碗	深鉢	胎元形	?	丸	ナゲ	なし	平底	6832
67-3	—	(17.2)	21	7	SR74	—	VJ-32	II	—	碗	胎元形	胎元形 胎元形	なし	丸	ナゲ	外スス	高台	6833
67-4	955	—	25.9	8.3	SR74	—	VJ-32	II	II	碗	深鉢	口縁 胎元形	なし	丸	ナゲ	なし	高台	6834

表16 土器観察表 (8)

図号	切取	高 (cm)	口径 (cm)	底径 (cm)	遺構	トレンチ・グランド・ベント	段階	層位	型式	器種	部位	口縁形態、裝飾	文様	地文	内面	付着物	底形・底跡	加工・備考	器種番号
67-5	9255	18.0	17.2	5.6	SR36	-	VP-33	II	絶期中期	鉢	胎形	O内(の縁)に黒線する横線と同心の黒線あり	文様無文 文様部存在なし、体面無文	ナツ	外スス 内コガ	凹底		564	
68-1	9255	(9.6)	15.3	(9.1)	SR37, SR34	SR-B	VP-34	II	絶期1~5	付竹鉢	胎形	突起、細手	LR	ミガキ	なし	有	壺山日式	547	
68-2	9255	9.8	(15.6)	有 8.7	SR35	SR-B	VP-34	II	絶期1~5	付竹鉢	胎形	突起	LR	ミガキ	外スス 内コガ	有	壺山日式	561	
68-3	9255	6.8	8.6	5.1	SR34a	-	VP-34	II	絶期	鉢	胎形	平縁、内面無文	口縁部斜行、体面無文	ナツ	外スス 内コガ	凹底	P-517a、絶期年代不詳中	569	
68-4	9255	-	-	-	SR51	-	VP-35	II	絶期1~5	鉢	口縁~胎形	突起、肥手	LR	ミガキ	内コガ	欠損	壺山日式	148	
68-5	9255	-	-	-	SR51	-	VP-34	II	絶期1~3	鉢	胎形	突起	LR	不明	内コガ	欠損	壺山日式	500	
68-6	9255	-	-	-	SR51	-	VP-34	II	絶期1	鉢	B胎形、胎形	突起、肥手	LR	ミガキ	外スス 内コガ	欠損	壺山日式	534	
68-7	9255	-	-	-	SR51	-	VP-34	II	絶期後半	鉢	胎形	平縁	口縁部無文、体面無文、内面無文	ミガキ	内コガ	欠損		537	
68-8	-	-	-	-	SR51	-	VP-35	II	絶期後半	鉢	口縁~胎形	山形突起	口縁部、内面無文、胎形口縁	胎形	内コガ	欠損		129	
68-9	-	-	-	-	SR51	-	VP-35	II	絶期後半	鉢	口縁~胎形	胎形	口縁部、内面無文、胎形口縁	胎形	内コガ	欠損		142	
68-10	-	-	-	-	SR51	-	VP-35	II	絶期後半	鉢	口縁~胎形	平縁、口唇内面突起、胎形口縁	口縁部、内面無文、胎形口縁	胎形	外スス 内コガ	欠損		140	
68-11	-	-	-	-	SR51	-	VP-35	II	絶期後半	皿	口縁~胎形	平縁	口縁部、内面無文、胎形口縁	胎形	なし	欠損		145	
68-12	-	-	-	-	SR51	-	VP-35	II	絶期後半	鉢	口縁~胎形	平縁	口縁部、突起	胎形	内コガ	欠損		137	
68-13	9255	-	-	-	SR51	-	VP-35	II	絶期後半	深鉢	胎形	平縁	口縁部無文	不明	内コガ	欠損		147	
68-14	9255	-	-	-	SR51	-	VP-35	II	絶期後半	鉢	胎形	平縁、口唇内面突起、胎形口縁	口縁部、胎形口縁	不明	内コガ	欠損		130	
68-15	-	(6.7)	-	-	SR51a	-	VP-34	II	絶期	鉢	胎形	胎形	口縁部、胎形口縁	胎形	なし	有底	P-5171	164	
69-1	9256	35.1	-	8.5	SR52	-	VP-33	II	絶期	深鉢	胎形	胎形	口縁部、胎形口縁	胎形	なし	有底	P-5186	6311	
69-2	9256	(3.8)	8.5	-	SR54	-	VP-35	II	絶期	皿	胎形	胎形	口縁部、胎形口縁	胎形	なし	有底		153	
69-3	9256	-	-	-	SR54	-	VP-35	II	絶期	深鉢	胎形	胎形	口縁部、胎形口縁	胎形	なし	有底		152	
72-1	9256	-	-	-	p11191	-	VP-31	II	絶期2	鉢	胎形	胎形	口縁部、胎形口縁	胎形	なし	有底		688	
72-5	9256	29.9	23	8.4	p111276	-	VP-33	II	絶期	深鉢	胎形	胎形	口縁部、胎形口縁	胎形	なし	有底		552	
72-6	-	12.9	15	5.6	p111276	-	VP-33	II	絶期	鉢	胎形	胎形	口縁部、胎形口縁	胎形	なし	有底		553	
72-7	-	-	-	-	p111279	-	VP-33	II	絶期1a	深鉢	胎形	胎形	口縁部、胎形口縁	胎形	なし	有底		560	

表16 土器観察表(9)

器名・器号	口径 (cm)	高さ (cm)	底径 (cm)	遺構	トレンチ・ レベル・ ポイント	グリップ 位置	部位	形状	器種	部位	口縁形態・裝飾	文様	地文	外面	付着物	底形 ・断面	器号 番号
73-8	256	4.6	10.5	-	p11295	VJ-34	II	碗状	深鉢	口縁	明突起(4単位)	肩面上半無文、 肩面下半文字、 突起	口縁部は、 無文	ミガキ	部内外面	尖錐	
73-9	-	-	-	p11296	-	VJ-34	II	碗状	深鉢	口縁	無文	口縁部は、 無文	口縁部は、 無文	ミガキ	なし	台状	
73-1	256	(6.0)	9.5	4.0	p11400	VJ-34	II	碗状	香炉	口縁	明突起(4単位)	肩面上半無文、 肩面下半文字、 突起	口縁部は、 無文	ミガキ	なし	台状	P-5207
73-2	256	-	-	p11401	-	VJ-34	II	碗状	注口	口縁～ 体部	明突起(4単位)、 口唇面取、 口唇面取	口縁部は、 無文	口縁部は、 無文	ミガキ	なし	尖錐	
73-3	256	-	-	p11402	-	VJ-34・ 35	II	後脚	深鉢	口縁～ 体部	肩、二山状突起 突起、口唇面取	口縁部は、 無文	口縁部は、 無文	外スス、 内コガ	外スス、 内コガ	尖錐	
73-5	256	-	-	p11405	-	VJ-34	II	後脚-4	深鉢	口縁	明突起(4単位)	肩面上半無文、 肩面下半文字、 突起	口縁部は、 無文	ミガキ	なし	尖錐	
73-10	-	-	-	p11439	-	VJ-33	II	後脚-1	深鉢	口縁～ 体部	明突起(4単位)	口縁部は、 無文	口縁部は、 無文	ミガキ	外スス	尖錐	
74-1	256	-	-	p11440	-	VH・ 1-33	II	後脚-4	深鉢	口縁～ 体部	明突起(4単位)	口縁部は、 無文	口縁部は、 無文	ミガキ	外スス	尖錐	
74-2	256	-	-	p11446	-	VJ-34	II	後脚-4 後脚-1	深鉢	口縁	明突起(4単位)	口縁部は、 無文	口縁部は、 無文	ミガキ	外スス	尖錐	
74-3	256	-	-	p11446	-	VJ-34	II	碗状-3	深鉢	口縁	明突起(4単位)	口縁部は、 無文	口縁部は、 無文	ミガキ	なし	尖錐	
74-4	256	-	-	p11445	-	VJ-34	II	碗状-1a	深鉢	口縁	明突起(4単位)	口縁部は、 無文	口縁部は、 無文	ミガキ	外スス	尖錐	
74-7	256	-	-	p11451	-	VJ-34	II	後脚-4 後脚-1	深鉢	口縁	明突起(4単位)	口縁部は、 無文	口縁部は、 無文	ミガキ	外スス	尖錐	
74-8	256	10.5, 6.1	26	8	p11516	VJ-33	II	碗状	深鉢	口縁	明突起(4単位)	口縁部は、 無文	口縁部は、 無文	ミガキ	外スス	尖錐	P-5208
74-9	256	-	-	p11521	-	VJ-33	II	碗状-1b	林	口縁～ 体部	明突起(4単位)	口縁部は、 無文	口縁部は、 無文	ミガキ	外スス、 内コガ	尖錐	
74-10	256	6.5	-	p11543	-	VJ-33	II	碗状	台付林	口縁	明突起(4単位)	口縁部は、 無文	口縁部は、 無文	ミガキ	なし	台	
74-11	256	-	-	p11543	-	VJ-33	II	碗状-1b	林	口縁～ 体部	明突起(4単位)	口縁部は、 無文	口縁部は、 無文	ミガキ	外スス、 内コガ	尖錐	
74-12	-	-	-	p11543	-	VJ-33	II	碗状-1b	林	口縁	明突起(4単位)	口縁部は、 無文	口縁部は、 無文	ミガキ	外スス	尖錐	
74-14	-	-	-	p11559	-	VJ-33	II	樽土器	林	口縁	明突起(4単位)	口縁部は、 無文	口縁部は、 無文	ミガキ	外スス	尖錐	
74-15	-	-	-	p11559	-	VJ-33	II	樽土器後半	臺	口縁	明突起(4単位)	口縁部は、 無文	口縁部は、 無文	ミガキ	外スス	尖錐	
74-16	256	-	-	p11597	-	VJ-33	II	後脚	林	口縁	明突起(4単位)	口縁部は、 無文	口縁部は、 無文	ミガキ	外スス、 内コガ	尖錐	
80-1	257	12.4	23.8	0	トレンチ 30	VJ-35	IIa	碗状	深鉢	口縁～ 体部	明突起(4単位)	口縁部は、 無文	口縁部は、 無文	ミガキ	外スス、 内コガ	尖錐	

表16 土器観察表 (10)

図録 番号	図録 位置	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	形状	土色・ ベント	グワット	図説	部位	型式	器種	部位	口縁形態・裝飾	文様	地文	内面	付着物	底径形 ・器種	出土・備考	図録 番号
80-2	957	16	26.9	-	M1	トレンチ 10	VJ-33	23	IIa	23	碗	口縁・ 体部	平縁・須江原の 突起(口縁部) 口部直取	なし	粗麻織文	ナメ	外スス 内コガ	大皿	F-373	1666
80-3	957	4.7	(15.4)	3.6	M1	トレンチ 10	VJ-35	23	IIa	23	碗	口縁・ 体部	平縁	内面に突起列多、彫刻による 雲形文、磨面磨玉ガキ	1段溝	ミガキ	なし	丸底 (内底 凹部へ 凸部)		1666
80-4	957	8.6	26.2	-	M1	トレンチ 10	VJ-35	23	IIa	23	碗	口縁・ 体部	平縁・斜目列	なし	粗麻織文	ナメ	外スス 内コガ	大皿		1663
80-5	957	3.7	19	12.2	M1	トレンチ 10	VJ-35	23	IIa	23	碗	口縁・ 体部	平縁・A型突起、口縁に 口部直取の突起	(彫刻による雲形文、彫刻による 縦二線)	1段溝	ミガキ	外部直	大皿		6351
81-1	957	(6.2)	32.2	-	M1	トレンチ 10	VJ-35	23	IIa	23	碗	口縁・ 体部	平縁・口部直取	沈線による雲形文(彫刻なし)	1段溝	ミガキ	なし	大皿	貫通孔1	1664
81-2	958	(33.3)	9.5	(7.4)	M1	SN-B トレンチ 10	VJ-35	23	IIa	23	碗	口縁・ 体部	平縁	磨面による雲形文、磨面直取と 口部直取	口部直取ミガキ、磨面 粗麻織文	ナメ	外スス	平底		5066
82-1	958	9.9	-	1.5	M1	トレンチ 10	VJ-33	23	IIa	23	碗	口縁・ 体部	口縁直取	磨面直取、磨面突起単位、注口 直下に突起直取	粗麻織文	ナメ	外部直	高台		5053
82-2	958	-	-	-	M1	トレンチ 10	VJ-35	23	IIa	23	碗	口縁・ 体部	平縁・口部直取 直下に直取	なし	粗麻織文	ナメ	外スス	大皿		1270
82-3	957	-	-	-	M1	トレンチ 10	VJ-34	23(30)	IIa	23(30)	碗	口縁・ 体部	平縁・口部直取	なし	1段溝	ナメ	外スス	大皿	貫通孔1	1260
82-4	957	-	-	-	M1	トレンチ 10	VJ-35	23	IIa	23	碗	口縁・ 体部	平縁・斜目列	なし	幾何文	ナメ	外スス 内コガ	大皿		1493
82-5	958	-	-	-	M1	トレンチ 2・3	VJ-34・ 33・38	23	IIa	23	碗	口縁・ 体部	平縁・二山状の突起、口部 直取	突起直取による沈線、横位に 磨面する彫刻直取、入取文(右 下がり彫刻直取)	1段溝	ミガキ	外スス 内コガ	大皿		1091
82-6	958	-	-	-	M1	トレンチ 2・3	VJ-34・ 33・38	23	IIa	23	碗	口縁・ 体部	平縁・直取	口部直取直取、磨面直取	粗麻織文	ナメ	なし	大皿	磨面	1092
82-7	958	-	-	-	M1	トレンチ 10	VJ-35	23	IIa	23	碗	口縁・ 体部	平縁・斜目列	口縁直取、磨面直取、磨面 直取	文部磨面直取、体部 直取	ミガキ	外スス 内コガ	大皿		1013
82-8	958	-	-	-	M1	トレンチ 10	VJ-35	23	IIa	23	碗	口縁・ 体部	平縁・斜目列	口縁直取、磨面直取、磨面 直取	文部磨面直取なし、粗 麻織	ナメ	内コガ	大皿		1491
82-9	958	-	-	-	M1	FR-83	VJ-35	23	IIa	23	碗	口縁・ 体部	平縁・口部直取	磨面直取	文部磨面直取なし、体部 直取	ナメ	内コガ	大皿		1465
82-10	958	-	-	-	M1	FR-83	VJ-35	23	IIa	23	碗	口縁・ 体部	平縁・口部直取	文部磨面直取なし、体部 直取	文部磨面直取なし、体部 直取	ナメ	外スス 内コガ	大皿		1467
82-11	957	-	-	-	M1	トレンチ 10	VJ-35	23	IIa	23	碗	口縁・ 体部	平縁・斜目列	磨面直取、直取、磨面直取 直取	文部磨面直取なし、体部 直取	ナメ	なし	大皿		1142
82-12	957	-	-	-	M1	トレンチ 10	VJ-35	23	IIa	23	碗	口縁・ 体部	平縁・斜目列	口縁直取に付いた磨面する直取 列	粗文	ミガキ	外スス 内コガ	大皿		1282
82-13	957	-	-	-	M1	トレンチ 10	VJ-33	23(30)	IIa	23(30)	碗	口縁・ 体部	平縁・口部直取	磨面直取	粗文	ミガキ	なし	大皿		1286
82-14	957	-	-	-	M1	トレンチ 10	VJ-33	23	IIa	23	碗	口縁・ 体部	平縁・口部直取	磨面直取、磨面直取、磨面直取 直取	粗文	ミガキ	なし	大皿		1169

表16 土器観察表 (11)

原産地・器名	時期	口徑 (cm)	高さ (cm)	口径/底径	形状	部位	口縁部態・裝飾	文様	施文	内面	付着物	底径・器高	出土・備考
82-15 9527	—	—	—	23	碗形	口縁部・胴部	口縁部 平縁・肩直乳・突起状	周目より内側入れた茶色斑點による上辺に茶色の斑點。施文なし。縦位の施文。内縁部は縦位の施文。	施文なし。縦位の施文。	ミガキ、ナ	外スス、内コガ	次皿	1311
82-16 9527	—	—	—	23	碗形	口縁部	口縁部 平縁・口唇部分 折れに取	口縁部につく茶色斑點に連続する縦位の施文。胴部は縦位の施文。	縦位の施文。	ミガキ	なし	次皿	1225
82-17 9527	—	—	—	23	碗形	口縁部	口縁部 平縁・口唇部分 折れに取	口縁部につく茶色斑點に連続する縦位の施文。胴部は縦位の施文。	縦位の施文。	不明	外スス、内コガ	次皿	1271
82-18 9527	—	—	—	23	碗形	口縁部	口縁部 平縁・口唇部分 折れに取	口縁部につく茶色斑點に連続する縦位の施文。胴部は縦位の施文。	縦位の施文。	ナゲ	なし	次皿	1373
82-19 9528	—	—	—	23	碗形	口縁部	口縁部 平縁・口唇部分 折れに取	口縁部につく茶色斑點に連続する縦位の施文。胴部は縦位の施文。	縦位の施文。	ナゲ	外スス	次皿	1314
82-20 9528	—	—	—	23	碗形	口縁部	口縁部 平縁・口唇部分 折れに取	口縁部につく茶色斑點に連続する縦位の施文。胴部は縦位の施文。	縦位の施文。	ナゲ	なし	次皿	1471
82-21 9528	—	—	—	23	碗形	口縁部	口縁部 平縁・口唇部分 折れに取	口縁部につく茶色斑點に連続する縦位の施文。胴部は縦位の施文。	縦位の施文。	ナゲ	なし	次皿	1261
82-22 9528	—	—	—	23	碗形	口縁部	口縁部 平縁・口唇部分 折れに取	口縁部につく茶色斑點に連続する縦位の施文。胴部は縦位の施文。	縦位の施文。	ナゲ	なし	次皿	1300
83-1 9528	18.4	27	8.5	8・9	碗形	口縁部	口縁部 平縁・口唇部分 折れに取	口縁部につく茶色斑點に連続する縦位の施文。胴部は縦位の施文。	縦位の施文。	ナゲ	外スス、内コガ	6397	
83-2 9528	15	17.5	—	8・9	碗形	口縁部	口縁部 平縁・口唇部分 折れに取	口縁部につく茶色斑點に連続する縦位の施文。胴部は縦位の施文。	縦位の施文。	ナゲ	外スス、内コガ	9367	
83-3 9528	18.4	27	—	8・9	碗形	口縁部	口縁部 平縁・口唇部分 折れに取	口縁部につく茶色斑點に連続する縦位の施文。胴部は縦位の施文。	縦位の施文。	ナゲ	外スス、内コガ	9553	
83-4 —	—	—	8.4	8・9	碗形	口縁部	口縁部 平縁・口唇部分 折れに取	口縁部につく茶色斑點に連続する縦位の施文。胴部は縦位の施文。	縦位の施文。	ナゲ	外スス	9566	
83-5 9528	7.35	14.3	—	9	碗形	口縁部	口縁部 平縁・口唇部分 折れに取	口縁部につく茶色斑點に連続する縦位の施文。胴部は縦位の施文。	縦位の施文。	ナゲ	外スス、内コガ	9589	
83-6 9528	5.5	11.4	7.2	9	碗形	口縁部	口縁部 平縁・口唇部分 折れに取	口縁部につく茶色斑點に連続する縦位の施文。胴部は縦位の施文。	縦位の施文。	ナゲ	外スス、内コガ	9590	
83-7 9529	—	—	—	9	碗形	口縁部	口縁部 平縁・口唇部分 折れに取	口縁部につく茶色斑點に連続する縦位の施文。胴部は縦位の施文。	縦位の施文。	ナゲ	外スス、内コガ	9704	
83-8 9529	—	—	—	9	碗形	口縁部	口縁部 平縁・口唇部分 折れに取	口縁部につく茶色斑點に連続する縦位の施文。胴部は縦位の施文。	縦位の施文。	ナゲ	外スス、内コガ	9802	
83-9 9529	—	—	—	8	碗形	口縁部	口縁部 平縁・口唇部分 折れに取	口縁部につく茶色斑點に連続する縦位の施文。胴部は縦位の施文。	縦位の施文。	ナゲ	外スス	9859	
83-10 9529	—	—	—	9	碗形	口縁部	口縁部 平縁・口唇部分 折れに取	口縁部につく茶色斑點に連続する縦位の施文。胴部は縦位の施文。	縦位の施文。	ナゲ	外スス、内コガ	9753	
83-11 9529	—	—	—	8	碗形	口縁部	口縁部 平縁・口唇部分 折れに取	口縁部につく茶色斑點に連続する縦位の施文。胴部は縦位の施文。	縦位の施文。	ナゲ	外スス、内コガ	9686	
83-12 9529	—	—	—	8・9	碗形	口縁部	口縁部 平縁・口唇部分 折れに取	口縁部につく茶色斑點に連続する縦位の施文。胴部は縦位の施文。	縦位の施文。	不明	外スス、内コガ	9724	
83-13 9529	—	—	—	9	碗形	口縁部	口縁部 平縁・口唇部分 折れに取	口縁部につく茶色斑點に連続する縦位の施文。胴部は縦位の施文。	縦位の施文。	ナゲ	外スス、内コガ	9631	
83-14 —	—	—	—	8	碗形	口縁部	口縁部 平縁・口唇部分 折れに取	口縁部につく茶色斑點に連続する縦位の施文。胴部は縦位の施文。	縦位の施文。	不明	内コガ	9703	





表16 土器観察表 (13)

器種 器名	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	遺構	トレンチ・ ベクト	段間	層位	型式	器種	部位	口縁形態・裝飾	文様	地文	内面	付着物	底形・ 底跡	加工・備考	器種 番号
85-8	360	4.2	15	19・18	IIa	V1-34	IIa	碗	深鉢	口縁	平縁	横位波線文	ミガキ	なし	欠損		3124	
85-9	360	8.9	—	—	MI	V1a・ I-33	IIa	碗類Ⅱ～ 2	深鉢	口縁	平縁		ミガキ	なし	欠損		6277	
85-10	359	4.3	—	4	MI	V18-34	IIa	碗	小形深鉢	口縁	平縁	?	ミガキ	なし	平底		3071	
85-11	360	27.1 (12.2)	9.5	—	MI	V1-34・ 2・3	IIa	碗	深鉢	口縁	平縁	口縁外周 表側に波紋	ミガキ	なし	欠損	P-5143	6312	
85-12	361	—	—	—	MI	トレンチ71	IIa	碗	深鉢	口縁	平縁		ミガキ	なし	欠損		6278	
85-13	360	—	—	—	MI	トレンチ73	IIa	碗類Ⅱa	深鉢	口縁	平縁	横位波線文	ミガキ	なし	欠損		3133	
86-1	—	—	—	—	MI	トレンチ73	IIa	碗	深鉢	口縁	平縁	なし	ミガキ	なし	欠損		3283	
86-2	360	—	—	—	MI	トレンチ73	IIa	碗	深鉢	口縁	平縁	横位波線文	ミガキ	なし	欠損		3122	
86-3	360	—	—	—	MI	EP-2	IIa	碗	深鉢	口縁	平縁	なし	ミガキ	なし	欠損	小磯	3044	
86-4	360	—	—	—	MI	トレンチ71	IIa	碗	深鉢	口縁	平縁	なし	ミガキ	なし	欠損	小磯	3047	
86-5	—	—	—	—	MI	トレンチ71	IIa	碗	深鉢	口縁	平縁	なし	ミガキ	なし	欠損	口縁上段の粘土 混合部観察用	2752	
86-6	360	—	—	—	MI	トレンチ71	IIa	碗	深鉢	口縁	平縁	なし	ミガキ	なし	欠損	口縁上段の粘土 混合部観察用	3373	
86-7	—	—	—	—	MI	EP-2	IIa	碗類Ⅱa	深鉢	口縁	平縁	横位波線文	不明	なし	欠損		3444	
86-8	—	—	—	—	MI	EP-2	IIa	碗	深鉢	口縁	平縁	横位波線文	不明	なし	欠損		3444	
86-9	360	—	—	—	MI	EP-2	IIa	碗類Ⅱa	深鉢	口縁	平縁	横位波線文	不明	なし	欠損		3411	
86-10	360	—	—	—	MI	トレンチ71	IIa	碗	深鉢	口縁	平縁	横位波線文	不明	なし	欠損		3710	
86-11	—	—	—	—	MI	トレンチ71	IIa	碗	深鉢	口縁	平縁	横位波線文	不明	なし	欠損		2706	
86-12	—	—	—	—	MI	トレンチ71	IIa	碗	深鉢	口縁	平縁	横位波線文	不明	なし	欠損		2771	
86-13	360	—	—	—	MI	トレンチ71	IIa	碗	深鉢	口縁	平縁	横位波線文	不明	なし	欠損		2787	
86-14	360	—	—	—	MI	EP-2	IIa	碗類7-4	深鉢	口縁	平縁	なし	ミガキ	なし	欠損		3445	
86-15	360	—	—	—	MI	トレンチ73	IIa	碗類7-4	深鉢	口縁	平縁	横位波線文	不明	なし	欠損		3174	
86-16	360	—	—	—	MI	トレンチ71	IIa	碗類Ⅱa	深鉢	口縁	平縁	横位波線文	不明	なし	欠損		2922	

表16 土器観察表 (14)

図版 番号	原高 (cm)	口径 (cm)	底径 (cm)	遺構	トレンチ・ ベント	グッド カット	段階	層位	型式	器種	部位	口縁形状・裝飾	文様	地文	内面	付着物	底面・ 裏面	加工・備考	図版 番号
86-17	360	-	-	M1	トレンチ3	V1-34	IIa	19	後期7-4	深鉢	口縁	平縁、山形突起	口縁に凸つて肩状1周、山形突起 下に細かな突起と伴う垂直線、 その外周に凸つた山形突起	1段衝消	ミガキ	外口ス、 内口ス	欠損	小破	3176
86-18	360	-	-	M1	トレンチ3	V1-34	IIa	19	後期7-4	深鉢	底部	欠損	底面に凸つた山形突起、 凸つた山形突起の間に、 間に連続する肩状文様	1段衝消	ナガ	内口ス	欠損		3132
86-19	360	-	-	M1	FXB2	V1-34	IIa	19	晩期IIb	深鉢	口縁	小波状口縁	相対する部縁状と三角状交互 に繰り返す	1段衝消	ミガキ	なし	欠損		3446
86-20	-	-	-	M1	FXB2	V1-34	IIa	19	晩期IIa	深鉢	口縁	平縁、波状の形 突起、口唇直上	突起部に凸つた山形突起、突起下 に凸つた山形突起、波状の形突起 と、交互に繰り返す	1段衝消	ナガ	外口ス、 内口ス	欠損		3412
86-21	360	-	-	M1	トレンチ 2・3	V1-34	IIa	19	晩期IIc	鉢	口縁・ 肩部	平縁、肩目列	連続する波状文、部分的に口縁 に凸つた山形突起、波状の形突起 と、交互に繰り返す	文様縁ミガキ、 ナガ、 内口ス	外口ス、 内口ス	外口ス、 内口ス	遺棄年代分析中	3025	
86-22	360	-	-	M1	トレンチ1	V1-34	IIa	19	晩期IIc	鉢	口縁	平縁	波縁、連続するノの字状の肩 目、内口縁位に波状文	ミガキ	肩目外 内口ス	欠損		9053	
86-23	-	-	-	M1	トレンチ1	V1-35	IIa	19	晩期IIc	注口	口縁	平縁、扇形突起、 口唇直上	突起に凸つた山形突起、波状文、 扇状文	ミガキ	ナガ	なし		3561	
86-24	-	-	-	M1	トレンチ3	V1-34	IIa	19	晩期IIc	鉢	口縁	平縁、口唇直上	突起に凸つた山形突起、波状文、 扇状文	無文	ミガキ	内口ス	欠損	3104	
86-25	360	-	-	M1	トレンチ3	V1-34	IIa	19	晩期IIc	鉢	口縁	平縁、肩目列、 斜段	横位に波状文、上辺の波状文縁 に上下交互に連続する短山形突起、 内口縁位に波状文	無文	ミガキ	外口ス、 内口ス	欠損	3184	
86-26	-	-	-	M1	トレンチ1	V1-33	IIa	19	後期7-4	深鉢	口縁	平縁、波状の形 突起	突起下に凸つた山形突起、波状の形突起 と、交互に繰り返す	波縁のため不明	ナガ	外口ス、 内口ス	欠損	奈良後香部遺跡群 集	3582
86-27	-	-	-	M1	トレンチ2	V1-35	IIa	19	晩期IIb~ 2	鉢	口縁	平縁、B突起	波縁、C字状目	ナガ	ナガ	外口ス	欠損	3335	
86-28	-	-	-	M1	トレンチ 2・3	V1-34	IIa	19	後期7~ 晩期IIb	深鉢	口縁	平縁、B突起	突起部に凸つた山形突起、波状文、 扇状文に連続する短山形突起	1段衝消	ナガ	外口ス、 内口ス	欠損	3012	
86-29	-	-	-	M1	トレンチ1	V1-33	IIa	19	晩期IIb	深鉢	口縁	平縁	波縁に連続する短山形突起	1段衝消	ミガキ	なし	欠損	3051	
86-30	-	-	-	M1	FXB2	V1-34	IIa	19	晩期IIb~ 2	鉢	口縁	平縁、B突起、 部分的に口唇直 上	突起に凸つた山形突起、波状文、 扇状文に連続する短山形突起	無文	ミガキ	外口ス、 内口ス	欠損	3319	
86-31	360	-	-	M1	FXB2	V1-34	IIa	19	晩期IIc	鉢	口縁	平縁、肩目列	肩目による波状文、 波状文縁に連続する短山形突起、 10個、肩の傾斜角が異なる、 波状文縁	1段衝消	ミガキ	外口ス、 内口ス	欠損	3514	
86-32	360	-	-	M1	トレンチ 2・3	V1-34	IIa	19	晩期IIc	皿	口縁	平縁、扇形突起、 肩目列、肩目列 直下	突起に凸つた山形突起、波状文、 扇状文に連続する短山形突起	扇状による波状文	ミガキ	なし	無破	3002	
87-1	360	-	-	M1	トレンチ1	V1-34	IIa	19	晩期IIc	鉢	口縁	平縁	横位に波状文、上辺の波状文縁 に上下交互に連続する短山形突起	1段衝消	ミガキ	内口ス	欠損	3071	
87-2	360	-	-	M1	トレンチ 2・3	V1-34	IIa	19	晩期IIb	鉢	口縁	平縁、口唇直上	横位に波状文、上辺の波状文縁 に上下交互に連続する短山形突起、 内口縁位に波状文	1段衝消	不明	外口ス、 内口ス	欠損	3315	
87-3	-	-	-	M1	トレンチ1	V1-34	IIa	19	晩期IIb	鉢	口縁	平縁	横位に波状文、上辺の波状文縁 に上下交互に連続する短山形突起	1段衝消	不明	内口ス	欠損	3079	

表16 土器観察表 (15)

図録 番号	図録 名称	口径 (cm)	高さ (cm)	底径 (cm)	形状	土色	土質	土質 説明	部位	口縁形態・裝飾	文様	地名	内面	付着物	底形 ・底跡	製作 番号
87-4	960	-	-	19	丸胴後半	IIc	IIc	口縁部、平縁、突起	口縁	平縁、突起	口縁部施文なし、体部施文	無文	ミガキ	なし	丸胴	3459
87-5	960	-	-	19	丸胴前半	IIc	IIc	口縁部	口縁	平縁、刻目	口縁部施文なし、体部施文	無文	不明	内コガ	丸胴	3503
87-6	-	-	-	19	丸胴後半	IIc	IIc	口縁部	口縁	平縁、刻目	口縁部施文なし、体部施文	無文	不明	内コガ	丸胴	3117
87-7	-	-	-	19	丸胴後半	IIc	IIc	口縁部	口縁	平縁、刻目	口縁部施文なし、体部施文	無文	不明	外スス、内コガ	丸胴	3202
87-8	-	-	-	19	丸胴	IIc	IIc	口縁部	口縁	平縁、刻目	口縁部施文なし、体部施文	無文	不明	外スス、内コガ	丸胴	2709
87-9	-	-	-	19	丸胴前半	IIc	IIc	口縁部	口縁	平縁、刻目	口縁部施文なし、体部施文	無文	不明	外スス、内コガ	丸胴	2925
87-10	-	-	-	19	丸胴後半	IIc	IIc	口縁部	口縁	平縁、刻目	口縁部施文なし、体部施文	無文	不明	外スス、内コガ	丸胴	2973
87-11	-	-	-	19	丸胴後半	IIc	IIc	口縁部	口縁	平縁、刻目	口縁部施文なし、体部施文	無文	不明	外スス、内コガ	丸胴	2774
87-12	-	-	-	19	丸胴中盤	IIc	IIc	口縁部	口縁	平縁、刻目	口縁部施文なし、体部施文	無文	不明	外スス、内コガ	丸胴	3009
87-13	961	-	-	30	丸胴後半	IIc	IIc	口縁部	口縁	平縁、刻目	口縁部施文なし、体部施文	無文	不明	外スス、内コガ	丸胴	1382
87-14	961	-	-	20・18	丸胴	IIc	IIc	口縁部	口縁	平縁、刻目	口縁部施文なし、体部施文	無文	不明	外スス、内コガ	丸胴	1338
87-15	961	4.5 (備 3.7)	-	30	丸胴	IIc	IIc	口縁部	口縁	平縁、刻目	口縁部施文なし、体部施文	無文	不明	外スス、内コガ	丸胴	1339
88-1	961	21.0	20.2	7.0	丸胴中盤	IIc	IIc	口縁部	口縁	平縁、刻目	口縁部施文なし、体部施文	無文	不明	外スス、内コガ	丸胴	6427
88-2	961	16.1	16.1	5.2	丸胴1~5	IIc	IIc	口縁部	口縁	平縁、刻目	口縁部施文なし、体部施文	無文	不明	外スス、内コガ	丸胴	3991
88-3	961	-	19.8	-	丸胴後半	IIc	IIc	口縁部	口縁	平縁、刻目	口縁部施文なし、体部施文	無文	不明	外スス、内コガ	丸胴	6349
88-4	961	-	-	-	丸胴	IIc	IIc	口縁部	口縁	平縁、刻目	口縁部施文なし、体部施文	無文	不明	外スス、内コガ	丸胴	5069
88-5	961	-	-	-	丸胴後半	IIc	IIc	口縁部	口縁	平縁、刻目	口縁部施文なし、体部施文	無文	不明	外スス、内コガ	丸胴	6053
88-6	961	-	-	-	丸胴後半	IIc	IIc	口縁部	口縁	平縁、刻目	口縁部施文なし、体部施文	無文	不明	外スス、内コガ	丸胴	6119
88-7	961	-	-	-	丸胴後半	IIc	IIc	口縁部	口縁	平縁、刻目	口縁部施文なし、体部施文	無文	不明	外スス、内コガ	丸胴	6070
88-8	961	-	-	-	丸胴	IIc	IIc	口縁部	口縁	平縁、刻目	口縁部施文なし、体部施文	無文	不明	外スス、内コガ	丸胴	6844

表16 土器観察表 (16)

原器 番号	原器 図版	原高 (cm)	口徑 (cm)	底径 (cm)	口径・ グロッド ベント	遺構	トレンチ・ レベル	段階	部位	器種	形状	用途	器表・ 器底	器文	内面	付着物	産出 層・場所	出土・備考	原器 番号
89-1	361	22.5	25.9	-	M1	トレンチ 8-9	VF-34	IIa	20	口縁~ 体部	縁部 4	口縁に 平線、頸部は 小突起と凸凹突 目並、中形突起 形が際立つ。中 形突起は口縁中 部から腹縁中 部にかけて連続 して、口縁部 に2本の突起を 生ずる。	文様	ミガキ	外スス、 内コウ	文様		5277	
89-2	391	4.8	16.9	7.4	M1	トレンチ4	VG-34	IIa	20	縁部	縁部	口縁部	平線、頸部は 凸凹突目並	ミガキ	縁部外面	灰底	P-5064、 P-5065	3095	
89-3	-	-	-	-	M1	EB-81	VH-33・ 34	IIa	20	縁部	縁部	口縁部	平線、頸部は 凸凹突目並	ナツ	外スス	灰底		757	
89-4	-	-	-	-	M1	トレンチ4	VG-33	IIa	20	縁部	縁部	口縁部	平線、口唇部 は凸凹突目並	ナツ	外スス	灰底		797	
89-5	-	-	-	-	M1	トレンチ4	VG-33	IIa	20	縁部	縁部	口縁部	平線、三山状突起	ナツ	外スス	灰底		804	
89-6	361	-	-	-	M1	トレンチ4	VG-33	IIa	20	縁部	縁部	口縁部	平線、低く凸凹突 目並の突起を 生ずる	ミガキ	外スス	灰底	P-5059	1304	
89-7	361	-	-	-	M1	トレンチ4	VG-33	IIa	20	縁部	縁部	口縁部	平線、口唇部 は凸凹突目並、 口唇部は口縁 部から腹縁中 部にかけて連続 して、口縁部 に2本の突起を 生ずる	ナツ	外スス	灰底	P-5059	1304	
89-8	361	-	-	-	M1	トレンチ4	VJ-35	IIa	20	縁部	縁部	口縁部	平線	ナツ	外スス	灰底		2288	
89-9	361	-	-	-	M1	トレンチ4	VG-33	IIa	20	縁部	縁部	口縁部	平線、凸凹突目 並、口唇部は 凸凹突目並	ミガキ	なし	灰底	P-5060	1399	
89-10	361	-	-	-	M1	トレンチ4	VG-33	IIa	20	縁部	縁部	口縁部	平線、凸凹突目 並、口唇部は 凸凹突目並	ミガキ	なし	灰底	P-5061	1397	
89-11	361	-	-	-	M1	トレンチ4	VG-33	IIa	20	縁部	縁部	口縁部	平線、凸凹突目 並、口唇部は 凸凹突目並	ミガキ	なし	灰底	P-5059	1401	
89-12	361	-	-	-	M1	トレンチ4	VG-33	IIa	20	縁部	縁部	口縁部	平線、凸凹突目 並、口唇部は 凸凹突目並	ミガキ	なし	灰底	P-5064	1396	
89-13	361	-	-	-	M1	トレンチ4	VG-33	IIa	20	縁部	縁部	口縁部	平線、凸凹突目 並、口唇部は 凸凹突目並	ミガキ	なし	灰底	P-5053	1402	

表16 土器観察表 (17)

器類 番号	口縁 高径 (cm)	口縁 底径 (cm)	高径 (cm)	底径 (cm)	遺構	トレンチ 番号	グロッド 番号	段層	型式	器種	部位	口縁形状・裝飾	文様	地文	外面	付着物	原形・器類	加工・備考	器類 番号
89-14	36.1	-	-	-	M	トレンチ4	V6-33	Ⅱa	晩期Ⅱa	深鉢	注口 底部	欠損	注口以下二段の彫込み、深 底及び浅底に上縁	Ⅱa(滑石用)、外周下半 部Ⅱa	ナゲ	なし	欠損	磨砂	788
89-15	36.1	-	-	-	M	トレンチ4	V6-33	Ⅱa	晩期Ⅱa	深鉢	注口 底部	欠損	なし	Ⅱa(滑石用)	ナゲ	なし	欠損	磨砂	1600
90-1	36.2	33.4	8.8	-	S027・ S029・M	トレンチ4	VH-32・ 33	Ⅱa	晩期前半 Ⅱa	深鉢	彫刻部 底部	平縁、口唇部 彫刻部(口唇部 部分に口唇部装 飾)	なし	高級文様施文(滑石 用)Ⅱa(滑石用) Ⅱa上縁彫文(Ⅱa)	外スス、 内コケ	なし	高台	S028か?	118
90-2	36.2	16.5	10.3	4	M	トレンチ1	V6-33	Ⅱa	晩期	深鉢	彫刻部 底部	平縁、刻目目 彫刻部	高級文様施文(下部の注口は横文 彫刻部上縁に2cm 程度に横文)	Ⅱa(滑石用)	外スス、 内コケ	平足	F-5109、原形年代 分析中	3002	
90-3	36.2	8.6	13	2	M	トレンチ1	VH-33	Ⅱa	晩期前半	林	彫刻部 底部	平縁、口唇部装 飾	なし	Ⅱa(滑石用)	外スス、 内コケ	丸底	F-5206	5694	
90-4	36.2	-	-	-	M	トレンチ1	VH-32・ 33	Ⅱa	晩期	深鉢	彫刻部 底部	平縁、口唇部装 飾	なし	Ⅱa(滑石用)	外スス、 内コケ	欠損		605	
90-5	36.2	-	-	-	M	トレンチ4	V1-33	Ⅱa	晩期	深鉢	彫刻部 底部	平縁、口唇部装 飾	なし	Ⅱa(滑石用)	ナゲ	なし	欠損		711
90-6	36.2	-	-	-	M	F9-B1	V6-32・ 33	Ⅱa	晩期Ⅱa~ b	林	口縁~ 底部	小波状口縁	高級文様施文 彫刻部上縁	Ⅱa(滑石用)	外スス、 内コケ	なし	欠損、口縁部上縁 の粘土層部装飾 磨砂		722
90-7	36.2	-	-	-	M	トレンチ1	V H-34(6)	Ⅱa	晩期Ⅱa	林	口縁~ 底部	平縁、口唇部装 飾	なし	Ⅱa(滑石用)	ナゲ	なし	欠損		701
90-8	36.2	-	-	-	M	トレンチ1	VH-33	Ⅱa	晩期Ⅱa	林	口縁~ 底部	平縁、口唇部装 飾	草書状文	Ⅱa(滑石用)	外スス、 内コケ	なし	欠損		574
90-9	36.2	-	-	-	M	トレンチ1	VH-32・ 33	Ⅱa	晩期Ⅱ-4	深鉢	口縁~ 底部	平縁	Ⅱa(滑石用)	Ⅱa(滑石用)	ナゲ	外スス、 内コケ	欠損		607
90-10	36.2	-	-	-	M	トレンチ1	VH-33	Ⅱa	晩期Ⅱa~ b	林	底部	欠損	Ⅱa(滑石用)に塗れる 彫刻部上縁、横文に横文 彫刻部上縁、曲線文	Ⅱa(滑石用)	外スス、 内コケ	なし	欠損		574
90-11	36.2	-	-	-	M	トレンチ1	VH-33	Ⅱa	晩期後半	深鉢	口縁	平縁	Ⅱa(滑石用)に塗れる 彫刻部上縁、曲線文	Ⅱa(滑石用)	外スス、 内コケ	なし	欠損		607
90-12	36.2	-	-	-	M	トレンチ1	VH-32	Ⅱa	晩期Ⅱ-4	深鉢	口縁	平縁	Ⅱa(滑石用)に塗れる 彫刻部上縁、曲線文	Ⅱa(滑石用)	外スス、 内コケ	なし	欠損		672
90-13	36.2	-	-	-	M	トレンチ1	VH-32	Ⅱa	晩期Ⅱ-4	深鉢	口縁	平縁	Ⅱa(滑石用)に塗れる 彫刻部上縁、曲線文	Ⅱa(滑石用)	外スス、 内コケ	なし	欠損		671
91-1	36.2	-	-	-	M	トレンチ1	VH-33	Ⅱa	晩期Ⅱa~ b	深鉢	口縁	平縁	Ⅱa(滑石用)に塗れる 彫刻部上縁、曲線文	Ⅱa(滑石用)	外スス、 内コケ	なし	欠損		603
91-2	36.2	-	-	-	M	トレンチ1	VH-32	Ⅱa	晩期Ⅱa~ b	深鉢	口縁	平縁	Ⅱa(滑石用)に塗れる 彫刻部上縁、曲線文	Ⅱa(滑石用)	外スス、 内コケ	なし	欠損		608
91-3	36.2	-	-	-	M	トレンチ1	VH-33	Ⅱa	晩期Ⅱa~ b	深鉢	口縁	平縁	Ⅱa(滑石用)に塗れる 彫刻部上縁、曲線文	Ⅱa(滑石用)	外スス、 内コケ	なし	欠損		577
91-4	36.2	-	-	-	M	トレンチ1	VH-32	Ⅱa	晩期Ⅱa~ b	深鉢	口縁	平縁	Ⅱa(滑石用)に塗れる 彫刻部上縁、曲線文	Ⅱa(滑石用)	外スス、 内コケ	なし	欠損		602
91-5	36.2	-	-	-	M	トレンチ1	VH-32	Ⅱa	晩期Ⅱa~ b	深鉢	口縁	平縁	Ⅱa(滑石用)に塗れる 彫刻部上縁、曲線文	Ⅱa(滑石用)	外スス、 内コケ	なし	欠損		573
91-6	36.2	-	-	-	M	トレンチ1	VH-33	Ⅱa	晩期Ⅱa~ b	深鉢	口縁	平縁	Ⅱa(滑石用)に塗れる 彫刻部上縁、曲線文	Ⅱa(滑石用)	外スス、 内コケ	なし	欠損		597
91-7	36.2	-	-	-	M	トレンチ1	VH-32	Ⅱa	晩期Ⅱa~ b	深鉢	口縁	平縁	Ⅱa(滑石用)に塗れる 彫刻部上縁、曲線文	Ⅱa(滑石用)	外スス、 内コケ	なし	欠損		607

表16 土器観察表 (18)

器種 器番号	口径 (cm)	底径 (cm)	遺構	トレンチ・ レベル	グワッド	段階	部位	型式	器種	部位	口縁形態・裝飾	文様	地名	内面	付着物	底径・ 口縁	出土・備考
91-6	36.2	-	-	M1	トレンチ4 V6-33	IIa	口縁・ 胴部	白雲土 式	深鉢	口縁・ 胴部	口縁に突起 環状付付文	口縁部周縁部分付、突起下部三角 形突起土器取付、粘土質土に粘土 混入付、内文地に粒状斑付	東横田遺文	ナガ	外スス	次皿	P-5200
91-7	36.2	-	-	M1	トレンチ1 V7-33	IIa	口縁・ 胴部	復形式	深鉢	口縁・ 胴部	平鉢	口縁部周縁部、 口縁部周縁部	東横田遺文	ミガキ キ、ナ	なし	次皿	739
91-8	36.2	-	-	M1	トレンチ4 V6-33	IIa	口縁・ 胴部	復形式 木目斑付	深鉢	口縁・ 胴部	平鉢、口縁面取	口縁部周縁部、 口縁部周縁部	東横田遺文	ミガキ キ、ナ	外スス	次皿	615
91-9	36.2	-	-	M1	トレンチ1 V7-33	IIa	口縁・ 胴部	復形式	深鉢	口縁・ 胴部	平鉢、口縁面取	口縁部周縁部、 口縁部周縁部	東横田遺文	ミガキ キ、ナ	外スス	次皿	681
91-10	36.2	-	-	M1	トレンチ1 V7-33	IIa	口縁・ 胴部	復形式4	深鉢	口縁・ 胴部	平鉢、口縁面取	口縁部周縁部、 口縁部周縁部	東横田遺文	ナガ	外スス	次皿	685
91-11	36.2	-	-	M1	SB-B V6-34	IIa	口縁	映期IIb	鉢	口縁	小突起口縁、三 山状突起	入組二文文	無文	ミガキ	外スス、 内コウ	次皿	638
91-12	36.2	-	-	M1	SB-B V6-34	IIa	口縁	映期IIb	鉢	口縁	平鉢、口縁面取	入組二文文	ミガキ、ナ	ミガキ	外スス、 内コウ	次皿	639
91-13	36.2	-	-	M1	トレンチ1 V7-33	IIa	口縁	映期IIb	鉢	口縁	口縁に突起、 付付突起	口縁に付いて復形式、口縁 部突起	ミガキ	ミガキ	なし	次皿	673
91-14	36.2	-	-	M1	トレンチ4 V6-33	IIa	口縁	映期IIb	鉢	口縁	平鉢、口縁面取	口縁に突起、 付付突起	東横田遺文	ナガ	なし	次皿	915
91-15	36.2	-	-	M1	トレンチ4 V7-33	IIa	口縁	映期IIb	鉢	口縁	平鉢、口縁面取	口縁に突起、 付付突起	東横田遺文	ミガキ	外周内外 面	次皿	9366
91-16	36.2	-	-	M1	トレンチ4 V6-33	IIa	口縁	映期IIb <sub>2</sub>	鉢	口縁	平鉢、口縁面取	口縁に突起、 付付突起	東横田遺文	ミガキ	なし	次皿	963
91-17	36.2	-	-	M1	SB-B V6-34	IIa	口縁	映期IIb	鉢	口縁	平鉢	口縁に突起、 付付突起	東横田遺文	ナガ	なし	次皿	944
91-18	36.2	-	-	M1	SB-B V6-34	IIa	口縁	復形式	鉢	口縁	平鉢	口縁に突起、 付付突起	東横田遺文	ナガ	なし	次皿	949
91-19	-	-	-	M1	トレンチ4 V6-33	IIa	口縁	復形式	深鉢	口縁	深鉢口縁、彫 刻	口縁に突起、 付付突起	東横田遺文	ナガ	なし	次皿	932
100-1	36.7	15.9	-	8.5	M1 トレンチ5 V1-26	IIb	口縁	映期IIb	深鉢	口縁	平鉢、口縁面取 起し	なし	東横田遺文	ナガ	外スス、 内コウ	高台	P-5138・5142
100-2	36.6	24.4	32	-	M1 トレンチ5 V7-35 V1-26	IIb	口縁	映期IIb	深鉢	口縁	平鉢、口縁面取	なし	東横田遺文	ナガ	外スス、 内コウ	次皿	P-5014・P-5046、 P-5048、 P-5049、 P-5050、 P-5051、 P-5052、 P-5053、 P-5054、 P-5055、 P-5056、 P-5057、 P-5058、 P-5059、 P-5060、 P-5061、 P-5062、 P-5063、 P-5064、 P-5065、 P-5066、 P-5067、 P-5068、 P-5069、 P-5070、 P-5071、 P-5072、 P-5073、 P-5074、 P-5075、 P-5076、 P-5077、 P-5078、 P-5079、 P-5080、 P-5081、 P-5082、 P-5083、 P-5084、 P-5085、 P-5086、 P-5087、 P-5088、 P-5089、 P-5090、 P-5091、 P-5092、 P-5093、 P-5094、 P-5095、 P-5096、 P-5097、 P-5098、 P-5099、 P-5100、 P-5101、 P-5102、 P-5103、 P-5104、 P-5105、 P-5106、 P-5107、 P-5108、 P-5109、 P-5110、 P-5111、 P-5112、 P-5113、 P-5114、 P-5115、 P-5116、 P-5117、 P-5118、 P-5119、 P-5120、 P-5121、 P-5122、 P-5123、 P-5124、 P-5125、 P-5126、 P-5127、 P-5128、 P-5129、 P-5130、 P-5131、 P-5132、 P-5133、 P-5134、 P-5135、 P-5136、 P-5137、 P-5138、 P-5139、 P-5140、 P-5141、 P-5142、 P-5143、 P-5144、 P-5145、 P-5146、 P-5147、 P-5148、 P-5149、 P-5150、 P-5151、 P-5152、 P-5153、 P-5154、 P-5155、 P-5156、 P-5157、 P-5158、 P-5159、 P-5160、 P-5161、 P-5162、 P-5163、 P-5164、 P-5165、 P-5166、 P-5167、 P-5168、 P-5169、 P-5170、 P-5171、 P-5172、 P-5173、 P-5174、 P-5175、 P-5176、 P-5177、 P-5178、 P-5179、 P-5180、 P-5181、 P-5182、 P-5183、 P-5184、 P-5185、 P-5186、 P-5187、 P-5188、 P-5189、 P-5190、 P-5191、 P-5192、 P-5193、 P-5194、 P-5195、 P-5196、 P-5197、 P-5198、 P-5199、 P-5200
100-1	36.6	18.4	26.8	-	M1 トレンチ5 V1-26	IIb	口縁	映期IIb	深鉢	口縁・ 胴部	平鉢、口縁面取	口縁部周縁部、 口縁部周縁部	東横田遺文	ナガ	外スス、 内コウ	次皿	9382
100-2	-	14.7	16	7	M1 トレンチ5 V1-26	IIb	口縁	映期IIb	深鉢	口縁	平鉢、口縁面取	なし	東横田遺文	ナガ	外スス、 内コウ	次皿	9420
100-3	36.7	14.5	22.6	-	M1 トレンチ5 V1-26	IIb	口縁	映期IIb	深鉢	口縁	平鉢、口縁面取	なし	東横田遺文	ミガキ キ、ナ	外スス、 内コウ	次皿	9386
100-4	36.7	18.6	(20.2)	7.3	M1 トレンチ 5	IIb	口縁	映期IIb	深鉢	口縁・ 胴部	平鉢、口縁面取	口縁部周縁部、 口縁部周縁部	東横田遺文	ミガキ	外スス、 内コウ	有	6333

表16 土器観察表 (19)

器名・器号	図例	高さ (cm)	口径 (cm)	底径 (cm)	遺構	トレンチ・ベント	グアッド	段階	層位	型式	器種	部位	口縁形態・裝飾	文様	地文	内面	付着物	底径形状・厚・口縁	器号・備考
106-5 567	11	31	-	M1	11・12-2	晩期B	丸底	11・12-2	1b	11・12-2	晩期B	口縁~ 胴部	平縁、同外	横位波線に交互した横文	黒	不明	内コガ	丸底	6340
106-6	-	3.8	6.4	M1	23	晩期前半	台形底	23	1b	23	台形底	口縁~ 胴部	平縁、同外	横位波線に交互した横文	黒	ナガ	外コガ	丸底	6352
106-8 567	7.8	20.2	-	M1	11	晩期後半	台形底	11	1b	11	台形底	口縁~ 胴部	平縁、同外	横位波線に交互した横文	黒	ナガ	内外外面	丸底	6416
106-1	-	7.1	14	M1	11	晩期後半	台形底	11	1b	11	台形底	口縁~ 胴部	平縁、同外	横位波線に交互した横文	黒	ナガ	外コガ	丸底	6218
106-2 567	4.6	-	8.3	M1	11	晩期後半	台形底	11	1b	11	台形底	口縁~ 胴部	平縁、同外	横位波線に交互した横文	黒	ナガ	外コガ	丸底	6425
106-3 567	8.1	6	-	M1	11	晩期後半	台形底	11	1b	11	台形底	口縁~ 胴部	平縁、同外	横位波線に交互した横文	黒	ナガ	外コガ	丸底	6061
106-4 567	2.9	9	-	M1	11・23	晩期中葉	台形底	11・23	1b	11・23	台形底	口縁~ 胴部	平縁、同外	横位波線に交互した横文	黒	ナガ	外コガ	丸底	6413
106-5 567	-	-	-	M1	11	晩期前半	不明	11	1b	11	不明	口縁~ 胴部	平縁、同外	横位波線に交互した横文	黒	ナガ	外コガ	丸底	6426
106-6 567	-	-	-	M1	11	晩期前半	不明	11	1b	11	不明	口縁~ 胴部	平縁、同外	横位波線に交互した横文	黒	ナガ	外コガ	丸底	6415
106-7 567	-	-	-	M1	11	晩期前半	不明	11	1b	11	不明	口縁~ 胴部	平縁、同外	横位波線に交互した横文	黒	ナガ	外コガ	丸底	6244
106-8 567	-	-	-	M1	11	晩期後半	台形底	11	1b	11	台形底	口縁~ 胴部	平縁、同外	横位波線に交互した横文	黒	ナガ	外コガ	丸底	9570
106-9 567	-	-	-	M1	11	晩期後半	台形底	11	1b	11	台形底	口縁~ 胴部	平縁、同外	横位波線に交互した横文	黒	ナガ	外コガ	丸底	6418
106-10	-	-	-	M1	11	晩期中葉	台形底	11	1b	11	台形底	口縁~ 胴部	平縁、同外	横位波線に交互した横文	黒	ナガ	外コガ	丸底	6423
106-11	-	-	-	M1	11	晩期後半	台形底	11	1b	11	台形底	口縁~ 胴部	平縁、同外	横位波線に交互した横文	黒	ナガ	外コガ	丸底	6309
106-12 567	-	-	-	M1	11	晩期後半	台形底	11	1b	11	台形底	口縁~ 胴部	平縁、同外	横位波線に交互した横文	黒	ナガ	外コガ	丸底	6414
106-13 567	-	-	-	M1	11	晩期後半	台形底	11	1b	11	台形底	口縁~ 胴部	平縁、同外	横位波線に交互した横文	黒	ナガ	外コガ	丸底	4496
106-14 567	-	-	-	M1	11	晩期後半	台形底	11	1b	11	台形底	口縁~ 胴部	平縁、同外	横位波線に交互した横文	黒	ナガ	外コガ	丸底	6272
106-15 567	-	-	-	M1	23	晩期前半	台形底	23	1b	23	台形底	口縁~ 胴部	平縁、同外	横位波線に交互した横文	黒	ナガ	外コガ	丸底	1110
106-16 567	-	-	-	M1	23	晩期前半	台形底	23	1b	23	台形底	口縁~ 胴部	平縁、同外	横位波線に交互した横文	黒	ナガ	外コガ	丸底	1229
106-17	-	-	-	M1	11	晩期前半	台形底	11	1b	11	台形底	口縁~ 胴部	平縁、同外	横位波線に交互した横文	黒	ナガ	外コガ	丸底	6309
106-18 567	-	-	-	M1	23	晩期後半	台形底	23	1b	23	台形底	口縁~ 胴部	平縁、同外	横位波線に交互した横文	黒	ナガ	外コガ	丸底	6353
106-19 567	-	-	-	M1	11	晩期後半	台形底	11	1b	11	台形底	口縁~ 胴部	平縁、同外	横位波線に交互した横文	黒	ナガ	外コガ	丸底	6249
106-20	-	-	-	M1	11	晩期後半	台形底	11	1b	11	台形底	口縁~ 胴部	平縁、同外	横位波線に交互した横文	黒	ナガ	外コガ	丸底	6393

表16 土器観察表 (20)

原器 番号	切取 位置	器高 (cm)	口径 (cm)	底径 (cm)	土色・ ベント	形状	部位	器種	用途	文様	地文	内面	付着物	原器形 ・説明	加工・備考
106-21	-	-	-	-	M1	丸型	口縁部・胴部	口縁部	丸型	横位文線刻目形、横位文線刻 入組三文字	無文	モガキ	なし	丸型	4258
106-22	967	-	-	-	M1	丸型	口縁部	丸型	丸型	横位文線刻目形、横位文線刻 入組三文字	無文	モガキ	なし	丸型	4258
106-23	-	-	-	-	M1	丸型	口縁部	丸型	丸型	横位文線刻目形、横位文線刻 入組三文字	無文	モガキ	なし	丸型	4258
109-1	969	32.5	35	-	M1	丸型	口縁部	丸型	丸型	横位文線刻目形、横位文線刻 入組三文字	無文	モガキ	なし	丸型	4258
109-2	969	32.5	30	-	M1	丸型	口縁部	丸型	丸型	横位文線刻目形、横位文線刻 入組三文字	無文	モガキ	なし	丸型	4258
111-1	969	27.2	23.5	8.4	M1	丸型	口縁部	丸型	丸型	横位文線刻目形、横位文線刻 入組三文字	無文	モガキ	なし	丸型	4258
111-2	969	15.0	23.5	-	M1	丸型	口縁部	丸型	丸型	横位文線刻目形、横位文線刻 入組三文字	無文	モガキ	なし	丸型	4258
111-3	-	8.55	14.4	-	M1	丸型	口縁部	丸型	丸型	横位文線刻目形、横位文線刻 入組三文字	無文	モガキ	なし	丸型	4258
111-4	969	22.5	30.6	-	M1	丸型	口縁部	丸型	丸型	横位文線刻目形、横位文線刻 入組三文字	無文	モガキ	なし	丸型	4258
111-5	969	13.4	33	-	M1	丸型	口縁部	丸型	丸型	横位文線刻目形、横位文線刻 入組三文字	無文	モガキ	なし	丸型	4258
112-1	-	23.4	23.4	10.2	M1	丸型	口縁部	丸型	丸型	横位文線刻目形、横位文線刻 入組三文字	無文	モガキ	なし	丸型	4258
112-2	970	16	16.5	9	M1	丸型	口縁部	丸型	丸型	横位文線刻目形、横位文線刻 入組三文字	無文	モガキ	なし	丸型	4258
112-3	970	13.5	24.2	-	M1	丸型	口縁部	丸型	丸型	横位文線刻目形、横位文線刻 入組三文字	無文	モガキ	なし	丸型	4258
112-4	970	14.5	16.0	4.7	M1	丸型	口縁部	丸型	丸型	横位文線刻目形、横位文線刻 入組三文字	無文	モガキ	なし	丸型	4258
112-5	970	-	-	-	M1	丸型	口縁部	丸型	丸型	横位文線刻目形、横位文線刻 入組三文字	無文	モガキ	なし	丸型	4258
112-6	-	12.0	-	8.6	M1	丸型	口縁部	丸型	丸型	横位文線刻目形、横位文線刻 入組三文字	無文	モガキ	なし	丸型	4258
112-7	-	12.0	-	10	M1	丸型	口縁部	丸型	丸型	横位文線刻目形、横位文線刻 入組三文字	無文	モガキ	なし	丸型	4258
112-8	969	8.8	-	7.2	M1	丸型	口縁部	丸型	丸型	横位文線刻目形、横位文線刻 入組三文字	無文	モガキ	なし	丸型	4258
113-1	970	8.55	11	5.7	M1	丸型	口縁部	丸型	丸型	横位文線刻目形、横位文線刻 入組三文字	無文	モガキ	なし	丸型	4258
113-2	-	11	12.6	5.6	M1	丸型	口縁部	丸型	丸型	横位文線刻目形、横位文線刻 入組三文字	無文	モガキ	なし	丸型	4258
113-3	970	13.0	14.7	-	M1	丸型	口縁部	丸型	丸型	横位文線刻目形、横位文線刻 入組三文字	無文	モガキ	なし	丸型	4258
113-4	970	10.5	12.9	7.9	M1	丸型	口縁部	丸型	丸型	横位文線刻目形、横位文線刻 入組三文字	無文	モガキ	なし	丸型	4258
113-5	970	11.5	14.8	8.8	M1	丸型	口縁部	丸型	丸型	横位文線刻目形、横位文線刻 入組三文字	無文	モガキ	なし	丸型	4258
113-6	-	(60)	-	6.6	M1	丸型	口縁部	丸型	丸型	横位文線刻目形、横位文線刻 入組三文字	無文	モガキ	なし	丸型	4258
113-7	970	13.0	15.3	(53)	M1	丸型	口縁部	丸型	丸型	横位文線刻目形、横位文線刻 入組三文字	無文	モガキ	なし	丸型	4258



表16 土器観察表 (21)

器名・器種	口徑 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	口径・底径・口径/底径	トレンチ・ベント	遺構	層位	型式	器種	部位	口縁形態・裝飾	文様	地文	内面	付着物	底面形・裝飾	加工・備考	器種番号
113-8	970	9.7	10.6	7.7	M1	トレンチ3	V1-34	皿6	晩期後半	口縁~ 底径	碗形	口縁部上段に 黒文(器底に黒文)	口縁部上段に 黒文(器底に黒文)	ミガキ	外ノズ 内コブ	有	F-5136	6437
113-9	-	-	-	-	M1	EP-82	V1-34	皿6	晩期後半	口縁~ 底径	碗形	黒文	黒文	ナガ	なし	欠損	F-5137	6473
113-10	-	-	-	-	M1	SN-8	V1-35	皿6	晩期後半	口縁~ 底径	碗形	黒文	黒文	ナガ	外ノズ 内コブ	なし	F-5138	9489
113-11	-	4.1	20	-	M1	トレンチ7	V1-34	皿6	晩期後半	口縁~ 底径	碗形	黒文	黒文	ナガ	内コブ	欠損	F-5139	9488
113-12	-	(4.1)	17.8	-	M1	EP-82	V1-34	皿6	晩期後半	口縁~ 底径	碗形	黒文	黒文	ナガ	内コブ	欠損	F-5140	9484
113-13	970	(3.7)	17.85	-	M1	SN-8	V1P-35	皿6	晩期	口縁~ 底径	碗形	黒文	黒文	ナガ	内コブ	欠損	F-5141	9484
113-14	970	(3.3)	16	-	M1	EP-82	V1-34	皿6	晩期	口縁~ 底径	碗形	黒文	黒文	ナガ	内コブ	欠損	F-5142	9481
113-15	970	8.4	14.0	6.4	M1	SN-8	V1P-35	皿6	晩期	口縁~ 底径	碗形	黒文	黒文	ナガ	なし	外ノズ 底面付 有文	F-5143	6435
114-1	970	6.9	(18.2)	5.0	M1	SN-8	V1P-34	皿6	晩期1~5	口縁~ 底径	碗形	黒文	黒文	ナガ	外ノズ 底面付 有文	F-5144	7009	
114-2	970	6.5	(20.3)	6.7	M1	SN-8	V1P-35	皿6	晩期	口縁~ 底径	碗形	黒文	黒文	ナガ	なし	外ノズ 底面付 有文	F-5145	7101
114-3	971	4.8	19	5.8	M1	EP-82	V1-34	皿6	晩期	口縁~ 底径	碗形	黒文	黒文	ナガ	なし	外ノズ 底面付 有文	F-5146	9479
114-4	971	5.6	14.3	5.7	M1	EP-82	V1-34	皿6	晩期	口縁~ 底径	碗形	黒文	黒文	ナガ	なし	外ノズ 底面付 有文	F-5147	6433
114-5	971	7.0	21.8	5.2	M1	EP-82・ SN-8	V1-34・ V1P-35	皿6	晩期1~5	口縁~ 底径	碗形	黒文	黒文	ナガ	外ノズ 底面付 有文	F-5148	6444	
114-6	-	(4.3)	20.1	-	M1	EP-82	V1-34	皿6	晩期	口縁~ 底径	碗形	黒文	黒文	ナガ	なし	外ノズ 底面付 有文	F-5149	9490
114-7	970	(4.6)	22.1	-	M1	トレンチ3	V1-34	皿6	晩期	口縁~ 底径	碗形	黒文	黒文	ナガ	なし	外ノズ 底面付 有文	F-5150	9417
115-1	971	(3.0)	-	8.4	M1	EP-82・ SN-8	V1P-34・ V1P-35	皿6	晩期1~5	口縁~ 底径	碗形	黒文	黒文	ナガ	なし	外ノズ 底面付 有文	F-5151	7004
115-2	971	(8.3)	-	-	M1	EP-82	V1-34	皿6	晩期1~5	口縁~ 底径	碗形	黒文	黒文	ナガ	外ノズ 底面付 有文	F-5152	7007	
115-3	972	(15.0)	9.3	6.2	M1	トレンチ 1+EP-82	V1-34・ V1P-35	皿6	晩期1~5	口縁~ 底径	碗形	黒文	黒文	ナガ	外ノズ 底面付 有文	F-5153	7005	
116-1	971	(16.8)	-	5.6	M1	EP-82	V1-34	皿6	晩期1~5	口縁~ 底径	碗形	黒文	黒文	ナガ	なし	外ノズ 底面付 有文	F-5154	7407

表16 土器観察表 (22)

器名 器番号	口徑 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	容量 (ml)	土質	トレンチ・ レベル 位置	段層	部位	形状	器種	部位	口縁形態・裝飾	文様	施文	内面	付着物	底形 (単位 測定)	出土・備考	器高 器番号
110-2	371	08.0	-	6.5	M	SW-B V1-34	Ⅱ <sup>6</sup> 15	口縁~ 上半部	底	底	口縁~ 上半部	欠隅	肩部・腹位波線、工字文	ミダキ牛	ナゲ	なし	四角付	加土・備考 腹付から腹元まで	7000
110-3	371	01.90	-	5.8	M	トレンチ3 V1-34	Ⅱ <sup>6</sup> 15	口縁~ 下半部	底	底	下半部	欠隅	胴部無文、肩部波線、遺器入底文	ミダキ牛	ナゲ	赤銅外環	平底 (単位 測定)	F-0132、壺山1式	7110
110-4	371	01.90	-	5.3	M	トレンチ1 V10-34	Ⅱ <sup>6</sup> 15	口縁~ 下半部	底	底	口縁~ 下半部	欠隅	波線(平行波線を底位部で区印つた 肩付無文)、突起	波線(肩付、 体部下半)	ナゲ	なし	凹底 (単位 測定)	F-2025	7303
111-1	-	20.5	8.6	9	M	トレンチ3 V1-34	Ⅱ <sup>6</sup> 15	口縁~ 基部	底	底	口縁~ 基部	欠隅	口縁部無文	短直走	ナゲ	なし	平底	F-0131	9404
111-2	371	21.2	-	6.4	M	FR-02 V1-34	Ⅱ <sup>6</sup> 15・27	口縁~ 上半部	底	底	上半部	欠隅	口縁部無文	口縁部ナゲ、 腹直走	ナゲ	なし	凹底		9409
111-3	371	19.7	8.7	9.0	M	FR-02 V1-34	Ⅱ <sup>6</sup> 15	口縁~ 上半部	底	底	上半部	平縁	口縁部無文	口縁部ナゲ、 腹直走	ナゲ	なし	凹底	F-0178	6432
111-4	372	13.5	5.9	6	M	FR-02 V10-34	Ⅱ <sup>6</sup> 15	口縁~ 上半部	底	底	上半部	平縁	口縁部無文	口縁部ナゲ、 腹直走、斜行	ナゲ	なし	凹底	F-0176	6439
111-5	371	13.75	7.6	6.7	M	トレンチ3 V1-35	Ⅱ <sup>6</sup> 15	口縁~ 上半部	底	底	上半部	平縁	口縁部無文、口縁部粘土粒露出 粗縁	口縁部ナゲ、 腹直走	ナゲ	なし	平底	F-0129	6436
111-6	372	14.8	6.7	5.2	M	FR-02 V1-34	Ⅱ <sup>6</sup> 15	口縁~ 上半部	底	底	上半部	平縁	口縁部無文	口縁部ナゲ、 腹直走	ナゲ	なし	平底	F-0175	6431
111-7	372	14.9	5.3	4.5	M	FR-02 V1-34	Ⅱ <sup>6</sup> 15	口縁~ 上半部	底	底	上半部	平縁	口縁部無文	口縁部ナゲ、 腹直走	ナゲ	なし	凹底	F-0181	6446
111-8	372	15.6	-	6.4	M	SW-B V10-35	Ⅱ <sup>6</sup> 15	口縁~ 上半部	底	底	上半部	欠隅	横位波線	口縁部無文	ナゲ	なし	凹底	F-0163	6442
111-9	372	11.8	4.9	4.9	M	FR-02 V10-34	Ⅱ <sup>6</sup> 15	口縁~ 上半部	底	底	上半部	平縁	口縁部無文	口縁部ナゲ、 腹直走、体部 口縁部ナゲ、 体部	ナゲ	なし	平底	F-0177	6440
110-1	372	-	-	-	M	SW-B V1-35	Ⅱ <sup>6</sup> 15	口縁~ 体部	底	底	口縁~ 体部	平縁	なし	短直走	ナゲ	外スス 内コガ	次隅	6039	
110-2	372	-	-	-	M	SW-B V10-34	Ⅱ <sup>6</sup> 15	口縁~ 体部	底	底	口縁~ 体部	平縁、口唇面波	なし	短直走	ナゲ	なし	次隅	6714	
110-3	-	-	-	-	M	SW-B V1-35	Ⅱ <sup>6</sup> 15	口縁~ 体部	底	底	口縁~ 体部	平縁、口唇内面 波線に波紋	なし	短直走	ナゲ	外スス 内コガ	次隅	7060	
110-4	372	-	-	-	M	トレンチ3 V1-34	Ⅱ <sup>6</sup> 15	口縁~ 体部	底	底	口縁~ 体部	平縁、口唇面波	なし	短直走	ナゲ	外スス 内コガ	次隅	F-0132	7842
110-5	372	-	-	-	M	トレンチ3 V1-34	Ⅱ <sup>6</sup> 15	口縁~ 体部	底	底	口縁~ 体部	平縁、口唇面波 波紋に波紋	なし	短直走	ナゲ	外スス 内コガ	次隅	7045	
110-6	372	-	-	-	M	トレンチ3 V1-34	Ⅱ <sup>6</sup> 15	口縁~ 体部	底	底	口縁~ 体部	平縁、二山状波 紋(口唇部)	なし	短直走	ナゲ	外スス 内コガ	次隅	7067	
110-7	372	-	-	-	M	トレンチ3 V1-35	Ⅱ <sup>6</sup> 15	口縁~ 体部	底	底	口縁~ 体部	平縁、口唇面波	なし	短直走	ナゲ	なし	次隅	F-0129	7853
110-8	-	-	-	-	M	SW-B V10-34	Ⅱ <sup>6</sup> 15	口縁~ 体部	底	底	口縁~ 体部	平縁	横文地に横位波線	短直走	ナゲ	外スス	次隅	F-0204	7973
110-9	-	-	-	-	M	トレンチ3 V1-34	Ⅱ <sup>6</sup> 15	口縁~ 体部	底	底	口縁~ 体部	平縁	横文地に横位波線、 内面横位 波紋	短直走	ナゲ	外スス 内コガ	次隅	F-0133	7870
110-10	-	-	-	-	M	SW-B V1-35	Ⅱ <sup>6</sup> 15	口縁~ 体部	底	底	口縁~ 体部	平縁、口唇面波	なし	短直走	ナゲ	外スス 内コガ	次隅	F-0167	7845
110-11	372	-	-	-	M	FR-02 V10-34	Ⅱ <sup>6</sup> 15	口縁~ 体部	底	底	口縁~ 体部	平縁	横文地に横位波線	口縁部ナゲ、 腹直走	ナゲ	外スス 内コガ	次隅	F-0192	7827

表16 土器観察表 (23)

図録 番号	図録 位置	高径 (cm)	口径 (cm)	底径 (cm)	遺構	トレンチ・ レベル	グリップ ワット	層位	型式	器種	部位	口縁形態・裝飾	文様	地文	内面	付着物	底面形 態・裝飾	加工・備考
119-12	972	-	-	-	M1	EP-82	V1-34	Ⅱb	後期4	深鉢	外部	欠損	文様による入墨文、肩周りに黒点状文、口縁に黒点状文	黒点状文	ミガキ	外スス	欠損	
119-13	-	-	-	-	M1	SW-B	V1-35	Ⅱb	中期1b	鉢	口縁	小波状口縁	黒点状文	黒点状文	ミガキ	なし	欠損	
119-14	972	-	-	-	M1	SW-B	V1-35	Ⅱb	中期1b	深鉢	口縁	小波状口縁	文様による入墨文、口縁に黒点状文	黒点状文	ミガキ	外スス	欠損	
119-15	-	-	-	-	M1	EP-82・ト レンチ	V1-34	Ⅱb	後期4	深鉢	口縁	平縁、口唇縁	文様による入墨文、口縁に黒点状文	黒点状文	ミガキ	外スス	欠損	
119-16	-	-	-	-	M1	SW-B	V1-35	Ⅱb	中期1a	鉢	口縁	小波状口縁	文様による入墨文、口縁に黒点状文	黒点状文	ナガ	内コガ	欠損	
119-17	972	-	-	-	M1	SW-B	V1-35	Ⅱb	中期1a	鉢	外部	欠損	文様による入墨文、口縁に黒点状文	黒点状文	ナガ	外スス、 内コガ	欠損	
119-18	972	-	-	-	M1	トレンチ	V1-34	Ⅱb	中期2	鉢	外部	欠損	文様による入墨文、口縁に黒点状文	黒点状文	ナガ	外スス、 内コガ	欠損	
119-19	-	-	-	-	M1	トレンチ	V1-34	Ⅱb	中期後半	鉢	口縁	折戻、折込	文様による入墨文、口縁に黒点状文	黒点状文	ナガ	なし	欠損	
119-20	-	-	-	-	M1	トレンチ	V1-34	Ⅱb	後期後半	壺	口縁	突起	文様による入墨文、口縁に黒点状文	黒点状文	ナガ	なし	欠損	
119-21	972	-	-	-	M1	EP-82	V1-34	Ⅱb	中期後半	鉢	口縁	平縁、口唇縁	文様による入墨文、口縁に黒点状文	黒点状文	ミガキ	なし	欠損	P-5101
119-22	972	-	-	-	M1	SW-B	V1-35	Ⅱb	後期	壺	口縁～ 外部	平縁	なし	ミガキ	なし	欠損		
119-1	973	-	-	-	M1	SW-B	V1-35	Ⅱb	中期後半	鉢	口縁～ 外部	二山状突起	文様による入墨文、口縁に黒点状文	黒点状文	ナガ	なし	欠損	
119-2	972	-	-	-	M1	SW-B	V1-35	Ⅱb	中期後半	鉢	口縁～ 外部	折込	文様による入墨文、口縁に黒点状文	黒点状文	ナガ	外スス、 内コガ	欠損	
119-3	972	-	-	-	M1	SW-B	V1-35	Ⅱb	中期後半	鉢	口縁～ 外部	平縁	文様による入墨文、口縁に黒点状文	黒点状文	ナガ	外スス、 内コガ	欠損	
119-4	973	-	-	-	M1	SW-B	V1-35	Ⅱb	15・6	鉢	口縁	平縁	文様による入墨文、口縁に黒点状文	黒点状文	ナガ	内コガ	欠損	補修孔
119-5	973	-	-	-	M1	SW-B	V1-35	Ⅱb	中期後半	鉢	口縁	折戻、折込	文様による入墨文、口縁に黒点状文	黒点状文	ナガ	なし	欠損	
119-6	973	-	-	-	M1	EP-82	V1-34	Ⅱb	中期後半	鉢	口縁～ 外部	平縁	文様による入墨文、口縁に黒点状文	黒点状文	不明	外スス、 内コガ	欠損	
119-7	973	-	-	-	M1	SW-B	V1-35	Ⅱb	中期後半	鉢	口縁～ 外部	平縁、口唇内側 折込に黒点	文様による入墨文、口縁に黒点状文	黒点状文	不明	外スス、 内コガ	欠損	
119-8	973	-	-	-	M1	SW-B	V1-35	Ⅱb	中期後半	鉢	口縁	平縁	文様による入墨文、口縁に黒点状文	黒点状文	不明	外スス、 内コガ	欠損	
119-9	973	-	-	-	M1	SW-B	V1-35	Ⅱb	後期	鉢	口縁	期目列	文様による入墨文、口縁に黒点状文	黒点状文	不明	外スス、 内コガ	欠損	
119-10	-	-	-	-	M1	EP-82	V1-34	Ⅱb	中期後半	鉢	外部	欠損	文様による入墨文、口縁に黒点状文	黒点状文	ミガキ	なし	欠損	P-5106
119-11	973	-	-	-	M1	EP-82	V1-34	Ⅱb	中期1b	鉢	口縁～ 外部	二山状、目尻	文様による入墨文、口縁に黒点状文	黒点状文	ミガキ	内コガ	欠損	
119-12	973	-	-	-	M1	EP-82	V1-34	Ⅱb	中期4～5	鉢	口縁～ 外部	折戻、折込	文様による入墨文、口縁に黒点状文	黒点状文	ミガキ	内コガ	欠損	
119-13	973	-	-	-	M1	SW-B	V1-35	Ⅱb	後期1a	鉢	口縁	山形折戻、折込	文様による入墨文、口縁に黒点状文	黒点状文	ナガ	なし	欠損	期目目式

表16 土器観察表 (24)

発掘 期数	発掘 位置	高径 (cm)	口徑 (cm)	底径 (cm)	形状	器種	部位	口縁形態・裝飾	文様	地文	内面	付着物	底面形 態・器底	加土・備考	器形 番号
119-14	273	-	-	-	15	碗類	口縁 口縁	山形突起, 口唇 突起, 口縁	体部に横条, 横位文様	無文	ナガ	なし	欠損		6209
119-15	273	-	-	-	15	碗類	口縁	平縁	口縁部短文, 体部に横条, 横位文様	口縁部短文, 体部に横条, 横位文様	ミガキ	なし	欠損		9000
125-1	275 (60.0)	35.4	11.4	-	18	碗類後半	碗底	平縁	横位文様	無文	ナガ	なし	平縁	F5017	9006
125-2	275	39.9	31	-	18	碗類後半	碗底	平縁, 口唇面	なし	無文	ナガ	なし	平縁	F-5051	9017
130-1	-	-	-	-	18	碗類後半	碗底	小突起口縁	横位文様	文部帯横文なし, 体部短文	ナガ	なし	欠損	F-5017	9408
130-2	275	(15.0)	29	-	18	碗類後半	口縁	平縁	横位文様	短直走	ナガ	なし	欠損	9532	
130-3	-	(8.0)	14.2	-	18	碗類後半	口縁	平縁	横位文様	短直走	ナガ	なし	欠損	9538	
130-4	275	(8.0)	28	-	18	碗類後半	口縁	平縁	横位文様	短直走	ナガ	なし	欠損	9539	
130-5	275	12.1	18.2	8.9	18	碗類後半	碗底	平縁, 口唇部分 突起, 口縁	横位文様	文部帯横文なし, 体部短文	ナガ	なし	欠損	F-5022	9529
130-6	275	10.3	13.8	7.8	18	碗類後半	碗底	平縁	横位文様	文部帯横文なし, 体部短文	ナガ	なし	欠損	F-5076	9524
130-7	-	(8.3)	15	-	18	碗類	碗底	平縁	横位文様	文部帯横文なし, 体部短文	ナガ	なし	欠損	F-5183	9409
130-8	275	11.8	15.6	8	18	碗類	碗底	山形突起	横位文様	文部帯横文なし, 体部短文	ナガ	なし	欠損	9465	
130-9	275	(4.6)	21	-	18	碗類	口縁	平縁	横位文様, 口唇部短文, 体部短文	口縁部短文, 体部短文, 口唇部短文	ミガキ	なし	欠損	横位文様4cm± との等間隔に並んで いる	7920
130-10	275 (5.2)	-	7.3	MI	18	碗類	台部	平縁	横位文様	口縁部短文, 体部短文	ナガ	なし	平	8309	
130-11	275 (5.1)	-	7.8	MI	18	碗類	台部	平縁	横位文様	口縁部短文, 体部短文	ナガ	なし	平	9010	
130-12	275 (5.1)	-	7	MI	18	碗類	台部	平縁	横位文様	口縁部短文, 体部短文	ナガ	なし	平	F-5008	9019
137-1	275	11.7	(18.0)	8.5	MI	碗類	碗底	8突起4単位	口縁部短文, 体部短文, 工字文, 横位文様	ミガキ	彩色内外 なし	台通 乳	F-5006	7306	
137-2	275	11	18.6	7	MI	碗類	碗底	8突起4単位	口縁部短文, 体部短文, 工字文, 横位文様	ミガキ	彩色内外 なし	台通 乳	F-5182	9317	
137-3	275	10	16	8	MI	碗類	碗底	8突起	口縁部短文, 体部短文, 工字文	ミガキ	彩色内外 なし	台通 乳	F-5038	9338	
137-4	275	(8.7)	21.2	(6.0)	MI	碗類	台部	8突起4単位	口縁部短文, 体部短文, 工字文, 横位文様	ミガキ	彩色内外 なし	台通 乳	F-5069	7302	
137-5	275	(6.3)	(16.0)	-	MI	碗類	台部	8突起4単位	口縁部短文, 体部短文, 工字文, 横位文様	ミガキ	彩色内外 なし	台通 乳	F-5077	7499	
137-6	275	(5.9)	10.4	-	MI	碗類	口縁	山形突起, 口唇部短文	口縁部短文, 体部短文, 工字文, 横位文様	ミガキ	彩色内外 なし	台通 乳	F-5182, 横直走工 字文	9322	
137-7	275	4.5	13.4	4.8	MI	碗類	口縁	平縁	口縁部短文(平縁で内側), 体部短文(平縁で内側)	ミガキ	なし	底面 彩色(底面 彩色)	F-5079	9331	
137-8	275	5.55	17	6.1	MI	碗類	碗底	平縁	口縁部短文(平縁で内側), 体部短文(平縁で内側)	ミガキ	なし	底面 彩色(底面 彩色)	F-5079	9331	

表16 土器観察表 (25)

器名・器号	図例	口縁高 (cm)	口径 (cm)	底径 (cm)	高 (cm)	口径/底径	器種	トレンチ・ベント	位置	層位	型式	器種	部位	口縁形態・裝飾	文様	施文	内面	付着物	底径形態・裝飾	器号
127-9	—	5.6	15.6	5.5	M1	E#42	深鉢	V1-34 34	DB	18	晩期後半	深鉢	胎元形	平縁	縦立文様線、上部直上横立文様線	口縁部直上、体部直上	ミゴキ	なし	欠損	9514
127-10	9756	4.7	15.4	3	M1	E#42	深鉢	V1-34 3・E#42	DB	17・18	晩期後半	深鉢	胎元形	切交長4単位	なし	ミゴキ	胎元内外面	胎元内外面	9414	
127-11	9756	6.1	26.7	—	M1	E#42	深鉢	V1-34 2・3	DB	18	晩期後半	深鉢	胎元形	切交長4単位	なし	ミゴキ	胎元内外面	胎元内外面	9904	
128-1	9756	—	18.8	10.4	M1	E#42	深鉢	V1-34	DB	18	晩期後半	深鉢	胎元形	平縁、短長三角形	縦立文様線、肩縁直線、腰縁入線、文、内面横立文様線	口縁部直上、体部直上	ナゲ	なし	横折小直線文様線、肩縁直線	9077
128-2	9756	—	18.8	10.4	M1	E#42	深鉢	V1-34	DB	18	晩期後半	深鉢	胎元形	平縁	肩部直上横立文様線、上文字、横立文様線	口縁部直上、体部直上	ナゲ	なし	平縁	9090
128-3	—	15.3	6.6	7	M1	E#42	深鉢	V1-33	DB	18	晩期後半	深鉢	胎元形	平縁、口唇直線	口縁部直上、体部直上	ナゲ	なし	平縁	9311	
128-4	9756	—	13.7	—	M1	E#42	深鉢	V1-33 1・3・5・34	DB	18・16	晩期後半	深鉢	胎元形	平縁、口唇直線	口縁部直上、肩縁直線、腰縁入線、文、胎元直上横立文様線	ナゲ	なし	平縁	9313	
128-5	9756	—	16.0	10.8	—	M1	深鉢	V1-34	DB	18	晩期後半	深鉢	胎元形	平縁、口唇直線	口縁部直上、肩縁直線、腰縁入線、文、内面直上横立文様線	ナゲ	なし	平縁	9319	
128-6	—	14.2	6.4	6.8	M1	E#42	深鉢	V1-34	DB	18	晩期後半	深鉢	胎元形	平縁、口唇直線	口縁部直上、体部直上	ナゲ	なし	平縁	9315	
128-7	9756	—	14.0	6	M1	E#42	深鉢	V1-34 2・3	DB	18	晩期後半	深鉢	胎元形	平縁	口縁部直上、体部直上	ナゲ	なし	平縁	9405	
128-8	9756	—	14.0	4	M1	E#42	深鉢	V1-34	DB	18	晩期後半	深鉢	胎元形	平縁	口縁部直上、体部直上	ナゲ	なし	平縁	9394	
128-9	9756	—	15.1	4.3	—	M1	深鉢	V1-34	DB	18	晩期後半	深鉢	胎元形	平縁	口縁部直上、体部直上	ナゲ	なし	平縁	9404	
129-1	—	19.7	8.2 (最大口径11.1)	—	M1	E#42	深鉢	V1-34	DB	18	晩期後半	深鉢	胎元形	平縁、口唇直線	口縁部直上、体部直上	ナゲ	なし	平縁	9512	
129-2	9777	—	14.8	10.2	6	M1	深鉢	V1-34 1・E#42	DB	18	晩期後半	深鉢	胎元形	平縁	なし	ミゴキ	胎元内外面	胎元内外面	9516	
129-4	9777	—	—	—	M1	E#42	深鉢	V1-34	DB	18	晩期後半	深鉢	胎元形	平縁	なし	ミゴキ	胎元内外面	胎元内外面	8455	
129-5	9777	—	—	—	M1	E#42	深鉢	V1-34	DB	18	晩期後半	深鉢	胎元形	平縁	なし	ナゲ	なし	欠損	8116	
129-6	9777	—	—	—	M1	E#42	深鉢	V1-34	DB	18	晩期後半	深鉢	胎元形	平縁	口縁部直上、体部直上	ナゲ	ナゲ	胎元内外面	胎元内外面	7918
129-7	9777	—	—	—	M1	E#42	深鉢	V1-34	DB	18	晩期後半	深鉢	胎元形	平縁	なし	ナゲ	胎元内外面	胎元内外面	8062	
129-8	9777	—	—	—	M1	E#42	深鉢	V1-34	DB	18	晩期後半	深鉢	胎元形	平縁、口唇直線	口縁部直上、体部直上	ナゲ	なし	欠損	8468	
129-9	9777	—	—	—	M1	E#42	深鉢	V1-34	DB	18	晩期後半	深鉢	胎元形	平縁、口唇直線	口縁部直上、体部直上	ナゲ	なし	欠損	8658	
129-10	—	—	—	—	M1	E#42	深鉢	V1-34	DB	18	晩期後半	深鉢	胎元形	平縁、部分部に口唇直線	口縁部直上、体部直上	ナゲ	なし	欠損	9091	
129-11	—	—	—	—	M1	E#42	深鉢	V1-34	DB	18	晩期後半	深鉢	胎元形	平縁	口縁部直上、体部直上	ナゲ	なし	欠損	9309	
129-12	9777	—	—	—	M1	E#42	深鉢	V1-34	DB	18	晩期後半	深鉢	胎元形	平縁	なし	胎元直上	胎元直上	欠損	9520	

表16 土器観察表 (26)

図録 番号	図録 位置	口徑 (cm)	高さ (cm)	遺構	トレンチ・ レベル	図式	器種	部位	口縁形態・裝飾	文様	地文	内面	付着物	底形・ 器底	出土・備考
130-13	977	-	-	M1	トレンチ3	V1-34	皿	口縁へ 外部	平縁	なし	染織文	ナガ	なし	次圓	
130-1	-	-	-	M1	トレンチ3	V1-34	深鉢	口縁	平縁・突起の周 面取	突起部は高麗式 の口縁に似て同 面取	肌	ナガ	なし	次圓	
130-2	978	-	-	M1	トレンチ3	V1-34	深鉢	口縁	平縁	突起部は高麗式 の口縁に似て同 面取	肌	ナガ	なし	次圓	
130-3	977	-	-	M1	トレンチ2	V1-34	皿	口縁へ 外部	平縁	突起部は高麗式 の口縁に似て同 面取	肌	ナガ	なし	次圓	
130-4	-	-	-	M1	トレンチ3	V1-34	皿	口縁へ 外部	平縁	突起部は高麗式 の口縁に似て同 面取	肌	ナガ	なし	次圓	
130-5	977	-	-	M1	トレンチ3	V1-34	皿	口縁へ 外部	平縁	突起部は高麗式 の口縁に似て同 面取	肌	ナガ	なし	次圓	
130-6	977	-	-	M1	トレンチ3	V1-34	皿	口縁へ 外部	平縁	突起部は高麗式 の口縁に似て同 面取	肌	ナガ	なし	次圓	
130-7	977	-	-	M1	トレンチ3	V1-34	皿	口縁へ 外部	平縁	突起部は高麗式 の口縁に似て同 面取	肌	ナガ	なし	次圓	
130-8	-	-	-	M1	トレンチ3	V1-34	皿	口縁へ 外部	平縁	突起部は高麗式 の口縁に似て同 面取	肌	ナガ	なし	次圓	
130-9	977	-	-	M1	トレンチ3	V1-34	皿	口縁へ 外部	平縁	突起部は高麗式 の口縁に似て同 面取	肌	ナガ	なし	次圓	
130-10	977	-	-	M1	トレンチ1	V1-34	皿	口縁へ 外部	平縁	突起部は高麗式 の口縁に似て同 面取	肌	ナガ	なし	次圓	
130-11	978	-	-	M1	トレンチ3	V1-34	皿	口縁へ 外部	平縁	突起部は高麗式 の口縁に似て同 面取	肌	ナガ	なし	次圓	
130-12	977	-	-	M1	トレンチ3	V1-34	皿	口縁へ 外部	平縁	突起部は高麗式 の口縁に似て同 面取	肌	ナガ	なし	次圓	
130-13	-	-	-	M1	トレンチ3	V1-34	皿	口縁へ 外部	平縁	突起部は高麗式 の口縁に似て同 面取	肌	ナガ	なし	次圓	
130-14	977	-	-	M1	トレンチ3	V1-34	皿	口縁へ 外部	平縁	突起部は高麗式 の口縁に似て同 面取	肌	ナガ	なし	次圓	
130-15	977	-	-	M1	トレンチ3	V1-34	皿	口縁へ 外部	平縁	突起部は高麗式 の口縁に似て同 面取	肌	ナガ	なし	次圓	
130-16	977	-	-	M1	トレンチ3	V1-34	皿	口縁へ 外部	平縁	突起部は高麗式 の口縁に似て同 面取	肌	ナガ	なし	次圓	
130-17	977	-	-	M1	トレンチ3	V1-34	皿	口縁へ 外部	平縁	突起部は高麗式 の口縁に似て同 面取	肌	ナガ	なし	次圓	
130-18	977	-	-	M1	トレンチ3	V1-34	皿	口縁へ 外部	平縁	突起部は高麗式 の口縁に似て同 面取	肌	ナガ	なし	次圓	
130-19	977	-	-	M1	トレンチ3	V1-34	皿	口縁へ 外部	平縁	突起部は高麗式 の口縁に似て同 面取	肌	ナガ	なし	次圓	
130-20	977	-	-	M1	トレンチ3	V1-34	皿	口縁へ 外部	平縁	突起部は高麗式 の口縁に似て同 面取	肌	ナガ	なし	次圓	
130-21	977	-	-	M1	トレンチ3	V1-34	皿	口縁へ 外部	平縁	突起部は高麗式 の口縁に似て同 面取	肌	ナガ	なし	次圓	
130-22	977	-	-	M1	トレンチ3	V1-34	皿	口縁へ 外部	平縁	突起部は高麗式 の口縁に似て同 面取	肌	ナガ	なし	次圓	
8023															
8021															
8029															
8046															
8091															
8047															
8083															
8048															
8019															
8153															
8050															
8094															
8059															
8099															
8049															
8098															
8054															
7065															
8066															
8073															

表16 土器観察表 (27)

図録 番号	原 産 地	口 径 (cm)	高 さ (cm)	口 縁 高 さ (cm)	底 径 (cm)	形 式	器 種	部 位	口 縁 形 態・装 飾	文 様	地 文	内 面	付 着 物	原 形・原 部	製 作 年 代
130-23	977	-	-	-	18	碗形	鉢	口縁	二山突起	横位文線(体部は横文線に横文)	口縁部横文なし、体部 無文	不明	内コテ	欠損	700
130-24	-	-	-	-	18	碗形	鉢	口縁	山形突起	横位文線、体部 無文	文部帯横文なし、体 部横文	ナゲ	なし	欠損	本朝前期の穴吹 土器の文様を呈 示する
130-25	978	-	-	-	18	碗形後半	鉢	口縁	山形突起	なし、内面横位文線	ミガキ	横位内外 無文	横位内外 無文	900	
130-26	977	-	-	-	18	碗形	鉢	口縁部 体部	二文突起	工文文、突起、横位文線(体部は 横位文線に横文)、内面横位文線	口縁部横文なし、体 部横文	不明	内コテ	欠損	肥後付?
130-27	978	-	-	-	18	碗形	皿	口縁	平縁	横文、透孔横文、内面横位文 線	横文	ミガキ	横位一帯 無文	906	
130-28	-	(1.0)	17	-	18	碗形	台付鉢	口縁	凹突起	横文、工文文、横位文線、内面 横位文線	無文	ミガキ	横位内外 無文	921	
130-29	978	-	-	-	18	碗形	鉢	口縁部 体部	欠損	横位文線、体部横文、文部帯 下地横位文線	文部帯横文なし、体 部横位文線	ミガキ	外スス	欠損	853
130-30	978	-	-	-	18	碗形	鉢	口縁	平縁	横位文線	ミガキ	ナゲ	なし	945	
130-1	-	(24.0)	21.6	9	7-1	碗形後半	深鉢	胎元形	平縁	横位文線、内面横位文線	文部帯横文なし、体 部横文(底面以上) 横文	ミガキ 外スス ナゲ	外スス 内コテ	950	
130-2	-	(21.0)	22.5	8.2	7-1	碗形後半	深鉢	胎元形	二山突起(口縁部 突起)	横位文線、突起	横文	ナゲ	外スス 内コテ	954	
130-3	964	(18.3)	30.1	-	7-1	碗形後半	鉢	口縁部 体部	平縁、口唇内面 突起	横位文線	横文	ナゲ	外スス 内コテ	956	
130-4	-	(28.0)	20.8	-	7-1	碗形後半	深鉢	口縁部 体部	凹縁	横文地に横位文線	横文	ナゲ	外スス	956	
130-5	-	(11.0)	19.9	-	7-2	碗形後半	鉢	胎元形	平縁	横位文線、突起(下地の文線 と突起に横文に横文)	横文	ナゲ	なし	956	
130-6	961	10.4	13.6	5.1	7-1	碗形後半	鉢	胎元形	平縁	横位文線、内面横位文線	横文	ナゲ	内コテ	959	
130-7	-	-	-	-	7-1	碗形	鉢	口縁	平縁	なし	横文	ナゲ	なし	968	
130-8	-	(8.5)	-	(8.8)	7-1	碗形	鉢	口縁部 体部	欠損	なし	横文	ナゲ	外スス 内コテ	944	
130-1	961	(9.3)	12.1	-	7-1	碗形後半	鉢	口縁部 体部	凹縁	横位文線、突起(体部横文 と突起に横文)	横文	ナゲ	外スス 内コテ	973	
130-2	961	-	-	-	7-2	碗形	鉢	口縁部	平縁、口唇面 突起	横位文線	横文	ミガキ	内コテ	927	
130-3	961	(5.6)	17.7	-	7-1	碗形後半	鉢	口縁部 体部	凹縁	横位文線	横文	不明	内コテ	967	
130-4	961	(5.7)	19.2	-	7-1	碗形後半	鉢	口縁部 体部	凹縁 口唇面 突起	横位文線、突起	横文	ナゲ	外スス 内コテ	903	
130-5	961	12.5	16.6	-	7-1・23	碗形	台付鉢	胎元形	凹突起、二文突 起	横文、工文文、突起(体部横文 と突起に横文)、内面横位文線	口縁部横文、体部 横文	ミガキ	内コテ	964	
130-6	961	12	16.5	9	7-1	碗形後半	台付鉢	胎元形	凹縁	横位文線、突起、体部横文 と突起に横文、内面横位文線	横文	ナゲ	内コテ	963	

表16 土器観察表 (28)

図号	器種	高 (cm)	口径 (cm)	底径 (cm)	容量 (cc)	トレンチ・プレート	型式	器種	部位	口縁形態・裝飾	文様	地文	内面	付着物	底形・器底	出土・備考
139-7	961	9.2	15.2	7.4	—	SB-B	晩期後半	台付鉢	底	平縁	口縁無文、体部後半、工字文、縦位文様	ナグ	ナグ	なし	台	
139-8	961	(26.9)	9.8	—	—	SB-B	晩期後半	盃	底	平縁	口縁無文	ミガキナグ	ミガキナグ	なし	欠損	
139-9	961	(13.0)	—	6.5	—	SB-B	晩期	盃	底	欠縁	口縁無文	ミガキナグ	ミガキナグ	なし	凹底	
139-10	961	16.2	8.6	4.5	—	SB-B	晩期後半	盃	底	突縁	口縁無文	ミガキナグ	ミガキナグ	外縁内外面	平底	P-561
140-1	—	—	—	—	—	SB-B	晩期後半	深鉢	底	突縁	口縁無文	無文	ナグ	なし	欠損	
140-2	961	—	—	—	—	SB-B	晩期後半	深鉢	底	突縁	口縁無文	無文	ナグ	なし	欠損	
140-3	—	—	—	—	—	SB-B	前期後半	深鉢	口縁	平縁、突縁、口唇面	口縁に於ける縦線(手組線)文、工字文、縦位文様	ナグ	ナグ	外縁内面	欠損	
140-4	—	—	—	—	—	SB-B	前期後半	深鉢	口縁	平縁、口唇内面	口縁に於ける縦線(手組線)文、工字文、縦位文様	ナグ	ナグ	外縁内面	欠損	
140-5	—	—	—	—	—	SB-B	晩期	深鉢	口縁	平縁	なし	口縁無文	ナグ	なし	欠損	
140-6	—	—	—	—	—	SB-B	晩期	深鉢	口縁	平縁	なし	口縁無文	ナグ	なし	欠損	
140-7	—	—	—	—	—	SB-B	晩期	深鉢	口縁	平縁	なし	口縁無文	ナグ	なし	欠損	
140-8	961	—	—	—	—	SB-B	晩期	深鉢	口縁	平縁	なし	口縁無文	ナグ	なし	欠損	
140-9	961	—	—	—	—	SB-B	晩期後半	深鉢	口縁	平縁	なし	口縁無文	ナグ	なし	欠損	
140-10	961	—	—	—	—	SB-B	晩期後半	台付鉢	口縁	平縁	なし	口縁無文	ナグ	なし	欠損	
140-11	—	—	—	—	—	SB-B	晩期後半	深鉢	口縁	平縁	なし	口縁無文	ナグ	なし	欠損	
140-12	—	—	—	—	—	SB-B	晩期後半	深鉢	口縁	平縁	なし	口縁無文	ナグ	なし	欠損	
140-13	961	—	—	—	—	SB-B	晩期後半	深鉢	口縁	平縁	なし	口縁無文	ナグ	なし	欠損	
140-14	961	—	—	—	—	SB-B	晩期後半	深鉢	口縁	平縁	なし	口縁無文	ナグ	なし	欠損	
140-15	—	—	—	—	—	SB-B	晩期後半	深鉢	口縁	平縁	なし	口縁無文	ナグ	なし	欠損	
141-1	962	21.6	24.4	8.5	—	SB-B	前期後半	鉢	口縁	突縁	口縁に於ける縦線(手組線)文、工字文、縦位文様	ナグ	ナグ	外縁内面	凹底	
141-2	962	(22.1)	12.9	—	—	SB-B	前期後半	鉢	口縁	突縁	口縁に於ける縦線(手組線)文、工字文、縦位文様	ナグ	ナグ	外縁内面	凹底	
141-3	962	(8.3)	15	—	—	SB-B	前期後半	鉢	口縁	突縁	口縁に於ける縦線(手組線)文、工字文、縦位文様	ナグ	ナグ	外縁内面	凹底	
141-4	962	(7.0)	—	12.4	—	SB-B	前期後半	鉢	口縁	突縁	口縁に於ける縦線(手組線)文、工字文、縦位文様	ナグ	ナグ	外縁内面	凹底	



表16 土器観察表 (29)

発掘 原簿 番号	発掘 位置 図記	高台 位置 (m)	口徑 (cm)	底径 (cm)	高台 位置 (m)	トレンチ・ グロッド ・ベント	遺構	トレンチ・ グロッド ・ベント	段間	層位	型式	器種	部位	口縁形態・裝飾	文様	地文	内面	付着物	底形 ・断面	加工・備考	器種 番号
144-5	392	-	-	-	11	IV-34	M1	IV-34	Ⅱa	晩期Ⅱa	深鉢	深鉢 口縁 体部	平縁、山形突 起、突出部(突 出)	文様	文様、深淵による入道文、深淵 部に縁位の連続する短式横線1本	文様消	ナゲ	外スス、 内コガ	欠損		5274
144-6	-	-	-	-	5	IV-34	M1	IV-34	Ⅱd	晩期Ⅱa	深鉢	深鉢 口縁 体部	深淵による入道文(右下がりの横 筋に連続)		Ⅱ(縦消)	ナゲ	内コガ	欠損		7281	
144-7	-	-	-	-	27	V1-35	M1	V1-35	Ⅱd	晩期後半	鉢	口縁 体部	横位文線3本		Ⅱ	ナゲ	内コガ	欠損		7475	
144-8	-	-	-	-	5	IV-34	M1	IV-34	Ⅱd	晩期後半	鉢	口縁 体部	横位文線3本		Ⅱ(縦消)	ナゲ	ナシ	欠損		7278	
144-9	-	-	-	-	27	V1-34	M1	V1-34	Ⅱd	晩期後半	鉢	口縁 体部	山形突起、縦 筋、口唇凹状 に連続		Ⅱ(縦消)	ナゲ	ナシ	欠損		2760	
144-10	-	-	-	-	27	V1-35	M1	V1-35	Ⅱd	晩期後半	鉢	口縁 体部	山形突起		Ⅱ(縦消)	ナゲ	ナシ	欠損		7478	
144-11	393	-	-	-	5	IV-34	M1	IV-34	Ⅱd	晩期	台付鉢	台部	工字文、9本の横位文線(口縁に順 自列、内面縁位文線1本)	?	Ⅱ(縦消)	ナゲ	ナシ	台(横 位文線 多)	大淵式新飯高か?	5387	
147-1	393	16.1	19	8	M1	IV-34	M1	IV-34	Ⅱa	晩期後半	台付鉢	底形	山形突起、縦 筋、口唇凹状 に連続		Ⅱ(縦消)	ナゲ	内コガ	台		9995	
147-2	-	-	15	7.3	M1	SV-B	M1	V1-35	Ⅱa	晩期後半	台付鉢	底形	平縁、口唇凹状 に連続		Ⅱ(縦消)	ナゲ	内コガ	台		9964	
147-3	394	8.9	11.6	6.4	M1	SV-B	M1	V1-35	Ⅱa	晩期後半	鉢	底形	明発、口唇凹 状に連続		Ⅱ(縦消)	ナゲ	内コガ	台		9392	
147-4	393	12.1	14.8	6.6	M1	SV-B	M1	V1-35	Ⅱa	晩期後半	鉢	底形	横位文線3本、体部、縁部、工字 文		Ⅱ(縦消)	ナゲ	内コガ	台		9966	
147-5	394	3.6	17.4	-	M1	SV-B	M1	V1-35	Ⅱa	晩期後半	深鉢	口縁	横位文線3本、体部、縁部、工字 文		Ⅱ(縦消)	ナゲ	内コガ	欠損		2161	
147-6	394	(3.3)	7	-	M1	IV-34	M1	IV-34	Ⅱa	晩期	深鉢	口縁	横位文線3本		Ⅱ(縦消)	ナゲ	内コガ	欠損		7341	
147-7	394	18.7	20.7 (18.6)	7.8	M1	SV-B	M1	V1-35	Ⅱa	晩期	深鉢	口縁	横位文線3本、体部、縁部、工字 文		Ⅱ(縦消)	ナゲ	内コガ	欠損		9973	
147-8	394	(4.3)	-	5.4	M1	SV-B	M1	V1-35	Ⅱa	晩期後半	台付鉢	台部	横位文線3本、体部、縁部、工字 文		Ⅱ(縦消)	ナゲ	ナシ	平縁		9420	
147-9	-	-	-	-	M1	IV-34	M1	IV-34	Ⅱa	晩期	深鉢	口縁	横位文線3本、体部、縁部、工字 文		Ⅱ(縦消)	ナゲ	ナシ	平縁		9189	
147-10	394	-	-	-	M1	SV-B	M1	V1-35	Ⅱa	晩期	深鉢	口縁	横位文線3本、体部、縁部、工字 文		Ⅱ(縦消)	ナゲ	ナシ	平縁		9920	
147-11	394	-	-	-	M1	SV-B	M1	V1-35	Ⅱa	晩期Ⅱa	鉢	口縁	深淵による入道文(右下がりの横 筋に連続)、突起、突出部(突出) 区間に縁位の連続する短式横線1本		Ⅱ(縦消)	ナゲ	外スス、 内コガ	欠損		9928	
147-12	-	-	-	-	M1	SV-B	M1	V1-35	Ⅱa	晩期後半	深鉢	口縁	横位文線3本、体部、縁部、工字 文		Ⅱ(縦消)	ナゲ	ナシ	平縁		2145	
147-13	-	-	-	-	M1	SV-B	M1	V1-35	Ⅱa	晩期後半	鉢	口縁 体部	横位文線3本、体部、縁部、工字 文		Ⅱ(縦消)	ナゲ	内コガ	欠損		2175	
147-14	-	-	-	-	M1	SV-B	M1	V1-35	Ⅱa	晩期後半	鉢	口縁 体部	横位文線3本、体部、縁部、工字 文		Ⅱ(縦消)	ナゲ	外スス、 内コガ	欠損		2163	
147-1E	394	-	-	-	M1	SV-B	M1	V1-35	Ⅱa	晩期後半	深鉢	体部	深淵による入道文、斜りによる 短式横線1本		Ⅱ(縦消)	ナゲ	外スス	欠損	小溝	2162	

表16 土器観察表 (30)

器名・器種	器高 (cm)	口径 (cm)	底径 (cm)	容量 (ml)	形状	部位	器種	部位	口縁形態・裝飾	文様	地文	内面	付着物	底径 ・器高	器種	出土・備考
147-16	-	-	-	-	皿	口縁~ 外唇	林	平縁	口縁無文、平縁	工字文、変形、横位立線	無文不明	不明	内コガ	欠損		加土・備考
147-17	-	-	-	-	皿	口縁~ 外唇	林	平縁	口縁~口内内側 舌状に凹取	なし	無文	ナガ	なし	欠損		
147-18	-	-	-	-	皿	口縁~ 外唇	深鉢	平縁	口縁無文、平縁	なし	無文	ミガキ	なし	欠損		
147-19	-	-	-	-	皿	口縁~ 外唇	深鉢	肥子	口縁無文、変形、外唇状	なし	無文	ナガ	なし	欠損		
147-20	394	-	-	-	皿	口縁~ 外唇	深鉢	口縁	無文、工字文、横位立線、内面 横位立線凹取	無文	無文	ナガ	なし	欠損		
149-1	-	21.3	24.6	-	皿	口縁~ 外唇	小変状口縁	平縁	横位立線凹取	横位立線、変形	横位立	不明	なし	欠損	P-5019・P-5114	
149-2	-	6.3	16	6.1	皿	口縁~ 外唇	碗形	凹取	横位立線、変形	横位立線、変形	横位立	不明	内コガ	変形	変形	龍川から龍元遺跡
149-3	394	20.3	27	-	皿	口縁~ 外唇	深鉢	平縁	横位立線凹取、無文、 内面横位立線	横位立線、無文	横位立	ナガ	内コガ	平縁	P-5002	
149-4	394	14.2	15.8	6.8	皿	口縁~ 外唇	林	平縁	口縁無文、平縁	口縁無文、変形	横位立	ナガ	内コガ	平縁	P-5006	
149-5	395	19.3	19.9	-	皿	口縁~ 外唇	林	平縁	口縁無文、平縁	口縁無文、変形	横位立	不明	内コガ	平縁	P-5084	
149-6	-	10.1	22.1	-	皿	口縁~ 外唇	深鉢	平縁	口縁無文、変形、内面横位立線 凹取、口内内側舌状に凹取	口縁無文、変形、 内面横位立線凹取	横位立	不明	内コガ	平縁	P-5102	
150-1	395	11.0	16.8	7.6	皿	口縁~ 外唇	深鉢	平縁	口縁無文、変形、内面横位立線 凹取、口内内側舌状に凹取	口縁無文、変形、 内面横位立線凹取	横位立	不明	外ズ、 内コガ	平縁	P-5087	
150-2	-	17.0	-	6	皿	口縁~ 外唇	林	平縁	平縁	横位立線、変形、 内面横位立線凹取	横位立	ナガ	なし	平縁		1847
150-3	395	10.4	13.7	7	皿	口縁~ 外唇	台付鉢	光部	1対の山形突起 、口縁、口内凹取	横位立線、無文、 内面横位立線凹取	横位立	ミガキ	外ズ、 内コガ	台	P-5112、内子工 文、最晩年代の折中	
150-4	394	12.2	-	8.8	皿	口縁~ 外唇	台付鉢	下半部	平縁	横位立線、変形、 内面横位立線凹取	横位立	ミガキ	内コガ	台	P-5009	
150-5	395	11.9	16.6	7	皿	口縁~ 外唇	台付鉢	下半部	平縁	横位立線、変形、 内面横位立線凹取	横位立	ミガキ	内コガ	台	P-5098、台に 蓋付	
150-6	395	17.5	-	-	皿	口縁~ 外唇	台付鉢	下半部	平縁	横位立線、変形、 内面横位立線凹取	横位立	ミガキ	内コガ	台	P-5101	
150-7	395	17.3	17	-	皿	口縁~ 外唇	台付鉢	下半部	平縁	横位立線、変形、 内面横位立線凹取	横位立	ミガキ	内コガ	台		
150-8	-	13.6	-	13.6	皿	口縁~ 外唇	台付鉢	上半部	平縁	横位立線、変形	横位立	ナガ	外ズ、 内コガ	台		
150-9	395	14.4	-	-	皿	口縁~ 外唇	台付鉢	下半部	平縁	横位立線、変形、 内面横位立線凹取	横位立	ナガ	外ズ、 内コガ	台		
150-10	395	14.9	-	7	皿	口縁~ 外唇	台付鉢	下半部	平縁	横位立線、変形、 内面横位立線凹取	横位立	ナガ	内コガ	欠損		
150-11	-	12.2	-	5.1	皿	口縁~ 外唇	不明	遺品	不明	横位立線、変形、 内面横位立線凹取	横位立	ナガ	なし	不明付		
151-1	396	6.5	25	4	皿	口縁~ 外唇	深鉢	平縁	横位立線、変形、 内面横位立線凹取	横位立線、変形、 内面横位立線凹取	横位立	ミガキ	内コガ	無文	P-5001、横筋孔	

表16 土器観察表 (31)

器名 器番号	形制 図版	口徑 (cm)	底徑 (cm)	高径 (cm)	グワッド ・ベレット	透孔	トレンチ ・ベレット	口徑 (cm)	底徑 (cm)	高径 (cm)	器式	器種	部位	口縁部態・裝飾	文様	地文	内面	付着物	原形・部類	加工・備考	器号 番号
151-2	2986	6.7	23.2	9.6	7	縦溝5	7	縦溝5	7	縦溝5	瓶	底部	縦溝4単位	口縁部無文、体底に縦溝部に 口縁部無文の下方に横文、内面 縦溝1単位	ミガキ	ナシ	外口部 縁部無文	灰底	P-514、穿孔之類	6394	
151-3	2985	4.6	14.9	9.6	7	縦溝5	7	縦溝5	7	縦溝5	瓶	底部	縦溝4単位	口縁部無文、体底に横文部に 口縁部無文の下方に横文、内面 縦溝1単位	ミガキ	ナシ	内口部 縁部無文	灰底	P-5019・5020・ 515A	6395	
152-1	2986	28.0	113.0	8.1	7	縦溝4~5	7	縦溝4~5	7	縦溝4~5	壺	胴突部	縦溝1	口縁部無文、肩に体底、波線入 横文	ミガキ	ナシ	外部外面	灰底 (横文部) 赤土	P-5146、壺山1式	6396	
153-1	—	—	—	—	7	縦溝5	7	縦溝5	7	縦溝5	瓶	下半部	縦溝1	7	粗麻布	ナシ	ナシ	灰底	F-5017	9982	
153-2	—	—	—	—	7	縦溝5	7	縦溝5	7	縦溝5	瓶	下半部	縦溝1	7	粗麻布	ナシ	ナシ	灰底	F-5085	6295	
153-3	2985	11.1	32.9	5.3	28	縦溝5	28	縦溝5	28	縦溝5	瓶	胴突部	縦溝1	口縁部無文	口縁部ナシ、体部に 横文	ナシ	ナシ	灰底	F-5160	6356	
153-4	2985	11.3	32.9	6.6	28	縦溝5	28	縦溝5	28	縦溝5	瓶	胴突部	縦溝1	口縁部無文	口縁部ナシ、体部に 横文	ナシ	ナシ	灰底	F-5096	6350	
153-5	2985	—	—	—	7	縦溝5	7	縦溝5	7	縦溝5	瓶	底部	体底から底部	7	ミガキ	不明	外部内面	灰底	—	5134	
153-6	—	—	—	—	7	縦溝5	7	縦溝5	7	縦溝5	瓶	注口	注口部	注口部	粗麻布	ナシ	ナシ	灰底	—	6307	
153-7	2987	—	—	—	7	縦溝5	7	縦溝5	7	縦溝5	瓶	注口	注口部	注口部	粗麻布	ナシ	ナシ	灰底	F-5020	6292	
153-8	—	—	—	—	7	縦溝5	7	縦溝5	7	縦溝5	瓶	注口	注口部	注口部	粗麻布	ナシ	ナシ	灰底	—	6307	
153-9	2985	6.4	—	—	7	縦溝5	7	縦溝5	7	縦溝5	瓶	注口	注口部	注口部	粗麻布	ナシ	ナシ	灰底	—	9360	
154-1	2987	—	—	—	7	縦溝5	7	縦溝5	7	縦溝5	瓶	注口	注口部	注口部	粗麻布	ナシ	ナシ	灰底	—	9010	
154-2	2987	—	—	—	7	縦溝5	7	縦溝5	7	縦溝5	瓶	注口	注口部	注口部	粗麻布	ナシ	ナシ	灰底	—	9944	
154-3	2987	—	—	—	7	縦溝5	7	縦溝5	7	縦溝5	瓶	注口	注口部	注口部	粗麻布	ナシ	ナシ	灰底	—	5197	
154-4	2985	—	—	—	7	縦溝5	7	縦溝5	7	縦溝5	瓶	注口	注口部	注口部	粗麻布	ナシ	ナシ	灰底	—	5097	
154-5	2987	—	—	—	7	縦溝5	7	縦溝5	7	縦溝5	瓶	注口	注口部	注口部	粗麻布	ナシ	ナシ	灰底	—	9005	
154-6	—	—	—	—	28	縦溝5	28	縦溝5	28	縦溝5	瓶	注口	注口部	注口部	粗麻布	ナシ	ナシ	灰底	—	5110	
154-7	2987	—	—	—	28	縦溝5	28	縦溝5	28	縦溝5	瓶	注口	注口部	注口部	粗麻布	ナシ	ナシ	灰底	—	2216	
154-8	2987	—	—	—	7	縦溝5	7	縦溝5	7	縦溝5	瓶	注口	注口部	注口部	粗麻布	ナシ	ナシ	灰底	—	5172	

表16 土器観察表 (32)

図号	区域	距離 (m)	口徑 (cm)	底径 (cm)	遺構	トレンチ・ レベル	グリッド	位置	型式	器種	部位	口縁形態・裝飾	文様	地文	内面	付着物	底径 ・口徑 (cm)	加工・備考	製作 番号
104-9	367	5.9	—	7.4	M1	TR-33・ SN-B	VJ-35	ⅡF	不明	不明	底面	欠損	?	織文	ナゲ	なし	平底 (注1)		1044
104-10	367	—	—	—	M1	SN-B	VJ-33	ⅡF	前期後半	注口	注口部	欠損	注口部下に二段体の線のみ	ミギキ、ナゲ	不明	なし	欠損		2533
104-11	367	—	—	—	M1	TR-34	VJ-34	ⅡF	前期後半	注口	胴部	欠損	波線・點線	なし	不明	なし	欠損		2535
104-12	367	—	—	—	M1	TR-33	VJ-34	ⅡF	前期後半	底面	底面	欠損	上文字	なし	ナゲ	なし	欠損		2613
109-1	369	21.9	34.2	—	M1	TR-34	VJ-33	ⅡV	前期後半	胴体	胴体	不明	なし	なし	ナゲ	なし	欠損	底面から厚底、厚底 に面取の土器 の底ナゲなし	4013
109-2	—	(12.3)	15	6.5	M1	TR-34 4・TR-4	VJ-33	ⅡV	前期後半	胴体	胴体	平縁	なし	和縁走	ナゲ	内コガ	平底	底面から厚底、厚底 に面取の土器 の底ナゲなし	4014
109-3	369	(10.8)	17	—	M1	TR-34	VJ-33	ⅡV	12・I	胴体	胴体	不明	なし	ナゲ	ナゲ	外コガ	欠損	底面から厚底の 土器	4017
109-4	369	9.5	12.2	5.4	M1	SN-B・TR- 記	VJ-34	ⅡV	4-I	前期後半	胴体	平縁	織文地に横位点線	和縁走	ナゲ	ナゲ	平底		4016
109-5	—	—	—	—	M1	TR-31	VJ-33	ⅡV	13	前期後半	胴体	平縁	織文地に横位点線、波紋、内 面取の土器	和縁走	ナゲ	なし	欠損	工文字?	4028
109-6	369	(13.3)	17.9	—	M1	TR-34 1・SN-B	VJ-34	ⅡV	4	前期後半	胴体	平縁	横位点線、波紋(体部に織文 地に横立、内面取の土器)	和縁走	ナゲ	外コガ 内コガ	欠損	P-9003	4077
109-7	369	4.9	6.8	4.2	M1	TR-34	VJ-34	ⅡV	4	前期後半	胴体	平縁	織文地に横位点線	和縁走	ナゲ	なし	欠損	P-9009、影土器	4075
109-8	369	(16.3)	22.7	—	M1	SN-B	VJ-33	ⅡV	13-2	前期後半	胴体	平縁	なし	なし	ナゲ	なし	欠損		4030
109-9	369	(6.3)	16.2	—	M1	TR-34	VJ-33	ⅡV	12	前期後半	胴体	平縁	横位点線、波紋、内面取の土器	和縁走	ナゲ	内コガ	欠損	底面から厚底	4043
109-10	—	(6.3)	—	—	M1	TR-31	VJ-34	ⅡV	12・14・ 14-2	前期後半	胴体	平縁	横位点線	和縁走	ナゲ	なし	欠損		4036
109-11	369	16.0	12.4	6.3	M1	TR-31	VJ-34	ⅡV	12・1	前期後半	胴体	平縁	織文地に横位点線	和縁走	ナゲ	外コガ 内コガ	平底		4014
109-1	369	(30.5)	10	9.4	M1	SN-B	VJ-34	ⅡV	12-2	前期後半	底面	平縁	口縁無文	和縁走	ナゲ	なし	高台		4034
109-2	369	—	—	—	M1	TR-32	VJ-34	ⅡV	17	前期後半	胴体	平縁	織文地に横位点線	和縁走	ナゲ	なし	欠損		4092
109-3	369	—	—	—	M1	TR-34	VJ-33	ⅡV	14	前期後半	注口	欠損	織文地に横位点線	和縁走	不明	なし	欠損	P-602	4017
109-4	369	6.6	(6.5 後)	—	M1	TR-31	VJ-33	ⅡV	14-2・ 12	前期後半	注口	不明	なし	なし	ナゲ	なし	欠損	底面から厚底、厚底 の土器に面取の 土器を有し、	4029
101-1	—	—	—	—	M1	TR-31	VJ-34	ⅡV	12-1	前期後半	胴体	平縁・面取	なし	和縁走	ナゲ	外コガ 内コガ	欠損		4639
101-2	—	—	—	—	M1	TR-34	VJ-33	ⅡV	14-2	前期後半	胴体	平縁・面取	なし	和縁走	ナゲ	外コガ 内コガ	欠損		4688
101-3	—	—	—	—	M1	TR-34	VJ-33	ⅡV	14-2	前期後半	胴体	平縁	なし	和縁走	不明	内コガ	欠損		6001

表16 土器観察表 (33)

原器 番号	形體 図版	原高 (cm)	口徑 (cm)	底径 (cm)	容量 (ml)	遺構	トレンチ・ レベル	グリップ	段間	層位	型式	器種	部位	口縁形態・裝飾	口縁部・ 底面	文様	地文	内面	付着物	底面形・ 裝飾	加工・備考	原器 番号
161-4	-	-	-	-	-	M1	SN-B	VG-34	P6	12-2	晩期	鉢	口縁	平縁・直縁	口縁	なし	LE	ナゲ	なし	外周 内コガ	取土・備考 重取時の底土の段 水調整	6073
161-5	-	-	-	-	-	M1	SN-B	VH-34	P6	4(12)	晩期後半	鉢	口縁	平縁・直縁	口縁	なし	体部は直走	不明	外周 内コガ	外周 内コガ	取土	7299
161-6	2989	-	-	-	-	M1	トレンチ4	VG-34	P6	12	後期7-4	深鉢	口縁	深鉢(口縁部 三山突起・口唇 直縁)	口縁	口唇部に文様は横文 口唇部には縦文	直(横溝)	ナゲ	外周 内コガ	外周 内コガ	取土	5963
161-7	-	-	-	-	-	M1	トレンチ4	VG-35	P6	14	後期7-4	深鉢	体部	欠損	体部に文様は横文 口唇部には縦文	口唇部には横文 口唇部には縦文	直(横溝)	ナゲ	なし	なし	取土	5966
161-8	2989	-	-	-	-	M1	トレンチ4	VG-35	P6	14	後期7-4	深鉢	口縁	平縁・口唇直縁	口縁	口唇部には横文 口唇部には縦文	横文	ミガキ	なし	外周 内コガ	取土	5965
161-9	-	-	-	-	-	M1	トレンチ4	VG-34	P6	12	後期7-4	深鉢	口縁	山形突起(突起 最上・腕位置 直)・外周直縁 口唇直縁	口縁	口唇部には横文 口唇部には縦文	直(横溝)	ミガキ	外周 内コガ	取土	5981	
161-10	-	-	-	-	-	M1	トレンチ4	VG-33	P6	12	晩期1a	深鉢	口縁	山形突起・口唇 直縁	口縁	突起部には横文・口唇部 は縦文	直(横溝)	ミガキ	外周 内コガ	取土	5773	
161-11	2989	-	-	-	-	M1	SN-B	VG-34	P6	12-1	晩期1a	深鉢	口縁	二山状突起	口唇部には横文 口唇部には縦文	口唇部には横文 口唇部には縦文	LE	ミガキ	外周 内コガ	取土	5929	
161-12	2989	-	-	-	-	M1	EP-B1	VH-34	P6	14-2	後期7-4	壺	口縁	平縁・口唇直縁 直・外周直縁 口唇直縁	口縁	口唇部下縁に横文帯	直(体部直縁)	ナゲ	なし	取土	6007	
161-13	-	-	-	-	-	M1	トレンチ4	VG-33	P6	12	晩期	深鉢	口縁	平縁・口唇直縁 直・外周直縁 口唇直縁	口縁	口唇部下縁に横文帯	ナゲ	ナゲ	なし	取土	5731	
161-14	2989	-	-	-	-	M1	トレンチ 8・9	VF-34	P6	12	印籠上層 式	深鉢	体部	欠損	口唇部には横文 口唇部には縦文	口唇部には横文 口唇部には縦文	直(横溝)	ナゲ	なし	取土	5794	
161-15	-	-	-	-	-	M1	トレンチ4	VG-33	P6	12	晩期	鉢	口縁	平縁	口唇部には横文	口唇部には横文	直(横溝)	ナゲ	なし	取土	5752	
161-16	-	-	-	-	-	M1	トレンチ1	VH-34	P6	4	晩期1a	深鉢	口縁	平縁・山形突起 直・口唇直縁	口縁	口唇部には横文	直(横溝)	ナゲ	外周 内コガ	取土	7289	
161-17	-	-	-	-	-	M1	トレンチ1	VH-33	P6	13	晩期後半	深鉢	口縁	平縁	口唇部には横文	口唇部には横文	ナゲ	ミガキ	なし	取土	6070	
161-18	-	-	-	-	-	M1	トレンチ1	VH-34	P6	4	晩期	不明	口縁	不明	なし	直・横溝	ナゲ	ナゲ	なし	取土	7270	
161-19	2989	-	-	-	-	M1	トレンチ4	VG-33	P6	12	中期後半	深鉢	口縁	山形突起	口唇部には横文 口唇部には縦文	口唇部には横文 口唇部には縦文	直(横溝)	ナゲ	なし	取土	6790	
161-20	-	-	-	-	-	M1	トレンチ1	VT-34	P6	4	晩期	鉢	口縁	平縁・口唇直縁 直	口唇部には横文 口唇部には縦文	口唇部には横文 口唇部には縦文	直(横溝)	不明	内コガ	取土	7288	
161-21	2989	-	-	-	-	M1	群集ト レンチ1	VH-33	P6	12・14-1	晩期	鉢	口縁	平縁	口唇部には横文 口唇部には縦文	口唇部には横文 口唇部には縦文	直(横溝)	不明	内コガ	取土	5969	
161-22	2989	-	-	-	-	M1	SN-B	VG-34	P6	12-2	晩期後半	鉢	口縁	二山状・口唇 直縁	口唇部には横文 口唇部には縦文	口唇部には横文 口唇部には縦文	直(横溝)	ナゲ	なし	取土	5976	
161-23	-	-	-	-	-	M1	EP-B1	VH-34	P6	13-1	晩期	鉢	口縁	平縁	口唇部には横文 口唇部には縦文	口唇部には横文 口唇部には縦文	不明	内コガ	取土	5947		
161-24	-	-	-	-	-	M1	SN-B	VH-34	P6	4(12)	晩期	鉢	口縁	平縁・内周直縁 直	口唇部には横文 口唇部には縦文	口唇部には横文 口唇部には縦文	ナゲ	不明	内コガ	取土	7289	

表16 土器観察表 (34)

図版 番号	図版 位置	器高 (cm)	口径 (cm)	底径 (cm)	口径・ トレント・ ベレト	図柄	トレント・ ベレト	部位	型式	器種	部位	口縁形態・裝飾	文様	地文	内面	付着物	底径形 態・器高	出土・備考
161-25	-	-	-	-	トレント#1 V1-34	IV <sub>6</sub>	4	口縁	晩期後半	深鉢	口縁	浅帯・横文	ナシ	ナシ	不明	次皿		
161-26	-	-	-	-	トレント#1 V1-34	IV <sub>6</sub>	4	口縁	晩期後半	深鉢	口縁	浅帯・横文	ナシ	ナシ	不明	次皿		
161-27	-	-	-	-	FR-82	IV <sub>6</sub>	4-1	口縁	晩期後半	深鉢	口縁	浅帯・横文	横文少	ミガキ	内コガ	次皿		
161-28	-	-	-	-	FR-81	IV <sub>6</sub>	13	口縁	晩期後半	深鉢	口縁	浅帯・横文	横文	ナシ	内コガ	次皿		
161-29	-	-	-	-	トレント#4 V1-34	IV <sub>6</sub>	12	口縁	晩期後半	深鉢	口縁	浅帯・横文	ナシ	ナシ	外スス	次皿		
161-30	-	-	-	-	FR-82	IV <sub>6</sub>	4-1	口縁	晩期後半	深鉢	口縁	浅帯・横文	横文	ナシ	内コガ	次皿		
161-31	-	-	-	-	FR-81	IV <sub>6</sub>	12	口縁	晩期後半	深鉢	口縁	浅帯・横文	横文	ナシ	内コガ	次皿		
161-32	-	-	-	-	トレント#4 V1-35	IV <sub>6</sub>	14	口縁	晩期後半	深鉢	口縁	浅帯・横文	横文	ナシ	内コガ	次皿	外面磨付層	
161-33	299	-	-	7	トレント #9	IV <sub>6</sub>	12	口縁	晩期	不明	底帯	?	ナシ	ナシ	なし	平底 (横文 なし)	底帯残層	
161-34	299	-	-	-	SN-8	IV <sub>6</sub> -34	IV <sub>6</sub>	12-1	口縁	深鉢	口縁	なし	ナシ	ナシ	なし	次皿		
161-35	293	(34.7)	27.6	-	SN-8	V1-36	IV <sub>6</sub>	22-2	口縁	深鉢	口縁	なし	ナシ	外スス	次皿			
161-2	293	(8.9)	18.6	-	SN-8	V1-35	IV <sub>6</sub>	22-3	口縁	深鉢	口縁	なし	ナシ	内コガ	次皿			
161-3	-	(6.4)	22	-	SN-8	V1-36	IV <sub>6</sub>	22-3	口縁	深鉢	口縁	なし	ナシ	内コガ	次皿			
161-4	293	22.3	21.8	(0.2)	FR-83	V1-35	IV <sub>6</sub>	22-3	口縁	台付鉢	口縁	なし	ナシ	外スス	台付 皿	FR-519, 原簿年代 分析中		
161-5	293	8.6	6.8	5	FR-83	V1-35	IV <sub>6</sub>	22-3	口縁	台付鉢	口縁	なし	ナシ	なし	台	P-5150		
161-6	293	(8.2)	16.6	-	FR-83	V1-35	IV <sub>6</sub>	22-3	口縁	深鉢	口縁	なし	ナシ	外スス	次皿			
161-7	293	(10.3)	19	-	FR-83	V1-34	IV <sub>6</sub>	22-3	口縁	深鉢	口縁	なし	ナシ	外スス	次皿			
161-8	-	(13.4)	-	7	SN-8	V1-36	IV <sub>6</sub>	22-2	口縁	深鉢	口縁	なし	ナシ	外スス	次皿			
161-9	293	-	-	6.1	トレント #10	V1-33	IV <sub>6</sub>	22	口縁	深鉢	口縁	なし	ナシ	内コガ	高台			
161-1	293	6.9	21.1	4	トレント#5 V1-36	IV <sub>6</sub>	19	口縁	深鉢	口縁	なし	横文	ナシ	ナシ	内面	1747		
161-2	293	(10.0)	18.5	-	SN-8	V1-35	IV <sub>6</sub>	22-3	口縁	深鉢	口縁	なし	ナシ	ナシ	平底	6460		
161-3	-	(10.5)	5.7	7	SN-8	V1-36	IV <sub>6</sub>	22-2	口縁	深鉢	口縁	なし	ナシ	内コガ	次皿			
161-4	293	18.4	12.5	7.7	FR-83	V1-35	IV <sub>6</sub>	22-3	口縁	深鉢	口縁	なし	ナシ	内コガ	次皿	断面資料から推定 文様		
161-5	293	(6.0)	(6.0)	(2.0)	FR-83	V1-34	IV <sub>6</sub>	22-3	口縁	深鉢	口縁	なし	ナシ	不明	次皿			

表16 土器観察表 (35)

器類 番号	器高 図版	口径 (cm)	底径 (cm)	遺構	トレンチ・ ペイント	図柄	図式	器種	部位	口縁形態・裝飾	文様	地文	内面	付着物	底径 ・器高 図版	出土・備考
170-6	393	-	-	M1	SN-B	VJ-35	PV	22-3	口縁~ 外唇	口縁、口唇直取	なし	黒	ナガ	なし	次編	
170-7	394	-	-	M1	EX-B3	VJ-35	PV	22-3	口縁~ 外唇	口縁、口唇直取	なし	黒	ナガ	なし	次編	F-5111
170-8	394	-	-	M1	SN-B	VJ-35	PV	22-3	口縁~ 外唇	口縁、口唇直取	なし	黒	ナガ	なし	次編	
170-9	394	-	-	M1	EX-B3	VJ-34	PV	22-3	口縁~ 外唇	口縁、口唇直取	なし	黒	ナガ	なし	次編	
170-10	394	-	-	M1	EX-B3	VJ-35	PV	22-3	口縁~ 外唇	口縁、口唇直取	なし	黒	ナガ	なし	次編	
170-11	394	-	-	M1	EX-B3	VJ-36	PV	19	口縁~ 外唇	口縁直取	なし	黒	ナガ	なし	次編	
170-12	394	-	-	M1	EX-B3	VJ-35	PV	22-3	口縁~ 外唇	口縁、口唇直取	なし	黒	ナガ	なし	次編	
170-13	394	-	-	M1	SN-B	VJ-36	PV	22-3	口縁~ 外唇	口縁直取	なし	黒	ナガ	なし	次編	
170-14	394	-	-	M1	EX-B3	VJ-34	PV	22-3	口縁~ 外唇	口縁直取	なし	黒	ナガ	なし	次編	
170-15	394	-	-	M1	SN-B	VJ-36	PV	22-3	口縁~ 外唇	口縁直取	なし	黒	ナガ	なし	次編	
170-16	394	-	-	M1	EX-B3	VJ-34	PV	22-3	口縁~ 外唇	口縁直取	なし	黒	ナガ	なし	次編	遺跡時の出土の没 来遺構
170-17	394	-	-	M1	EX-B3	VJ-35	PV	22-3	口縁~ 外唇	口縁直取	なし	黒	ナガ	なし	次編	
170-18	394	-	-	M1	SN-B	VJ-36	PV	22-2	口縁~ 外唇	口縁直取	なし	黒	ナガ	なし	次編	
2649																
6309																
2396																
2024																
2115																
6013																
6348																
2105																
3969																
6403																
6412																
6410																
2397																
6411																
2192																
2022																
2841																
1955																
2011																
1950																
2106																
2196																
1997																

表16 土器観察表 (36)

図号	原高 (cm)	口径 (cm)	底径 (cm)	形状	型式	器種	部位	口縁形態・裝飾	文様	地文	内面	付着物	底形・ 断面・ 器底	出土・備考
170-19	394	-	-	丸胴後半	丸胴後半	鉢	口縁~ 口部	刻目列	横位文線条、内面横位文線条	文線帯地文なし、体部 部	ナゲ	外スス	丸胴	2014
170-20	394	-	-	丸胴	丸胴	鉢	口縁~ 口部	刻目列	草線文小	文線帯地文なし、体部 部	不明	内コガ	丸胴	1952
170-21	394	-	-	丸胴	丸胴	深鉢	口縁	平縁、口唇直取	内面横位文線条、 外縁に刻目列、口唇直取 を伴った文、外縁に刻目列、 器底に刻目列	丸胴	ナゲ	外スス、 内コガ	遺跡時代の段 取遺跡、小塚	
170-22	394	-	-	丸胴後半	丸胴後半	鉢	口縁	平縁、口唇横位 文線	横位文線、内面横位文線	ミガキ	ミガキ	なし	丸胴	2009
170-23	-	-	-	丸胴	丸胴	鉢	口縁~ 口部	刻目列	文線、點	面縁、外縁ミガキ	ナゲ	なし	丸胴	2003
170-24	394	-	-	丸胴	丸胴	鉢	口縁~ 口部	刻目列	文線、刻目	丸胴	不明	なし	丸胴	2021
170-25	-	-	-	丸胴	丸胴	深鉢	口縁	平縁、口唇直取	文線、刻目	丸胴	ナゲ	外スス、 内コガ	丸胴	2027
175-1	396	(18.0)	9	丸胴前半	丸胴前半	深鉢	口縁~ 口部	刻目列	?	丸胴	ナゲ	内コガ	高台	9003
175-2	-	(11.0)	7.5	丸胴後半	丸胴後半	深鉢	口縁~ 口部	刻目列	?	丸胴	不明	内コガ	草履	4097
175-3	396	-	-	丸胴後半	丸胴後半	鉢	口縁~ 口部	刻目列	なし	丸胴	ナゲ	なし	丸胴	9094
175-4	396	(5.9)	14.4	丸胴後半	丸胴後半	台付鉢	口縁~ 口部	刻目列	横位文線条、刻目	丸胴	ナゲ	内コガ	台	2079
175-5	396	(5.0)	12	丸胴後半	丸胴後半	台付鉢	口縁~ 口部	刻目列	横位文線条、刻目	丸胴	ナゲ	なし	台	9034
175-6	396	(4.3)	9.2	丸胴後半	丸胴後半	台付鉢	口縁~ 口部	刻目列	文線、刻目	丸胴	ナゲ	なし	台	7433
175-7	396	-	-	丸胴後半	丸胴後半	鉢	口縁~ 口部	刻目列	横位文線条、竹管刺文 工字文、横位文線、内面横位 文線	丸胴	ナゲ	内コガ	丸胴	7800
175-8	396	-	-	丸胴後半	丸胴後半	鉢	口縁	山形突起、口唇 横位文線	丸胴	丸胴	ナゲ	なし	丸胴	4060
175-9	396	-	-	丸胴後半	丸胴後半	鉢	口縁~ 口部	刻目列	草線文	丸胴	ナゲ	なし	丸胴	7411
175-1	397	(22.0)	34	丸胴	丸胴	深鉢	口縁~ 口部	刻目列	なし	丸胴	ナゲ	なし	丸胴	6370
175-2	397	(23.0)	30.9	丸胴	丸胴	深鉢	口縁~ 口部	刻目列	横位文線条、刻目	丸胴	ナゲ	なし	丸胴	9074
180-1	397	(20.0)	31.2	丸胴	丸胴	深鉢	口縁~ 口部	刻目列	横位文線条、刻目	丸胴	ナゲ	外スス、 内コガ	丸胴	6357
180-2	-	11.6	14.9	丸胴後半	丸胴後半	鉢	口縁~ 口部	刻目列	横位文線条	丸胴	ナゲ	内コガ	丸胴	6081
180-3	397	(13.3)	17.6	丸胴	丸胴	深鉢	口縁~ 口部	刻目列	なし	丸胴	ナゲ	外スス、 内コガ	丸胴	6235
180-4	397	14.6	24	丸胴	丸胴	深鉢	口縁~ 口部	刻目列	丸胴	丸胴	不明	内コガ	丸胴	6643
180-5	397	(3.0)	5	丸胴後半	丸胴後半	深鉢	口縁~ 口部	刻目列	丸胴	丸胴	ナゲ	なし	丸胴	8110
180-6	397	-	-	丸胴	丸胴	深鉢	口縁~ 口部	刻目列	なし	丸胴	ナゲ	外スス	丸胴	2061
180-7	-	-	-	丸胴	丸胴	深鉢	口縁~ 口部	刻目列	丸胴	丸胴	ナゲ	外スス、 内コガ	丸胴	2077



表16 土器観察表 (37)

発掘 層位 番号	口徑 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	形状	トレンチ・ ペレット	グリップ	口徑 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	部位	器種	形式	口縁部・ 口縁部	口縁部・ 口縁部	文様	地文	内面	付着物	底径形 態・器種	出土・備考	層位 番号
189-8	5977	-	-	22・28	不明	VJ-35	49	35	22・28	口縁	鉢	碗型	口縁部	口縁部	平帯状文、文様部下部傾位注 線による	文帯部地文なし、体 面傾位注線文	ミガキ ナツ	外スス 内コガ	欠損		2368
189-9	5977	-	-	22・28	不明	VJ-35	49	35	22・28	口縁	鉢	碗型	口縁部	口縁部	平帯状文	ミガキ	ナツ	なし	欠損		2446
189-10	5977	-	-	18・19	不明	VJ-33	43	33	18・19	口縁	鉢	碗型	口縁部	口縁部	なし	ミガキ	ナツ	なし	欠損		8100
181-1	5998	31.1	44.8	18・22・ 29	不明	VJ-34・ 35・VJ- 35	43	35	18・22・ 29	口縁	皿	碗型	口縁部	口縁部	雲形文、傾位注線	IR(傾位)	ミガキ	ナツ	平底 (傾位 注線による)		7559
185-1	-	-	-	不明	不明	VJ-34	49	34	不明	口縁	深鉢	碗型	口縁部	口縁部	山形突起下に相対する傾位の傾位 注線、山形突起下に相対する傾位の 傾位注線、山形突起下に相対する傾位の 傾位注線、山形突起下に相対する傾位の 傾位注線	IR(傾位)	ミガキ ナツ	外スス 内コガ	欠損	88年と同一般体	9303
185-2	-	-	-	不明	不明	VJ-34	49	34	不明	口縁	鉢	碗型	口縁部	口縁部	傾位の下部下に傾位、傾位の 下部下に傾位、傾位による入組文、 傾位注線、傾位による入組文	無文	ミガキ	外スス 内コガ	欠損		9066
185-3	-	-	-	不明	不明	VJ-32	49	32	不明	口縁部 体部	鉢	碗型	口縁部 体部	小波状口縁	無文	ミガキ	外スス 内コガ	欠損		9313	
185-4	-	-	-	不明	不明	VJ-33	49	33	不明	口縁部 体部	鉢	碗型	口縁部 体部	平帯、割目	無文	ミガキ	外スス 内コガ	欠損		9316	
185-5	-	-	-	不明	不明	VJ-33	49	33	不明	口縁部 体部	鉢	碗型	口縁部 体部	平帯状文、口縁部傾位注線	ミガキ	ナツ	なし	欠損		9423	
185-6	-	-	-	不明	不明	VJ-33	49	33	不明	口縁部 体部	鉢	碗型	口縁部 体部	平帯状文、傾位注線、腹注による雲形文	IR(傾位)	ミガキ	ナツ	傾位注線 による	傾位注線	9424	
185-7	-	-	-	不明	不明	VJ-32	49	32	不明	口縁部 体部	鉢	碗型	口縁部 体部	?	無文	ナツ	なし	欠損		183	
185-8	-	-	3.6	不明	不明	VJ-32	49	32	不明	口縁部 体部	鉢	碗型	口縁部 体部	?	無文	ナツ	なし	欠損		188	
185-9	-	-	-	不明	不明	VJ-32	49	32	不明	口縁部 体部	鉢	碗型	口縁部 体部	傾位による雲形文、傾位注線	IR(傾位)	ミガキ	ナツ	なし	欠損	185-9と同一	172
185-10	-	-	-	不明	不明	VJ-32	49	32	不明	口縁部 体部	鉢	碗型	口縁部 体部	腹注による雲形文、傾位注線	IR(傾位)	ミガキ	ナツ	なし	欠損	185-9と同一	178

\* 発掘層位・貫通層位の省略：凡の略

表17 土製品観察表

図番号	写真 16版	分類	遺構名	トレンチ	段階	層位	グリッド	F番	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	備考	整理 番号
38-15	写49	土玉	SK22	—	遺構	層土	V1-36		15	16	15	1.6		土199
41-4	写49	土玉	SK24	—	遺構	層土上層	VJ-33	土玉1	17	18	14	4.3	赤鉄。中心に孔	土177
87-16	写62	土製内蓋	M1	トレンチ6	Ⅱa	8・9	V1-36		44	40	7	13.6	無孔	土200
92・93	写68	遮光器土偶	M1・ SK28・ 北詰で 掘	トレンチ 3・トレン チ10・F#-83	Ⅱa	新山直上・ 覆土・F# 30・明橋 溝・惣橋 溝・惣の溝	V1・J・ L-54・ 36・37・ 38	P-5011・ P-5011a ・特 -5014	329	164	102	506.2	左半身。部品は点 在して出土し。数 点北側で溝から 出土している(図 194)	土140
—	写68	粘土塊	M1	トレンチ1	Ⅱa	19	VH-34		—	—	—	15.4		土212
119-16	写73	土製内蓋	M1	F#-82	Ⅱa	15	V1-34		30	30	4	3.7	無孔	土198
129-3	写78	中実土偶	M1	トレンチ3	Ⅱb	18	V1-34		18	31	14	3.1		土216
—	写84	粘土塊	M1	SN-B	Ⅱa	6	VH-34		—	—	—	84		土214
160-5	写90	中実土偶	M1	SN-B	Ⅳa	12-2	VG-33	P-5012	61	37	23	37.1	頸部・左脚欠損	土141
160-6	写92	土偶	M1	—	Ⅳa	17	VH-34	特5003	29	22	21	10.9	頭部	土196
160-7	写90	中実土偶	M1	トレンチ1	Ⅳa	木の根	VH-34		32	47	27	27	右肩	土147
160-8	写90	中空動物形 土製品	M1	トレンチ4	Ⅳa	14	VG-33	特-5002	72	48	25	50.7	平行する沈線間に 毎日	土149
167-7	写95	中空土偶	M1	SN-B	Ⅳa	9	VG-34		62	60	18	36.4	胸部	土215
167-8	—	土製内蓋	M1	トレンチ4	Ⅳa	12	VG-33		35	37	8	10.5	無孔	土217
—	写92	粘土塊	M1	F#-81	Ⅳa	12	VH-34		—	—	—	30.7		土213
183-1	写99	刺突文土偶	遺構外	—	V	1	VK		35	29	36	49.5	側面	土144
183-2	—	土製内蓋	遺構外	—	V	1	V1		48	47	6	12.1	無孔	土193
183-12	—	土製品	遺構外	—	V	1	VK-32		26	9	8	2.1		土182

表18 漆製品観察表

図番号	写真 16版	分類	遺構名	トレンチ	段階	層位	グリッド	F番	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	備考	整理 番号
—	写68	漆製品	M1	トレンチ10	Ⅱb	11	VJ	特-5004	—	—	—	—		J-1
—	写74	漆製品	M1	SN-B	Ⅱa	15	VH-35	特-5016	—	—	—	—		J-2

表19 石器・石製品観察表(1)

図版 番号	写真 図版	器種	段階	遺構	トレン チ・ベ ルト	グリッド	層位	石材	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量(g)	備考	整理 番号
11-3	写47	削器	遺構	S109	—	VL・ M-29・30	覆土	sh	62	58	14	42.8		2444
—	写47	台石	遺構	S109	—	VL・ M-29・30	覆土 床直	sa	—	—	—	5,400.0	S-1	レ033
—	写47	台石	遺構	S109	—	VL・ M-29・30	覆土 床直	sa	—	—	—	12,600.0	S-2	レ026
—	写47	台石	遺構	S109	—	VL・ M-29・30	覆土 床直 込	sa	—	—	—	6,800.0	S-3	レ035
14-5	写47	石鏃	遺構	S111	—	VJ・ K-30・31	覆土	sh	26	14	4	1.0	凹基盤	2445
14-6	写47	石鏃	遺構	S111	—	VJ・ K-30・31	覆土	sh	32	13	6	1.8	アスファルト基部、S-1	2602
14-7	写47	削器	遺構	S111	—	VJ・ K-30・31	覆土	sh	34	17	7	3.4		2446
14-8	—	剥片	遺構	S111	—	VJ・ K-30・31	覆土 下層	chal	43	33	19	31.3	両極剥片	2450
14-9	写47	加工 産	遺構	S111	—	VJ・ K-30・31	覆土	rhy	70	68	21	102.9		レ012
14-10	写47	凹石	遺構	S111	—	VJ・ K-30・31	覆土 下層	tuff	141	84	46	466.2	表裏に凹み	レ017
—	写47	赤色 顔料	遺構	S111	—	VJ・ K-30・31	石垣 伊内	foepu	—	—	—	1.4		石097
15-1	写47	石棒	遺構	S111	—	VJ・ K-30・31	覆土 下層	sla	54	30	11	23.9		石005
15-2	写47	石製 円盤	遺構	S111	—	VJ・ K-30・31	覆土 下層	tuff	66	62	18	87.5		石014
15-3	写47	石製 円盤	遺構	S111	—	VJ・ K-30・31	覆土 下層	sa	73	66	20	133.7		石017
15-4	写47	石製 円盤	遺構	S111	—	VJ・ K-30・31	覆土 下層	sa	39	35	9	20.9	研磨整形	石024
15-5	写47	石製 円盤	遺構	S111	—	VJ・ K-30・31	覆土 下層	mad	65	61	11	44.7		石019
15-6	写47	石製 円盤	遺構	S111	—	VJ・ K-30・31	覆土 下層	gran	58	50	20	80.3		石028
15-7	写47	石製 円盤	遺構	S111	—	VJ・ K-30・31	覆土 下層	mad	70	64	21	106.0		石026
15-8	写47	石製 円盤	遺構	S111	—	VJ・ K-30・31	覆土 下層	rhy	52	54	18	71.8		石030
—	写47	台石	遺構	S111	—	VJ・ K-30・31	覆土 床直	dior	—	—	—	24,000.0		レ030
17-6	写48	石鏃	遺構	S112	—	VK-32	覆土	sh	21	15	6	1.5	凹基盤	3077
17-7	写48	異形 石器	遺構	S112	—	VK-32	覆土	sh	9	29	5	1.0	ブーメラン形状	2603
20-7	写48	石鏃	遺構	S113	—	VG-35	覆土	sh	52	19	8	7.2		2454
20-8	写48	磨石	遺構	S113	—	VG-35	覆土 下層	dol	118	83	56	878.4	表裏に磨面	レ013
36-8	写49	石杖	遺構	SK10	—	VL-32	覆土1	sh	42	57	35	76.5		2463
—	写49	台石	遺構	SK09	—	VN-29	覆土 10	sa	—	—	—	35,000.0	S-1	レ036
—	写49	台石	遺構	SK13	—	VK・ L-29・30	覆土1	dior	—	—	—	19,000.0	S-1	レ028
—	写49	台石	遺構	SK11	—	VL・ M-30・31	覆土 底面	cog	—	—	—	24,140.0	S-3	レ474
38-2	写50	石杖	遺構	SK18	—	V1・ J-31	覆土 上層 8層	sh	56	46	29	50.0		2472
38-10	写49	石鏃	遺構	SK22	—	V1-36	覆土 上層	sh	38	19	8	3.2		2498
38-11	写49	石鏃	遺構	SK22	—	VJ-35	覆土 下層	chal	28	20	5	1.8		2502
38-12	写49	石瓦	遺構	SK22	—	VJ-35	覆土 下層	sh	41	31	7	7.2		2504
38-13	写49	異形 石器	遺構	SK22	—	VJ-35	覆土 下層	sh	41	31	10	9.7		2503
38-14	写49	石杖	遺構	SK22	—	V1-36	覆土	sh	46	31	29	57.8		2499
40-1	写51	石鏃	遺構	SK21	—	V1-35	覆土 上層	sh	37	13	6	1.9		2486
40-2	写51	石鏃	遺構	SK21	—	V1-35	覆土	sh	28	9	5	1.0	アスファルト基部	2474
40-3	写51	石鏃	遺構	SK21	—	V1-35	覆土 上層	sh	26	12	5	0.9		2480
40-4	写51	石鏃	遺構	SK21	—	V1-35	覆土	sh	38	18	8	3.5		2476

表19 石器・石製品観察表(2)

図版 番号	写真 図版	器種	段階	遺構	トレン チ・ベ ルト	グリッド	層位	石材	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量(g)	備考	整理 番号
40-5	写51	削器	遺構	SK21	—	V I-35	覆土 中層	sh	65	42	10	28.9		2484
40-6	—	剥片	遺構	SK21	—	V I-35	覆土 下層	sh	96	86	25	147.8		2496
40-7	写51	石核	遺構	SK21	—	V I-35	覆土 上層	sh	37	48	19	32.5		2490
40-8	写51	石核	遺構	SK21	—	V I-35	覆土 上層	sh	43	55	53	125.6		2493
40-9	写51	凹石	遺構	SK21	—	V I-35	覆土 上層	tuff	116	74	38	432.6	表裏に凹み	レ-002
40-10	写51	石皿	遺構	SK21	—	V I-35	覆土 下層	sa	273	144	65	3,000.0	縁なし石皿	レ-009
41-2	写49	削器	遺構	SK23	—	V I・ J-32	覆土 11	sh	41	41	12	17.2		2506
41-3	写49	石礫	遺構	SK24	—	V J・ K-33	覆土	sh	64	16	7	6.3	アスファルト基部	2507
41-11	写50	凹石	遺構	SK28	—	V I・ J-34	覆土	tuff	123	71	41	320.5	表裏に凹み	レ-005
41-14	写49	削器	遺構	SK34	—	V K- 32・33	覆土1	sh	42	66	14	41.8		2516
42-2	—	石核	遺構	SK39	—	V I- 31・32	覆土 上層	sh	54	80	38	186.1		2523
42-3	—	原石	遺構	SK39	—	V I- 31・32	覆土 上層	sh	108	118	45	430.6		2524
42-4	写50	石核	遺構	SK39	—	V I- 31・32	覆土 上層	sh	49	61	48	182.3		2522
43-5	写51	凹石	遺構	SK44	—	V G-32	覆土2	del	134	75	36	450.4	表裏に凹み	レ-004
43-7	写51	石製 円盤	遺構	SK45	—	V K- 33・34	覆土	mod	32	32	11	14.9	研磨整形	石023
43-8	写51	石製 円盤	遺構	SK45	—	V K- 33・34	覆土	box	—	—	—	20.8		石106
43-9	写51	削器	遺構	SK45	—	V K- 33・34	覆土	sh	61	41	18	35.7		2530
43-10	写51	削器	遺構	SK45	—	V K- 33・34	覆土 上層	sh	79	52	22	71.5		2525
43-11	写51	削器	遺構	SK45	—	V K- 33・34	覆土	sh	63	35	13	23.6		2531
43-12	写51	石核	遺構	SK45	—	V K- 33・34	覆土	sh	46	71	37	100.4		2538
46-2	写52	石皿	遺構	SQ20	—	V K-32	覆土	sa	312	314	63	9,240.0	縁なし石皿、S-1	レ-475
54-7	写52	玉類	遺構	SQ21	—	V H-32	覆土 底面	grtuff	8	8	4.5	0.2		石082
54-8	写52	玉類	遺構	SQ21	—	V H-32	覆土 底面	grtuff	12	8	6	0.4		石083
54-9	写52	玉類	遺構	SQ21	—	V H-32	覆土 底面	grtuff	8	7.5	4.5	0.2	玉-3	石054
54-10	写52	玉類	遺構	SQ21	—	V H-32	覆土 底面	grtuff	9	9	7	0.4	玉-11	石055
54-11	写52	玉類	遺構	SQ21	—	V H-32	覆土 底面	grtuff	8	7	5.5	0.2	玉-2	石056
54-12	写52	玉類	遺構	SQ21	—	V H-32	覆土 底面	grtuff	8	8	7	0.4		石057
54-13	写52	玉類	遺構	SQ21	—	V H-32	覆土 底面	grtuff	9	9	7.5	0.5	玉-10	石059
54-14	—	玉類	遺構	SQ21	—	V H-32	覆土 底面	grtuff	5	7	4.5	0.1以下	片面穿孔	石060
54-15	—	玉類	遺構	SQ21	—	V H-32	覆土 底面	grtuff	8	7.5	4.5	0.2	玉-26,片面穿孔	石062
54-16	—	玉類	遺構	SQ21	—	V H-32	覆土 底面	grtuff	7	6.5	5.5	0.1	玉-5	石063
54-17	—	玉類	遺構	SQ21	—	V H-32	覆土 底面	grtuff	6.5	4.5	4	0.1以下	玉-1	石067
54-18	—	玉類	遺構	SQ21	—	V H-32	覆土 底面	grtuff	8	7	6	0.4		石069
54-19	写52	玉類	遺構	SQ21	—	V H-32	覆土 底面	grtuff	7	5	4.5	0.1	玉-17	石075
54-20	写52	玉類	遺構	SQ21	—	V H-32	覆土 底面	grtuff	6.5	5.5	3.5	0.1以下	玉-16	石076
54-21	写52	玉類	遺構	SQ21	—	V H-32	覆土 底面	grtuff	8	7	4	0.1	玉-12	石077
54-22	写52	玉類	遺構	SQ21	—	V H-32	覆土 底面	grtuff	7.5	7	5	0.2	玉-6	石079
54-23	写52	玉類	遺構	SQ21	—	V H-32	覆土 底面	grtuff	7	8	5.5	0.2	玉-9	石081

表19 石器・石製品観察表(3)

図版番号	写真図版	器種	段階	遺構	トレンチ・ベルト	グリッド	層位	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	備考	整理番号
54-24	写52	玉類	遺構	SQ21	—	VH-32	覆土底面	grtuff	7	6	4	0.1	玉-15	石082
54-25	写52	玉類	遺構	SQ21	—	VH-32	覆土	grtuff	7	6	4	0.1	玉-23	石086
54-26	写52	玉類	遺構	SQ21	—	VH-32	覆土	grtuff	7	6	4	0.1	玉-20	石087
54-27	写52	玉類	遺構	SQ21	—	VH-32	覆土	grtuff	18.5	11	8	1.3	玉-27	石088
56-5	写53	石鏃	遺構	SQ26	—	VH-32	覆土	sh	38	14	8	3.7		2457
56-6	写53	石製円盤	遺構	SQ26	—	VH-32	覆土	grtuff	32	34	14	19.7	側面研磨整形	石015
56-8	写53	石匙	遺構	SQ27	—	VH-32	覆土 最下層	sh	56	56	8	18.1		3063
56-10	写53	石鏃	遺構	SQ29	—	VH-33	覆土2	sh	23	12	5	1.1	アスファルト基部	2459
56-11	写53	石鏃	遺構	SQ29	—	VH-33	覆土2	sh	45	15	7	2.7		2460
56-12	写53	磨石	遺構	SQ29	—	VH-33	覆土 上層	dol	126	86	58	923.1	表裏に磨面。右側面にざらざら磨面	レ-011
—	写53	自然礫	遺構	SQ25	—	VH-34	覆土 上層	cong	—	—	—	11,600.0	S-1	レ-027
57-1	写53	原石	遺構	SQ44	—	VJ-34	覆土2	sh	96	120	75	693.8	接合資料	2601
57-2	写53	凹石	遺構	SQ46	—	VI-33	覆土 下層	and	109	59	82	411.7	表裏、右側面に凹み	レ-007
57-4	写53	石製円盤	遺構	SQ42	—	VK-33	覆土	dol	39	43	10	24.6	アスファルト付着	石018
—	写53	立石	遺構	SQ44	—	VJ-34	覆土	grtuff	—	—	—	8,600.0	S-1.配石遺構の立石。楕円形 緑色凝灰岩製	レ-029
—	写53	台石	遺構	SQ46	—	VI-33	覆土 上層	and	—	—	—	19,600.0		レ-022
65-3	写54	石製円盤	遺構	SB61	—	VJ-33	覆土	tuff	45	44	15	49.3	アスファルト付着	石040
68-16	写55	石鏃	遺構	SN51a	—	VH-34	覆土	sh	36	11	5	1.4	アスファルト基部	2542
68-17	写55	石鏃	遺構	SN51a	—	VH-34	覆土	sh	26	8	5	1.1		2541
68-18	写55	石匙	遺構	SN-51	—	VH-34	覆土1	sh	72	41	11	27.3		1648
72-2	写56	石鏃	遺構	P11321	—	VJ-35	覆土	sh	22	9	4	0.7	アスファルト基部	2605
72-3	写56	石鏃	遺構	P11329	—	VJ-35	覆土	sh	37	17	5	2.6	アスファルト基部	2546
72-4	写56	石杖	遺構	P11371	—	VI-35	覆土	sh	68	68	57	275.6		2544
73-4	写56	石鏃	遺構	P11404	—	VH-34	覆土	sh	45	17	6	4.6		2549
73-6	写56	石杖	遺構	P11405	—	VJ-34	覆土	sh	47	33	28	41.0		2548
73-7	写56	削器	遺構	P11410	—	VI-32	覆土	sh	62	33	16	33.1		2552
73-8	写56	石鏃	遺構	P11424	—	VJ-34	覆土	sh	25	10	4	0.9	アスファルト基部	2558
73-9	—	石鏃	遺構	P11421	—	VI-34	覆土	sh	36	24	4	3.1	未製品	2556
73-11	写56	凹石	遺構	P11426	—	VJ-34	覆土	and	137	88	68	936.6	表裏に凹み	レ-019
74-5	写56	石杖	遺構	P11445	—	VJ-34	覆土	sh	38	57	31	61.2		2561
74-6	写56	石匙	遺構	P11402	—	VI-34	覆土	sh	59	32	5	5.0		145
74-13	写56	凹石 磨石	遺構	P11422	—	VI-34	覆土	cong	150	85	49	821.6	表裏に凹み。裏面に磨面、 右側面にざらざら磨面	レ-018
94-1	写63	石鏃	IIa	M1	トレンチ10	VJ-35	23	sh	26	11	4	0.8		2572
94-2	写63	石鏃	IIa	M1	SN-B	VI-35	30	sh	18	12	4	0.9		1500
94-3	写63	石鏃	IIa	M1	トレンチ1	VH-34	19	sh	26	13	5	1.1		78
94-4	写63	石鏃	IIa	M1	トレンチ10	VJ-35	23	sh	30	14	4	1.0		1167
94-5	写63	石鏃	IIa	M1	トレンチ1	VI-33	19	sh	30	12	4	1.1	アスファルト基部	165
94-6	写63	石鏃	IIa	M1	トレンチ6	VI-36	8	sh	29	11	4	1.0		976
94-7	写63	石鏃	IIa	M1	トレンチ10	VJ-35	地山 直上	sh	21	13	4	1.1		2569
94-8	写63	石鏃	IIa	M1	トレンチ4	VG-33	24	sh	32	12	4	1.2	アスファルト基部	775
94-9	写63	石鏃	IIa	M1	トレンチ6	VI-35・ 36	9	sh	33	11	5	1.2		2570

表19 石器・石製品観察表(4)

図版番号	写真図版	器種	段階	遺構	トレンチ・ベル	グリッド	層位	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	備考	整理番号
94-10	写63	石鏃	IIa	M1	トレンチ1	VI-33	19	sh	31	15	5	1.4	アスファルト基部	173
94-11	写63	石鏃	IIa	M1	トレンチ1	VI-33	19	sh	41	13	4	1.6	アスファルト基部	171
94-12	写63	石鏃	IIa	M1	トレンチ10	VJ-35	地山直上	sh	34	16	9	4.3		2568
94-13	写63	石鏃	IIa	M1	トレンチ3	VI-35	19	sh	25	13	5	1.2		579
94-14	写63	石鏃	IIa	M1	EW-B3	VJ-34	30	sh	42	12	5	2.3		1923
94-15	写63	石鏃	IIa	M1	EW-B3	VJ-34	30	sh	47	11	4	1.9		1919
94-16	写63	石鏃	IIa	M1	EW-B1	VH-33	16	sh	53	14	7	3.9		1427
94-17	写63	石鏃	IIa	M1	EW-B3	VJ-34	30	sh	20	9	3	0.6		1920
94-18	写63	石鏃	IIa	M1	トレンチ3	VI-34	19	sh	27	17	7	2.4		3078
94-19	写63	石鏃	IIa	M1	トレンチ10	VJ-35	23	sh	28	13	3	1.1		1263
94-20	写63	石鏃	IIa	M1	トレンチ1	VH-33	19	sh	33	13	6	1.9		97
94-21	写63	石鏃	IIa	M1	トレンチ10	VJ-33	23	sh	39	14	8	3.3	未製品	1286
94-22	写63	石鏃	IIa	M1	トレンチ6	VI-36	8	sh	32	20	7	3.7	未製品	971
94-23	写63	石鏃	IIa	M1	EW-B3	VJ-35	23	sh	32	15	4	1.6	凹基底。アスファルト基部	1973
94-24	—	石鏃	IIa	M1	トレンチ3	VI-35	19	sh	32	20	9	4.1	未製品	578
94-25	—	石鏃	IIa	M1	トレンチ1	VI-33	19	sh	35	32	9	7.4	未製品	174
94-26	写63	石鏃	IIa	M1	トレンチ1	VI-32	19	sh	38	13	6	2.2	未製品?	154
94-27	写63	石鏃	IIa	M1	トレンチ7	VH-35	2	sh	59	39	18	35.0		1059
94-28	写63	石鏃	IIa	M1	トレンチ10	VJ-35	23	sh	39	28	10	9.0		1258
94-29	写63	石鏃	IIa	M1	SN-B	VG-34	25	sh	45	62	8	16.2		1533
94-30	写63	石鏃	IIa	M1	EW-B2	VI-34	19	sh	36	50	10	15.8		1785
94-31	写63	石鏃	IIa	M1	トレンチ4	VG-33	24	sh	30	55	10	10.7		2595
95-1	写63	石鏃	IIa	M1	トレンチ1	VI-34	16	sh	61	46	11	18.4	アスファルト組み付着	197
95-2	写63	石鏃	IIa	M1	EW-B2	VI-34	19	sh	50	54	11	18.1	アスファルト組み付着	1780
95-3	写63	石鏃	IIa	M1	SN-B	VH-34	16	sh	50	57	10	20.1	アスファルト組み付着	1593
95-4	写63	石鏃	IIa	M1	SN-B	VH-34	16	sh	52	65	9	25.5	アスファルト組み付着	1591
95-5	写63	鏃器	IIa	M1	EW-B3	VJ-34	23(30)	sh	70	31	21	43.5		2866
95-6	写63	削器	IIa	M1	トレンチ3	VI-34	19	sh	94	26	14	33.4		583
95-7	写63	削器	IIa	M1	EW-B3	VJ-35	23	sh	55	38	10	20.1		1972
95-8	写63	削器	IIa	M1	トレンチ6	VI-35	8・9	sh	62	36	10	23.0		937
95-9	写63	削器	IIa	M1	トレンチ10	VJ-35	23	sh	61	36	10	22.0		1264
95-10	写63	微細削片	IIa	M1	トレンチ1	VI-34	16	sh	40	28	9	9.3		211
95-11	写63	削器	IIa	M1	トレンチ7	VH-35	2	sh	49	46	13	30.0		1055
95-12	写63	削器	IIa	M1	トレンチ1	VI-33	19	sh	34	43	10	11.0		170
95-13	—	切斷調整石器	IIa	M1	トレンチ1	VI-33	19	sh	34	26	8	6.6		148
95-14	写63	鏃器	IIa	M1	トレンチ4	VF-33	25	sh	49	45	12	17.4		771
95-15	写63	削片	IIa	M1	EW-B3	VI-35	9	sh	39	18	14	9.0	アスファルト付着	1885
96-1	写63	削器	IIa	M1	トレンチ10	VJ-35	23	sh	89	81	21	133.2		1169
96-2	写63	削器	IIa	M1	EW-B3	VI-35	9	sh	49	47	7	15.1		1886
96-3	写63	削器	IIa	M1	トレンチ4	VH-33	24	sh	55	57	14	48.4	S-5206	2832
96-4	写63	微細削片	IIa	M1	トレンチ7	VH-34	2	sh	92	49	14	47.2		1067
96-5	写63	石核	IIa	M1	トレンチ2・3	VI-34	19	sh	37	39	27	34.0		369

表19 石器・石製品観察表(5)

図版番号	写真図版	器種	段階	遺構	トレンチ・ベルト	グリッド	層位	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	備考	整理番号
96-6	写64	石核	IIa	M1	トレンチ1	VH-34	19	sh	43	60	47	111.4		73
96-7	写64	石核	IIa	M1	EW-B1	VH-34	16	sh	46	65	50	152.0		1390
97-1	写64	石核	IIa	M1	トレンチ10	VJ-33	23	sh	49	69	44	122.2		1296
97-2	写64	石核	IIa	M1	トレンチ1	VI-33	19	sh	59	65	49	190.3		152
97-3	写64	石核	IIa	M1	トレンチ1	VI-32	19	sh	77	69	71	407.6		159
97-4	—	石核	IIa	M1	トレンチ10	VJ-35	23	sh	39	50	49	83.3		1274
97-5	写64	石核	IIa	M1	EW-B2	VI-32	19	sh	50	45	46	89.2		1706
98-1	写64	石核	IIa	M1	EW-B2	VI-34	19	sh	84	86	73	544.9		1790
98-2	写64	石核	IIa	M1	EW-B3	VJ-34	30	ob	32	44	42	78.0		1926
98-3	写64	石核	IIa	M1	EW-B2	VI-34	19	sh	49	47	32	80.2		1784
98-4	写64	石核	IIa	M1	トレンチ8・9	VG-34	2	sh	52	71	69	232.8		1125
98-5	写64	石核	IIa	M1	トレンチ3	VI-34	19	sh	64	45	43	121.3		584
99-1	写64	石核	IIa	M1	トレンチ3	VI-33	19	sh	36	43	21	33.1		532
99-2	写64	石核	IIa	M1	トレンチ2	VI-35	19	sh	68	66	38	162.9		298
99-3	写64	石核	IIa	M1	トレンチ6	VI-36	8	sh	38	47	45	100.8		980
99-4	写64	石核	IIa	M1	トレンチ2・3	VI-34	19	sh	52	49	58	119.7		380
99-5	写64	敲石	IIa	M1	トレンチ10	VJ-35	23	sh	76	32	25	50.5	棒状の珪質頁岩素材	1268
99-6	写64	敲石	IIa	M1	トレンチ2・3	VI-34	19	sh	50	38	27	62.0	卵形の珪質頁岩素材	372
99-7	写64	敲石	IIa	M1	トレンチ6	VH-35・36	8	sh	58	45	21	57.9	珪質頁岩の剥片素材	1059
100-1	写64	磨製石斧	IIa	M1	トレンチ4	VH-32	24	and	102	50	30	255.0	S5023	レ446
100-2	写64	凹石	IIa	M1	トレンチ7	VG-35	2	tuff	102	85	54	554.2	表裏に凹み	レ345
100-3	写64	凹石	IIa	M1	トレンチ8	VG-34	2	and	125	71	55	569.3	正面に凹み	レ358
100-4	写64	凹石	IIa	M1	トレンチ6	VH-35	9	tuff	124	94	29	401.7	表裏に凹み	レ328
100-5	写65	凹石	IIa	M1	トレンチ6	VI-36	9	sa	140	52	39	353.9	表裏に凹み	レ340
100-6	写65	凹石	IIa	M1	トレンチ1	VH-32	19	cong	120	93	37	523.4	正面に凹み	レ205
100-7	写65	凹石	IIa	M1	トレンチ1	VI-33	19	tuff	105	74	39	365.8	表裏に凹み	レ232
100-8	写65	凹石	IIa	M1	トレンチ3	VI-34	19	sa	119	86	64	709.3	表裏に凹み	レ267
100-9	—	凹石	IIa	M1	トレンチ1	VH-34	16	tuff	89	70	39	265.2	表裏に凹み	レ193
101-1	写65	凹石	IIa	M1	トレンチ1	VH-34	19	sa	109	74	30	325.9	表裏に凹み	レ469
101-2	写65	凹石	IIa	M1	トレンチ10	VJ-34	23	sa	97	75	34	251.5	表裏に凹み	レ129
101-3	写65	凹石	IIa	M1	トレンチ1	VH-34	16	tuff	109	81	39	318.6	表裏に凹み	レ196
101-4	写65	凹石	IIa	M1	トレンチ10	VJ-34	23	tuff	81	68	42	264.5	表裏に凹み	レ130
101-5	写65	磨石	IIa	M1	トレンチ10	VJ-34	23	tuff	63	53	39	148.3	細粒凝灰岩。表裏に顕著な磨面。石器長軸に対し直交する擦痕顕著	レ133
101-6	写65	磨石	IIa	M1	EW-B1	VH-34	16	tuff	132	92	54	891.1	正面に不明瞭な磨面と黒色付着	レ055
101-7	写65	敲石	IIa	M1	トレンチ1	VH-34	16	sa	118	81	30	332.6	右と上側面に敲痕。擦痕が見られる。	レ189
101-8	写65	凹石・磨石	IIa	M1	EW-B1	VG-32・33	a	dol	112	96	56	875.5	正面に磨面、裏面に凹み	レ057
101-9	写65	凹石・磨石	IIa	M1	トレンチ1	VH-32	19	tuff	130	79	51	649.7	正面に凹み、側面にざらざら磨面	レ207
102-1	写65	凹石	IIa	M1	トレンチ1	VI-33	19	tuff	100	89	50	409.1	表裏に凹み。破損	レ233

表19 石器・石製品観察表(6)

図版番号	写真図版	器種	段階	遺構	トレンチ・レベル	グリッド	層位	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	備考	整理番号
102-2	写65	凹石	IIa	M1	トレンチ4	VG-33	20	dol	113	71	34	429.0	表裏に浅い凹み。長軸両端に縦痕	レ292
102-3	写65	凹石・蔽石	IIa	M1	EW-B1	VG-32-33	a	tuff	99	65	52	418.9	正面に凹み、上下端に蔽き	レ058
102-4	写65	蔽石	IIa	M1	トレンチ4	VH-33	24	cong	122	48	36	284.5	下端に蔽き	レ136
102-5	写65	石皿	IIa	M1	EW-B2	VH-35	9	tuff	176	179	98	2,648.2	縁あり石皿	レ070
102-6	写66	石皿	IIa	M1	トレンチ3	VI-34	19	and	225	182	94	5,000.0	正面に磨面。縁なし	レ255
102-7	写66	石皿	IIa	M1	EW-B2	VH-35	9	sa	383	264	80	10,600.0	正面に磨面。縁なし	レ032
102-8	写65	石皿	IIa	M1	トレンチ1	VH-32	24	msd	260	180	32	1,985.5	正面に磨面。縁なし	レ452
—	写66	台石	IIa	M1	SN-B	VI-35	9-1	del	—	—	—	3,800.0	S-5022	レ041
103-1	—	石剣	IIa	M1	トレンチ6	VI-36	9	sla	69	34	13	53.5	S-5016	石089
103-2	写66	石製円盤	IIa	M1	トレンチ1	VI-33	19	dol	49	50	26	89.6		石011
103-3	写66	石製円盤	IIa	M1	トレンチ1	VI-33	19	tuff	27	24	11	9.5		石025
103-4	写66	石製円盤	IIa	M1	トレンチ1	VH-32	19	grtuff	72	62	20	102.4		石016
103-5	写66	石製円盤	IIa	M1	トレンチ1	VI-33	19	sa	41	45	18	42.5	アスファルト付着。磨面整形	石012
103-6	写66	石製円盤	IIa	M1	トレンチ1	VI-33	19	rhy	67	62	19	103.4		石020
103-7	写66	石製円盤	IIa	M1	トレンチ1	VH-32	19	rhy	42	39	12	30.5		石029
103-8	写66	石製円盤	IIa	M1	トレンチ4	VG-33	24	rhy	70	64	18	112.0		石047
103-9	写66	石製円盤	IIa	M1	トレンチ10	VJ-33	23	tuff	53	49	20	70.7		石096
103-10	—	石製品	IIa	M1	トレンチ3	VI-34	相当	dol	62	61	35	197.6		石118
107-1	写68	両面調整石器	IIb	M1	トレンチ5	VJ-36	11	sh	79	56	27	90.0		831
107-2	写68	削器	IIb	M1	トレンチ5	VJ-36	11	sh	54	30	9	13.0		825
107-3	写68	削器	IIb	M1	トレンチ5	VJ-36	11	sh	47	32	11	19.5		837
107-4	—	微細剥片	IIb	M1	トレンチ5	VJ-36	11	sh	45	32	12	13.8		816
107-5	写63	削器	IIb	M1	トレンチ5	VJ-36	11	sh	37	38	15	18.7		807
107-6	写63	削器	IIb	M1	トレンチ5	VJ-34・35・36	11	sh	129	65	35	306.0	礫素材	2870
107-7	写68	石核	IIb	M1	トレンチ5	VJ-36	11	sh	56	45	35	105.8		836
108-1	写68	凹石	IIb	M1	トレンチ5	VJ-36	11	and	118	73	33	325.2	表裏に凹み	レ314
108-2	写68	磨石	IIb	M1	トレンチ5	VJ-36	11	tuff	131	83	55	833.8	表裏に磨面。右側面に剥離と中軸後縁に潰れ痕	レ321
108-3	写68	加工産	IIb	M1	トレンチ5	VJ-36	11	sa	134	84	25	354.8	長軸一端に剥離。石鏝?	レ316
108-4	写68	磨石	IIb	M1	トレンチ5	VJ-36	11	and	133	92	65	1,182.8	正面に磨面。裏面火ハネ	レ319
108-5	写68	蔽石	IIb	M1	トレンチ5	VJ-36	11	cong	159	83	68	1,172.0	下端に磨面。摺り粉木状	レ315
120-1	写73	石鏝	IIIa	M1	SN-B	VH-34	15	sh	25	8	3	0.5		1673
120-2	写73	石鏝	IIIa	M1	EW-B2	VI-34	15	sh	24	7	4	0.6	アスファルト基部。衝撃剥離	1770
120-3	写73	石鏝	IIIa	M1	トレンチ1	VI-34	15	sh	30	12	5	1.1		215
120-4	写73	石鏝	IIIa	M1	トレンチ1	VI-34	15	sh	28	11	3	0.8		216
120-5	写73	石鏝	IIIa	M1	EW-B2	VI-34	15	sh	27	12	5	1.1	アスファルト基部	1750
120-6	写73	石鏝	IIIa	M1	EW-B2	VI-34	15	sh	27	13	5	1.4	アスファルト基部	1758
120-7	写73	石鏝	IIIa	M1	トレンチ3	VI-34	15	sh	31	10	5	1.1		557
120-8	写73	石鏝	IIIa	M1	SN-B	VI-35	15	sh	30	10	4	0.9	アスファルト基部	1463
120-9	写73	石鏝	IIIa	M1	EW-B2	VI-34	15	sh	36	14	6	2.6		2189



表19 石器・石製品観察表(7)

図版番号	写真図版	器種	段階	遺構	トレンチ・ベルト	グリッド	層位	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	備考	整理番号
120-10	写73	石鏃	Ⅲa	M1	SN-B	V I-35	15	sh	35	10	5	1.2		1481
120-11	写73	石鏃	Ⅲa	M1	トレンチ3	V I-34	15	sh	37	9	5	1.3		554
120-12	写73	石鏃	Ⅲa	M1	トレンチ3	V I-34	15	sh	34	12	5	1.3	アスファルト基部	556
120-13	写73	石鏃	Ⅲa	M1	SN-B	V II-35	15	sh	40	11	6	1.6	アスファルト基部	1670
120-14	写73	石鏃	Ⅲa	M1	トレンチ3	V I-34	15	sh	38	11	4	1.4	アスファルト基部	616
120-15	写73	石鏃	Ⅲa	M1	トレンチ3	V I-34	15	sh	22	10	5	0.8		618
120-16	写73	石鏃	Ⅲa	M1	EW-B2	V I-34	15	sh	28	9	4	0.9	未製品?	1766
120-17	写73	両面調整石器	Ⅲa	M1	トレンチ3	V I-34	15	sh	85	50	30	142.5	SS020	572
120-18	写73	石匙	Ⅲa	M1	トレンチ1	V I-34	15	sh	64	39	10	17.8		192
120-19	写73	石匙	Ⅲa	M1	SN-B	V I-35	15	sh	60	61	15	28.7	アスファルト積み付着	1479
120-20	写73	石匙	Ⅲa	M1	トレンチ1	V I-34	15	sh	55	44	8	16.2		217
120-21	写73	石匙	Ⅲa	M1	トレンチ1	V I-34	15	sh	46	50	12	19.4	アスファルト積み付着	188
120-22	写73	削器	Ⅲa	M1	トレンチ1	V I-34	15	sh	61	60	14	41.9		194
120-23	写73	削器	Ⅲa	M1	SN-B	V I-35	15	sh	50	42	19	45.6		1470
120-24	写73	削器	Ⅲa	M1	トレンチ3	V I-34	15	sh	40	31	10	7.4		594
120-25	写73	削器	Ⅲa	M1	SN-B	V I-35	15	sh	39	29	8	9.0		1466
121-1	写74	削器	Ⅲa	M1	トレンチ3	V I-35	15	sh	66	59	18	63.6		585
121-2	写74	削器	Ⅲa	M1	SN-B	V II-34・35	15	sh	50	42	9	17.4		1646
121-3	写74	石核	Ⅲa	M1	EW-B2	V I-34	15	sh	43	49	22	42.4		1774
121-4	—	石核	Ⅲa	M1	EW-B2	V I-34	15	sh	38	65	42	91.3		1751
121-5	—	石核	Ⅲa	M1	トレンチ3	V I-34	15	sh	43	54	47	78.4		573
121-6	写74	石核	Ⅲa	M1	SN-B	V I-35	15	sh	44	58	40	121.3		1478
121-7	写74	石核	Ⅲa	M1	トレンチ3	V I-34	15	sh	105	74	33	195.7		575
122-1	写74	石核	Ⅲa	M1	SN-B	V II-34・35	15	sh	73	72	39	163.1		1640
122-2	写74	敲石	Ⅲa	M1	EW-B2	V I-34	15	sh	109	73	45	346.9	珪質頁岩の大形厚手剥片素材	1777
122-3	写74	石核	Ⅲa	M1	EW-B2	V I-34	15	sh	55	52	41	113.1		1769
122-4	写74	原石	Ⅲa	M1	トレンチ3	V I-34	15	sh	103	81	52	460.3	珪質頁岩の歪角礫原石	620
123-1	写74	磨石	Ⅲa	M1	トレンチ3	V I-34	15	tuff	125	78	50	706.5	表裏に磨面、両側面にざら磨面	レ280
123-2	写74	敲石	Ⅲa	M1	EW-B2	V I-34	15	tuff	81	48	35	173.5	長軸両端に敲き	レ080
123-3	写74	凹石	Ⅲa	M1	SN-B	V II-35	15	dol	163	69	36	598.5	表裏に浅い窪み	レ169
123-4	写74	石製品	Ⅲa	M1	EW-B2	V I-34	15	and	129	82	61	487.9		石115
123-5	写74	石製円盤	Ⅲa	M1	EW-B2	V I-34	15	tuff	37	36	15	30.1		石032
—	写74	台石	Ⅲa	M1	SN-B	V I-35	15	del	—	—	—	10,400.0		レ040
131-1	写78	石鏃	Ⅲb	M1	トレンチ3	V I-34	18	sh	21	13	6	0.8		397
131-2	写78	石鏃	Ⅲb	M1	トレンチ3	V I-34	18	sh	23	9	3	0.7		430
131-3	写78	石鏃	Ⅲb	M1	トレンチ3	V I-34	18	sh	25	12	5	1.0		401
131-4	写78	石鏃	Ⅲb	M1	トレンチ3	V I-34	18	sh	29	11	5	1.0	アスファルト基部	438
131-5	写78	石鏃	Ⅲb	M1	トレンチ3	V I-34	18	sh	25	13	6	1.4	衝撃割離	443
131-6	写78	石鏃	Ⅲb	M1	トレンチ3	V I-34	18	sh	26	11	4	1.1	衝撃割離	648
131-7	写78	石鏃	Ⅲb	M1	トレンチ3	V I-34	18	sh	28	9	3	0.7		458
131-8	写78	石鏃	Ⅲb	M1	トレンチ3	V I-34	18	sh	27	10	4	1.0		422
131-9	写78	石鏃	Ⅲb	M1	トレンチ3	V I-34	18	sh	29	13	5	1.3	アスファルト基部継身	424

表19 石器・石製品観察表(8)

図版 番号	写真 図版	器種	段階	遺構	トレン チ・ペ ル ト	グリッド	層位	石材	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量(g)	備考	整理 番号
131-10	写78	石鏃	Ⅲb	M1	トレン チ3	V1-34	18	sh	29	13	4	1.2		427
131-11	写78	石鏃	Ⅲb	M1	トレン チ3	V1-34	18	sh	30	11	5	1.2	アスファルト基部	431
131-12	写78	石鏃	Ⅲb	M1	トレン チ3	V1-34	18	sh	30	11	5	1.1		432
131-13	写78	石鏃	Ⅲb	M1	トレン チ1	V1-34	18	sh	27	10	5	1.0		118
131-14	写78	石鏃	Ⅲb	M1	トレン チ1	V1-34	18	sh	27	12	5	34.6		123
131-15	写78	石鏃	Ⅲb	M1	トレン チ3	V1-34	18	sh	30	11	5	1.2	アスファルト基部	518
131-16	写78	石鏃	Ⅲb	M1	トレン チ3	VJ-34	18	sh	25	11	5	1.2		604
131-17	写78	石鏃	Ⅲb	M1	トレン チ3	VJ-34	18	sh	29	12	4	0.7		609
131-18	写78	石鏃	Ⅲb	M1	トレン チ3	V1-34	18	sh	26	16	5	1.4		670
131-19	写78	石鏃	Ⅲb	M1	トレン チ1	V1-34	18	sh	28	9	4	0.8	アスファルト基部	119
131-20	写78	石鏃	Ⅲb	M1	トレン チ3	V1-34	18	sh	28	14	5	1.6	アスファルト基部	468
131-21	写78	石鏃	Ⅲb	M1	トレン チ2	V1-34	18	sh	36	8	4	0.9		336
131-22	写78	石鏃	Ⅲb	M1	トレン チ3	V1-34	18	sh	35	10	6	1.6		437
131-23	写78	石鏃	Ⅲb	M1	トレン チ1	V1-34	18	sh	35	12	4	1.4	アスファルト基部	139
131-24	写78	石鏃	Ⅲb	M1	トレン チ3	V1-34	18	sh	32	10	4	0.9		393
131-25	写78	石鏃	Ⅲb	M1	トレン チ3	V1-34	18	sh	29	14	7	2.2	アスファルト基部	433
131-26	写78	石鏃	Ⅲb	M1	トレン チ3	VJ-34	18	sh	40	10	4	1.4		603
131-27	写78	石鏃	Ⅲb	M1	トレン チ3	V1-34	18	sh	33	13	5	1.6	アスファルト基部	421
131-28	写78	石鏃	Ⅲb	M1	EW-B2	V1-34	18	sh	37	15	10	4.4		1795
131-29	写78	石鏃	Ⅲb	M1	EW-B2	V1-33	18	sh	57	21	8	6.2		1740
131-30	写78	石筈	Ⅲb	M1	トレン チ3	V1-34	18	sh	59	26	13	20.9		651
131-31	写78	石匙	Ⅲb	M1	トレン チ3	V1-34	18	sh	84	60	14	54.3		429
131-32	写78	石匙	Ⅲb	M1	トレン チ1	V1-34	18	sh	58	51	7	19.4	アスファルト積み付着	121
131-33	写78	石匙	Ⅲb	M1	トレン チ3	V1-34	18	sh	69	34	13	23.9	アスファルト積み付着	406
131-34	写78	石匙	Ⅲb	M1	EW-B2	V1-33	18	sh	33	20	5	2.7		1741
131-35	写78	石匙	Ⅲb	M1	トレン チ3	V1-34	18	sh	50	68	11	24.8		460
131-36	写78	石匙	Ⅲb	M1	EW-B2	V1-34	18	sh	41	53	11	15.3		1798
132-1	写78	石匙	Ⅲb	M1	トレン チ3	V1-34	18	sh	73	62	13	48.7		428
132-2	写78	石匙	Ⅲb	M1	EW-B2	V1-33	18	sh	53	53	8	19.7	アスファルト積み付着	1739
132-3	写78	石匙	Ⅲb	M1	トレン チ3	V1-34	18	sh	54	81	12	35.0		533
132-4	写78	石匙	Ⅲb	M1	EW-B2	V1-33	18	sh	56	51	15	30.6	アスファルト積み付着	1743
132-5	写78	石匙	Ⅲb	M1	EW-B2	V1-34	18	sh	46	56	12	20.3	アスファルト積み付着	1791
132-6	写78	石匙	Ⅲb	M1	EW-B2	V1-34	18	sh	40	57	10	18.8	アスファルト積み付着	1796
132-7	写79	石匙	Ⅲb	M1	EW-B2	V1-34	18	sh	60	66	13	40.5	アスファルト積み付着	1799
132-8	写79	石匙	Ⅲb	M1	EW-B2	V1-34	18	sh	54	66	13	31.2	アスファルト積み付着	1826
132-9	写79	削器	Ⅲb	M1	トレン チ3	VJ-34	18	sh	55	20	12	7.4		605
132-10	写79	削器	Ⅲb	M1	トレン チ3	VJ-34	18	sh	65	44	11	32.3		645
132-11	写79	削器	Ⅲb	M1	トレン チ3	V1-34	18	sh	71	40	13	26.7		634
133-1	写79	削器	Ⅲb	M1	トレン チ3	V1-34	18	sh	62	48	8	22.2		630
133-2	写79	削器	Ⅲb	M1	EW-B2	V1-34	18	sh	60	51	13	30.4		1814
133-3	写79	削器	Ⅲb	M1	EW-B2	V1-34	18	sh	78	44	22	60.6		1816
133-4	写79	削器	Ⅲb	M1	トレン チ3	VJ-34	18	sh	55	44	12	25.5	アスファルト右辺	602

表19 石器・石製品観察表(9)

図版番号	写真図版	器種	段階	遺構	トレンチ・レベル	グリッド	層位	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	備考	整理番号
133-5	写79	削器	Ⅲb	M1	トレンチ1	V I-34	18	sh	87	40	13	34.6		122
133-6	写79	削器	Ⅲb	M1	トレンチ3	V I-34	18	sh	78	35	9	14.7		398
133-7	写79	削器	Ⅲb	M1	トレンチ3	V I-34	18	sh	65	44	11	23.5		416
133-8	写79	削器	Ⅲb	M1	トレンチ3	V I-34	18	sh	79	46	14	36.1		444
133-9	写79	削器	Ⅲb	M1	トレンチ3	V I-34	18	sh	87	39	14	54.3		404
133-10	写79	削器	Ⅲb	M1	トレンチ3	V I-34	18	sh	63	55	16	49.4		442
134-1	写79	削器	Ⅲb	M1	トレンチ3	V I-34	18	sh	92	48	17	65.3		500
134-2	写79	削器	Ⅲb	M1	EW-B2	V I-34	18	sh	99	48	17	93.6		1822
134-3	写79	削器	Ⅲb	M1	EW-B2	V I-34	18	sh	54	57	16	48.7		1817
134-4	写79	削器	Ⅲb	M1	トレンチ2-3	V I-33	18	sh	55	65	13	40.9		2437
134-5	写80	削器	Ⅲb	M1	EW-B2	V I-34	18	sh	39	53	11	18.4		1807
134-6	写79	打製石斧	Ⅲb	M1	トレンチ3	V I-34	18	sh	138	102	42	366.6	S5015, 分銅形	615
135-1	写80	石核	Ⅲb	M1	トレンチ1	V I-34	18	sh	36	28	23	20.7		125
135-2	写80	石核	Ⅲb	M1	EW-B2	V I-34	18	sh	45	61	35	77.3		1802
135-3	写80	石核	Ⅲb	M1	トレンチ1	V I-34	18	sh	29	36	33	38.7		144
135-4	写80	石核	Ⅲb	M1	トレンチ3	V I-34	18	sh	45	60	33	77.8		410
135-5	写80	石核	Ⅲb	M1	トレンチ3	V I-34	18	sh	54	53	40	107.2		654
135-6	—	石核	Ⅲb	M1	トレンチ3	V J-34	18	sh	50	58	38	118.4		640
135-7	写80	石核	Ⅲb	M1	トレンチ3	V I-34	18	sh	75	66	54	273.4		636
136-1	写80	石核	Ⅲb	M1	トレンチ3	V I-34	18	sh	51	80	48	202.7	剥片素材	681
136-2	写80	石核	Ⅲb	M1	トレンチ3	V I-34	18	sh	60	101	44	260.4		411
136-3	写80	剥片	Ⅲb	M1	トレンチ3	V I-34	18	sh	105	97	62	428.0	大形の礫面剥片	426
137-1	写80	磨製石斧	Ⅲb	M1	トレンチ3	V I-34	18	grtuff	68	35	14	55.4	S-5010, 細粒緑色凝灰岩製	レ285
137-2	写80	回石	Ⅲb	M1	トレンチ3	V I-34	18	sa	121	63	28	271.0	表裏に回み	レ268
137-3	写80	回石+磨石	Ⅲb	M1	トレンチ3	V I-34	18	sa	97	55	26	180.4	正面に回み, 表裏に磨面	レ276
137-4	写80	回石+磨石	Ⅲb	M1	トレンチ3	V I-34	18	sa	135	90	68	874.4	表裏に回み, 右側面にザラザク磨面	レ236
137-5	写80	磨石	Ⅲb	M1	トレンチ3	V I-34	18	dior	130	104	62	1,389.4	表裏に磨面	レ277
137-6	写80	石製品	Ⅲb	M1	トレンチ3	V I-34	18	dior	65	61	47	263.5		石117
141-1	写81	石鏃	Ⅲc	M1	SN-B	V I-35	7-1	sh	27	12	5	1.0	アスファルト基部	1485
141-2	写81	石鏃	Ⅲc	M1	SN-B	V I-35	7-1	sh	26	10	5	1.0	アスファルト基部	1486
141-3	写81	石鏃	Ⅲc	M1	EW-B2	V H-35	7-1	sh	27	8	3	0.5	アスファルト基部	2130
141-4	写82	石鏃	Ⅲc	M1	トレンチ10	V J-35	22	sh	62	39	14	27.6		1199
141-5	写82	石鏃	Ⅲc	M1	SN-B	V H-34	7-1	sh	67	42	12	29.3	未製品	1619
141-6	写82	石鏃	Ⅲc	M1	SN-B	V I-35	7-1	sh	39	48	9	13.3	アスファルト組み付着	1487
141-7	写82	石鏃	Ⅲc	M1	トレンチ10	V J-35	22	fcpa	49	45	12	18.3	アスファルト組み付着	1284
141-8	—	削器	Ⅲc	M1	EW-B2	V H-35	2-2	sh	42	30	10	9.9	アスファルト左辺	2093
141-9	写82	石鏃	Ⅲc	M1	トレンチ10	V J-35	22	sh	45	54	8	15.5	アスファルト組み付着	1283
141-10	写82	削器	Ⅲc	M1	トレンチ10	V J-35	22	sh	70	35	12	30.9		1285
141-11	写82	削器	Ⅲc	M1	EW-B3	V I-36	7-1	sh	72	64	16	60.2		1879
141-12	—	剥片	Ⅲc	M1	EW-B3	V I-36	7-1	sh	45	27	10	9.4	アスファルト主要剥離面	1880
141-13	写82	石核	Ⅲc	M1	EW-B2	V H-35	7-1	sh	70	74	35	138.1		2134
141-14	写82	石核	Ⅲc	M1	EW-B2	V H-35	7-1	sh	49	59	61	190.4		2133
142-1	写82	石核	Ⅲc	M1	EW-B3	V I-35	7-1	sh	66	84	68	384.2		1891
142-2	写82	石核	Ⅲc	M1	EW-B2	V H-35	7-1	sh	69	51	42	155.3		2129

表19 石器・石製品観察表(10)

図版番号	写真図版	器種	段階	遺構	トレンチ・ベルルト	グリッド	層位	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	備考	整理番号
143-1	写82	凹石	IIIc	M1	EW-B3	VJ-35	22*28	tuff	86	70	33	222.0	表裏に凹み	レ098
143-2	写82	凹石・磨石	IIIc	M1	EW-B2	VH-35	1-2	dior	119	96	60	988.7	正面に凹み、表裏に磨面	レ067
143-3	写82	加工鏡	IIIc	M1	EW-B2	VH-35	7-1	tuff	90	74	18	120.9	石鏝?	レ076
143-4	写82	石皿	IIIc	M1	SN-B	VI-35	7-1	sa	334	108	75	3,800.0	緑なし石皿	レ043
145-1	写83	石鏝	III d	M1	SN-B	VH-34	1-1	sh	24	10	5	1.0	アスファルト基部	1578
145-2	写83	石鏝	III d	M1	SN-B	VH-34	1-1	sh	36	17	7	3.5		2606
145-3	写83	石鏝	III d	M1	トレンチ1	VI-34	5	sh	50	10	5	1.9		2433
145-4	写83	石鏝	III d	M1	SN-B	VI-35	27	sh	67	35	11	19.1		1512
145-5	写83	石鏝	III d	M1	トレンチ1	VG-34	1	sh	26	19	8	2.2		1098
145-6	写83	石匙	III d	M1	SN-B	VH-34	5	sh	57	22	12	8.2		1613
145-7	写83	石匙	III d	M1	トレンチ8	VG-34	1	sh	37	43	9	13.7		1115
145-8	写83	削器	III d	M1	トレンチ8	VG-34	1	sh	51	32	6	11.6		1112
145-9	写83	石杖	III d	M1	トレンチ7	VG・H-34・35	1	sh	47	56	40	124.7		1085
146-1	写83	凹石	III d	M1	トレンチ1	VH-34	5	sa	102	78	62	485.2	表裏に凹み	レ214
146-2	写83	凹石・磨石	III d	M1	トレンチ8	VG-34	1	tuff	98	92	73	905.4	表裏に凹み、下面に磨痕	レ362
146-3	写83	凹石	III d	M1	EW-B1	VG-34	1-1	tuff	115	122	50	538.1	表裏に凹み	レ059
146-4	写83	凹石	III d	M1	トレンチ8	VG-34	1	sa	101	52	34	226.4	表裏に凹み	レ364
146-5	写83	凹石	III d	M1	トレンチ1	VH-34	5	sa	144	56	32	328.4	正面に凹み	レ213
146-6	写83	凹石	III d	M1	トレンチ8	VG-34	1	sa	126	77	29	331.4	正面に凹み、裏面に鋭い磨痕	レ355
146-7	写83	磨石	III d	M1	トレンチ7	VG・H-34・35	1	and	116	87	63	886.1	表裏に磨面	レ342
146-8	写83	磨石	III d	M1	トレンチ1	VH-34	5	and	112	85	74	776.4	正面に磨面	レ409
146-9	写83	磨石	III d	M1	トレンチ1	VH-34	5	del	131	114	85	1,671.2	正面に磨面	レ216
148-1	写84	石鏝	III e	M1	SN-B	VI-35	7-2	sh	36	13	5	1.5		1492
148-2	写84	石鏝	III e	M1	SN-B	VI-35	31	sh	30	12	6	1.4	アスファルト基部	1505
148-3	写84	石鏝	III e	M1	EW-B2	VH-35	6	sh	32	12	6	1.7		2062
148-4	写84	石鏝	III e	M1	EW-B2	VH-35	6	sh	41	17	6	2.5	アスファルト基部	2063
148-5	写84	石鏝	III e	M1	SN-B	VI-35	31・7-2	sh	31	11	6	8.5		1490
148-6	写84	石鏝	III e	M1	トレンチ3	VI-34	31	sh	38	12	5	1.5	衝撃剥離	530
148-7	写84	石鏝	III e	M1	SN-B	VH-34	X・1-3	sh	23	7	4	0.7	アスファルト基部	1606
148-8	写84	石鏝	III e	M1	トレンチ3	VI-34	31	sh	20	10	5	0.6		580
148-9	写84	石鏝	III e	M1	SN-B	VI-35	31・7-2	sh	33	17	8	2.5		1491
148-10	写84	石匙	III e	M1	トレンチ1	VI-34	6	sh	47	49	13	16.8		221
148-11	写84	削器	III e	M1	SN-B	VI-35	31	sh	48	30	9	10.0		1504
148-12	写84	両面調整石器	III e	M1	SN-B	VI-35	7-2	sh	93	70	31	193.9		1496
148-13	写84	削器	III e	M1	SN-B	VI-35	7-2	sh	91	44	11	36.0		1495
148-14	写84	削器	III e	M1	EW-B2	VI-34	6	sh	62	40	13	21.5		2182
148-15	写84	石杖	III e	M1	トレンチ3	VI-34	31	sh	39	63	57	123.7		600
148-16	写84	凹石	III e	M1	EW-B2	VH-35	6	del	102	72	39	405.1	表裏に凹み、側面に鋭い磨痕	レ075
155-1	写87	石鏝	III f	M1	トレンチ3	VI-34	28	sh	21	11	5	0.9	アスファルト基部	688
155-2	写87	石鏝	III f	M1	トレンチ6	VI-35	7	sh	19	12	4	0.8		1006
155-3	写87	石鏝	III f	M1	トレンチ2	VI-35	28	sh	25	10	5	1.2		345
155-4	写87	石鏝	III f	M1	トレンチ3	VI-34	28	sh	27	12	5	1.2		685

表19 石器・石製品観察表(11)

図版番号	写真図版	器種	段階	遺構	トレンチ・ベール	グリッド	層位	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	備考	整理番号
155-5	写87	石鏃	Ⅲf	M1	トレンチ3	V1-34	28	sh	27	13	6	1.7	アスファルト基部	734
155-6	写87	石鏃	Ⅲf	M1	トレンチ2	VJ-34	28	sh	27	12	6	1.5		276
155-7	写87	石鏃	Ⅲf	M1	トレンチ2	VJ-34	28	sh	28	11	5	1.1		280
155-8	写87	石鏃	Ⅲf	M1	トレンチ2	VJ-34	28	sh	27	12	4	1.1		281
155-9	写87	石鏃	Ⅲf	M1	トレンチ3	V1-34	28	sh	28	10	4	0.8	アスファルト基部	687
155-10	写87	石鏃	Ⅲf	M1	トレンチ3	V1-34	28	sh	25	10	6	1.2		589
155-11	写87	石鏃	Ⅲf	M1	SN-B EW-B3	VJ-35	28	sh	31	9	5	0.9		1445
155-12	写87	石鏃	Ⅲf	M1	トレンチ3	V1-34	28	sh	37	11	5	1.0		690
155-13	写87	石鏃	Ⅲf	M1	トレンチ2,3	V1-34	28	sh	34	12	6	1.6		2388
155-14	写87	石鏃	Ⅲf	M1	トレンチ2	V1-35	28	sh	36	12	6	1.7	アスファルト基部	342
155-15	写87	石鏃	Ⅲf	M1	トレンチ2	V1-35	28	sh	44	13	5	1.7		343
155-16	写87	石鏃	Ⅲf	M1	トレンチ2	V1-35	28	sh	24	17	4	1.3	アスファルト基部	344
155-17	写87	石鏃	Ⅲf	M1	トレンチ6	V1-35	7	sh	45	12	6	2.8		1021
155-18	写87	石鏃	Ⅲf	M1	トレンチ2	VJ-34	28	sh	74	55	14	42.3		252
155-19	写87	石匙	Ⅲf	M1	トレンチ6	VH-35	7	sh	38	25	5	3.0		983
155-20	写87	石匙	Ⅲf	M1	トレンチ6	V1-35	7	sh	44	24	6	4.5		920
155-21	写87	石匙	Ⅲf	M1	トレンチ6	VH-35	7	sh	61	29	15	18.0		984
155-22	写87	石匙	Ⅲf	M1	SN-B EW-B3	VJ-35	28	sh	46	41	10	11.1	アスファルト積み、左辺付着	1446
155-23	写87	石匙	Ⅲf	M1	トレンチ6	V1-35	7	sh	47	43	9	13.6		1008
155-24	写87	石匙	Ⅲf	M1	トレンチ3	V1-34	28	sh	59	58	14	30.0		691
155-25	写87	石匙	Ⅲf	M1	トレンチ6	V1-35	7	sh	62	78	16	52.0	アスファルト積み付着	1035
155-26	写87	掘器	Ⅲf	M1	トレンチ3	V1-34	28	sh	41	39	10	15.3		706
156-1	写87	削器	Ⅲf	M1	トレンチ6	V1-36	7	sh	48	49	15	35.4		1044
156-2	写88	削器	Ⅲf	M1	トレンチ6	V1-35	7	sh	56	52	13	31.6		1033
156-3	写88	削器	Ⅲf	M1	トレンチ6	V1-35	7	sh	44	27	6	7.7	アスファルト右辺	964
156-4	写88	削器	Ⅲf	M1	トレンチ2	VJ-34	28	sh	34	41	9	10.3		262
156-5	写88	削器	Ⅲf	M1	トレンチ2	VJ-34	28	sh	60	39	10	18.8		277
156-6	写88	削器	Ⅲf	M1	トレンチ3	V1-34	28	sh	54	51	9	26.2		707
156-7	写88	削器	Ⅲf	M1	トレンチ3	V1-34	28	sh	50	53	18	58.5		717
156-8	写88	削器	Ⅲf	M1	トレンチ3	V1-34	28	sh	111	50	20	99.8		698
156-9	写88	異形石器	Ⅲf	M1	トレンチ2	VJ-34	28	sh	29	54	10	8.1		279
156-10	写88	微細剥片	Ⅲf	M1	トレンチ2	VJ-34	28	sh	64	83	20	97.2		289
157-1	写88	石核	Ⅲf	M1	トレンチ2,3	V1-34	28	sh	67	73	36	174.7		384
157-2	写88	石核	Ⅲf	M1	トレンチ2	VJ-34	28	sh	79	66	37	120.8		269
157-3	写88	石核	Ⅲf	M1	トレンチ2	VJ-34	28	sh	64	40	35	77.3		275
157-4	写88	石核	Ⅲf	M1	トレンチ3	V1-34	28	sh	36	51	40	67.1		712

表19 石器・石製品観察表(12)

図版 番号	写真 図版	器種	段階	遺構	トレン チ・ペ ル ト	グリッド	層位	石材	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量(g)	備考	整理 番号
157-5	—	剥片	Ⅲf	M1	トレン チ3	V1-34	28	sh	70	65	23	71.4	縦面剥片	721
158-1	写88	凹石	Ⅲf	M1	トレン チ6	VH-35	7	sa	136	72	30	382.7	表裏に凹み	レ334
158-2	写88	凹石	Ⅲf	M1	トレン チ6		7	tuff	143	70	39	416.7	表裏に凹み。鋭い擦痕	レ330
158-3	写88	凹石	Ⅲf	M1	トレン チ6	VH-35	7	and	110	105	58	891.6	表裏に凹み	レ329
158-4	写88	凹石	Ⅲf	M1	EW-B3	VJ-35	28	tuff	114	79	49	537.1	表裏に凹み	レ090
158-5	写88	石皿	Ⅲf	M1	トレン チ6	V1-35	7	and	254	142	38	2,412.8	縁なし石皿	レ327
158-6	写88	石棒	Ⅲf	M1	トレン チ6	V1-35	7	sla	110	34	13	85.3	S-5017, 火ハネ	石006
158-7	写88	玉類	Ⅲf	M1	トレン チ3	V1-34	28	grtuff	13.5	12.5	3	0.9		石030
162-1	写90	石鏃	Ⅳa	M1	EW-B1	VH-34	14-2	sh	29	8	5	0.9		1372
162-2	写90	石鏃	Ⅳa	M1	トレン チ4	VG-34	12	sh	25	12	6	1.2		2440
162-3	写90	石鏃	Ⅳa	M1	EW-B2	V1-34	17	sh	41	12	4	1.2	アスファルト基部	2162
162-4	写90	石槍	Ⅳa	M1	トレン チ4	VG-33	14	sh	46	25	13	13.1	石鏃未製品?	786
162-5	写90	石鏃	Ⅳa	M1	SN-B	VG-33	12-2	sh	39	9	5	2.1		1520
162-6	写90	石鏃	Ⅳa	M1	EW-B2	V1-34	17	sh	37	20	7	4.1		2170
162-7	写90	石銃	Ⅳa	M1	EW-B2	V1-34	17	sh	49	44	16	14.7	アスファルト端み付着	2155
162-8	写90	石銃	Ⅳa	M1	EW-B2	V1-34	17	sh	52	60	12	24.5	アスファルト端み付着	2152
162-9	写90	削器	Ⅳa	M1	EW-B2	V1-34	17	sh	70	50	12	30.9		2166
162-10	写90	削器	Ⅳa	M1	EW-B2	V1-34	17	sh	73	40	12	33.3		2151
162-11	写90	削器	Ⅳa	M1	トレン チ4	VF-34	12	sh	42	32	8	8.7		802
162-12	写90	削器	Ⅳa	M1	トレン チ4	VF-34	12	sh	64	40	14	29.1		749
162-13	写90	二次加工剥片	Ⅳa	M1	トレン チ4	VG-33	12	sh	115	64	30	159.4		783
162-14	写90	石核	Ⅳa	M1	EW-B1	VH-33	14-1	sh	50	61	36	93.4		1418
163-1	写90	石核	Ⅳa	M1	トレン チ1	VH-34	17	sh	86	120	73	788.0		132
163-2	写90	石核	Ⅳa	M1	トレン チ4	VF-34	12	sh	48	49	29	57.5		746
163-3	写90	石核	Ⅳa	M1	EW-B2	V1-34	4-1	sh	46	50	35	96.6		2178
163-4	写90	石核	Ⅳa	M1	トレン チ4	VF-34	12	sh	77	86	73	489.8		803
164-1	写90	石核	Ⅳa	M1	トレン チ1	VH-34	17	sh	54	89	63	255.6		137
164-2	写90	石核	Ⅳa	M1	EW-B2	V1-34	17	sh	62	66	36	132.9		2168
164-3	写91	石核	Ⅳa	M1	EW-B1	VH-34	12-3	sh	81	76	55	238.2		1400
164-4	写91	石核	Ⅳa	M1	SN-B	VH-34	4-1	sh	70	91	44	296.6		1568
164-5	写90	蔽石	Ⅳa	M1	トレン チ4	VG-35	14	sh	49	42	37	76.0		737
164-6	写90	蔽石	Ⅳa	M1	トレン チ4	VF-34	12	sh	49	42	36	75.7	珪質頁岩の原石素材	743
165-1	写91	磨製石斧	Ⅳa	M1	SN-B	VG-33	12-2	doi	88	55	29	236.8		レ183
165-2	写91	凹石	Ⅳa	M1	EW-B1	VH-34	12-1	cong	135	59	44	471.0	表裏に凹み	レ051
165-3	写91	凹石	Ⅳa	M1	EW-B1	VH-34	12-1	grtuff	143	66	41	457.4	表裏に凹み	レ056
165-4	写91	凹石	Ⅳa	M1	トレン チ1	VH-34	17	tuff	148	73	38	491.3	表裏に凹み	レ198
165-5	写91	凹石	Ⅳa	M1	トレン チ4	VG-34	12	tuff	140	68	55	647.9	正面に凹み	レ114
165-6	写91	凹石	Ⅳa	M1	トレン チ1	VH-34	17	sa	83	103	51	505.8	正面に凹み	レ221
165-7	写91	凹石	Ⅳa	M1	トレン チ4	VG-34	12	tuff	133	57	43	325.5	表裏と右側面に凹み	レ115
165-8	写91	凹石	Ⅳa	M1	SN-B	VG-34	12-2	tuff	154	65	46	563.8	表裏に凹み	レ158
165-9	写91	凹石	Ⅳa	M1	トレン チ4	VG-33	12	tuff	129	87	34	390.1	表裏に凹み	レ295
166-1	写91	蔽石	Ⅳa	M1	トレン チ1	V1-34	4	tuff	69	61	47	217.4	S-5001, 細粒凝灰岩。正面に凹み	レ132
166-2	写91	凹石	Ⅳa	M1	トレン チ1	VH-34	4	tuff	97	72	60	434.2	短軸に沿って敲打整形。石鏃?	レ407
166-3	写91	磨石	Ⅳa	M1	EW-B1	VH-34	12-1	doi	97	86	62	672.0	表裏に磨面	レ053
166-4	写91	磨石	Ⅳa	M1	EW-B1	VH-33	14-2	doi	110	90	51	718.5	正面に磨面	レ060

表19 石器・石製品観察表(13)

図版番号	写真図版	器種	段階	遺構	トレンチ・ベルルト	グリッド	層位	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	備考	整理番号
166-5	写91	回石・磨石	IVa	M1	SN-B	V G-34	a	tuff	133	80	52	621.3	表裏に凹み、正面に磨面	レ162
166-6	写92	磨石	IVa	M1	トレンチ1	V H-33	13	tuff	107	78	37	334.0	S-5012, 赤色顔料付着	レ194
166-7	写91	回石・磨石	IVa	M1	EW-B1	V H-33	14-2	sa	127	70	31	365.8	表裏に凹み、下面に砥痕	レ062
166-8	写92	磨石	IVa	M1	トレンチ1	V H-34	17	tuff	109	58	28	205.9	長軸一端に敷き(剥離?)	レ215
—	写92	自然産	IVa	M1	トレンチ1	V G-33	12or 14-2	sa	—	—	—	7,000.0	石皿?	レ045
—	写92	原石	IVa	M1	トレンチ1	V H-34	17	foqu	—	—	—	26.0		133
167-1	写92	加工産	IVa	M1	SN-B	V G-34	12-1	sa	271	80	62	1,353.5	長軸一端に剥離加工	レ165
167-2	写92	石皿	IVa	M1	SN-B	V H-34	14-1	sa	213	106	38	958.2	磨り面不明瞭	レ175
167-3	写92	石棒	IVa	M1	トレンチ4	V G-33	14	sla	117	27	27	88.3	S5003	石000
167-4	写92	石棒	IVa	M1	トレンチ1	V H-34	4	sla	112	22	13	47.8		石004
167-5	写92	石製凹盤	IVa	M1	SN-B	V G-34	12-2	and	78	83	19	153.5		石022
167-6	写92	石製品	IVa	M1	SN-B	V G-34	12-2	tuff	72	72	38	187.1	細粒凝灰岩	石008
171-1	写94	石鏃	IVb	M1	EW-B3	V J-35	22-3	sh	42	10	6	1.8		1443
171-2	写94	石鏃	IVb	M1	EW-B3	V J-35	22-3	sh	35	9	5	1.2		1444
171-3	写94	石鏃	IVb	M1	EW-B3	V J-34	22-3	ob	40	12	4	1.4		1929
171-4	写94	石鏃	IVb	M1	EW-B3	V J-35	22-3	sh	25	10	4	0.8	アスファルト基部	1955
171-5	写94	石鏃	IVb	M1	EW-B3	V J-35	22-3	sh	29	11	3	0.8		1961
171-6	写94	石匙	IVb	M1	SN-B	V J-36	22-2	sh	79	19	12	8.1		1563
171-7	写94	削器	IVb	M1	SN-B	V J-35	22-3	sh	71	39	8	20.8		1621
171-8	写94	削器	IVb	M1	SN-B	V J-36	22-2	sh	72	44	11	29.3		1621
171-9	写94	削器	IVb	M1	EW-B3	V J-34	22-3	sh	73	59	15	56.2		1943
171-10	写94	微細剥片	IVb	M1	EW-B3	V J-34	22-3	sh	118	51	17	93.7		1953
171-11	—	微細剥片	IVb	M1	トレンチ1	V H-34	4	sh	91	35	11	31.0		26
171-12	写94	削器	IVb	M1	EW-B3	V J-35	22-3	sh	77	51	20	88.4		1967
172-1	写94	石核	IVb	M1	SN-B	V J-36	22-1	sh	35	52	27	58.4		1541
172-2	写94	石核	IVb	M1	EW-B3	V J-35	22-3	sh	44	61	43	109.5		1442
172-3	写94	石核	IVb	M1	EW-B3	V J-34	22-3	sh	62	86	29	162.4		1954
172-4	写95	石核	IVb	M1	EW-B3	V J-34	22-3	sh	63	55	39	131.8		1951
172-5	写94	石核	IVb	M1	SN-B	V J-36	22-1	sh	40	53	55	123.4		1540
172-6	写95	石核	IVb	M1	トレンチ5	V J-36	10	sh	54	75	58	232.2		894
172-7	写95	石核	IVb	M1	SN-B	V J-36	22-3	sh	49	60	40	98.1		1557
173-1	写95	石核	IVb	M1	トレンチ5	V J-36	10	sh	63	50	32	97.5		893
173-2	写95	原石	IVb	M1	EW-B3	V J-34	22-3	chal	50	90	43	232.9		3079
173-3	写95	石核	IVb	M1	EW-B3	V J-35	22-3	sh	133	109	59	760.7		1976
174-1	写95	回石	IVb	M1	SN-B	V J-36	22-3	sa	166	91	31	556.5	表裏に凹み	レ154
174-2	写95	回石	IVb	M1	SN-B	V J-36	22-3	tuff	138	56	32	294.6	表裏と右側面に凹み	レ147
174-3	写95	回石	IVb	M1	SN-B	V J-36	22-3	tuff	96	70	46	385.4	受熱, 細粒凝灰岩, 表裏に凹み	レ155
174-4	写95	砥石	IVb	M1	EW-B3	V J-34	22-3	sa	80	76	19	146.7	両面と下面に砥痕顕著	レ094
174-5	写95	石皿	IVb	M1	SN-B	V J-36	22-2	and	170	193	76	2,991.4	緑たし石皿	レ153
174-6	写95	磨石	IVb	M1	EW-B3	V J-35	22-3	and	98	62	18	86.8	S-5021	石009
174-7	写95	石棒	IVb	M1	SN-B	V J-36	22-1	sla	157	23	13	26.1	北捨て場と接合	石002
176-1	写96	石鏃	V	M1	トレンチ2	V J-34	I	sh	27	9	4	0.8		235
176-2	写96	石鏃	V	M1	—	V I-34	I	sh	25	9	5	0.9		2307
176-3	写96	石鏃	V	M1	EW-B3	V J-34	I	chal	27	13	5	1.1		2567
176-4	写96	石鏃	V	M1	—	V K-34	I	sh	23	10	5	0.9		2598
176-5	写96	石鏃	V	M1	トレンチ10	V J-35	I	sh	21	9	3	0.6		1136
176-6	写96	石鏃	V	M1	トレンチ4	V F-33	I	sh	31	12	4	1.2		799
176-7	写96	石鏃	V	M1	—	V J-33	I	sh	38	10	6	1.7		2594
176-8	写96	石鏃	V	M1	—	V I-34	I	sh	42	12	4	1.4		2416
176-9	写96	石鏃	V	M1	—	V I-34	I	sh	28	12	4	0.9	衝撃剥離	2313
176-10	写96	石鏃	V	M1	EW-B2	V J-32	I	sh	40	18	10	5.5		1703
176-11	写96	石鏃	V	M1	トレンチ1	V I-34	I	sh	21	9	4	0.6		2207

表19 石器・石製品観察表(14)

図版番号	写真図版	器種	段階	遺構	トレンチ・レベル	グリッド	層位	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	備考	整理番号
176-12	写96	石鏝	V	M1	—	VJ-34	I	sh	35	20	8	5.2		2353
176-13	写96	石鏝	V	M1	トレンチ2・3	VJ-33	I	sh	35	11	7	1.9		353
176-14	写96	石鏝	V	M1	トレンチ3	VI-33	I	sh	40	32	9	13.9		543
176-15	写96	石鏝	V	M1	トレンチ2	VJ-34	I	sh	63	71	9	30.5		246
176-16	写96	石鏝	V	M1	トレンチ1	VI-32	I	sh	52	50	8	17.8	アスファルト積み、右辺付着	213
176-17	写96	石鏝	V	M1	EW-B3	VJ-34	I	sh	40	48	11	17.8	アスファルト積み付着	1906
176-18	写96	石鏝	V	M1	トレンチ2	VJ-34	I	sh	53	59	9	23.7	アスファルト積み付着	247
176-19	写96	石鏝	V	M1	—	VJ-32	I	sh	50	36	9	16.0		2864
176-20	写96	石鏝	V	M1	—	VI-35	I	sh	44	48	11	16.8	アスファルト積み付着	2033
176-21	写96	石鏝	V	M1	EW-B2	VH-35	I	sh	36	38	10	10.9		2073
176-22	写96	削器	V	M1	トレンチ2	VJ-34	I	sh	62	64	15	43.0		237
176-23	写96	削器	V	M1	EW-B2	VI-34	I	sh	78	43	11	31.4		1872
177-1	—	石核	V	M1	—	VI-34	I	sh	50	54	26	68.9		2311
177-2	—	石核	V	M1	—	VG-34	I	sh	43	66	54	166.3		2285
177-3	写96	石核	V	M1	—	VH-32	I	sh	58	92	73	355.1		2653
177-4	写96	石核	V	M1	—	VJ-34	I	sh	85	73	36	235.4		2361
177-5	写96	石核	V	M1	EW-B2	VI-34	I	sh	68	71	50	216.3		1876
178-1	写96	磨製石斧	V	M1	トレンチ5	VJ-36	I	sh	112	42	26	198.7	頁岩製	レ428
178-2	写96	回石	V	M1	トレンチ5	VJ-36	I	tuff	79	58	44	218.6	表裏に凹み、鋭い擦痕	レ416
178-3	写96	回石	V	M1	EW-B2	VI-34	I	sa	130	76	44	524.0	表裏に凹み	レ082
178-4	写96	回石	V	M1	トレンチ1	VH-33	I	bretuf	105	73	53	433.8	正面に凹み	レ197
178-5	写96	敲石	V	M1	EW-B2	VJ-32	I	tuff	53	54	50	154.5	下面に敲痕	レ069
178-6	写96	回石・磨石	V	M1	EW-B3	VJ-35	I	doi	104	80	52	629.4	正面に凹み、裏面に磨面	レ090
178-7	写97	石棒	V	M1	トレンチ1	VI-33	I	grtuff	97	29	16	56.0	S-5009	石001
178-8	写97	石棒	V	M1	—	VH-32	I	sla	92	20	15	41.9		石003
—	写97	台石	V	M1	トレンチ2・3	VI-34	I	sa	—	—	—	16,800.0	S-5008	レ049
—	写97	石皿	V	M1	トレンチ4	VJ-36	I	sa	—	—	—	2,284.7		レ471
182-1	写98	石鏝	不明	M1	EW-B3	VJ-35	22・28	chal	23	13	6	1.4		1978
182-2	写98	石鏝	不明	M1	トレンチ2	VI-35	I	sh	30	10	5	1.4		300
182-3	写98	石鏝	不明	M1	トレンチ2	VJ-34	31～地山	sh	28	15	6	1.7		330
182-4	写98	石鏝	不明	M1	トレンチ2	VJ-34	31～地山	sh	29	9	6	1.2		332
182-5	写98	石鏝	不明	M1	EW-B3	VJ-35	22・28	sh	29	10	3	0.9	衝撃剥離	1977
182-6	—	石鏝	不明	風倒木	—	VH-34	覆土	sh	25	16	5	1.3		2582
182-7	写98	石鏝	不明	M1	トレンチ2	VI-35	I	sh	50	13	6	2.9		346
182-8	写98	石鏝	不明	M1	トレンチ1	VH-34	木の根	ob	22	11	5	1.0		82
182-9	写98	石鏝	不明	M1	トレンチ10	VJ-34	22・23	ob	17	15	3	0.6		1179
182-10	写98	石鏝	不明	M1	トレンチ1	VH-33	22	sh	37	10	5	1.4		54
182-11	写98	石鏝	不明	M1	—	VJ-35	木の根	sh	44	17	9	5.4		2405
182-12	写98	石鏝	不明	M1	トレンチ10	VJ-35	木の根	sh	96	38	15	45.0		1243
182-13	写98	石鏝	不明	M1	—	VJ-34	木の根	sh	35	53	7	9.6		2355
182-14	写98	石鏝	不明	M1	トレンチ10	VJ-34	22・23	sh	50	67	13	31.6		1173
182-15	写98	石鏝	不明	風倒木	—	VH-34	覆土	sh	48	45	9	13.0	アスファルト積み付着	2656
182-16	写98	削器	不明	M1	トレンチ9	VF-34	I	sh	26	45	7	8.1		1128



表19 石器・石製品観察表(15)

図版番号	写真図版	器種	段階	遺構	トレンチ・ベルト	グリッド	層位	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	備考	整理番号
182-17	—	石匙	不明	M1	SN-B	VH-35	磨清掃	sh	31	14	5	1.2	ミニチュア	1659
182-18	—	石匙	不明	M1	トレンチ1	VI-34	磨清掃	sh	68	20	5	6.2		209
182-19	写98	削器	不明	M1	トレンチ2	VJ-34	→他山	sh	77	69	25	99.1		315
182-20	写98	削器	不明	M1	トレンチ10	VJ-35	22-23	sh	41	51	16	32.1		1324
182-21	写98	敲石	不明	M1	トレンチ10	VJ-35	22-23	sh	60	41	17	61.1	頁岩製	1333
182-22	写98	石製円盤	不明	M1	—	VJ-35	木の根	rhy	84	74	29	240.4	アスファルト付着	石013
182-23	写98	磨製石斧	不明	M1	トレンチ10	VJ-34	22・23	sa	83	54	17	123.2		レ421
—	写98	石製円盤	不明	M1	トレンチ10	VJ-34	22-23	sa	—	—	—	333.6		石119
—	写98	台石	不明	M1	トレンチ10	VJ-34	22・23	sa	—	—	—	6,600.0		レ047
—	写98	石製円盤	不明	M1	EW-B3	VJ-35	22・28	dol	—	—	—	75.5		石116
—	写98	台石	不明	M1	トレンチ10	VJ-34	22-23	dior	—	—	—	17,200.0		レ066
183-3	写99	石鏃	遺構外	—	—	VM-26	I	sh	27	10	4	0.8		2575
183-4	写99	石鏃	遺構外	—	—	VF-34	I	sh	40	12	6	1.9		2265
183-5	写99	石鏃	遺構外	—	—	VF-35	I	sh	93	21	15	22.5		2234
183-6	写99	石匙	遺構外	—	—	VL-30	I	sh	68	54	10	24.5	アスファルト糊み付着	2778
183-7	写99	石匙	遺構外	—	—	VL-31	I	sh	41	62	8	17.4	アスファルト糊み付着	2579
183-8	写99	石匙	遺構外	—	—	VK-34	I	sh	52	69	13	29.1		2775
183-9	写99	石匙	遺構外	—	—	VL-32	I	sh	44	62	12	19.0		2591
183-10	写99	削器	遺構外	—	—	VL-28	I	sh	83	47	16	60.3		3032
183-11	写99	二次加工剥片	遺構外	—	—	VF-35	I	sh	132	113	40	538.9		2239
184-1	写99	石核	遺構外	—	—	VF-34	I	sh	98	95	67	622.3		2279
184-2	写99	石核	遺構外	—	—	VJ-30	I	sh	52	69	30	121.2		2738
184-3	写99	回石	遺構外	—	—	VM-27	I	tuff	79	58	44	203.8	表裏に凹み	レ423
184-4	写99	磨石	遺構外	—	—	VG-33	I	and	118	79	64	877.2	表裏左右側面に磨面	レ106
184-5	写99	回石	遺構外	—	—	VM-31	I	tuff	116	79	57	601.6	表裏に凹み。磨面あり?	レ449
184-6	写99	回石・敲石	遺構外	—	—	VK-31	I	tuff	111	60	26	220.8	表裏に凹み、下端に敲き	レ467
184-7	写99	石製円盤	遺構外	—	—	VL-33	I	baz	63	57	15	81.2		石041
184-8	写99	石製円盤	遺構外	—	—	VM-31	I	and	—	—	—	30.3		石102
186-1	写100	石鏃	遺構外	—	—	VN-26	III	cha1	29	16	5	1.7	S-5002	2576
186-2	写100	石鏃	遺構外	—	—	VL-31	III	sh	22	11	3	0.6		2586
186-3	写100	石鏃	遺構外	—	—	VN-27	III	sh	21	15	4	0.6		2585
186-4	写100	石鏃	遺構外	—	—	VM-31	III	sh	17	14	5	0.8	凹基鏃	2571
186-5	写100	石匙	遺構外	—	—	VK-32	III	sh	56	39	12	24.0	S-1	2604
186-6	写100	石匙	遺構外	—	—	VM-31	III	sh	51	19	8	5.6		2589
186-7	写100	敲石	遺構外	—	—	VM-31	III	sh	52	55	42	144.7	珪質頁岩の原石素材	2619
186-8	写100	石匙	遺構外	—	—	VK-31	III	sh	45	52	12	13.4		2584
186-9	写100	石鏃	遺構外	—	—	VG-32	III	sh	35	14	7	3.3		2573

表19 石器・石製品観察表(16)

図版番号	写真図版	器種	段階	遺構	トレンチ・ベルト	グリッド	層位	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	備考	整理番号
186-10	写100	削器	遺構外	遺構外	—	VN-26	III	sh	71	56	15	50.7		3055
186-11	写100	削器	遺構外	遺構外	—	VF-32	III	sh	60	50	15	47.3		2880
186-12	写100	削器	遺構外	遺構外	—	VF-32	III	sh	60	52	14	44.3		2648
186-13	写100	凹石・敲石	遺構外	遺構外	—	VH-32	III	and	82	72	56	443.7	表裏浅い凹み、側面に敲き	レ448
186-14	写100	敲石	遺構外	遺構外	—	VM-29	III	and	87	65	60	460.5	長軸一端に敲き	レ444
186-15	写100	磨石	遺構外	遺構外	—	VG-32	III	and	94	71	57	442.6	表裏に磨面	レ441
186-16	写100	凹石	遺構外	遺構外	—	VJ-32	III	cong	107	60	30	176.3	表裏に凹み	レ464
186-17	写100	石皿	遺構外	遺構外	—	VK-32	III	and	230	147	40	1,455.9	緑なし石皿。S-1	レ003
187-1	写100	加工種	遺構外	遺構外	—	VK-33	III	tuff	212	102	56	861.1	凹みがある	レ466
187-2	写100	石皿	遺構外	遺構外	—	VN-27	III	sa	408	257	77	7,600.0	S-1。緑あり。西捨て場V627層中と接合	レ034
187-3	写100	石製凹盤	遺構外	遺構外	—	VN-26	III	rhy	41	41	15	36.8		石034
187-4	写100	石製凹盤	遺構外	遺構外	—	VJ-33	III	msd	52	51	8	28.7		石042
187-5	写100	石製凹盤	遺構外	遺構外	—	VK-33	III	tuff	—	—	—	13.7		石104
187-6	—	石製凹盤	遺構外	遺構外	—	VI-31	III	grtuff	32	31	15	20.2		石110
187-7	写100	石製凹盤	遺構外	遺構外	—	VI-30	III	baz	—	—	—	224.7		石111
187-8	写100	玉材	遺構外	遺構外	—	VN-26	III	chal	14	10	8	1.5	S5005	石098
187-9	写100	石棒	遺構外	遺構外	—	VI-29	III	tuff	—	—	—	95.9	S5014	石092
187-10	写100	石棒	遺構外	遺構外	—	VK-32	III	hol	—	—	—	38.9	特5013	石091

## 石材凡例

and	安山岩
baz	玄武岩
bretuf	角礫凝灰岩
chal	玉髓
cong	凝岩
cry	水晶

dei	デイサイト
dior	閃緑岩
dol	粗粒玄武岩
fequ	鉄石英
gran	花崗岩
grd	花崗閃緑岩

grtuff	緑色凝灰岩
hol	ホルンフェルス
msd	泥岩
ob	黒曜石
por	斑岩
qas	石英

rhy	流紋岩
sa	砂岩
sh	凝灰質岩
s1a	粘板岩
tuff	凝灰岩



S107 貼り床の範囲 SW一



S107 セクション W一



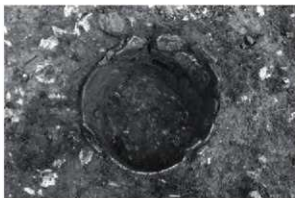
S107 完掘 E一



S107 炉 炭化物検出 E一



S107 炉 セクション N一



S107 炉 完掘 S一



S109 セクション W一



S109 入口施設 N一

写真1 建物跡(1)



S109 炉内セクション W←



S109 火焼面 N←



S109 完掘 E←



S109 図 11-1 出土状況(床直) S←



S111 セクション S←



S111 石圍炉セク S←



S111 地床炉(左)と石圍炉 S←



S111 入り口 N←

写真2 建物跡(2)



S111 完掘 SW←



S111 図 14-2 出土状況 N←



S112 セクション NE←



S112 炉 入口 NE←



S112 炉 SE←



S112 完掘 西・南側風倒木 SE←



S112 図 17-2 漆土器



S112 完掘 NE←

写真3 建物跡(3)



S113 検出状況 NE→



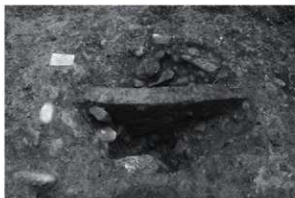
S113 小穴(柱穴)検出状況



S113 炉 土層 S→



S113 セクション SW→



S113 Pit1 S→



S113 図19-1 V G-35 W→



S113 全景 NE→



S113 完掘 E→

写真4 建物跡(4)



SK08 セクション E-1



SK08 焼土確認 S-1



SK08 焼土・炭化物出土状況 S-1



SK08 完掘 S-1



SK09 裸出土状況 W-1



SK09 土器出土状況 N-1



SK09 セクション NW-1



SK09 下部の裸出土状況 W-1

写真5 土坑(1)



SK09 完掘 W→



SK09 完掘 NW→



SK10 セクション W→



SK10 Pit1 完掘 N→



SK10 Pit1 掘方完掘 W→



SK10 底面からの炭化物出土状況 S→



SK10 新段階完掘 W→



SK10 完掘 S→

写真6 土坑(2)





SK11 セクション S-1 出土状況 E ←



SK11 S-1 (右)、S-2 (左) 出土状況 E ←



SK11 完掘 底面直上にS-3 W ←



SK13 礫出土状況 E ←



SK13 完掘 (手前掘り過ぎ) E ←



SK14 セクション E ←



SK14 完掘 E ←



SK14 完掘 S ←

写真7 土坑(3)



SK15 セクション NE一



SK15 完掘 SW一



SK16 堆積土上部の礫出土状況 W一



SK16 セクション



SK16 セクション下部



SK16 完掘 W一



SK16 完掘 W一



SK16 完掘 W一

写真8 土坑(4)



SK17 セクション NE ←



SK17 完掘 NE ←



SK18 セクション SW ←



SK18 土器出土状況 SW ←



SK18 セク上半部 SE ←



SK18 図 37-1 出土状況 SE ←



SK18 図 37-1 出土状況 SE ←



SK18 完掘 SW ←

写真9 土坑(5)



SK20 セクション W→



SK20 図 36-9 出土状況 覆土下部 11 層 W→



SK20 覆土下部 11 層 W→



SK20 完掘 NW→



SK21 核出状況 S→



SK21 セクション E→



SK21 完掘 E→

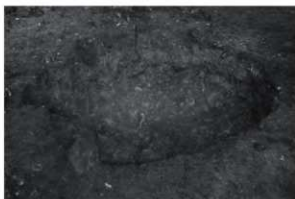


SK22 図 38-3・4 出土状況 S→

写真 10 土坑 (6)



SK22 セクション S一



SK22 完掘 S一



SK23 セクション SE一



SK23 土器出土状況 W一



SK23 完掘 S一



SK24 検出状況 S一



SK24 セクション E一



SK24 完掘 SE一

写真 11 土坑 (7)



SK25(S1-11内) セクション E←



SK25 完掘 E←



SK26 セクション W←



SK26 掘出土状況 W←



SK26 完掘 S←



SK27 セクション SE←



SK27 完掘 SE←



SK28 検出状況 E←

写真 12 土坑 (8)



SK28 セクション N→



SK28 完掘 N→



SK29 セクション SE→



SK29 完掘 SW→



SK30 セクション E→



SK30 完掘(白線は残存部分) E→



SK34 セクション SW→



SK34 完掘 NE→

写真 13 土坑(9)



SK36 セクション S←



SK36 完掘 S←



SK37 セクション W←



SK37 完掘 W←



SK38 セクション NE←



SK38 完掘 N←



SK39 セクション S←



SK39 完掘 SE←

写真 14 土坑 (10)

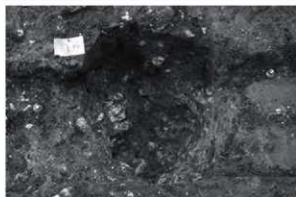




SK40 土器出土状況 S 一



SK40 セクション V I-33 N 一



SK40 完掘 N 一



SK42 セクション SE 一



SK42 完掘 SE 一



SK45 セクション S 一



SK45 完掘 SE 一



SK45 完掘 NE 一

写真 15 土坑 (11)



SK55 完掘 N←



SK55 セクション N←



図 73-1 出土状況 W←



Pit1369 S←



Pit1367 S←



Pit1339 SW←



Pit1575 S←



Pit1410 SW←

写真16 土坑(12)とピット



S020 確認 W→



S020 土器、石器、検出状況 W→



S020・SK12 セクション W→



S020・SK12 セクション W→



S020 セクション W→



S020 セクション S→



S020 セクション W→



S020 セクション S→

写真 17 配石遺構(1)



S021・27 遠景 W→



S021・22・23・SN52 S→



S021 S→



S021 N→



S021 E→



S021 W→



S021 立石の根固め状況 S→



S021 立石 S→

写真 18 配石遺構(2)



S021 セクション S→



S021 セクション S→



S021 掘り込みプラン S→



S021 土抗プラン確認 S→



S021 完掘 W→



S021 土器(図54-1)出土状況 S→



S021 玉出土状況 W→



S021 玉出土状況 S→

写真 19 配石遺構(3)



SQ23 セクション S一



SQ25 セクション W一



SQ25 完掘 W一



SQ25 検出 S一



SQ25 検出 N一



SQ26 セクション W一



SQ26 完掘 W一



SQ21とSQ27 N一

写真 20 配石遺構(4)



S027 W→



S027 S→



S027 E→



S027 N→



S027 セクション SE→



S027下 SK確認状況 E→



S027 土坑プラン確認 N→



S027 完掘 NE→

写真 21 配石遺構(5)



SQ28 検出 N→



SQ28 セクション N→



SQ28 完掘 S→



SQ29 検出 S→



SQ29 セクション E→



SQ29 セクション S→



SQ30 セクション W→



SQ30 完掘 SQ29 完掘前 W→

写真 22 配石遺構(6)





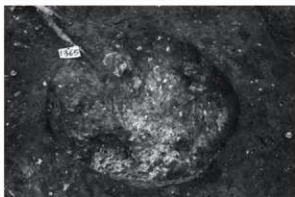
S042 完掘 S一



S042 白線はやや固い土の範囲 S一



S047 セクション S一



S047 完掘 E一



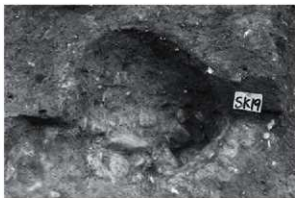
S046 セクション S一



S046 完掘 S一



S044 セクション N一



S044 完掘 N一

写真 23 配石遺構(7)



SR50 セクション E→



SR50 検出状況 E→



SR51 セクション N→



SR51 掘方 N→



SR52 検出状況 E→



SR52 セクション SE→



SR52 セクション E→



SR52 底部振り直し確認写真 E→

写真 24 土器埋設遺構(1)



SR53 V I-33 19層検出状況 E ←



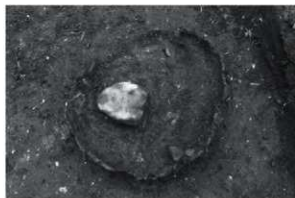
SR53 セクション E ←



SR54 検出状況 N ←



SR54 セクション W ←



SR55 検出状況 (S111 覆土内) SE ←



SR55 セクション E ←



SR56 検出状況 S ←



SR56 セクション SE ←

写真 25 土器埋設遺構 (2)



SR56 中のレキ出土状況 S→



SR56 掘方 SE→



SR57 セクション N→



SR57 完掘 N→



SR58 検出状況 W→



SR58 セクション W→



SR58 完掘 W→



SR59 検出状況 W→

写真 26 土器埋設遺構(3)



SR59 セクション W一



SR59 セクション W一



SR59 完掘 W一



SR60 検出状況 W一



SR60 検出状況 W一



SR60 セクション (M1 トレンチ3) W一



SR60 完掘 W一



SR61 検出状況 S一

写真 27 土器埋設遺構(4)



SR61 検出状況 S一



SR61 セクション S一



SR62 検出状況 S一



SR62 セクション S一



SR62 セクション S一



SR62 完掘 S一



SR62 掘方外周の石 S一



SR63 検出状況 SE一

写真 28 土器埋設遺構(5)



SR63 平面 S-



SR63 セクション E-



SR63 完掘 E-



SR64 完掘 W-



SR64 セクション W-



SR65 検出状況 S-



SR65 セクション S-



SR65 完掘 S-

写真 29 土器埋設遺構(6)



SR66 検出状況 W→



SR67 セクション S→



SR67 セクション S→



SR67 完掘 S→



SR68 セクション E→



SR69 検出状況 W→



SR69 検出状況 W→



SR69 セクション W→

写真 30 土器埋設遺構(7)





SR70 検出状況 S→



SR70 セクション E→



SR70 セクション E→



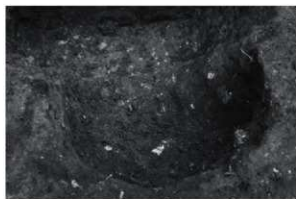
SR70 完掘 E→



SR71 検出状況 S→



SR71 セクション E→



SR71 完掘 S→



SR72 セクション S→

写真 31 土器埋設遺構(8)



SR73 検出状況 N→



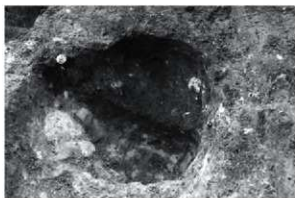
SR73 完掘 SE→



SR73 セクション SE→



SR74 検出状況 E→



SR74 完掘 N→



SR74 セクション NE→



SR76 土器出土状況 S→



SR76 セクション E→

写真 32 土器埋設遺構(9)



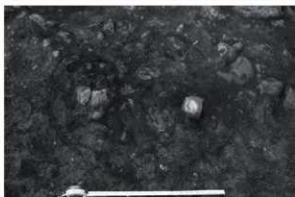
SN51 W-1



SN51(トレンチ7)SN-B東壁 検出時 E-1



SN51(トレンチ7)SN-B東壁 検出時 E-1



SN51(トレンチ7) 検出状況



SN51(トレンチ7) E-1



SN51a セクション V H-34 E-1



SN52 S022-23 S-1



SN52 V I-33 N-1

写真33 焼土遺構(1)



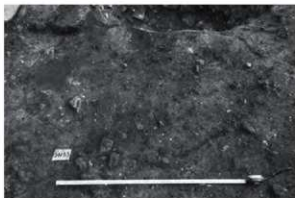
SN52 セクション N一



SN54 セクション V I-36 S一



SN55 セクション V I-35 N一



SN55 検出 W一



SN56 V G-34 E一



SN56 セクション E一



SN57 セクション N一



SN57 検出 V H-32 E一

写真 34 焼土遺構(2)



第1号盛土遺構 SW一



第1号盛土遺構 SE一



第1号盛土遺構 S一



第1~4号盛土遺構 S一



第1号盛土遺構外 W一

写真35 第1号盛土遺構 遠景



EW-B1 セクション 南壁3



EW-B1 風倒木 S-



EW-B1 セクション 南壁1



EW-B1 セクション 南壁2



EW-B1 セクション 南壁4

写真36 第1号盛土遺構 セクション(1)



EW-B2 セクション 西側 南壁全体 S-1



EW-B2 セクション 西側 南壁 1

写真 37 第 1 号盛土遺構 セクション (2)



EW-B2 セクション 西側 南壁拡大



EW-B2 西側セクション S-1  
写真 38 第1号盛土遺構 セクション (3)





EW-B2 セクション 西側 南壁 3



EW-B2 セクション 西側 南壁 2



EW-B2 セクション 東側 南壁 S→



EW-B2 セクション 東側 2層の分布ライン S→



EW-B2 セクション 東側 南壁 1 S→

写真 39 第1号盛土遺構 セクション(4)



EW-B2 セクション 東側 南壁2 S-1



EW-B3 セクション 西側 南壁全体

写真 40 第1号盛土遺構 セクション(5)



EW-B3 セクション 西側 南壁 1



EW-B3 セクション 西側 南壁 2



EW-B3 セクション 西側 南壁 3



EW-B3 セクション 東側南壁 S-1



SN-B 西壁セクション (トレンチ 3)

写真 41 第 1 号盛土遺構 セクション (6)



SN-B セクション西壁 (トレンチ 1)



SN-B 西壁セクション (トレンチ 3) 拡大



SN-B セク西壁 (トレンチ 3)EW-B2 交点)



SN-B セクション西壁 (トレンチ 4)



SN-B セクション東壁 (トレンチ 6)



SN-B セクション東壁 (トレンチ 6)2



SN-B セクション西壁 (トレンチ 10)



SN-B トレンチ 5 セクション W-  
セクション (7)

写真 42 第1号盛土遺構



SN-B 15層 遺物出土状況 W→



図 127-2 出土状況 (EW-B2 18層 N→)



図 126-7、130-17 出土状況 (EW-B2 18層 W→)



図 134-6 打製石斧出土状況 (トレンチ3 18層 N→)



トレンチ3 先行部 N→



図 84-1、84-3 出土状況 (EW-B1 16層上面 N→)



図 152-1 出土状況 (EW-B3 7層 S→)



図 147-3 出土状況 (SN-B(EW-B3) 7-2層 N→)

写真 43 第1号盛土遺構 出土遺物(1)



図 89-6 出土状況 (トレンチ 4 20 層 S→)



図 187-2 石皿出土状況 (Ⅲ層 E→)



図 92-1 出土状況 (トレンチ 10 地山直上 N→)

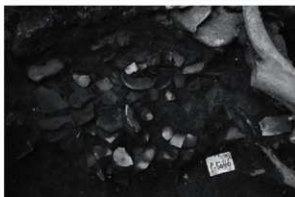


図 83-2 出土状況 (トレンチ 5 E→)



図 89-2 出土状況 (トレンチ 4 20 層 S→)



図 105-1、104-1、106-3  
出土状況 (トレンチ 5 11 層 N→)



トレンチ 5 10 層 E→



図 106-8 出土状況 (トレンチ 5 11 層 NE→)

写真 44 第 1 号盛土遺構 出土遺物 (2)



トレンチ6 7層 W→



トレンチ6 8・9上面 W→



トレンチ6 8・9上面 E→



図 150-1 出土状況 (トレンチ7 1層 S→)



図 151-1、149-3 出土状況 (トレンチ7 E→)



図 88-1、88-2 出土遺物状況 (トレンチ7 E→)



図 90-3 出土状況 (トレンチ4 24層 W→)



図 160-8 出土状況 (トレンチ4 14層 S→)

写真 45 第1号盛土遺構 出土遺物(3)



図 187-9 出土状況 (Ⅲ層 W→)



図 187-10 出土状況 (Ⅲ層 E→)



図 88-2 文様拡大



図 114-5 文様拡大



図 115-2 文様拡大



図 116-1 文様拡大



図 147-3 文様拡大



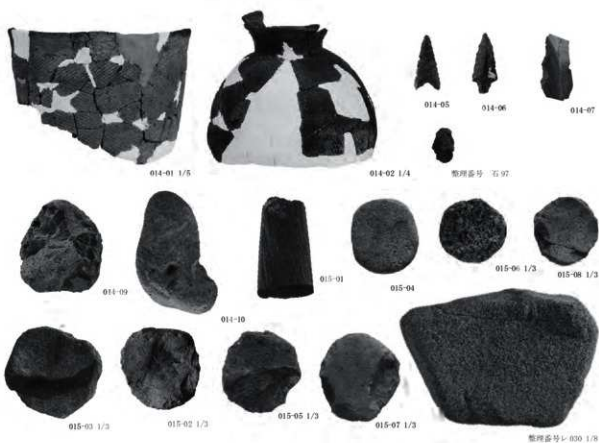
図 150-5 台部 接合面の拡大

写真 46 第1号盛土遺構 出土遺物(4)・土器文様拡大写真





第9号竪穴住居跡



第11号竪穴住居跡

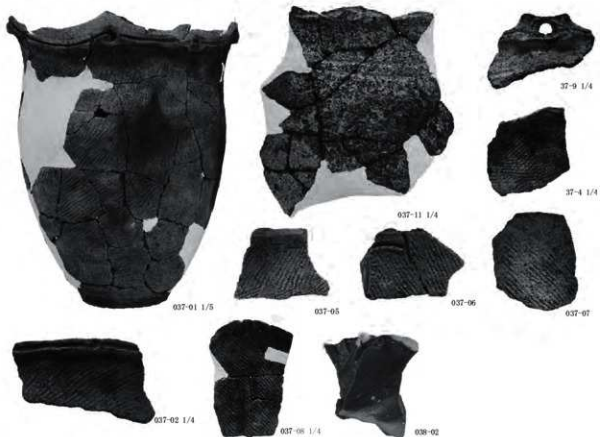
写真47 遺構出土遺物(1)



写真 48 遺構出土遺物(2)



写真 49 遺構出土遺物(3)



第18号土坑出土遺物



第20号土坑出土遺物

第36号土坑出土遺物

第37号土坑出土遺物

第39号土坑出土遺物



第21号土坑出土遺物

写真50 遺構出土遺物(4)

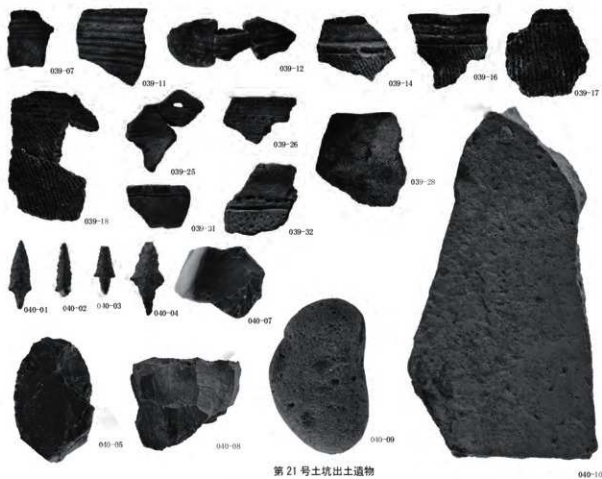


写真 51 遺構出土遺物 (5)



第20号配石遺構出土遺物



第21号配石遺構出土遺物



第22号配石遺構出土遺物

写真 52 遺構出土遺物 (6)



整理番号レ027 1/8  
第25号配石遺構出土遺物



056-05 056-06  
第26号配石遺構出土遺物



056-11 056-12  
第29号配石遺構出土遺物



056-13  
第32号配石遺構出土遺物



056-08  
第27号配石遺構出土遺物



057-03 057-04  
第42号配石遺構出土遺物



057-01 1/4



整理番号レ029 1/8

057-01 1/8  
第44号配石遺構出土遺物



整理番号レ022 1/8



057-02

第46号配石遺構出土遺物



064-01 1/5

第50号埋設



064-02 1/5

第52号埋設



064-03 1/5

第53号埋設

写真53 遺構出土遺物(7)



写真 54 遺構出土遺物(8)



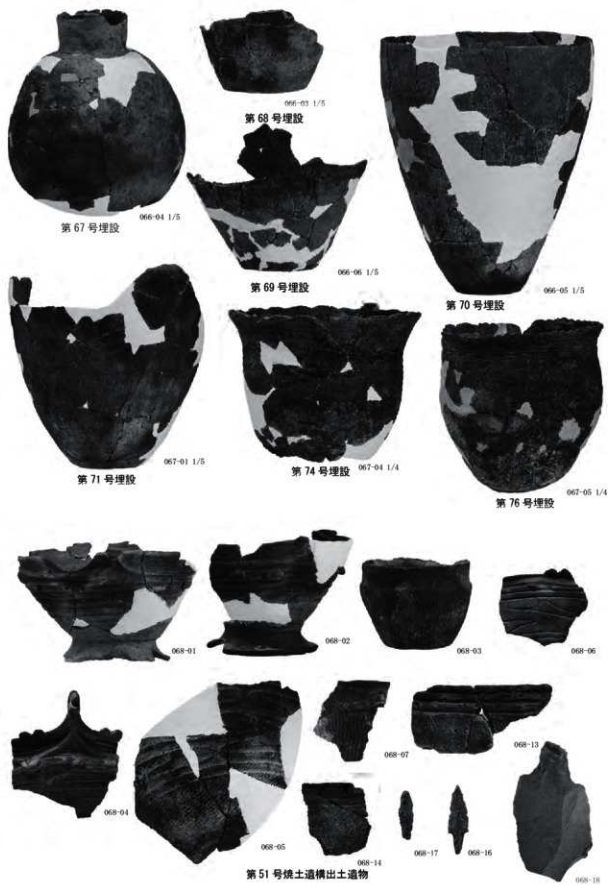


写真 55 遺構出土遺物 (9)

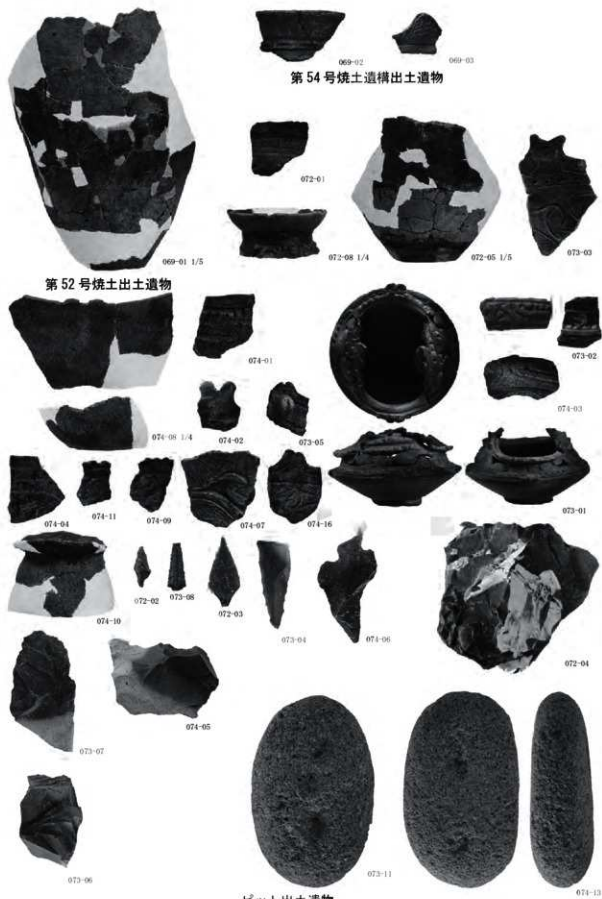
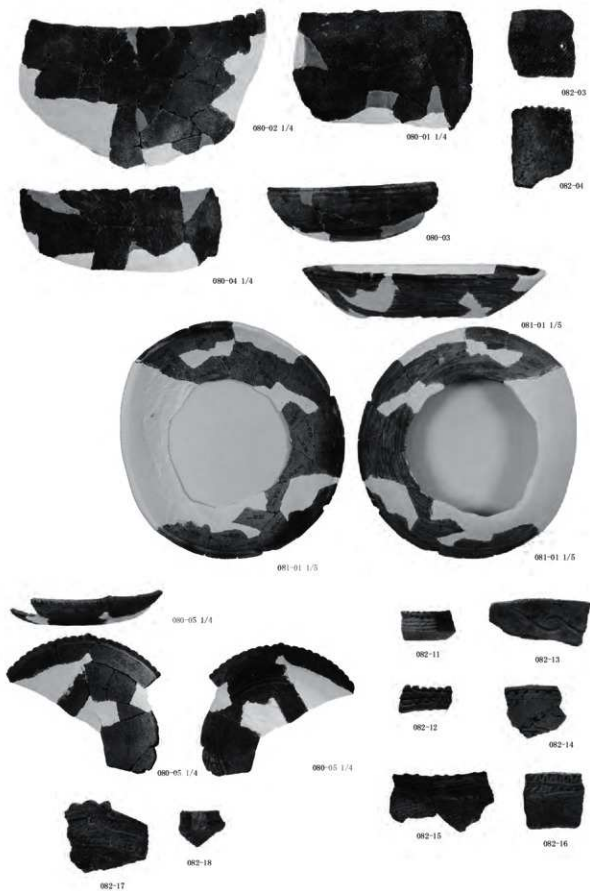
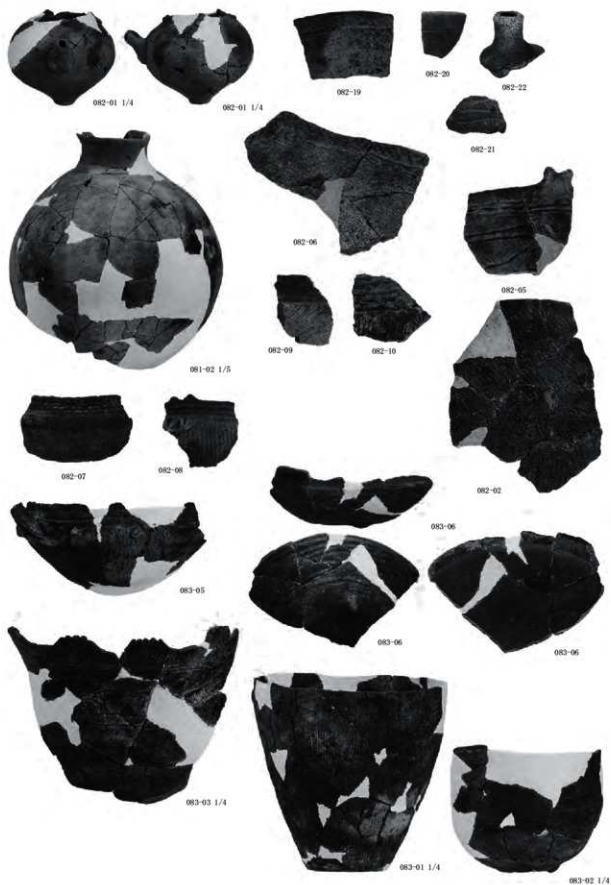


写真56 遺構出土遺物(10)



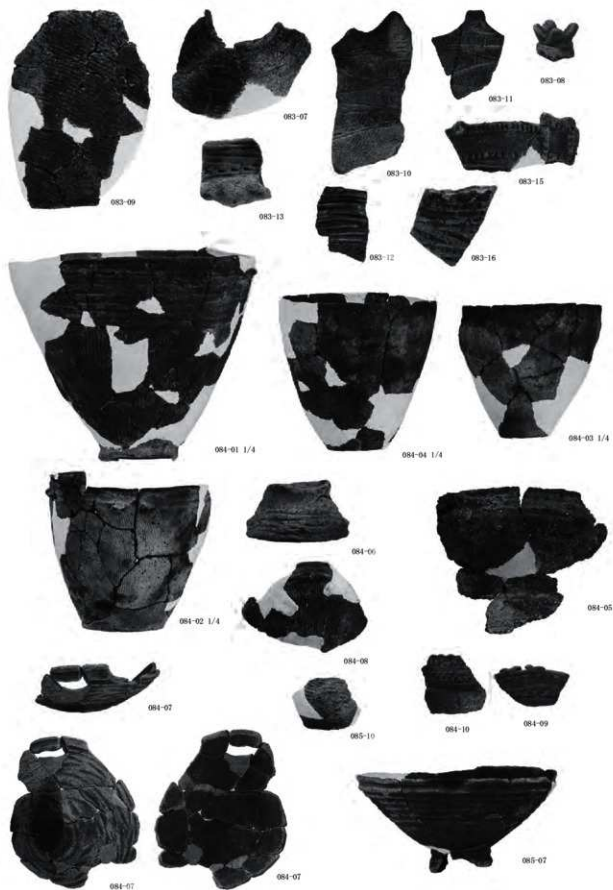
Ⅱ a 段階 出土遺物

写真 57 第 1 号盛土遺構出土遺物 (1)



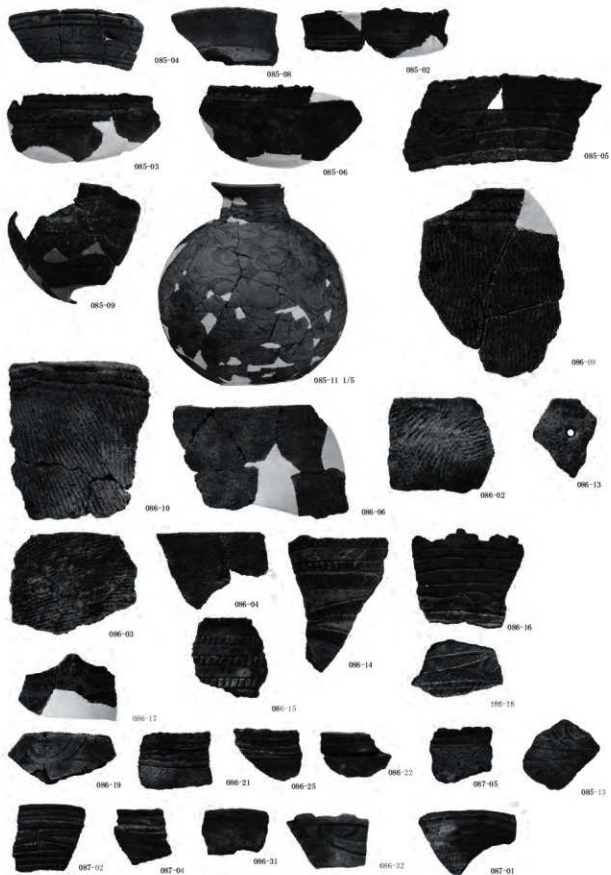
Ⅱ a 段階 出土遺物

写真 58 第 1 号盛土遺構出土遺物 (2)



II a 段階 出土遺物

写真 59 第1号盛土遺構出土遺物 (3)



Ⅱ a 段階 出土遺物

写真 60 第 1 号盛土遺構出土遺物 (4)

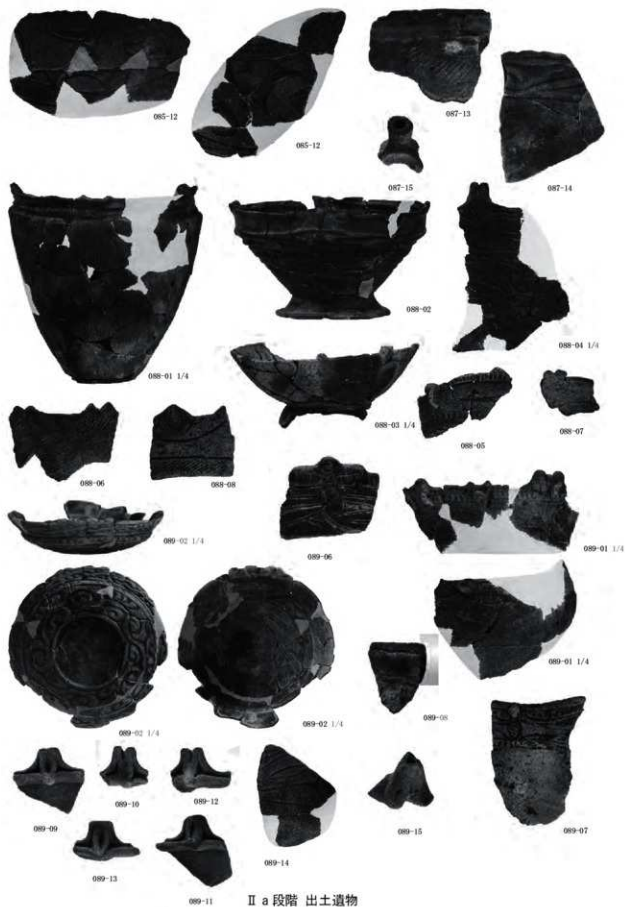
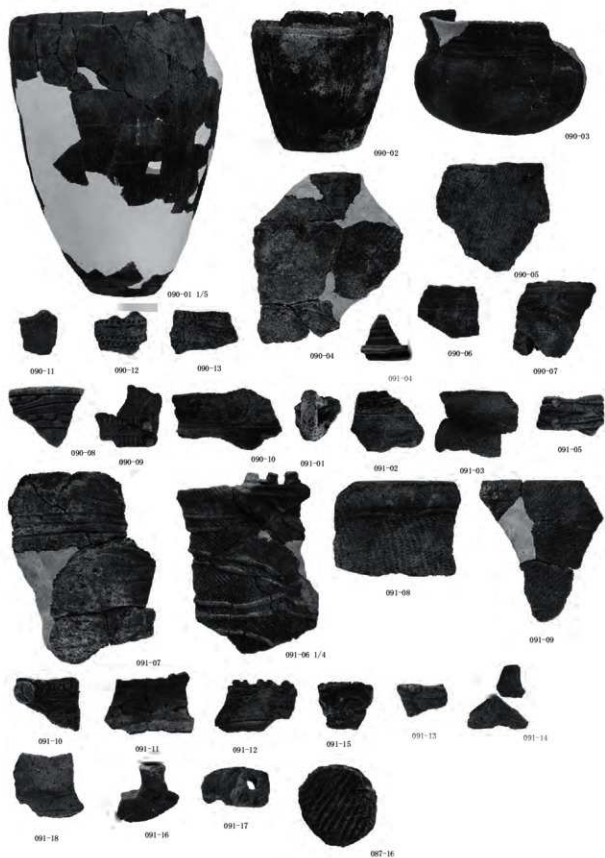


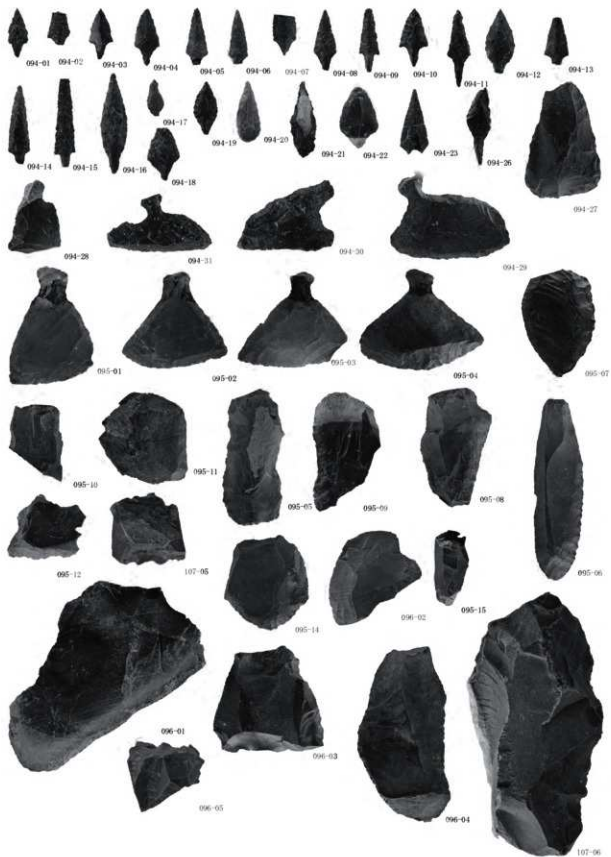
写真 61 第 1 号盛土遺構出土遺物 (5)



Ⅱ a 段階 出土遺物

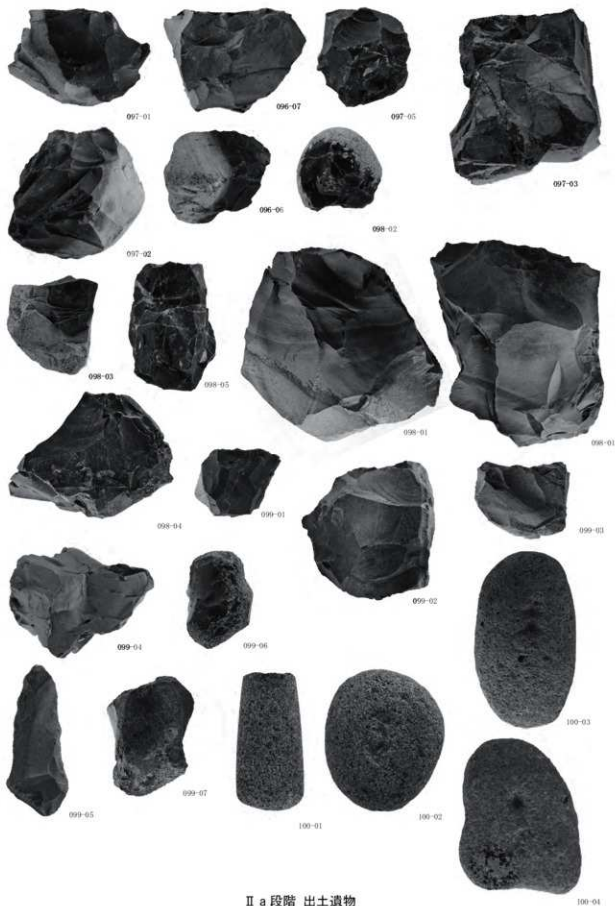
写真 62 第 1 号盛土遺構出土遺物 (6)





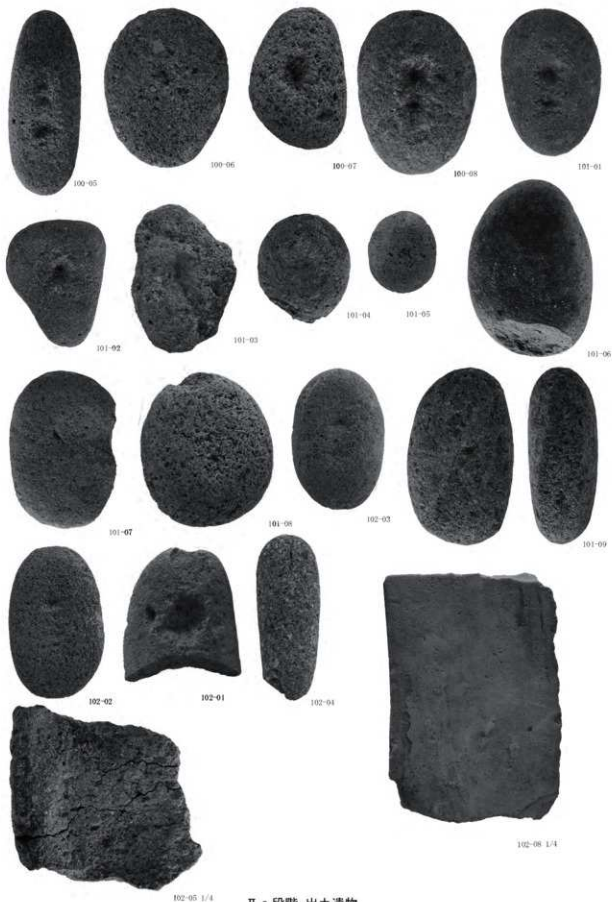
II a 段階 出土遺物

写真 63 第 1 号盛土遺構出土遺物 (7)



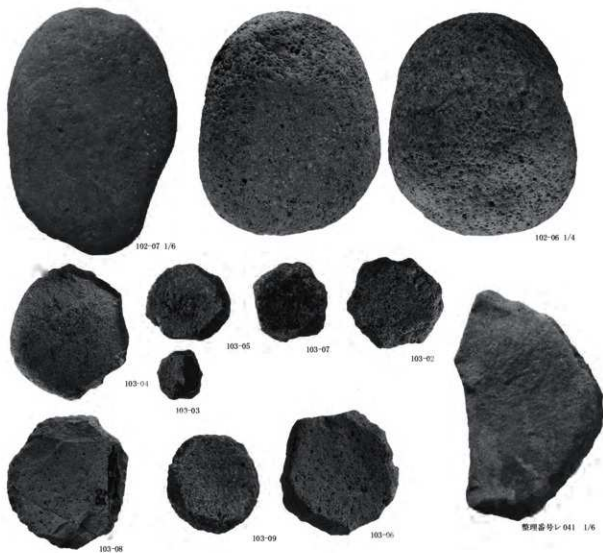
Ⅱ a 段階 出土遺物

写真 64 第 1 号盛土遺構出土遺物 (8)



Ⅱ a 段階 出土遺物

写真 65 第 1 号盛土遺構出土遺物 (9)

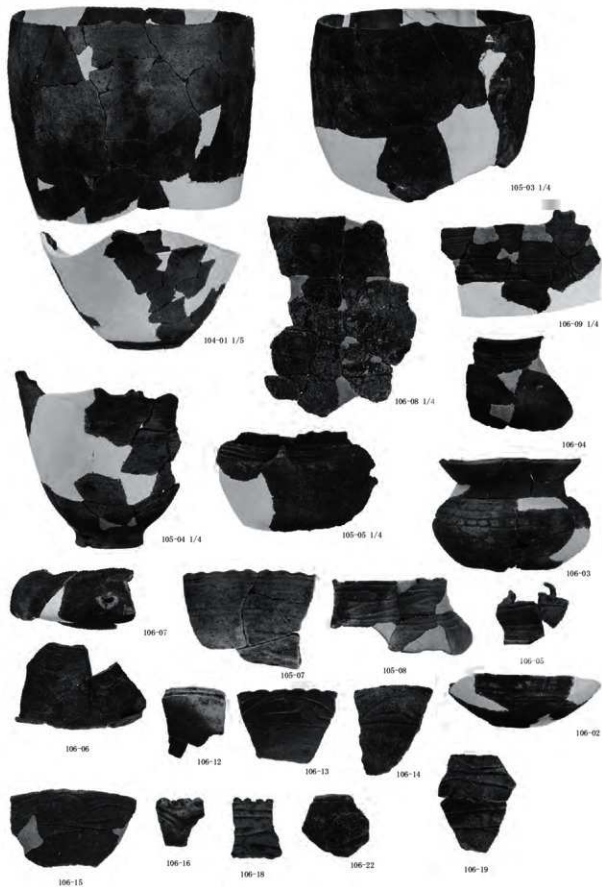


Ⅱ a 段階 出土遺物



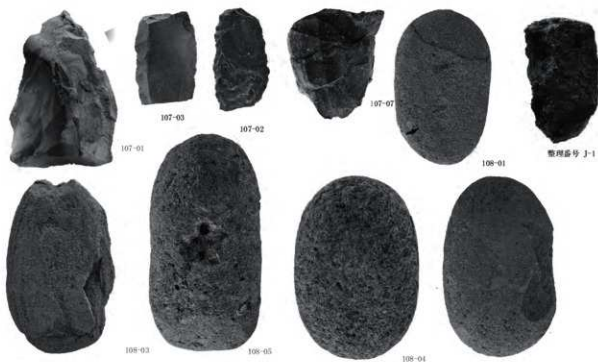
Ⅱ b 段階 出土遺物

写真 66 第 1 号盛土遺構出土遺物 (10)



Ⅱ b 段階 出土遺物

写真 67 第 1 号盛土遺構出土遺物 (11)



第1号盛土遺構 II b 段階出土遺物



Ⅱ a 段階 出土遺物(土製品)

写真 68 第1号盛土遺構出土遺物(12)



110-01 1/4



111-01 1/4



110-02 1/4



111-02 1/4



111-05 1/4



111-04 1/4



112-08 1/4

Ⅲ a 段階出土遺物

写真 69 第 1 号盛土遺構出土遺物 (13)



112-03 1/4



112-02 1/4



112-05 1/4



112-04 1/4



113-01 1/4



113-04 1/4



113-03 1/4



113-05 1/4



113-07 1/4



113-08 1/4



113-14 1/4



113-13 1/4



113-15 1/4



114-07 1/4



114-01 1/4



114-02 1/4

Ⅲ a 段階出土遺物

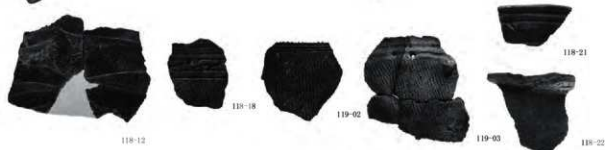
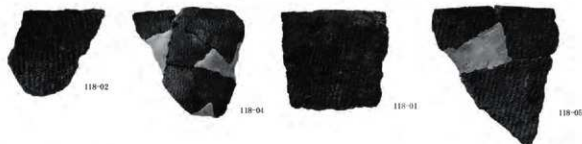
写真 70 第 1 号盛土遺構出土遺物 (14)





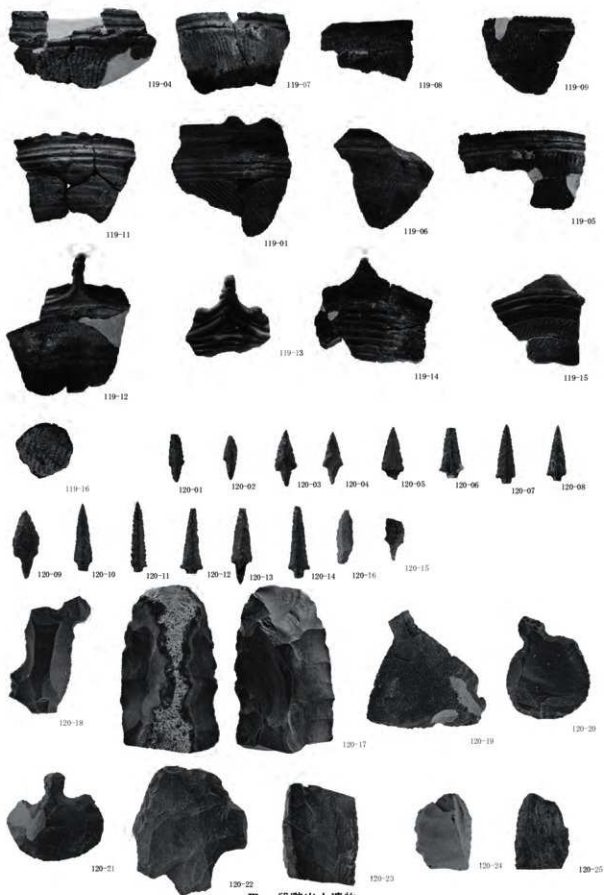
Ⅲ a 段階出土遺物

写真 71 第 1 号盛土遺構出土遺物 (15)



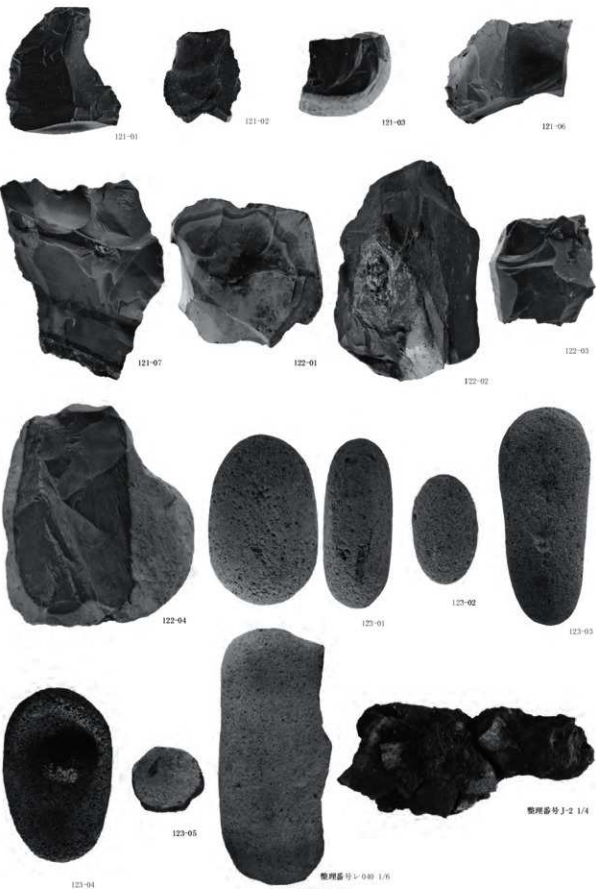
Ⅲ a 段階出土遺物

写真 72 第 1 号盛土遺構出土遺物 (16)



Ⅲ a 段階出土遺物

写真 73 第 1 号盛土遺構出土遺物 (17)



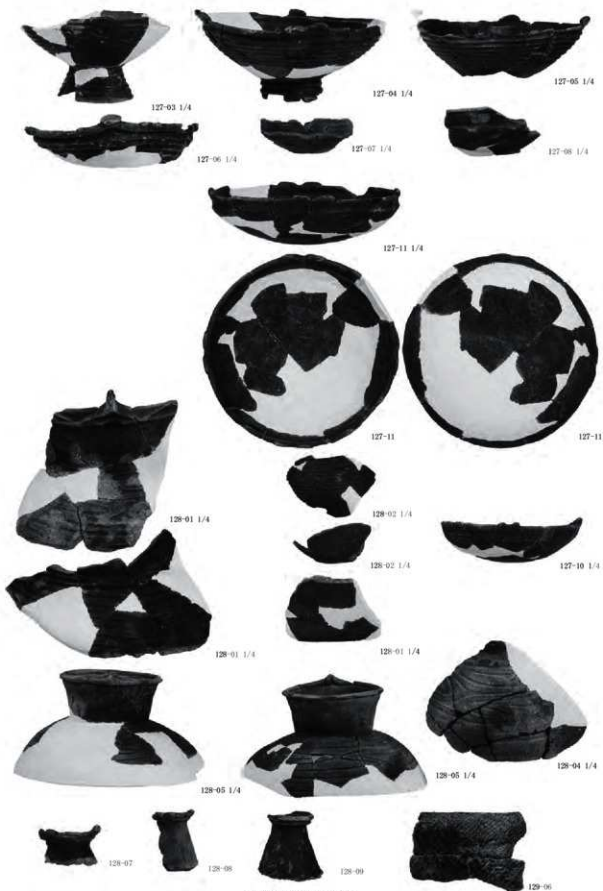
Ⅲ a 段階出土遺物

写真 74 第 1 号盛土遺構出土遺物 (18)



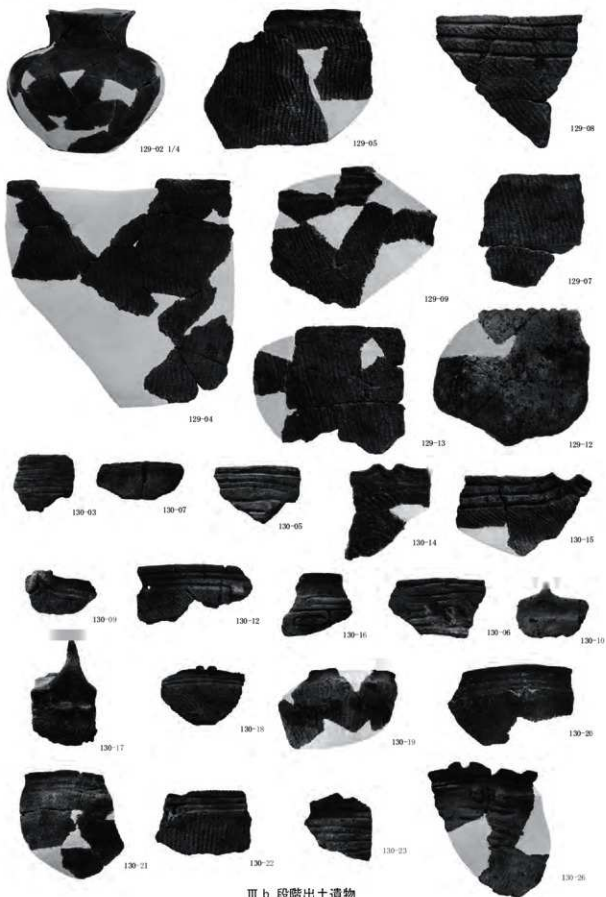
Ⅲ b 段階出土遺物

写真 75 第 1 号盛土遺構出土遺物 (19)



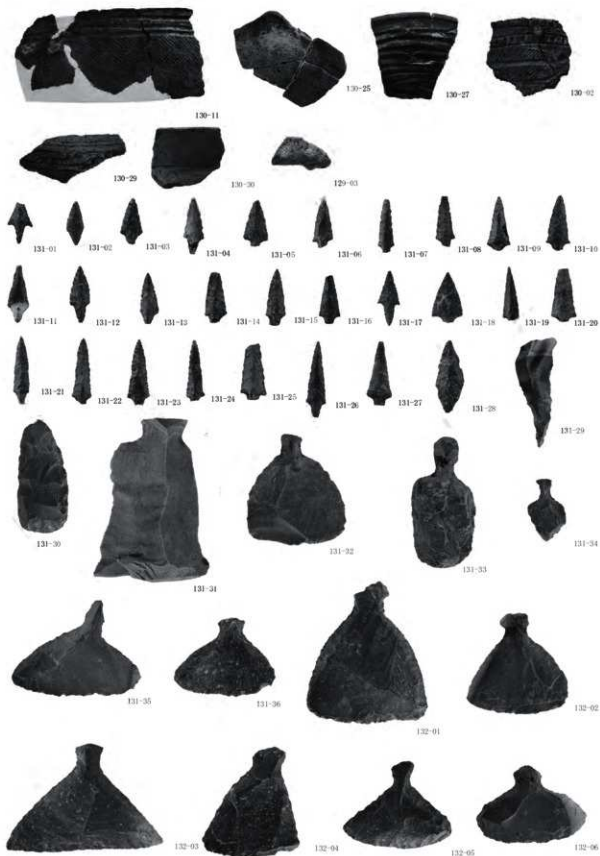
Ⅲ b 段階出土遺物

写真 76 第 1 号盛土遺構出土遺物 (20)



Ⅲ b 段階出土遺物

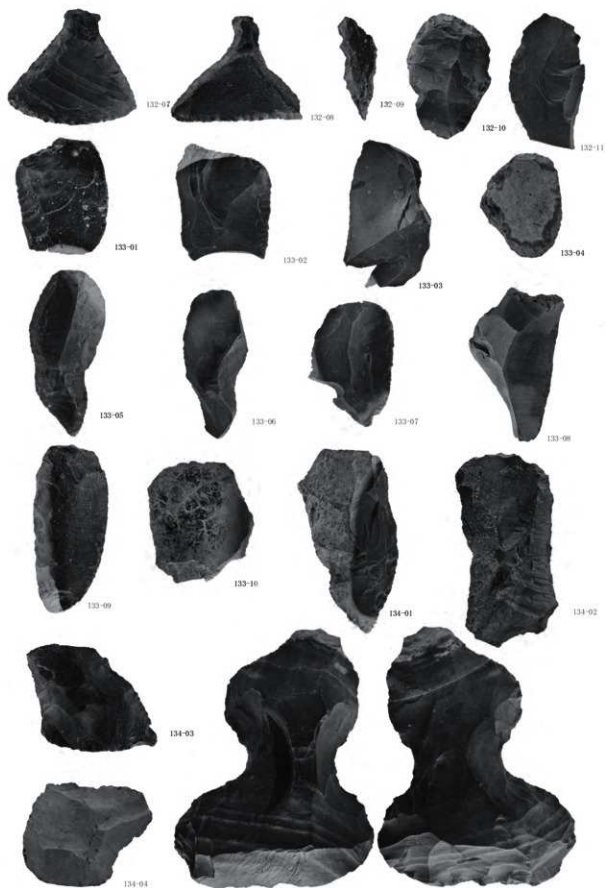
写真 77 第 1 号盛土遺構出土遺物 (21)



Ⅲ b 段階出土遺物

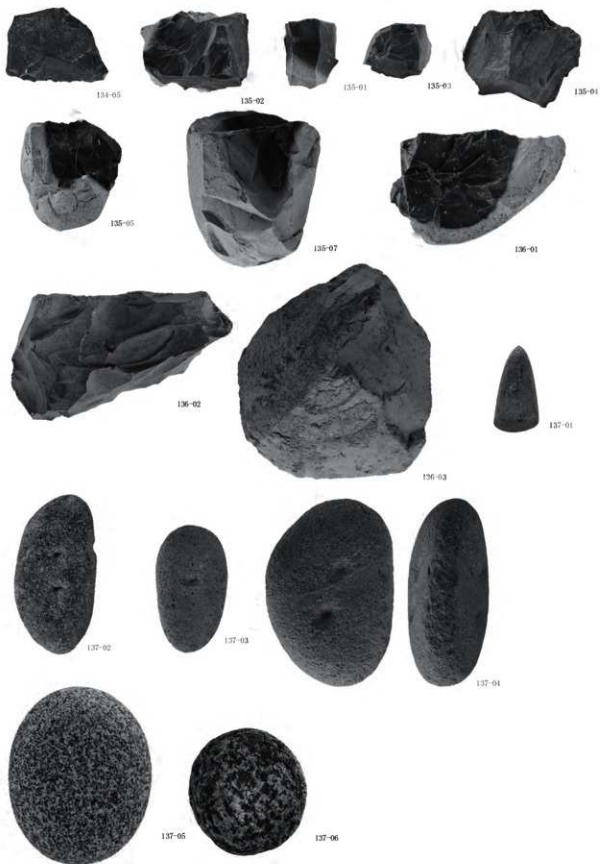
写真 78 第 1 号盛土遺構出土遺物 (22)





Ⅲ b 段階出土遺物

写真 79 第 1 号盛土遺構出土遺物 (23)



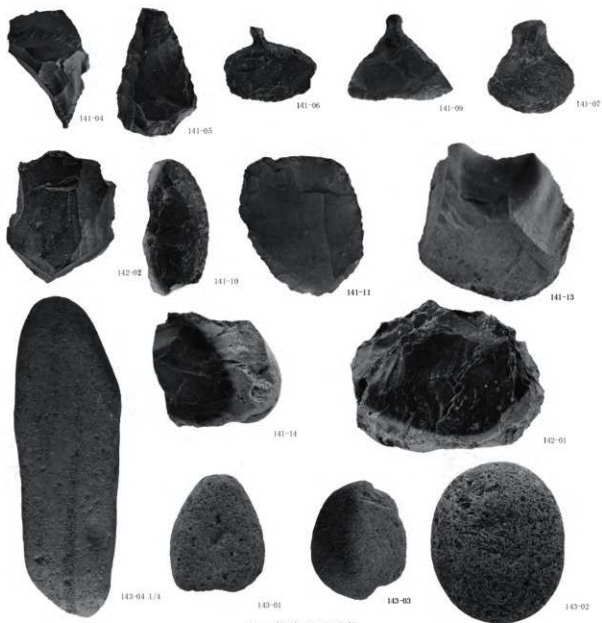
Ⅲ b 段階出土遺物

写真 80 第 1 号盛土遺構出土遺物 (24)



Ⅲc 段階 出土遺物

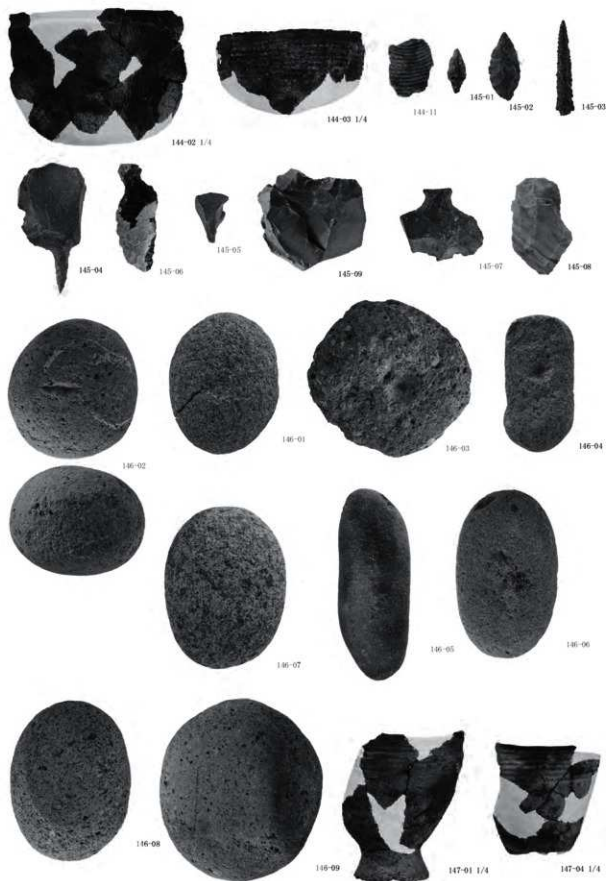
写真 81 第 1 号盛土遺構出土遺物 (25)



Ⅲ c 段階 出土遺物



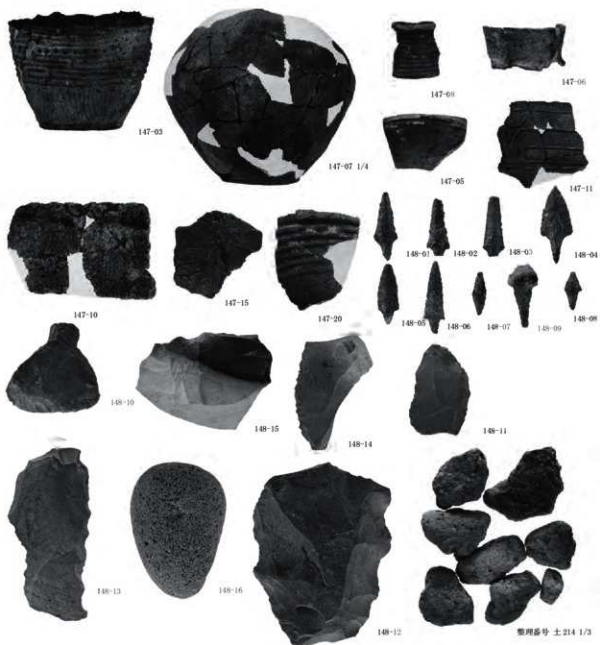
Ⅲ d 段階出土遺物



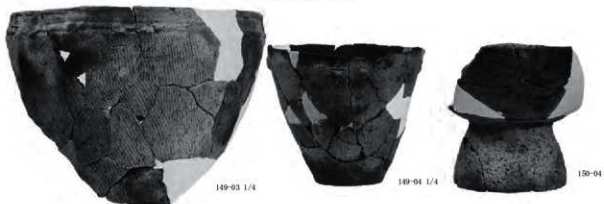
Ⅲ d 段階出土遺物

Ⅲ e 段階出土遺物

写真 83 第 1 号盛土遺構出土遺物 (27)

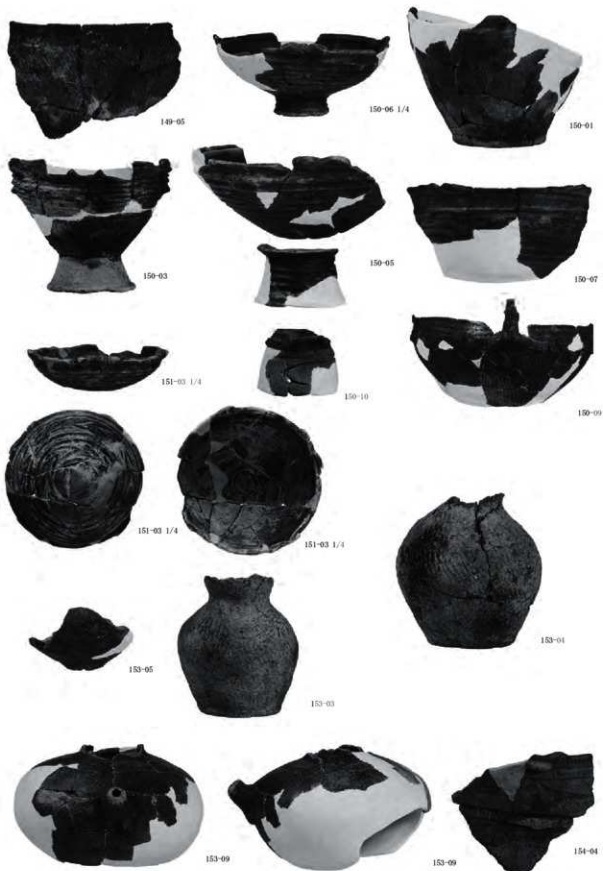


Ⅲ e 段階出土遺物



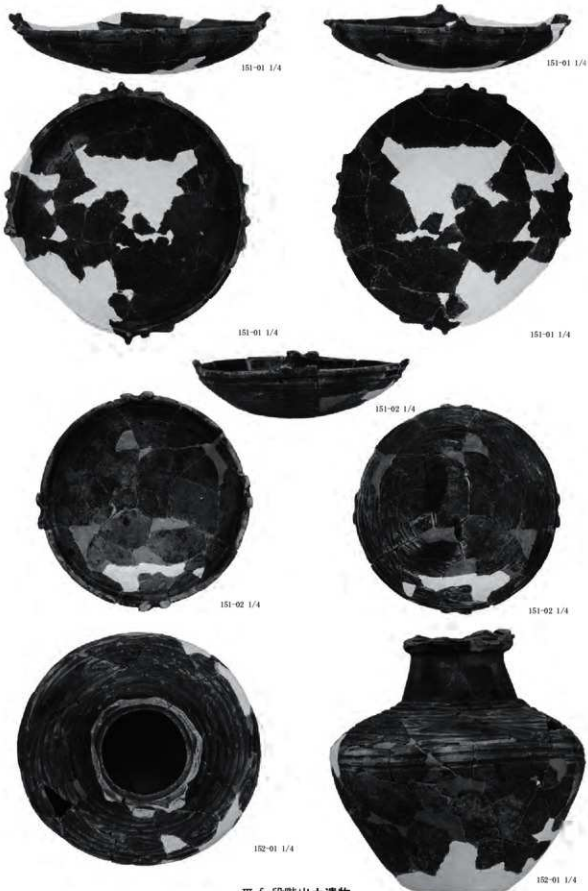
Ⅲ f 段階出土遺物

写真 84 第 1 号盛土遺構出土遺物 (28)



Ⅲ f 段階出土遺物

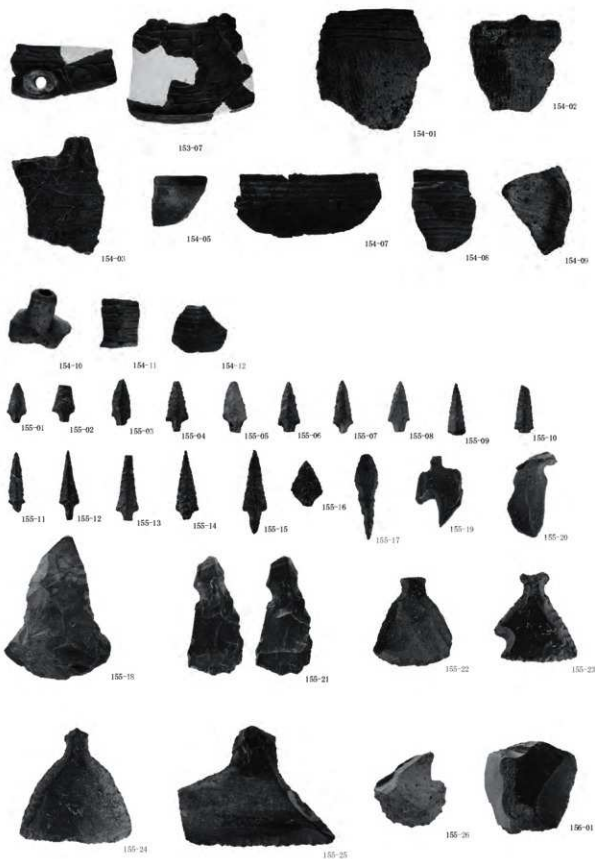
写真 85 第 1 号盛土遺構出土遺物 (29)



Ⅲ f 段階出土遺物

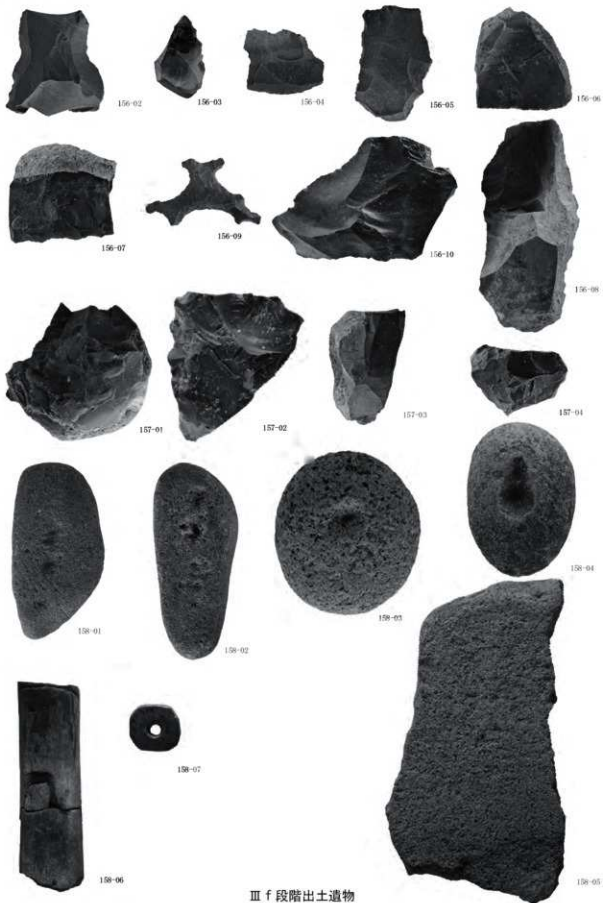
写真 86 第 1 号盛土遺構出土遺物 (30)





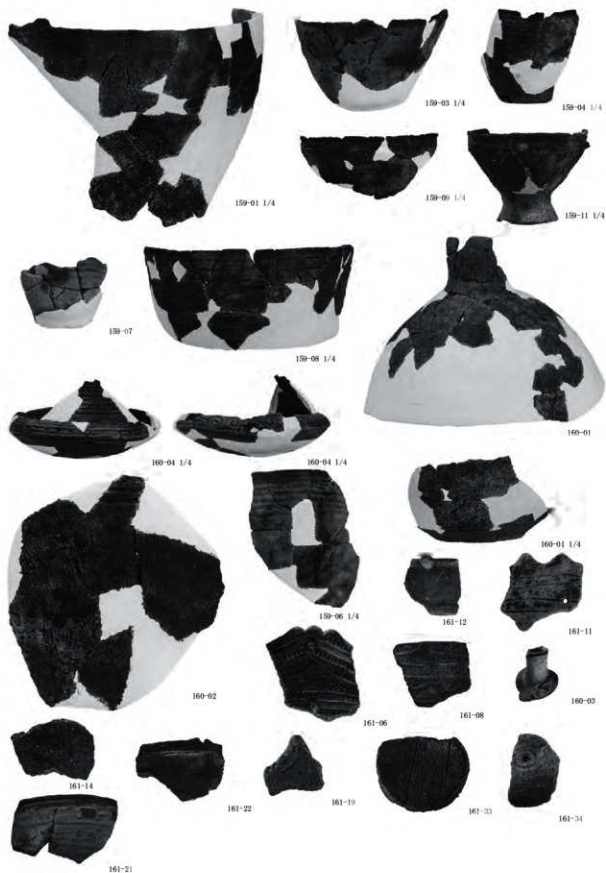
Ⅲ f 段階出土遺物

写真 87 第 1 号盛土遺構出土遺物 (31)



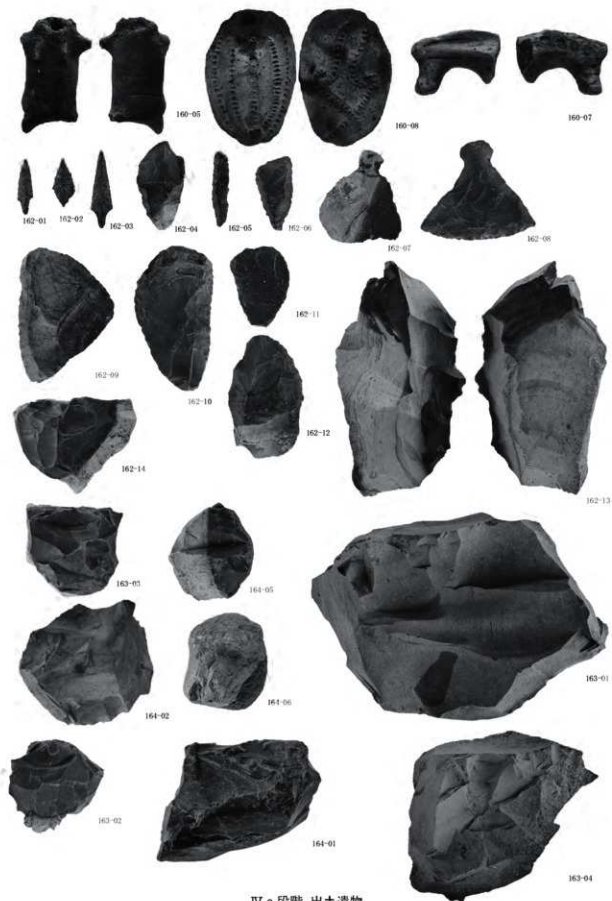
Ⅲ f 段階出土遺物

写真 88 第 1 号盛土遺構出土遺物 (32)



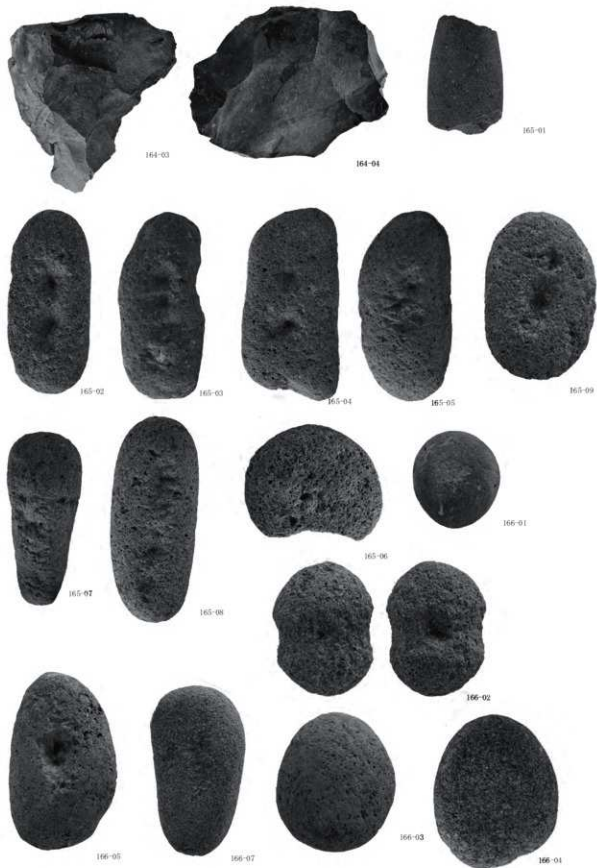
IV a 段階 出土遺物

写真 89 第 1 号盛土遺構出土遺物 (33)



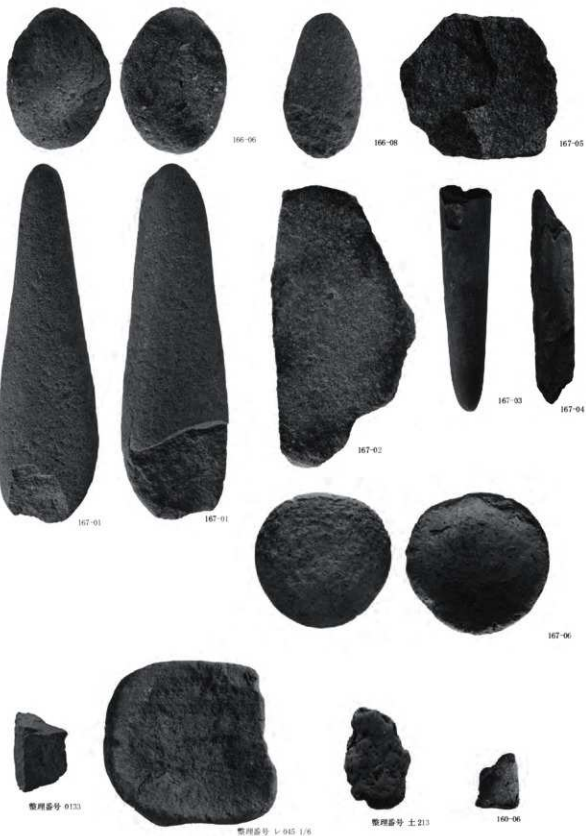
IV a 段階 出土遺物

写真 90 第1号盛土遺構出土遺物 (34)



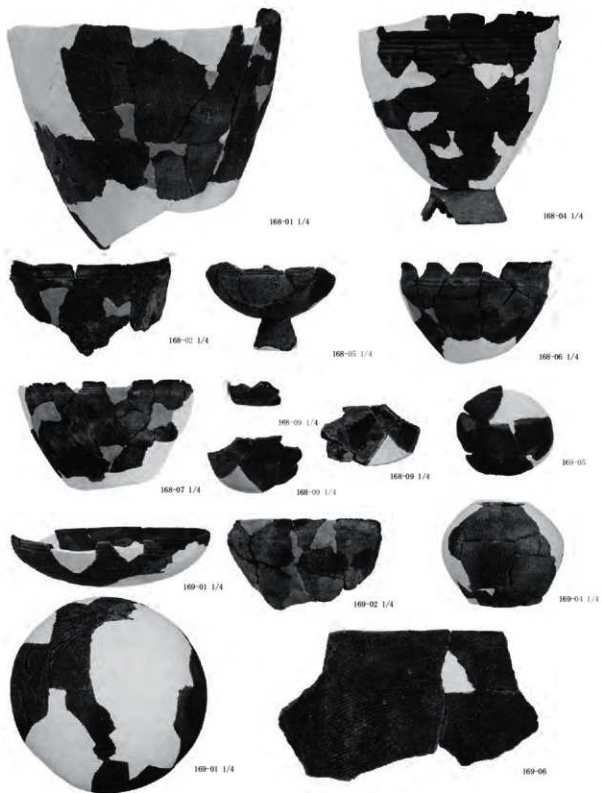
IV a 段階 出土遺物

写真 91 第 1 号盛土遺構出土遺物 (35)



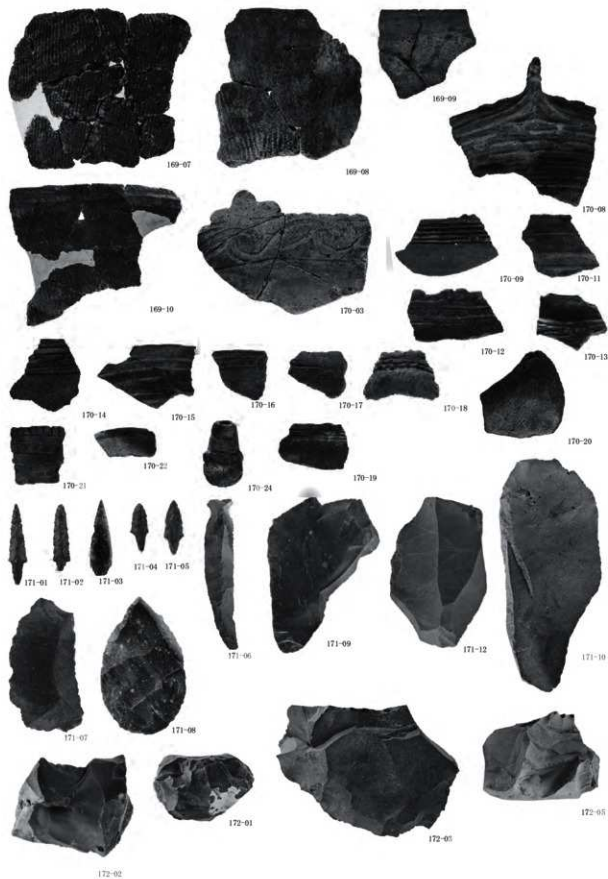
IV a 段階 出土遺物

写真 92 第 1 号盛土遺構出土遺物 (36)



IV b 段階 出土遺物

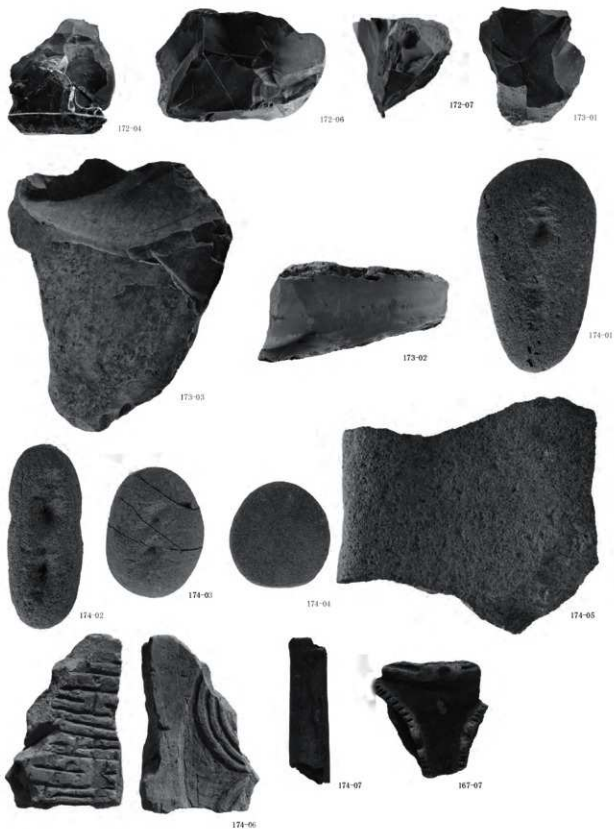
写真 93 第 1 号盛土遺構出土遺物 (37)



出土遺物

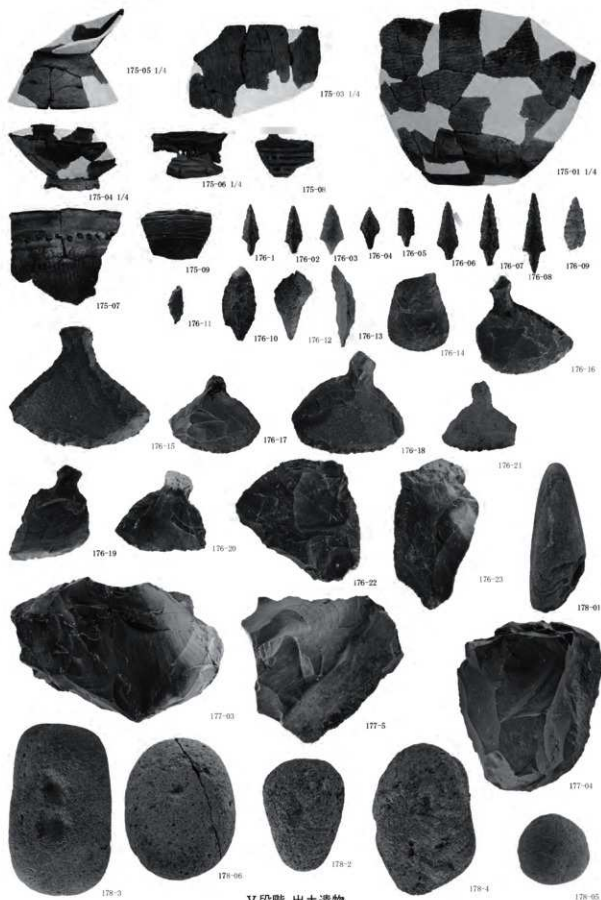
写真 94 第 1 号盛土遺構出土遺物 (38)





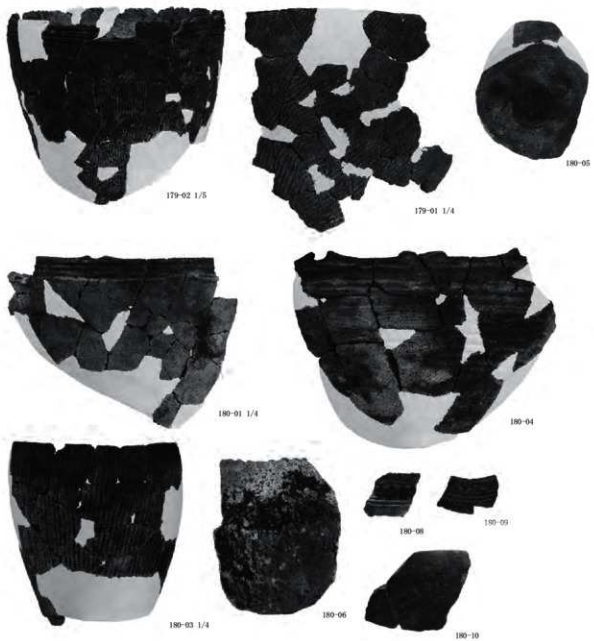
IV b 段階出土遺物

写真 95 第 1 号盛土遺構出土遺物 (39)



V段階 出土遺物

写真 96 第1号盛土遺構出土遺物 (40)



時期不明遺物

写真 97 第1号盛土遺構出土遺物 (41)

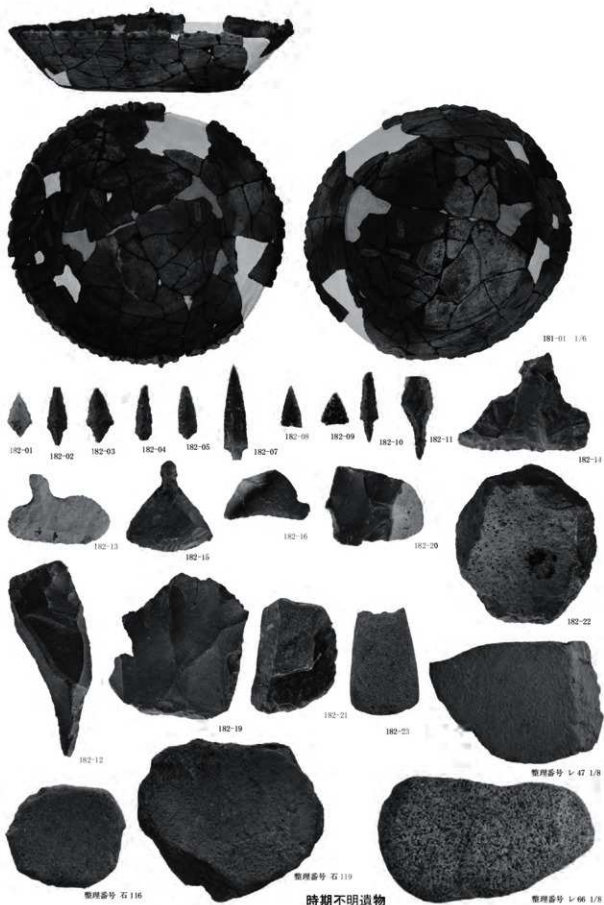
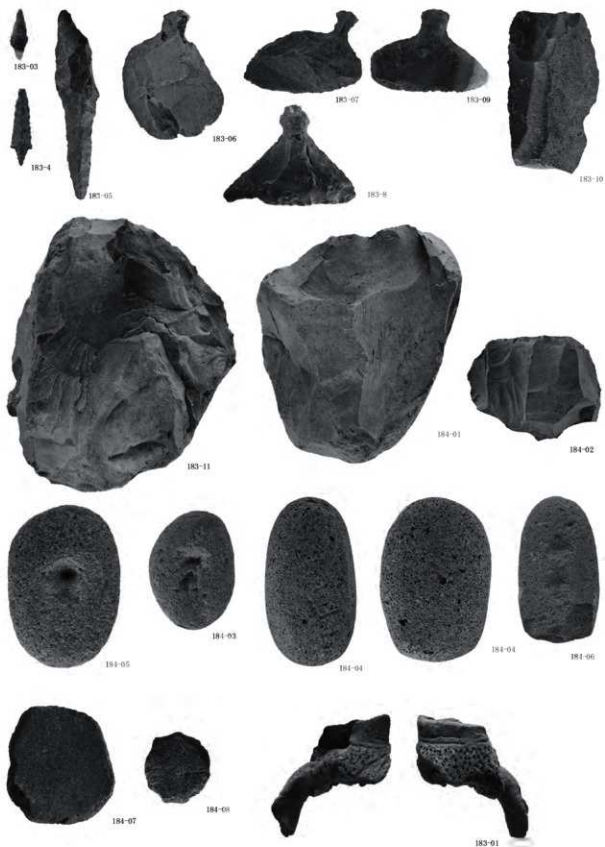


写真 98 第 1 号盛土遺構出土遺物 (42)



第 I 層

写真 99 遺構外出土遺物 (1)

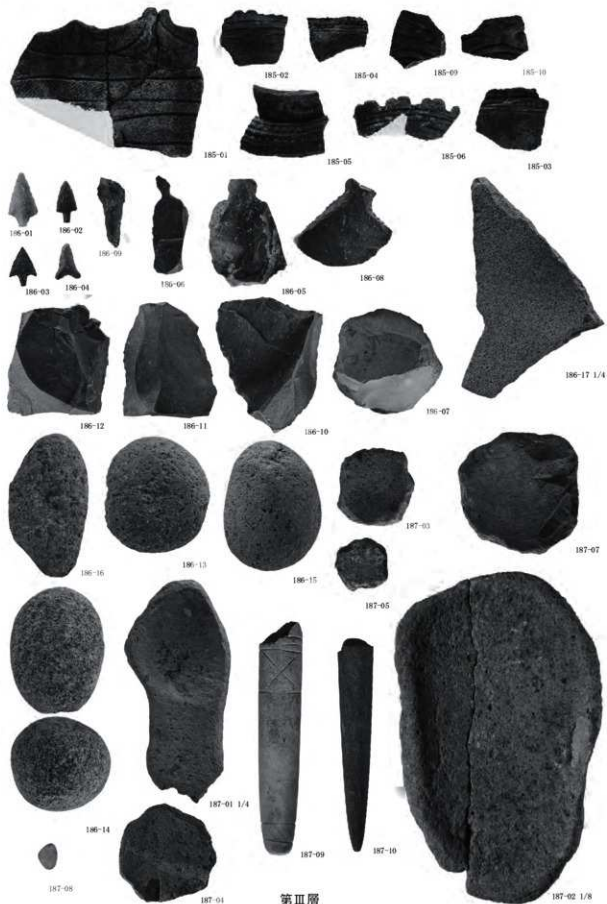


写真 100 遺構外出土遺物(2)

報告書抄録

ふりがな	かわらたい (1) いせき さん								
書名	川原平 (1) 遺跡 III								
副書名	津軽ダム建設事業に伴う遺跡発掘調査報告								
シリーズ名	青森県埋蔵文化財調査報告書								
シリーズ番号	第565集								
編著者	高橋 哲 斎藤 岳 岩井美香子 中澤寛将								
編集機関	青森県埋蔵文化財調査センター								
所在地	〒038-0042 青森県青森市大字新城字天田内152-15 TEL 017-788-5701 FAX 017-788-5702								
発行機関	青森県教育委員会								
発行年月日	西暦2016年3月25日								
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地		コード		世界測地系 (JGD2000)	調査期間	調査面積	調査原因	
	市町村		道庁番号	北緯	東経				
川原平(1)遺跡	青森県中津軽郡西目屋村大字川原平 字福岡地内		02343	343009	40° 31' 35"	140° 13' 31"	20130507 ? 20131114 (報告範囲)	671㎡ (報告範囲)	記録保存調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項				
川原平(1)遺跡	集落	縄文	建物跡 5棟 土坑 32基 配石遺構 17基 土器埋設遺構 25基 佐土遺構 4基 ピット 224基 盛土遺構 1基	縄文土器(中期～晩期) 石器 土製品 石製品 漆製品 焼成粘土塊	<ul style="list-style-type: none"> <li>・縄文時代中期の建物跡と土坑が確認され、小規模な集落が形成されている。</li> <li>・後期後葉～晩期後半にかけての大規模な集落跡で、遺物が大量に出土。</li> <li>・配石遺構は、晩期前半に構築されている。その内、日時計状組石遺構が2基確認されている。その周辺に土器埋設遺構が確認されており、晩期前半頃の集落が形成されている。</li> <li>・晩期後半に構築された盛土遺構が確認されている。</li> <li>・晩期後半(晩期4・5期)の土器がまとも出土し、聖山式土器が共存している。</li> <li>・中空動物形土製品(龜形土製品)が出土している。</li> </ul>				
要約	<p>川原平(1)遺跡は西目屋村役場から南西約9kmに位置し、岩木川右岸の河成段丘上に立地する。本報告は川原平(1)遺跡に関する3冊目の報告書である。今回報告範囲は2013年度に本調査に着手した区域内、調査北西隅の地点である。土器・土製品が231箱、石器・製品類が61箱の合計392箱出土している。遺物のほとんどは縄文時代中期後半と、後期後葉～晩期後半に属する。また、今回報告範囲に係る自然科学分析は本書に収録しておらず、来年度以降に刊行される報告書にまとめて掲載する予定である。</p> <p>縄文時代中期後半の集落は、建物跡や土坑が確認されており、小規模な集落が営まれていたと思われる。</p> <p>後期後葉(青森県史による後期7-4期)～晩期後半(晩期5期)にかけて連続集落が営まれており、津軽ダム建設予定地内における該期の拠点的な集落と考えられる。今回の報告範囲は墓と推定される遺構が検出されており、本報告書範囲は、晩期前半の集落が形成されていたと考えられる。また、該期の配石遺構の内、日時計状組石遺構は、秋田県の大淵遺状列石などの系譜を引く遺構と思われ、本遺跡の配石遺構は秋田県方面との関連も検討する必要がある。</p> <p>盛土遺構は、墓域の上面に構築されている。東北・北海道の各地で確認されており、土砂と共に遺物を埋蔵することで形成されている。</p> <p>大量に出土した後期後葉～晩期後半の遺物のなかでも、晩期4・5期の資料がまとも出土し、これと共存して聖山式土器が出土している。北海道との関係を考える上でも非常に貴重な資料である。</p> <p>なお、川原平(1)遺跡の発掘調査は2015年8月に完了し、今後数冊の報告書が刊行される予定である。</p>								

---

青森県埋蔵文化財調査報告書 第565集

## 川原平（1）遺跡Ⅲ

—津軽ダム建設事業に伴う発掘調査報告書—

発行年月日 2016年3月25日

発 行 青森県教育委員会

編 集 青森県埋蔵文化財調査センター

〒038-0042 青森市新城字天田内152-15

TEL 017-788-5701 FAX 017-788-5702

印 刷 青森コロニー印刷

〒030-0943 青森市幸畑字松元62-3

TEL 017-738-2021 FAX 017-738-6753

---





